沖端川激甚災害対策特別緊急事業関係調査報告１

上町遺跡

２次調査

福岡県柳川市上町所在遺跡の調査

福岡県文化財調査報告書　第 264 集

2018

九州歴史資料館

序

本報告書は、平成 27 年度に沖端川激甚災害対策特別緊急事業に伴い福岡県県土整備部河川開発課からの執行委任を受けて発掘調査を行った、柳川市上町に所在する上町遺跡２次調査の発掘調査報告書です。

上町遺跡２次調査では江戸時代の建物跡・柵列跡・土坑・溝から肥前産の陶器・磁器・土人形などの土製品・石製品・金属製品が出土し、これまで知られていなかった上町地区での歴史の解明されました。

本報告書が教育、学術研究とともに、文化財愛護思想の普及・定着の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査・報告書の作成にいたる間には、南筑後県土整備事務所柳川支所や柳川市教育委員会の関係諸機関の方々にご協力・ご助言をいただきました。ここに、深く感謝いたします。

平成３０年３月３１日

九州歴史資料館

館長　杉光　誠

例　言

1　本書は沖端川激甚災害対策特別緊急事業建設に伴い、平成27年度に九州歴史資料館が発掘調査を実施した、福岡県柳川市上町に所在する上町遺跡２次調査の記録である。

2　発掘調査および報告書作成は福岡県県土整備部河川開発課からの執行委任を受け、九州歴史資料館が実施した。

3　本書に掲載した遺構写真の撮影は坂本真一が行い、遺物写真は北岡伸一（文化財調査室）が行った。空中写真撮影は東亜航空技研株式会社がラジコンヘリコプターによる撮影を委託しました。

4　本書に掲載した遺構図の作成は坂本・川述昭人が行い、遺物実測図は坂本と整理作業員が作成した。

5　今回出土した近世陶磁器の分類などについては遠藤啓介（甘木歴史資料館）にご教示を頂いた。

6　出土遺物の整理作業は九州歴史資料館において、小川泰樹の下に実施し、保存処理については小林啓が行った。

7　出土遺物及び図面・写真等の記録類は、九州歴史資料館において保管する。

8　本書に使用した第２図は、国土交通省国土地理院発行の１／２５，０００「八女　羽犬塚」を改変したものである。本書で使用した方位は座標北である。

9　本書の執筆と編集は坂本が行った。

目　次

Ⅰ　はじめに …… 1
　1　調査に至る経過…… 1
　2　調査・整理の組織…… 1

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境 …… 2

Ⅲ　発掘調査の記録 …… 9
　1　調査の概要…… 9
　2　建物跡・柵列跡…… 9
　3　土坑……28
　4　溝……46
　5　ピットおよび遺構検出出土遺物……52
　6　その他の出土遺物……90

Ⅳ　まとめ ……118

Ⅴ　出土遺物観察表 ……123

挿図目次

第１図　福岡県柳川市の位置図…… 1
第２図　周辺遺跡分布図（1/25,000） …… 3
第３図　上町遺跡・保加町遺跡詳細図（1/1,000） …… 4
第４図　上町遺跡２次調査全体図１（1/200） ……５・６
第５図　上町遺跡２次調査全体図２（1/200） ……７・８
第６図　１・２号建物跡実側図（１/50） ……11
第７図　３・４号建物跡実側図（１/50） ……12
第８図　５・６号建物跡実側図（１/50） ……13
第９図　７・８号建物跡実側図（１/50） ……14
第 10 図 ９・10 号建物跡実側図（１/50） ……15
第 11 図 11・12 号建物跡実側図（１/50） ……17
第 12 図 13 ～ 16 号建物跡・柵列跡実側図（１/50）……18
第 13 図 17 ～ 20 号柵列跡実側図（１/50）……19
第 14 図 １・４～６・９・10・14・15・17 号建物跡出土遺物実側図（１/３） ……20
第 15 図 21・23・24 号柵列跡実側図（１/50） ……22

第 16 図 22 号建物跡実側図（１/50）……23
第 17 図 25 号建物跡・26・27 号柵列跡実側図（１/50）……24
第 18 図 22 号建物跡・29・30 号柵列跡出土遺物実測図（１／３）……25
第 19 図 28 ～ 30・33 号柵列跡実測図（１/50）……26
第 20 図 31 号建物跡・32 号柵列跡実測図（１/50）……27
第 21 図 １～６号土坑実測図（１/30）……30
第 22 図 ７～ 12 号土坑実測図（１/30・１/40）……31
第 23 図 １・２・４～８・10 号土坑出土遺物実測図（１/3）……33
第 24 図 ９・12・13 号土坑出土遺物実測図（１／３）……35
第 25 図 13 ～ 20 号土坑実測図（１/30・１/40）……37
第 26 図 15・17 ～ 19 号土坑出土遺物実測図（１／３）……38
第 27 図 19 号土坑出土遺物実測図（１／３）……39
第 28 図 21・22・29 ～ 31・33 号土坑実測図（１/30・１/40）……40
第 29 図 24 ～ 28・32 号土坑実測図（１/30・１/40）……42
第 30 図 21・22・24・25・27・28 号土坑出土遺物実測図（１／３）……43
第 31 図 29・31 号土坑出土遺物実測図（１／３）……44
第 32 図 32・33 号土坑出土遺物実測図（１／３）……45
第 33 図 溝断面実測図（１/30）……48
第 34 図 ２～４・６・８号溝出土遺物実測図（１／３）……49
第 35 図 ９・13 ～ 16 号溝出土遺物実測図（１／３）……50
第 36 図 ７～９号溝および１地点北壁土層実測図（１/50）……51
第 37 図 遺物出土状況実測図（１/20・１/30）……53
第 38 図 １～４地点１面ピット出土遺物実測図（１／３）……54
第 39 図 ４地点１面ピット出土遺物実測図（１／３）……55
第 40 図 １～４地点２面ピット出土遺物実測図（１／３）……56
第 41 図 ４地点２面ピット出土遺物実測図（１／３）……57
第 42 図 １～４地点３面ピット出土遺物実測図（１／３）……58
第 43 図 ４地点３面ピット出土遺物実測図（１／３）……59
第 44 図 １～４地点４面ピット出土遺物実測図（１／３）……60
第 45 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図１（１／３）……61
第 46 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図２（１／３）……62
第 47 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図３（１／３）……63
第 48 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図４（１／３）……64
第 49 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図５（１／３）……65
第 50 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図６（１／３）……66
第 51 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図７（１／３）……67
第 52 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図８（１／３）……68
第 53 図 １～４地点１面遺構検出出土遺物実測図９（１／３）……69

第 54 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 10（1／3）……70
第 55 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 11（1／3）……71
第 56 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 12（1／3）……72
第 57 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 13（1／3）……73
第 58 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 14（1／3）……74
第 59 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 15（1／3）……75
第 60 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 16（1／3）……76
第 61 図 1～4 地点 1 面遺構検出出土遺物実測図 17（1／3）……77
第 62 図 1～4 地点 2 面遺構検出出土遺物実測図 1（1／3）……78
第 63 図 1～4 地点 2 面遺構検出出土遺物実測図 2（1／3）……79
第 64 図 1～4 地点 2 面遺構検出出土遺物実測図 3（1／3）……80
第 65 図 1～4 地点 2 面遺構検出出土遺物実測図 4（1／3）……82
第 66 図 1～4 地点 2 面遺構検出出土遺物実測図 5（1／3）……83
第 67 図 1～4 地点 2 面遺構検出出土遺物実測図 6（1／3）……84
第 68 図 1～4 地点 2 面遺構検出出土遺物実測図 7（1／3）……85
第 69 図 1～4 地点 3 面遺構検出出土遺物実測図 1（1／3）……86
第 70 図 1～4 地点 3 面遺構検出出土遺物実測図 2（1／3）……87
第 71 図 1～4 地点 3 面遺構検出出土遺物実測図 3（1／3）……88
第 72 図 1～4 地点 4 面遺構検出出土遺物実測図（1／3）……89
第 73 図 軒丸瓦実測図 1（1／3）……91
第 74 図 軒丸瓦実測図 2（1／3）……92
第 75 図 丸瓦実測図（1／3）……93
第 76 図 軒平瓦実測図（1／4）……94
第 77 図 平瓦実測図（1／4）……95
第 78 図 土製品実測図 1（1／2）……96
第 79 図 土製品実測図 2（1／2）……97
第 80 図 土製品実測図 3（1／2、36・37 は 1／3）……98
第 81 図 土製品実測図 4（1／2）……99
第 82 図 鹿角・ガラス・石製品実測図（1／1・1／2）……101
第 83 図 砥石実測図（1／3）……102
第 84 図 石塔実測図 1（1／3、9・10 は 1／6）……103
第 85 図 石塔実測図 2（1／3）……104
第 86 図 石臼実測図 1（1／4）……105・106
第 87 図 石臼実測図 2（1／4）……108
第 88 図 銅製品実測図 1（1／2）……109
第 89 図 銅製品実測図 2（1／2）……110
第 90 図 銅製品実測図 3（1／2）……111
第 91 図 銅銭拓本図 1（1／2）……112

第 92 図 銅銭拓本図２（１／２）……113
第 93 図 鉄製品実測図（１／２）……114
第 94 図 木製品実測図１（１／３・１／６）……115
第 95 図 木製品実測図２（１／６）……116
第 96 図 遺構配置図（１/600)……119
第 97 図 井出橋「柳河明証図絵」……120
第 98 図 上町略御絵図「柳河藩立花家文書」……120

表目次

表１　出土遺物観察表　……123 ～ 151
表２　特殊遺物観察表　……152 ～ 159
表３　銅銭出土遺構枚数　……160

図版目次

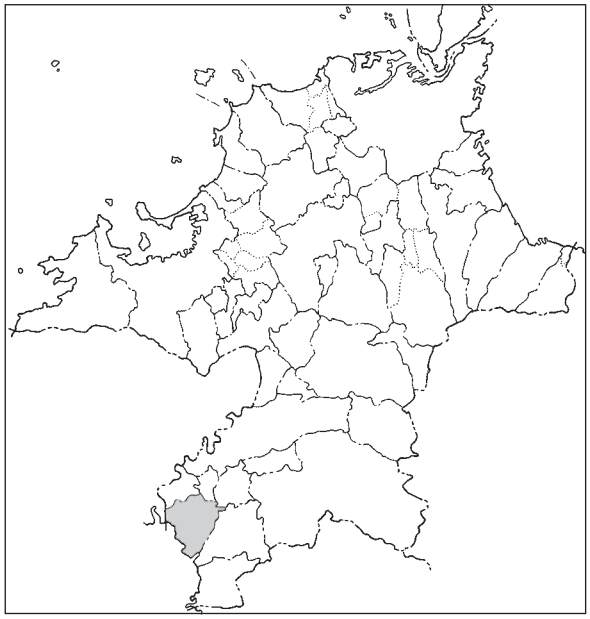
図版１　１　上町遺跡２次調査全景（真上から）　２　上町遺跡２次調査北出橋付近（南から）
図版２　１　上町遺跡２次調査全景（北東から）　２　工事前出橋付近（東から）
図版３　１　１地点１面全景（南から）　２　１地点南１面（北から）
図版４　１　１地点北１面（南から）　２　１地点中央１面（南から）　３　１地点南１面（北から）
図版５　１　１地点２面（南から）　２　１地点南２面（北から）
図版６　１　１地点北２面（南から）　２　１地点中央２面（南から）
　　左３　12 号建物跡礎石（西から）　右４　12 号建物跡礎石 (真上から)
図版７　１　１地点３面（南から）　２　１地点南３面（北から）
図版８　１　１地点４面（南から）　２　１地点南４面（北から）
図版９　１　１地点北４面（南から）　２　22 号建物跡（南から）　３　23 号柵列跡（西から）
図版 10　１　１地点北側土層（南から）　２　２地点北１面（北から）　３　２地点南１面 (南から)
図版 11　１　５号建物跡（北から）　２　６号建物跡・22 号土坑（南から）
　　３　２地点１面焼土検出状況（東から）
図版 12　１　２地点北２面（北から）　２　２地点南２面（北から）３　石臼検出状況（東から）
図版 13　１　２地点北３面（南から）　２　２地点南３面（北から）
　　３　17・18 号柵列跡、24･25 号土坑（北から）
図版 14　１　２地点南４面（北から）　２　２地点北４面（北から）
図版 15　上１　３地点南１面７（北から）　中２　７号建物跡（北から）
　　３　３地点北１面（北から）

図版 16　1　３地点南２面（北から）　2　14 号柵列跡（北から）　3　３地点北２面（北から）
図版 17　1　３地点南３面（北から）　2　28 号土坑・20 号柵列跡（北から）
3　３地点北３面（南から）
図版 18　1　３地点南４面（真上から）　2　３地点北４面（南から）
図版 19　1　４地点北１面（東から）　2　４地点中央１面（南から）　3　４地点南１面（南から）
図版 20　1　４地点北２面（東から）　2　４地点中央２面（南から）　3　４地点南２面（西から）
図版 21　1　４地点北３面（東から）　2　４地点中央３面（南から）　3　４地点南３面（南から）
図版 22　1　４地点北４面（東から）　2　４地点中央４面（南から）　3　４地点南４面（南から）
図版 23　1　５地点１面（北から）　2　５地点２面（北から）　3　５地点３面（北から）
4　５地点４面（北から）
図版 24　1　１号土坑（北から）　2　２号土坑（南から）　3　３号土坑（南から）
4　４号土坑（東から）　5　５号土坑（東から）　6　６号土坑（西から）
図版 25　1　７号土坑（南から）　2　８号土坑（東から）　3　９号土坑（東から）
4　10 号土坑（南から）　5　11 号土坑（東から）　6　12 号土坑（南から）
図版 26　1　13 号土坑（南から）　2　14 号土坑（西から）　3　15 号土坑（南から）
4　16 号土坑（南から）　5　17 号土坑（東から）　6　18 号土坑（南から）
図版 27　1　19 号土坑（西から）　2　20 号土坑・２・３号溝（北から）　3　26 号土坑（北から）
4　Ｐ 15（南から）　5　１号溝（西から）　6　Ｐ 81（南から）
図版 28　1　21 号土坑（東から）　2　28 号土坑（東から）　3　32 号土坑（西から）
4　２地点埋葬（西から）　5　27 号土坑・28 号土坑下層（東から）
6　Ｐ 270（西から）
図版 29　1　３地点１面遺構検出時埋甕１・２（西から）　2　29 号土坑（南から）
3　31 号土坑（南から）　4　Ｐ 159（西から）　5　Ｐ 302（南から）
6　４地点遺構検出（東から）
図版 30　1　５号溝（東から）　2　５号溝（北から）　3　16 号溝（西から）
図版 31　1　７・８号溝（西から）　2　７・８号溝（南から）
図版 32　1　７・９号溝（南から）　2　７・９号溝（東から）　下 3　７～９号溝土層（西から）
図版 33　出土遺物１
図版 34　出土遺物２
図版 35　出土遺物３
図版 36　出土遺物４
図版 37　出土遺物５
図版 38　出土遺物６
図版 39　出土遺物７
図版 40　軒丸瓦
図版 41　軒平瓦・文字瓦
図版 42　土製品１
図版 43　土製品２・鹿角製品・ガラス製品

図版 44　石製品
図版 45　石塔 1
図版 46　石塔 2
図版 47　石塔 3 ・石臼
図版 48　銅製品 1
図版 49　銅製品 2
図版 50　銅製品 3
図版 51　銅製品 4 ・銅銭 1
図版 52　銅銭 2
図版 53　銅銭 3
図版 54　鉄製品
図版 55　木製品 1
図版 56　木製品 2

仮橋建設後写真（仮橋左側上町遺跡、右側保加町遺跡）

Ⅰ　はじめに



第1図　福岡県柳川市位置図

1　調査に至る経過（第１図）

福岡県柳川市では平成24年７月14日の九州北部豪雨災害により、沖端川が決壊し中山地区などに浸水被害を及した。これを受け、災害工事に伴う埋蔵文化財の照会が南筑後県土整備事務所柳川支所から平成26年２月４日に柳川市教育委員会になされた。その中で沖端川に係る出橋の付替え工事では、まず仮設橋と迂回道路建設後に、新たに橋を建設する大規模な工事となり、出橋を挟んだ南北の久留米柳川線の両側約10ｍ幅が確認調査対象となった。

平成26年５月22日に、柳川市教育委員会は上町・保加町地区の工事対象地内で確認調査を行った。その結果、遺跡を検出したため本調査が必要となった。同年７月１日に県教育庁総務部文化財保護課と柳川市教育委員会で出橋の付替え工事に伴う発掘調査について協議した。その後、同年11月11日に調査を担当する九州歴史資料館・柳川市教育委員会・南筑後県土整備事務所柳川支所と詳細な協議を行なった。その結果、まず出橋を挟んで北側の保加町遺跡について平成26年12月15日～平成27年１月７日に１次調査を、残りの大部分の保加町遺跡の２次調査を平成27年４月15日～平成28年２月３日に行い、最後の箇所の３次調査を平成29年10月10日～12月７日にかけてそれぞれ九州歴史資料館が担当し、対象地内の調査を全て終了した。

出橋を挟んで南側の上町遺跡は、久留米柳川線を挟んだ西側の３次調査を柳川市教育委員会が担当し､東側の２次調査を九州歴史資料館が平成27年４月13日～10月30日にかけて調査を行った。

2　調査・整理の組織

平成27年度の発掘調査と平成28・29年度の整理・報告に関わる関係者は次のとおりである。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
福岡県教育委員会			
教育長	城戸秀明	城戸秀明	城戸秀明
教育次長	西牟田龍治	西牟田龍治	吉田法稔
総務部長	川添弘人	辰田一郎	辰田一郎
九州歴史資料館			
館長	杉光　誠	杉光　誠	杉光　誠
副館長	伊﨑俊秋	飛野博文	飛野博文

参事	飛野博文		
総務室長	塩塚孝憲	塩塚孝憲	田嶋朋子
総務班長	中村満喜子	中村満喜子	中村満喜子
事務主査	宮崎奈巳	西村知子	林田朋子
	西村知子		
主任主事		原野貴生	原野貴生
		秦　健太	秦　健太
主事	秦　健太	甲斐進也	
文化財調査室長	吉村靖徳	吉村靖徳	吉村靖徳
文化財調査室長補佐		伊﨑俊秋	伊﨑俊秋
文化財調査班長	秦　憲二（保加町調査）	秦　憲二	秦　憲二（保加町３次調査）
参事補佐			小川泰樹（整理）
技術主査	坂本真一（上町・保加町調査）	坂本真一（整理）	
調査補助員	川述昭人		

教育庁総務部文化財保護課

技術主査	坂本真一（整理・報告）

発掘調査にあたっては、発掘作業員の方々を始め、南筑後県土整備事務所柳川支所および柳川市教育委員会や多くの方々のご協力によって円滑に進めることができました。ここに記して感謝いたします。

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

柳川市は福岡県南部の筑後平野南西部に位置し、西を筑後川・東を矢部川に挟まれた三角州に立地する標高５m以下の低平地にある。北は大川市・三潴郡大木町・筑後市、東はみやま市、西から南にかけては有明海に面する。平成 17 年に柳川市･大和町･三橋町の合併で、現在の柳川市となる。

柳川市の地層は砂、粘土、礫（れき）からなる沖積層であるが、表土以下 10 数メートルには、極めて軟弱で含水比の高い「有明粘土層」が分布するなどの特徴がある。（※市ホームページより抜粋）

ここ柳川は天正 15（1587）年、立花宗茂により三潴・下妻・山門の三郡を支配した地域である。慶長５（1600）年の関ヶ原の戦い後に、田中吉政が筑後国の領主となるが２代忠政には跡継ぎがなく改易となった。再度元和６（1620）年に立花宗茂が再封され、幕末まで立花氏の支配が続いた。

これまで、主に民間開発・区画整理事業や有明海沿岸道路建設などに伴う発掘調査が行われ、それらの発掘調査報告書で周辺遺跡の説明がなされているので、今回のこの報告書では上町遺跡周辺の近世城下町遺跡の調査について簡単に説明する。

京町遺跡では 17 世紀後半頃の陶器・磁器を出土した杭と側板で作られた木組み溝を検出する。また絵図との位置関係を推定できる石列や丸太基礎遺構など近世瀬高町の町屋敷を推定できる遺構

が検出され、17 世紀前半の遺物も出土する。

柳川市役所前の三橋筑紫端線道路改良事業では、本町袋町・南長柄町・細工町・新町遺跡で調査されている。

本町袋町遺跡は、柳川城内郭の袋小路にあたり、屋敷地内部の用排水関連施設と考えられる溝、屋敷境を表す溝を検出している。南長柄町遺跡は、城郭外に形成された下級藩士の居住地になる。南北に延びる南長柄小路に沿った両側町である。炭化した建築木材片を含む埋土から火災に伴う廃棄土坑やピット･土坑などを検出している。共に 17 世紀後半～ 19 世紀にかけての遺物が出土する。

細工町遺跡では屋敷境の土塀の基礎である筏状遺構を検出した。また新町遺跡では礎石建物や掘立柱建物と共に、貫上部に格子状に木材を組み、周囲に人頭大の石を敷き詰めた大黒柱を構成する柱穴を検出した。建物や土塀の基礎、17 世紀前半代の遺物や銅銭も多く出土するなど、本町袋町とは様相が異なる状況である。

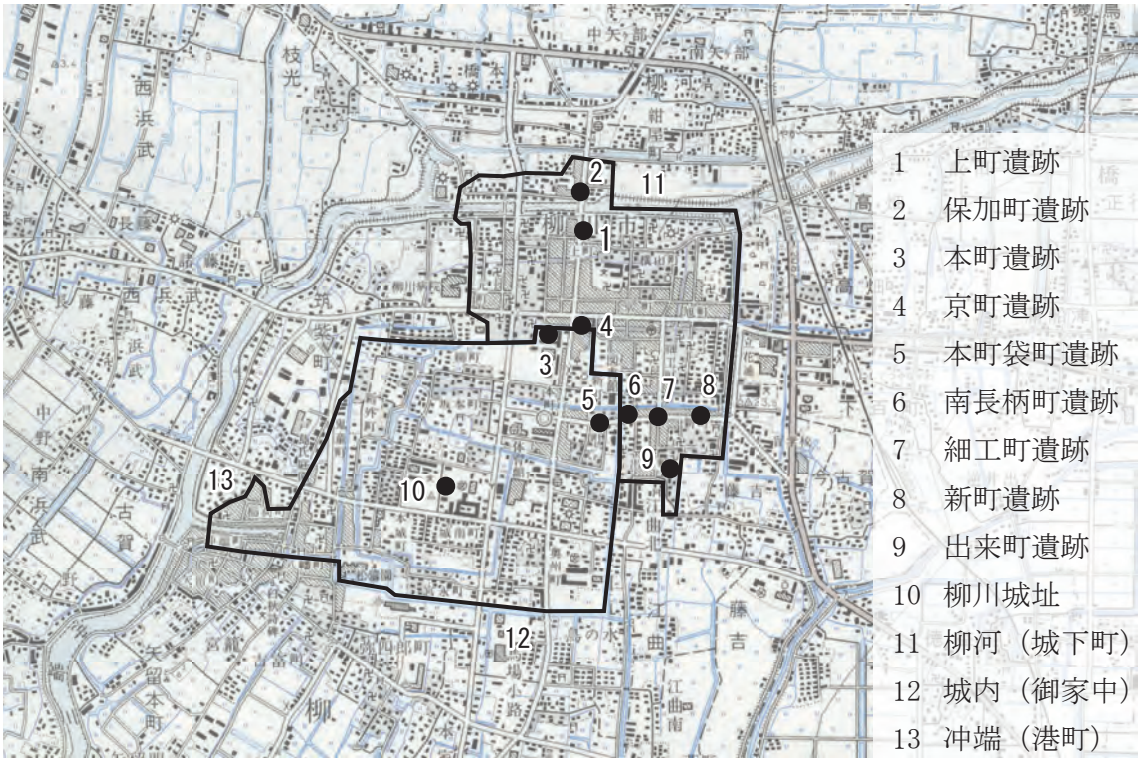
田中吉政の菩提寺である真勝寺の南側に位置する出来町遺跡では、現代の水路と併行する溝を検出した。18・19 世紀代の磁器を中心に下駄などの木製品や金銅製の天秤皿が出土している。

今回、報告する上町遺跡では東側で柳川市教育委員会により１次調査が行われている。

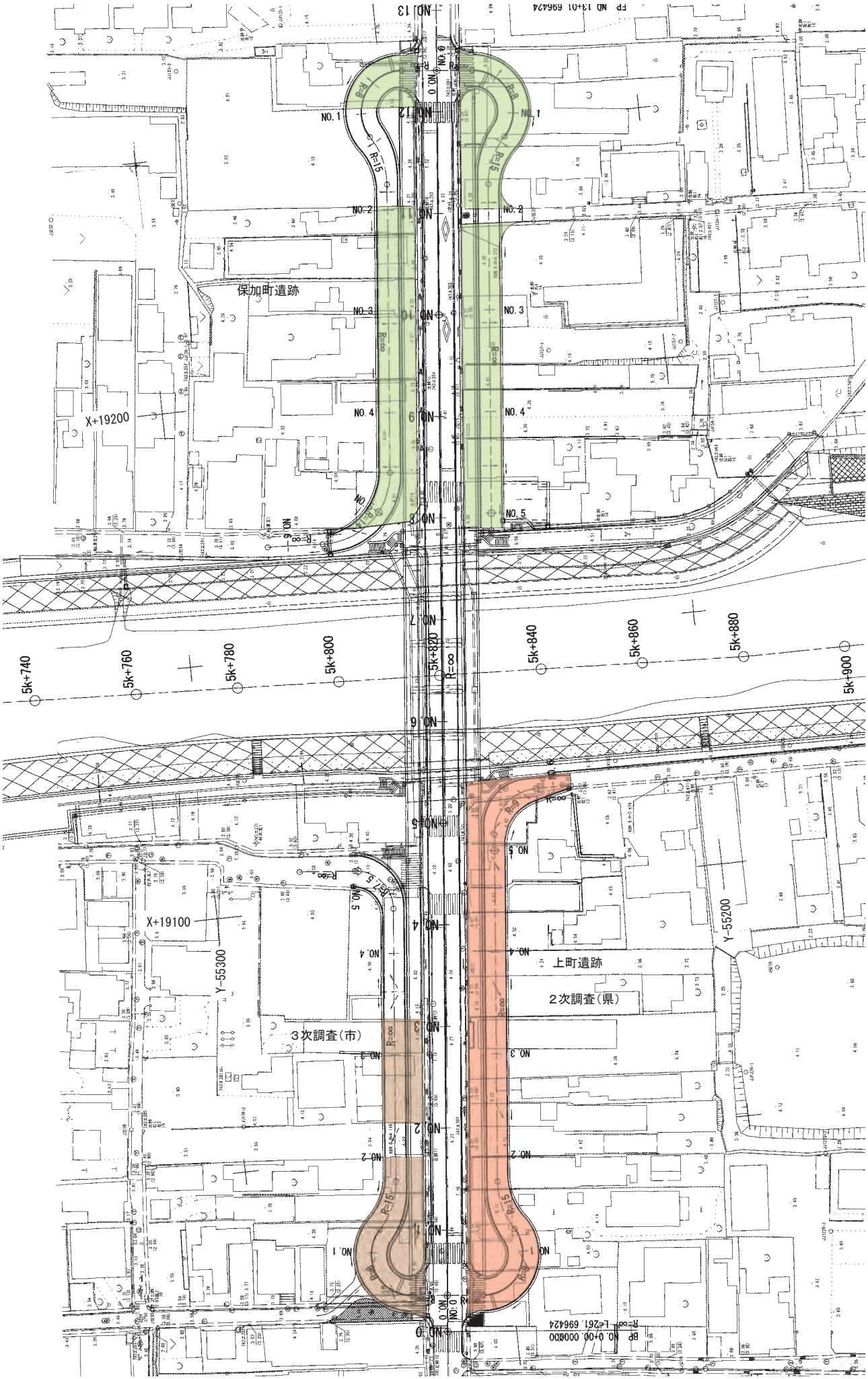
１次調査では、17 世紀以降～幕末にかけての土坑７基、溝２条、石積遺構などの遺構を検出している。溝は排水機能を目的とした遺構で、集水枡があり、そこに向かって伸びる竹樋が配置されている。出土遺物では肥前産の近世陶磁器･軒丸瓦、洪武通宝などの銅銭と木製品が出土している。木製品の中には下駄や曲げ物・漆椀・屋号の書かれた木札など町人生活の一端を示すものがある。

なお本町遺跡については、福岡県文化財調査報告書第 265 集を参考にして頂きたい。

このように柳川市内中心部での発掘調査について、17 世紀～ 19 世紀にかけて遺構・遺物が集中して出土する。今後の調査により、柳川城下町の武家屋敷や町屋敷などの様相が新たに判明してくるのではないかと思われる。（※参考文献はＰ１２２を参照）

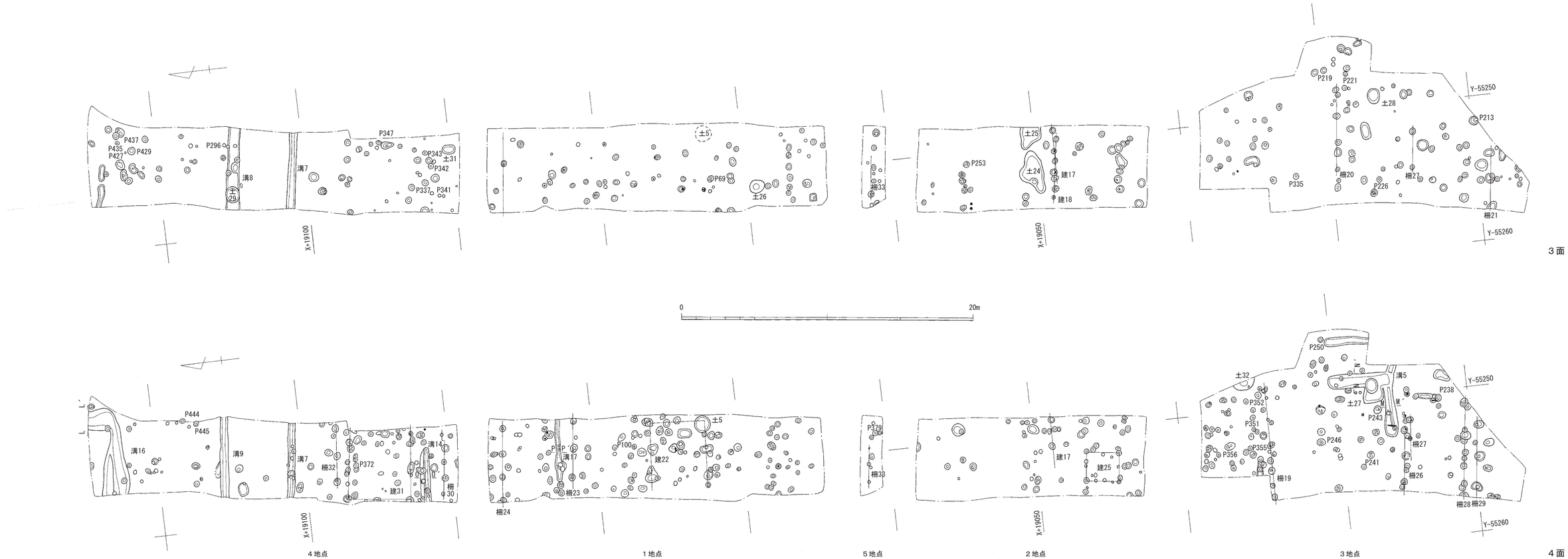


第2図　周辺遺跡分布図（1/25,000）



第3図　上町遺跡・保加町遺跡詳細図（1/1,000）

第４図　上町遺跡２次調査全体図１（1/200）



第５図　上町遺跡２次調査全体図２（１/200）

Ⅲ　発掘調査の記録

１　調査の概要

上町遺跡２次調査は、久留米柳川線を挟んだ東側の上町８-1 ～３・10、９- １、10- １・２、11-1、12- １～３、14-1、15-1、16-1、17-1、18-7･8 が調査対象地である。調査面積は 900㎡であるが、遺構面を４面確認したので約 3600㎡になる。調査地点は柳川城下町の北端の出橋御門に位置している。調査は江戸時代頃から続く町割の区画に沿って現在も住宅が建てらており、一度に全面調査はできず、各区画にそって調査地点が設定している。まず調査区の中央を１地点としてバックホーにより表土剥ぎを行い、調査を平成 27 年４月 13 日から開始した。次に１地点１面終了後に５地点を挟んだ南側の２地点と３地点を調査した。１～３地点に関しては一度に表土剥ぎができなかったため、まず 2/3 を調査してその後用地の状況から残りの 1/ ３を調査した。４地点に関しては、用地の状況から３分割になり中央→南側→北側を交互に調査を行った。５地点に関しては既存の住宅の出入り口にあたることから、トレンチ状の幅の狭い調査となった。調査中、７月 14 日には柳河小学校６年生２クラスを対象に発掘調査体験も行った。同年 10 月 30 日には調査を終了し、出橋を挟んだ北側の保加町遺跡の調査へ移行した。

各調査地点は礎石や遺構の検出状況から標高 3.6 m前後・3.2 m前後・2.8 m前後・2.6 m以下の４面を遺構面として設定した。遺構は建物跡・柵列跡 33 軒、土坑 31 基、溝 18 条、ピット 450 基以下を検出し、近世陶磁器を中心にパンケース 70 箱以上が出土した。

２　建物跡・柵列跡（第６～ 20 図、図版３～ 23）

建物跡は全地点の１～４面で 33 軒検出している。ただ遺構検出では対になる柱列が確認できないものは柵列として報告する。

1 面検出建物跡

１号建物跡（第６・14 図、図版３・33）

１地点南側に位置し、東側と南側にかけての礎石と北側のピットから建物跡と判断した。現状からは２×３間以上の建物跡で、ほぼ南北方向に建てられる。柱間は約 1.5 mで、深さ約 0.2 mのピットに礎石を埋め込むものと約 0.4 m以下の礎石を直置きするものを併設する。遺物はＰ 106 からまとまって出土した。

14 図１・２は陶器である。１は土瓶蓋で内面は露胎し、外面のみ施釉する。２は土瓶で、胴部下半以下は露胎し、底部はヘラケズリ。内面の注ぎ口は３ヶ所穿孔する。３は磁器の紅猪口で外面に型押し成形で、蛸唐草文が巡る。４は磁器碗で、内面は雷文と見込みにわずかに文様がある。外面は３条の圏線と銀杏を描くか。

２号建物跡（第６図、図版３・４）

１号建物跡の北側に位置し、礎石のみで構成される。現状からは１×２間以上の建物跡で、やや北東向きに建てられる。柱間は約 1.8 mで、約 0.6 m以下の礫石を直置きする。

３号建物跡（第７図、図版３・４）

１地点北側に位置し、２号建物跡同様に礎石のみで構成される。検出された礎石は東側では標高約 3.5 m、西側で標高 3.3 mで 02 mのレベル差があるので、同じ建物の礎石の可能性は低いかもしれない。礎石は西側で、石塔の石材を再利用している。１号建物跡と同方向に建てられている。

４号建物跡（第７・14 図、図版 10）

２地点中央に位置し、南側をピットで西側を礎石で構成する。現状からは４×４間以上の建物跡で、北側と東側では建物に関する遺構は検出していない。柱間は約１m前後で、南側のピット列は深さ約 0.1 m以下と浅い。西側の礎石は 0.2 ～ 0.6 mを測り、直置きする。１号建物跡と同方向に建てられる。

14 図５はＰ 34 出土の瓦質土器で、外面のみ煤が付着するので鍋として使用か。

５号建物跡（第８図、図版 11）

４号建物跡の北側に位置し、北側と東側でＬ字に１×２間以上の建物跡を検出する。柱間は約２m以下で、主にピットの掘り方約 0.4 mに、礎石 0.3 ～ 0.5 mを北側列のみ置く。南東隅は直置きの礎石を検出したが、２面目で検出したピットの上面が本来の位置なのかもしれない。４号建物跡と同方向に建てられるが、前後関係は不明である。

14 図６は内面は鉄釉で「一」状に描き、高台内に兜巾が残る。

６号建物跡（第８・14 図、図版 11）

３地点北東側に位置し、１×２間以上の建物跡を検出する。柱間は約２m以下で、主にピットの掘り方は約 0.5 ～１mの円形で、深さ 0.1 ～ 0.2 mと浅い。南列の P310 は底面に礎石 0.5 mを据え置く。調査区際で検出したため、東側にピット列が伸びる可能性がある。１号建物跡と同方向に建てられる。

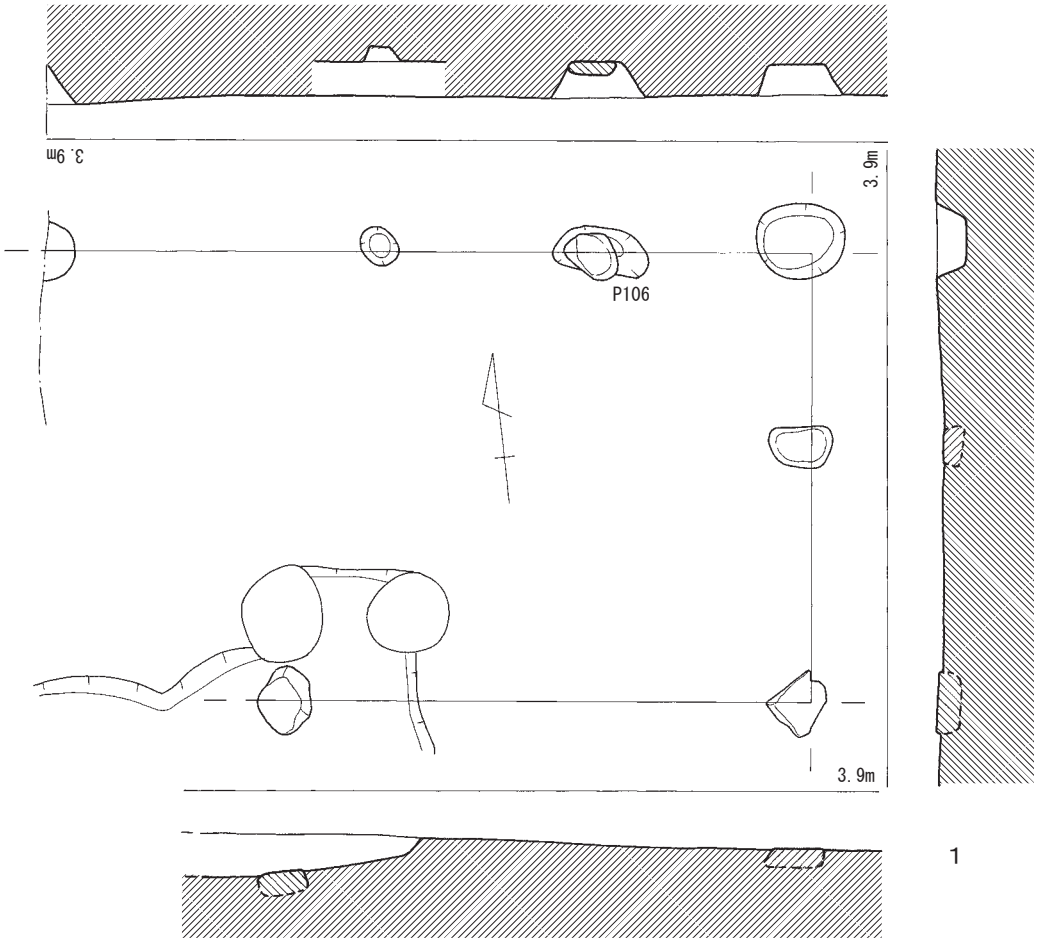
14 図７はＰ 155 出土の京焼風の碗で、見込みに山水文を描く。８・９はＰ 310 出土の磁器皿である。８は畳付けを釉剥ぎする。高台内銘款があるが、文字は判別できない。９は見込みに五弁花文と内面胴部に菊花文と外面に唐草文を描く。

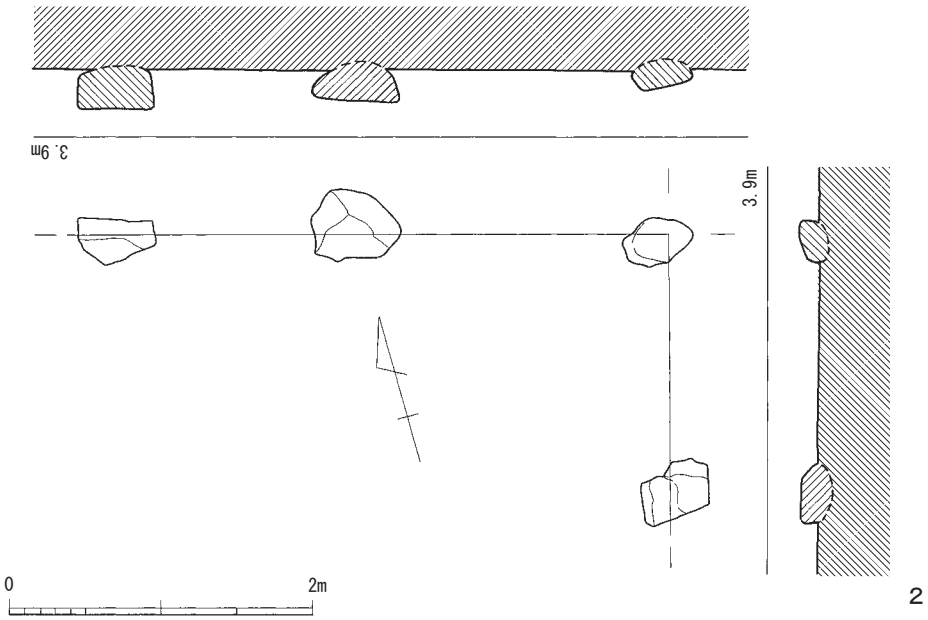
７号建物跡（第９図、図版 15）

６号建物跡の２m南側に位置し、同方向に併設して建てられている。柱間は約２mで、２×３間以上の可能性がある。ピットの掘り方は約 0.4 ～ 0.6 mで、深さ 0.4 m以下である。南列の一部は溝状に切られていたため、２面目で検出している。

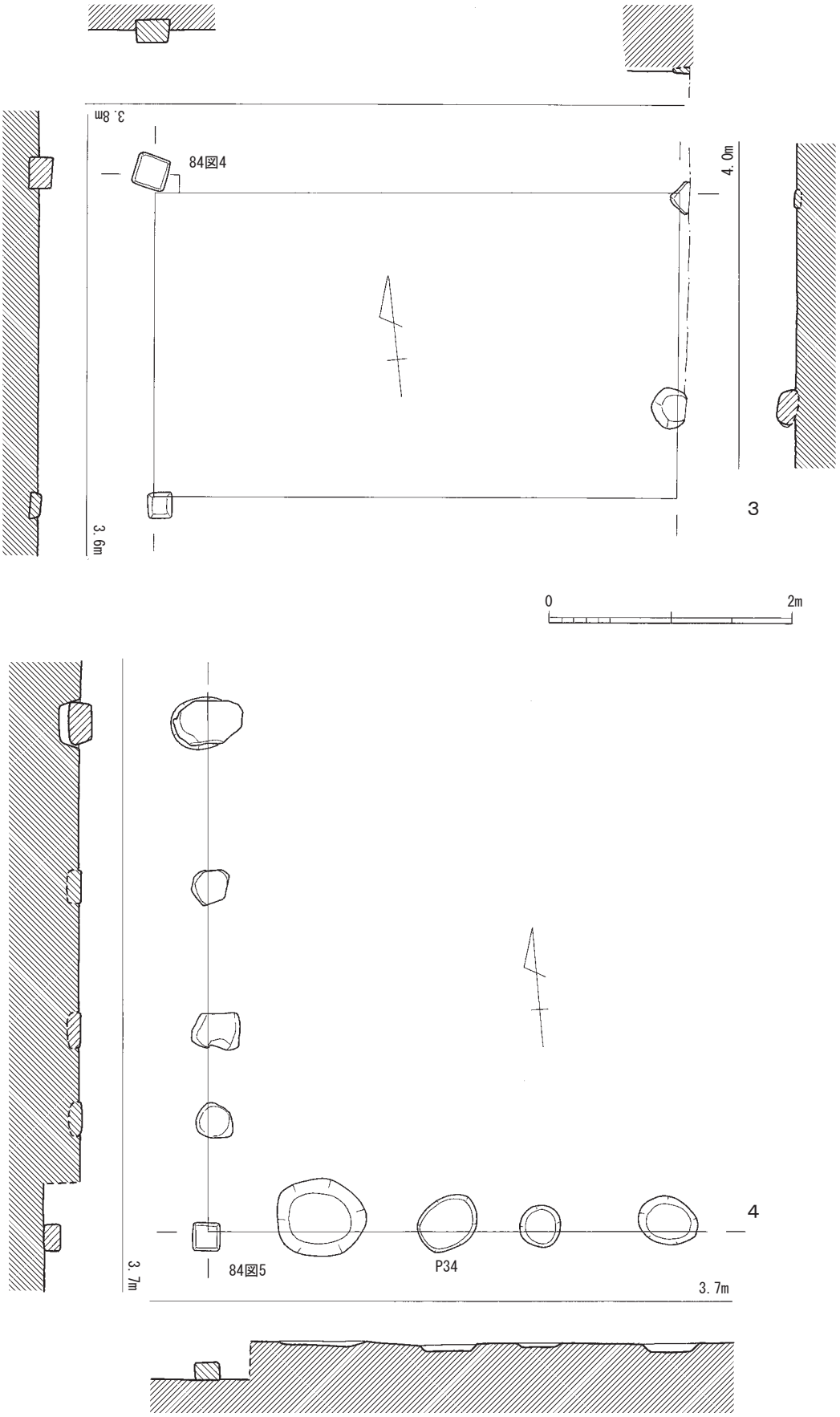
８号建物跡（第９図、図版 23）

１号建物跡の南側の５地点に位置し、1 号建物跡と同方向に建てられる。柱間は約 1.6 ～ 1.8 mで、３間分検出する。ピットの掘り方は 0.4 m以下、深さ 0.2 mを測る。一部のピットに 0.3 mの礎石を据え置く。礎石を検出したので建物跡としている。

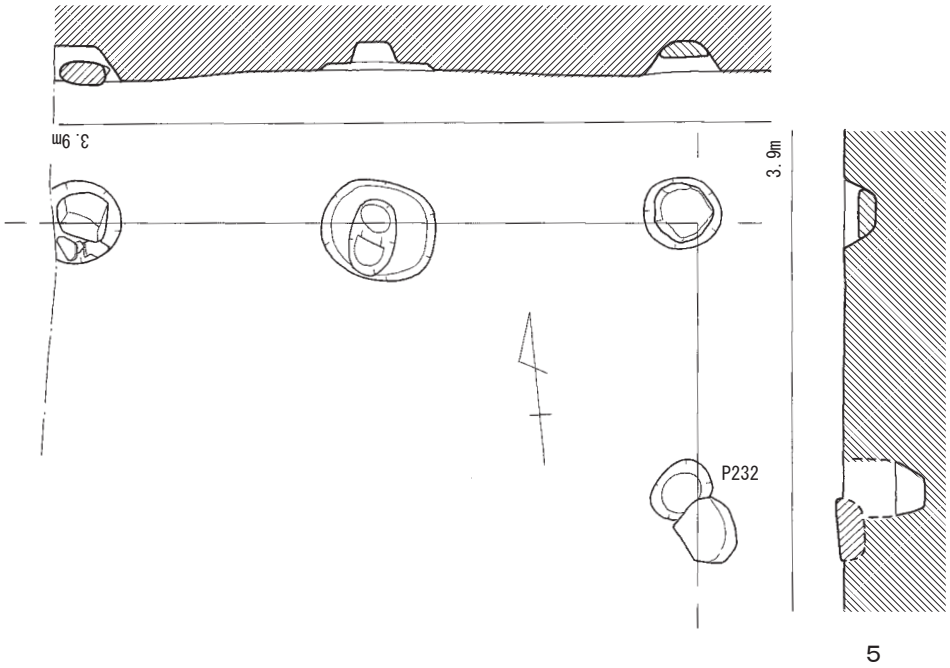


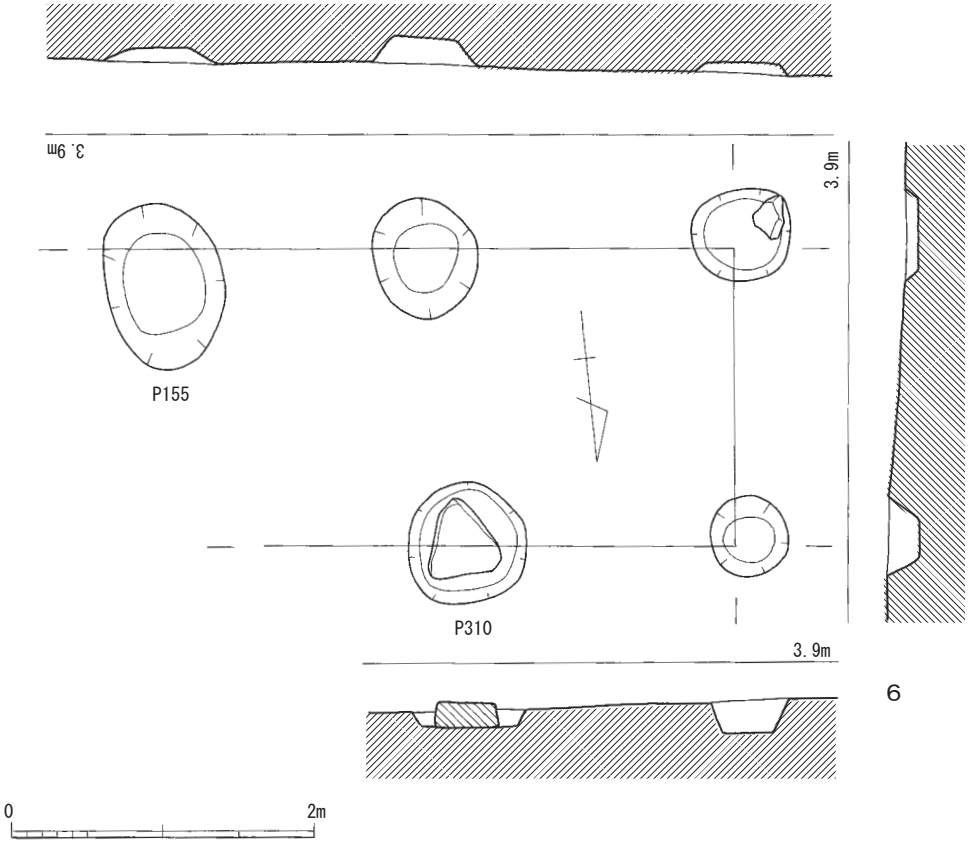


第6図　1・2号建物跡実測図（1/50）

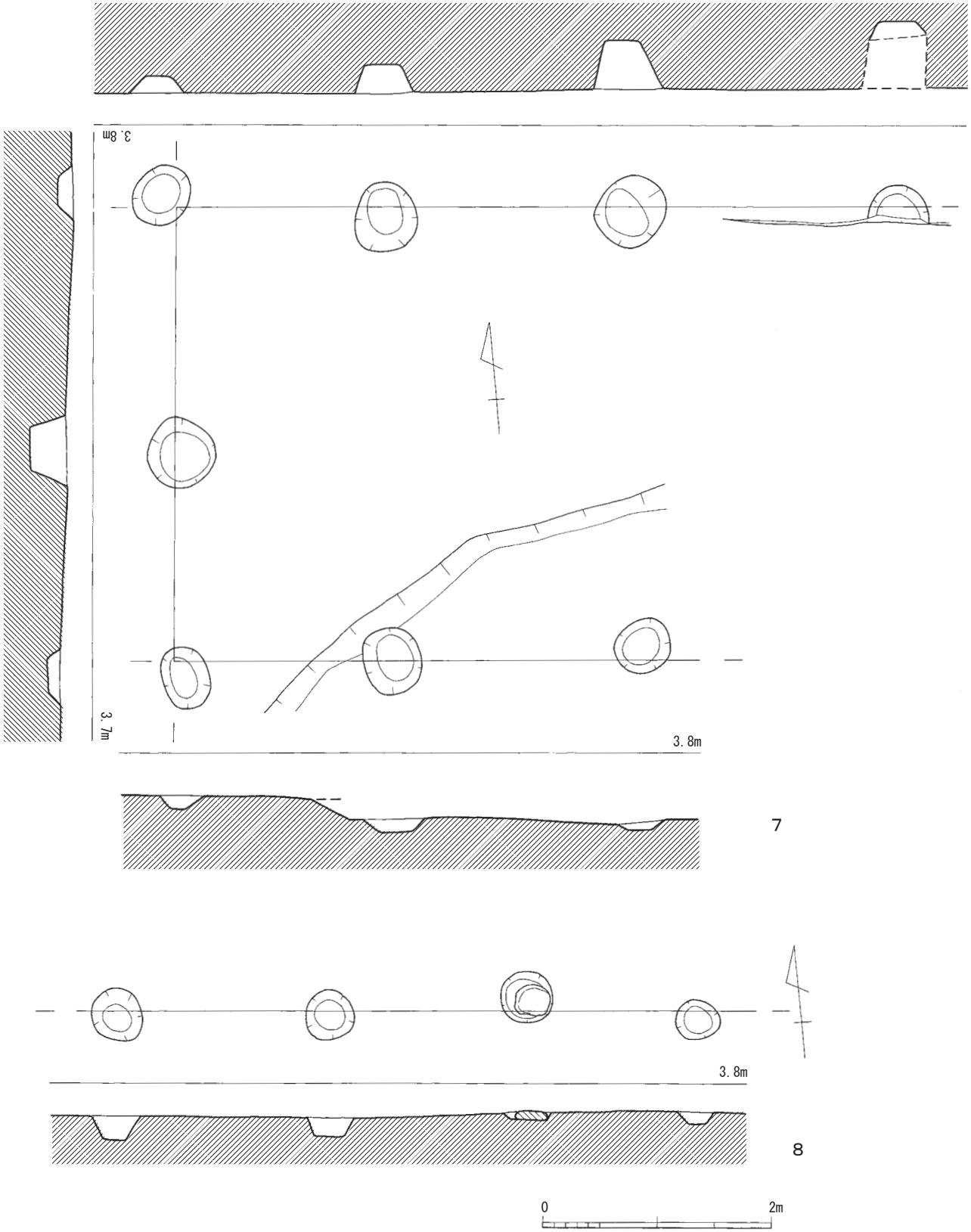


第7図　3・4号建物跡実測図（1/50）





第8図　5・6号建物跡実測図（1/50）

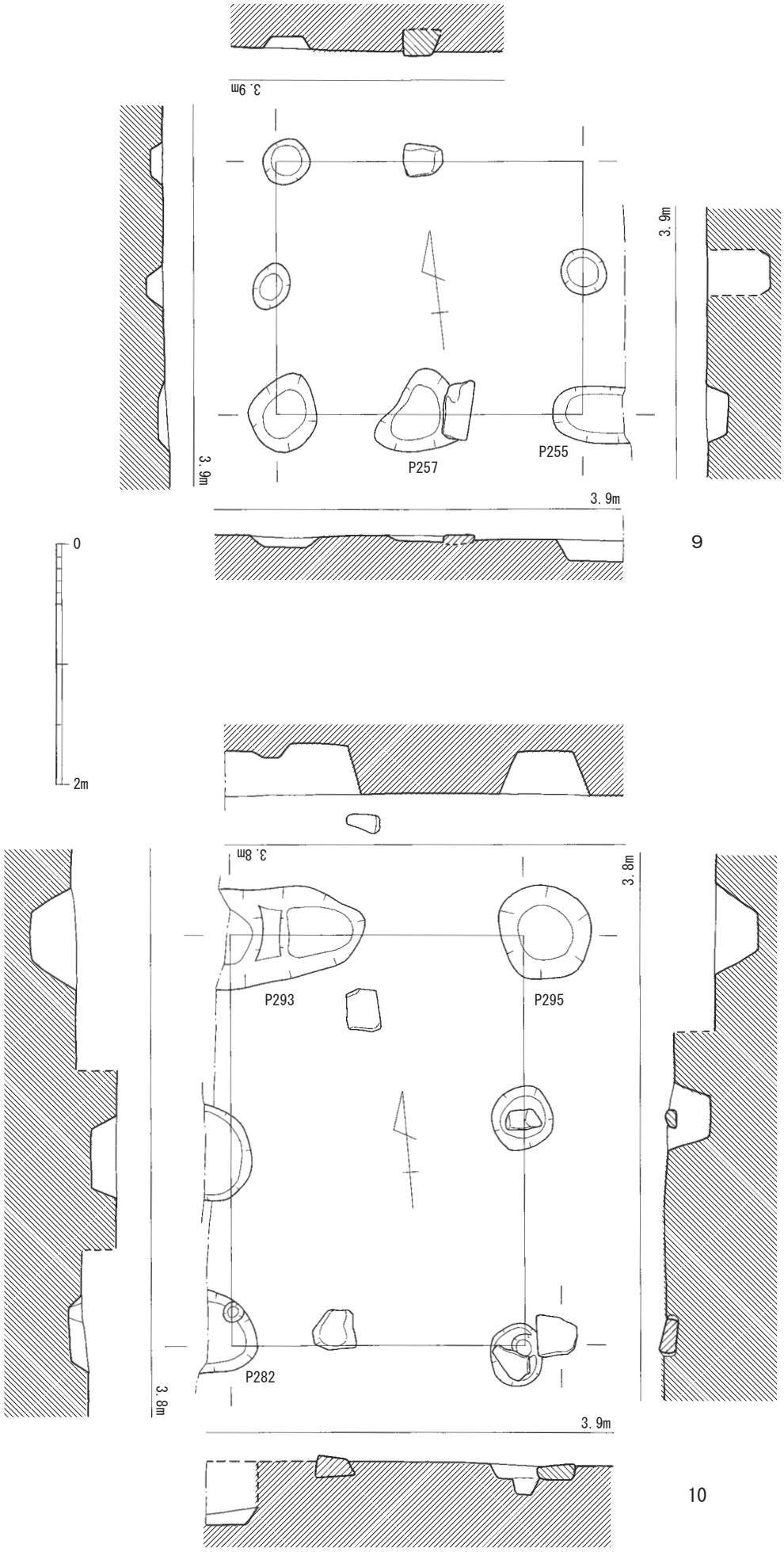


第9図　7・8号建物跡実測図（1/50）

９号建物跡（第 10・14 図、図版 19）

４地点中央よりに位置し、１号建物跡と同方向に建てられている。柱間は 1.4 m以下で、２×２間になる。ピットの掘り方は 0.6 m以下、深さ 0.2 m以下で、北列の中央に礎石 0.3 mを直置きするが、南列 P257 にも礎石と思われる石を検出する。北東隅は何も検出されなかった。

14 図 10 はＰ 257 出土の陶器鉢で、口縁端部が肥厚し、その周囲のみ施釉する。11 はＰ 255 出土



第10図　9・10号建物跡実測図（1/50）

の磁器碗で、外面は圏線の間に網目文を描く。

10 号建物跡（第 10・14 図、図版 19）

９号建物跡の北西側に接して、同方向に建てられている。南北列中央付近には原位置を保っていない礎石があり、その礎石から推測して柱間は 1.5 m程か。北列 P293・295、西列 P282 は２面目での検出であるが、これらのピットが建物に付随するとすれば、２×２間の建物跡である。ピットの掘り方は 0.5 ～ 0.8 m、深さ 0.4 m以下である。

14 図 12 はＰ 282 出土の陶器甕の底部片である。内面に格子目状の叩きが残る。13 はＰ 293 出土で、陶器碗の底部片で、胴部下半以下は露胎する。14 は瓦質土器の火鉢の簀子か。1.4㎝の円形の透かしが入る。

11 号建物跡（第 11 図、図版５）

１地点中央に位置し、南列中央と北西隅の礎石は標高 3.6 m、残りの南列の礎石は標高 3.2 mと１・２面で検出している。ピット状の掘り方は検出されなかった。礎石は0.4 m前後で直置きされており、南列の礎石が柱間２mで直線上にあることから建物跡として判断している。

12 号建物跡（第 11 図、図版６）

11 号建物跡の北側に位置し、同方向に建てられている。残存する礎石から柱間は 1.7m 前後であるが、建物規模は不明である。北列と東列で直線上に礎石を同レベルで検出されたことから建物跡と判断している。礎石は 0.3 mで、東側の礎石は石塔の一部を再利用している。

13 号建物跡（第 12 図、図版 10）

２地点の南側に位置し、やや西よりに建てられている。柱間 1.4 ～ 1.5 mで、２×１間以上の建物跡か。東側は礎石などは検出されなかった。礎石は 0.3m 前後で、直置きされている。

２面検出建物跡

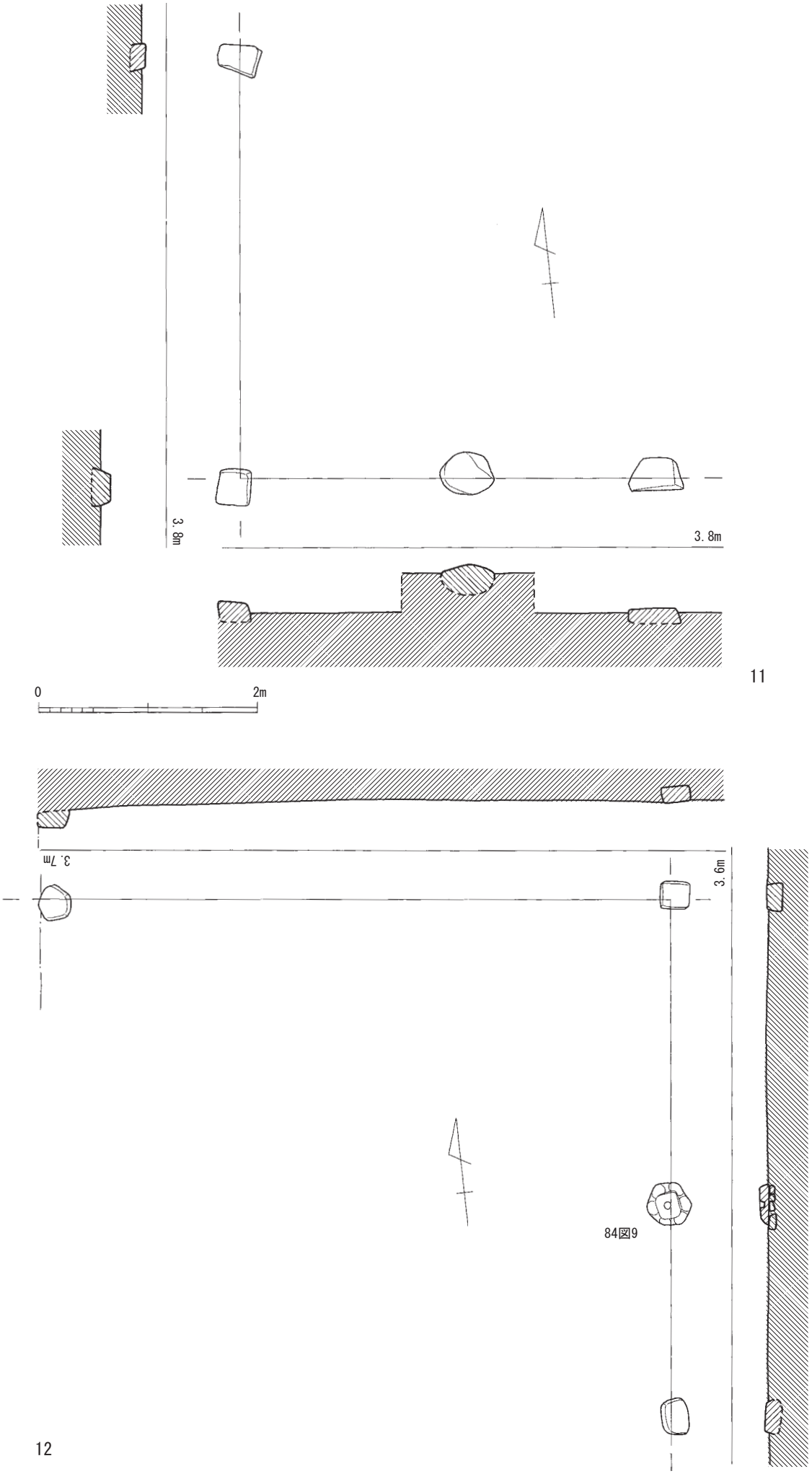
14 号柵列跡（第 12・14 図、図版 16）

３地点の南側に位置し、11 号建物跡と同方向に建てられている。礎石はなく、ピットのみである。ピットの掘り方は 0.7 m前後で、深さ 0.3 mである。この列のみしか遺構は検出されなかったことから柵列の可能性がある。

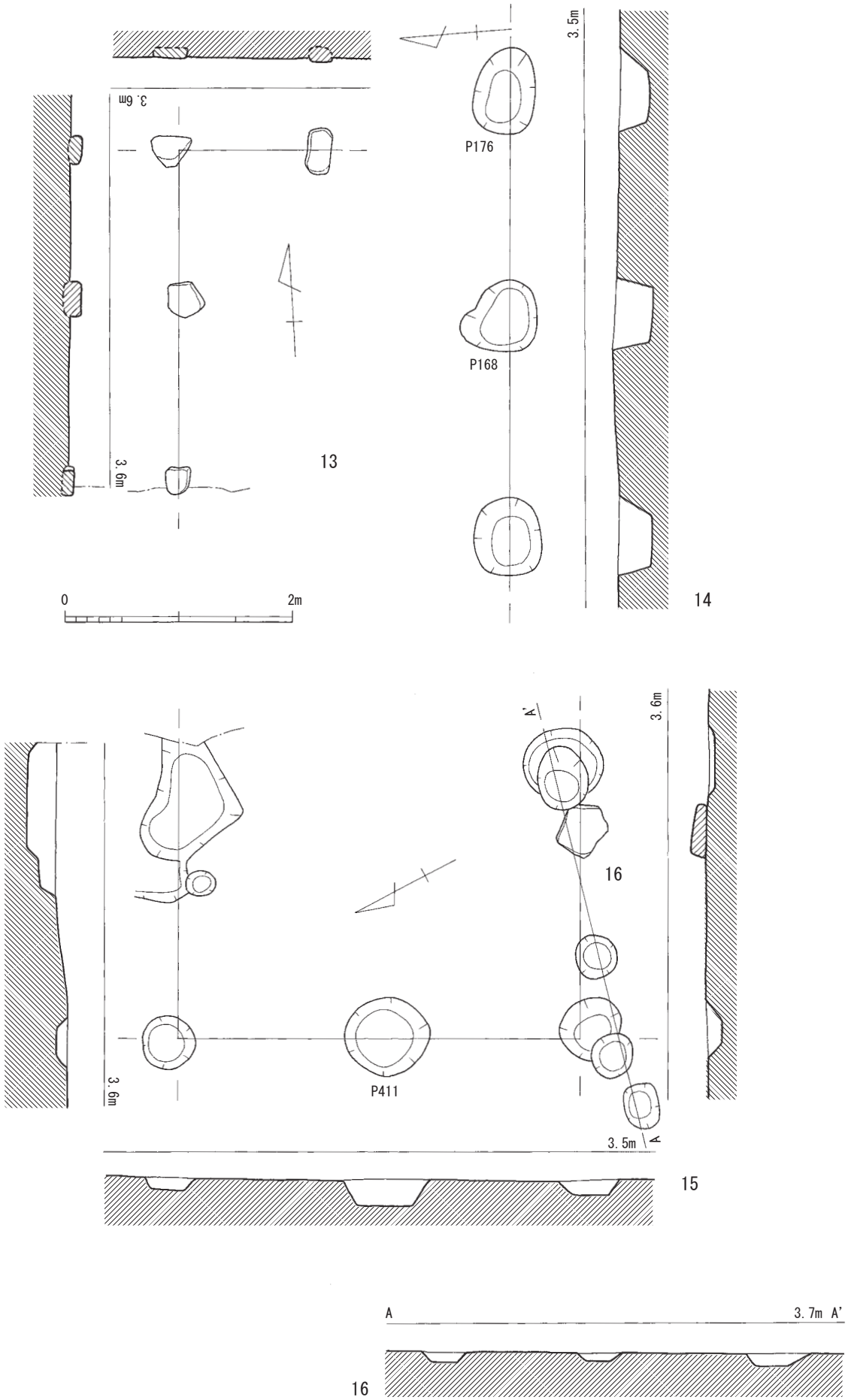
14 図 15･16 はＰ 176 出土である。15 は土師器小皿で、口縁端部を欠損する。16 は陶器の小碗で、高台は露胎する。17 はＰ 168 出土で磁器碗で、内面口縁部に四方襷と底部に２条の圏線、外面は唐草文か。

15 号建物跡・16 号柵列跡（第 12・14 図、図版 20）

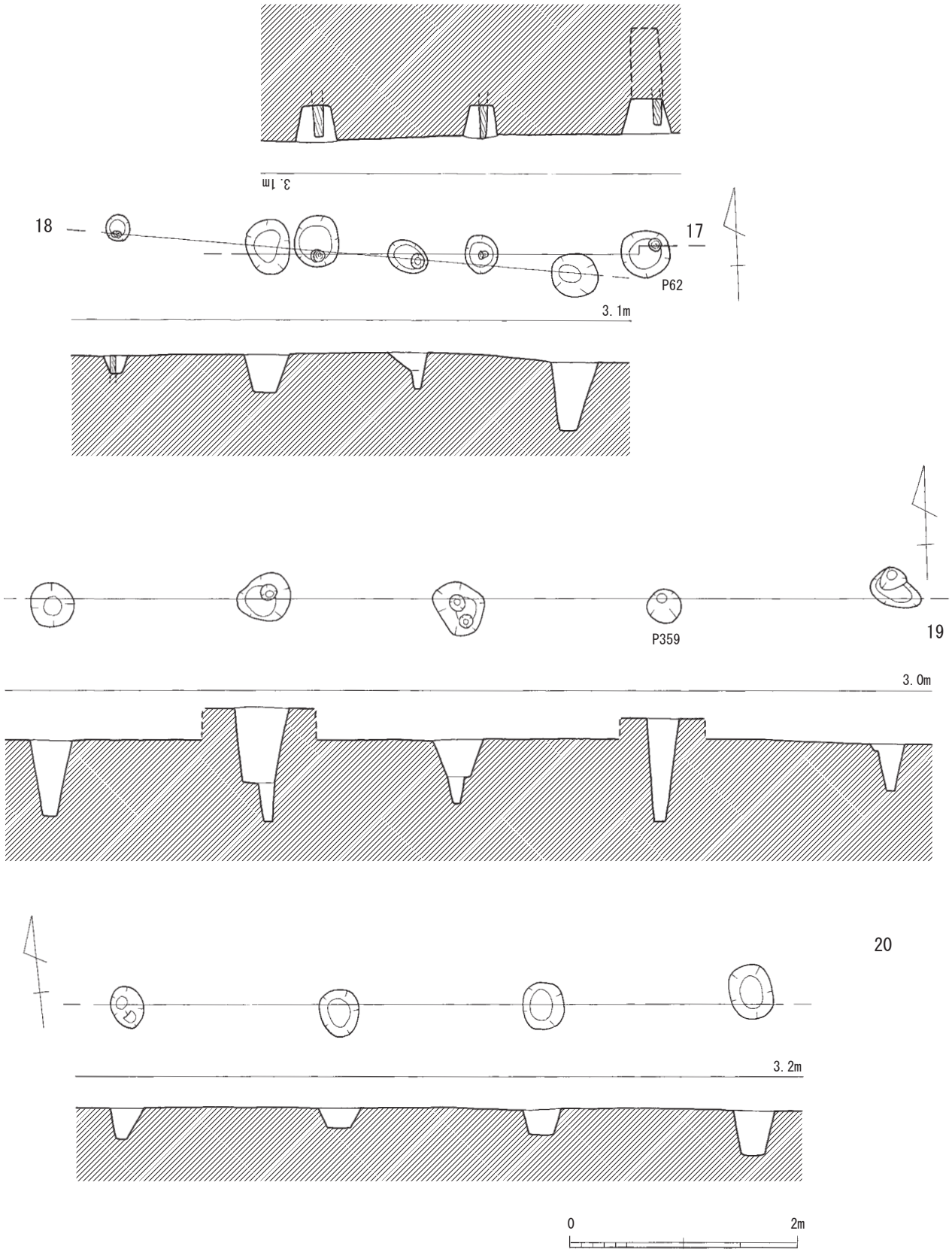
４地点の北側に位置し、西寄りに建てられている。ほとんどピットのみであるが、南東隅近くに、現位置を保っていない礎石がある。調査区東際で検出しているが、柱間は 1.7 ～２mで、１×２間以上の建物跡である。ピットは一部 33 号土坑に切られているが、掘り方は 0.5 ～ 0.8 m、深さ 0.1 ～ 0.3



第11図　11・12号建物跡実測図（1/50）



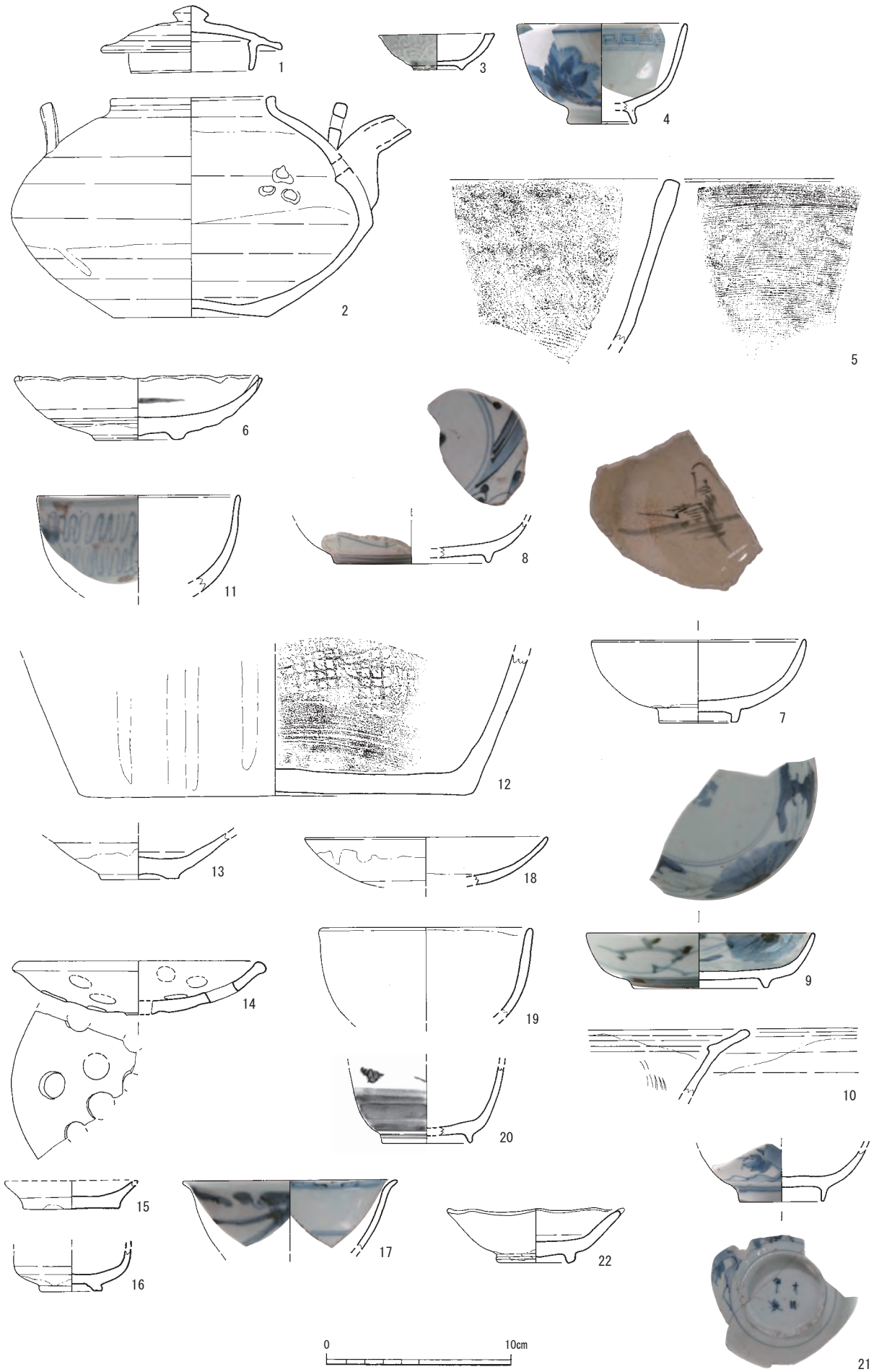
第12図　13～16号建物跡・柵列跡実測図（1/50）



第 13 図　17 ～ 20 号柵列跡実測図（1/50）

mを測る。

16 号柵列跡は標高 3.4 mの 1 面目で検出し、15 号建物跡の一部のピットを切っている。この列以外に付随するピット列がないので、柵列と判断している。柱間は 1.5 mで、掘り方は 0.2 ～ 0.4 m、深さ 0.1 ～ 0.3 mを測る。



第 14 図　1・4～6・9・10・14・15・17 号建物跡出土遺物実測図（1/ 3）

14 図の 18 ～ 21 はＰ 411 出土である。18 は内外面に銅緑釉で施釉し、見込みに蛇の目釉剥ぎが一部残る。19 は口縁端部を釉剥ぎする京焼風の碗である。20 は磁器碗で高台内銘款に「大明年製」と胴部に草花文を描く。21 も磁器碗で、外面に桐花を描く。

３面検出建物跡

17・18 号柵列跡（第 13・14 図、図版 13）

２地点の中央に位置し、17 号はやや北東寄り 18 号は南北方向にピットが１列に並んでいる。いずれも標高 2.8 ｍで検出するが、切り合っておらず前後関係は不明である。

17 号柵列跡は、柱間 1.5 ｍで２間分検出する。ピットは 0.2 ～ 0.4 ｍ、深さ 0.4 ｍを測り、0.1 ｍ以下の杭と思われる木柱が出土した。杭は残存状況が悪く、取り上げていない。

18 号柵列跡は、柱間 1.3 ｍで３間分検出する。ピットは 0.2 ～ 0.4 ｍ、深さ 0.3 ～ 0.6 ｍを測る。東側のピットのみ標高 2.2 ｍまで掘られていた。西側のピットは 0.05 ｍの木杭を検出するが、これも取り上げていない。

14 図 22 はＰ 62 出土の白磁である。器形は八角形の変形皿で菊弁状で、内外面は無文である。

19 号柵列跡（第 13 図、図版 18）

３地点北側に位置し、東西方向に一列に並んでいる。柱間は 1.8 ～２ｍで、４間分検出する。ピットの掘り方は 0.2 ～ 0.5 ｍ、深さ 0.4 ～１ｍを測る。ピットは上端よりも下端がいずれも先細っていることから木杭等があった可能性がある。標高 2.8 ｍの３面目で検出したピットがあることから、本来は３面目の柵列の可能性がある。

18 図１はＰ 359 出土で、土師器小皿である。内外面はナデ、外面は糸切りである。

20 号柵列跡（第 13 図、図版 17）

19 号柵列跡の南側に位置し、ほぼ東西方向に一列に並んでいる。柱間は 1.8 ｍで、３間分検出する。ピットの掘り方は 04 ｍ前後、深さ 0.4 ｍ以下を測る。杭状の痕跡などは確認できなかった。

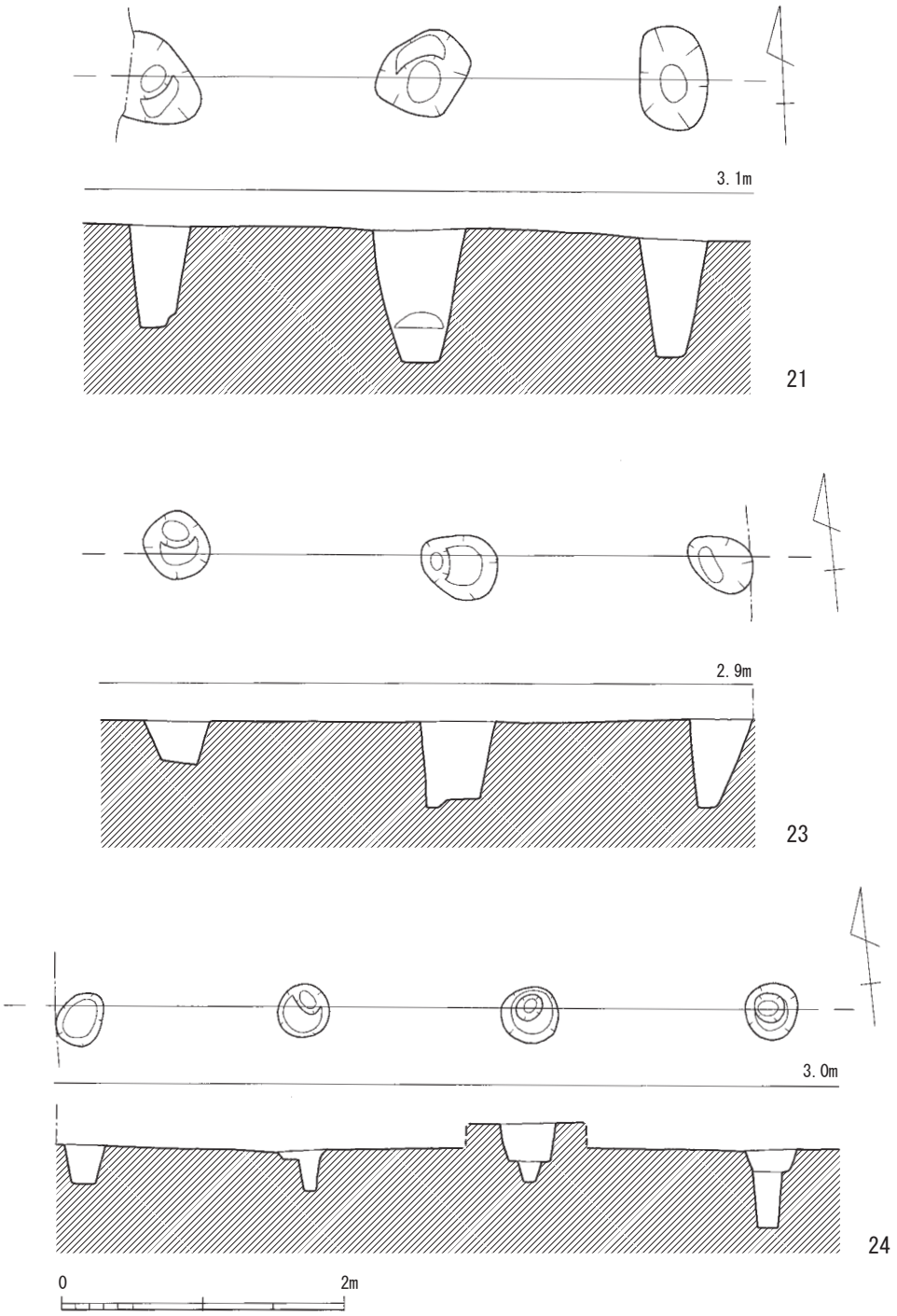
21 号柵列跡（第 15 図、図版 17）

20 号柵列跡のさらに南側の位置し、東西方向に一列に並んでいる。柱間は 1.8 ｍで、２間分検出するが、調査区外にまだ伸びる可能性がある。ピットの掘り方は 0.6 ～ 0.7 ｍ、深さ 0.8 ～ 0.9 ｍを測るなど他の建物や柵などに比べて残りは良い。

４面検出建物跡

22 号建物跡（第 16・18 図、図版８・９）

１地点中央に位置し、コの字状にピット列がやや北東寄りに並んでいる。柱間は 1.8 ｍで２×２間分検出するが、調査区西側に延びる可能性がある。ピットは一部、５号土坑などに切られているが、掘り方は円形～不整形で 0.4 ～１ｍ、深さ 0.5 ～ 0.9 ｍを測る。木柱は検出されなかったが、木柱の痕跡があったことを示すようにいくつかのピットの底面が一段下がっている。

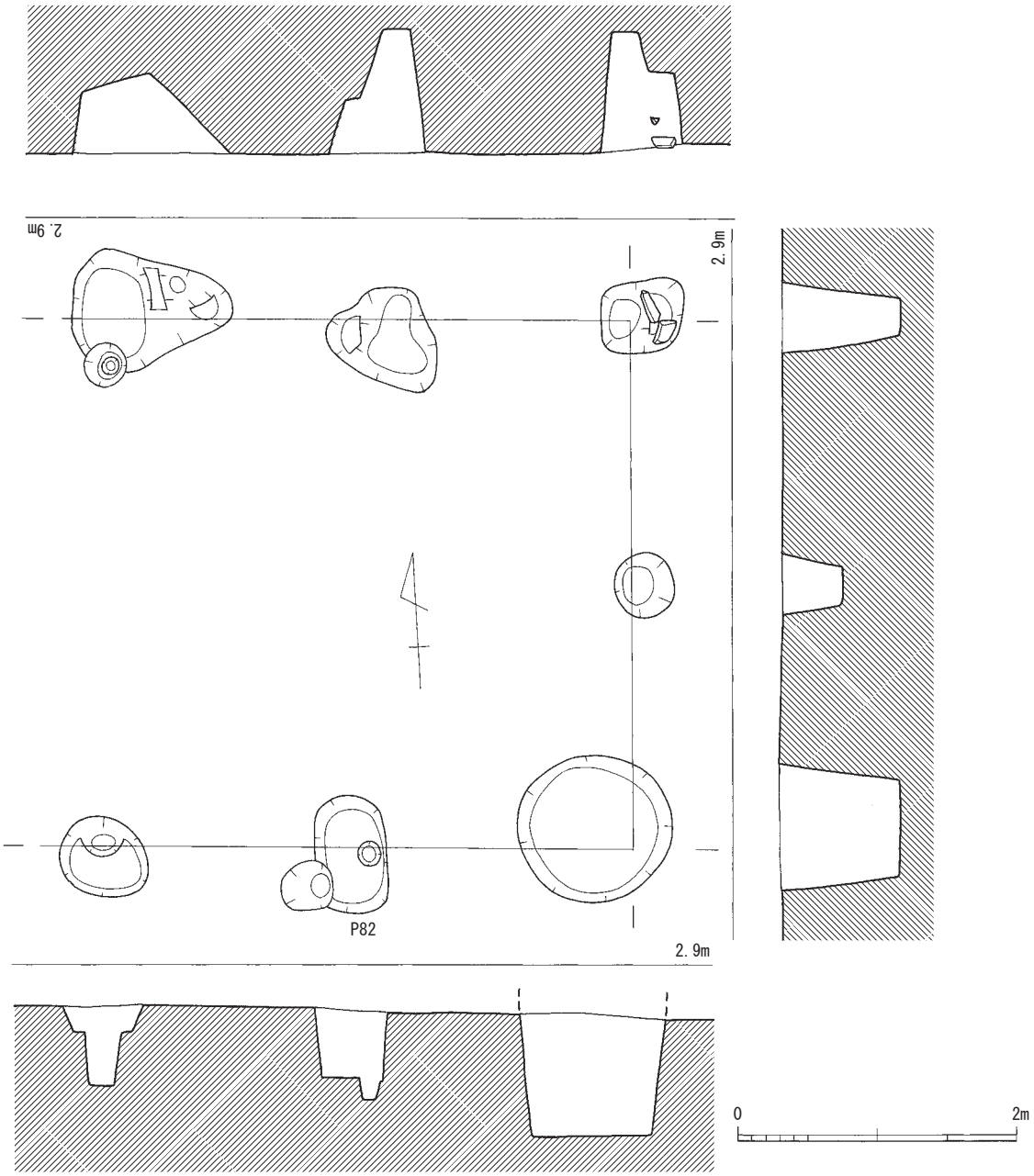


第 15 図　21・23・24 号柵列跡実測図（1/50）

18 図２～４はＰ 82 出土である。２は土師器小皿である。３と４は瓦質土器である。３は外面に煤が付着する鍋か。４は湯釜で、刷毛目が明瞭に残る。

23 号柵列跡（第 15 図、図版８・９）

22 号建物跡の北側に位置し、東西方向に一列に並んでいる。柱間は 1.9 ｍで、２間分検出する。ピットの掘り方は 0.5 ｍ前後､深さ 0.3 ～ 0.6 ｍを測る。このピット列と対になるようなものはなく、また北側には併行するように溝があるので、柵又は杭列の可能性がある。



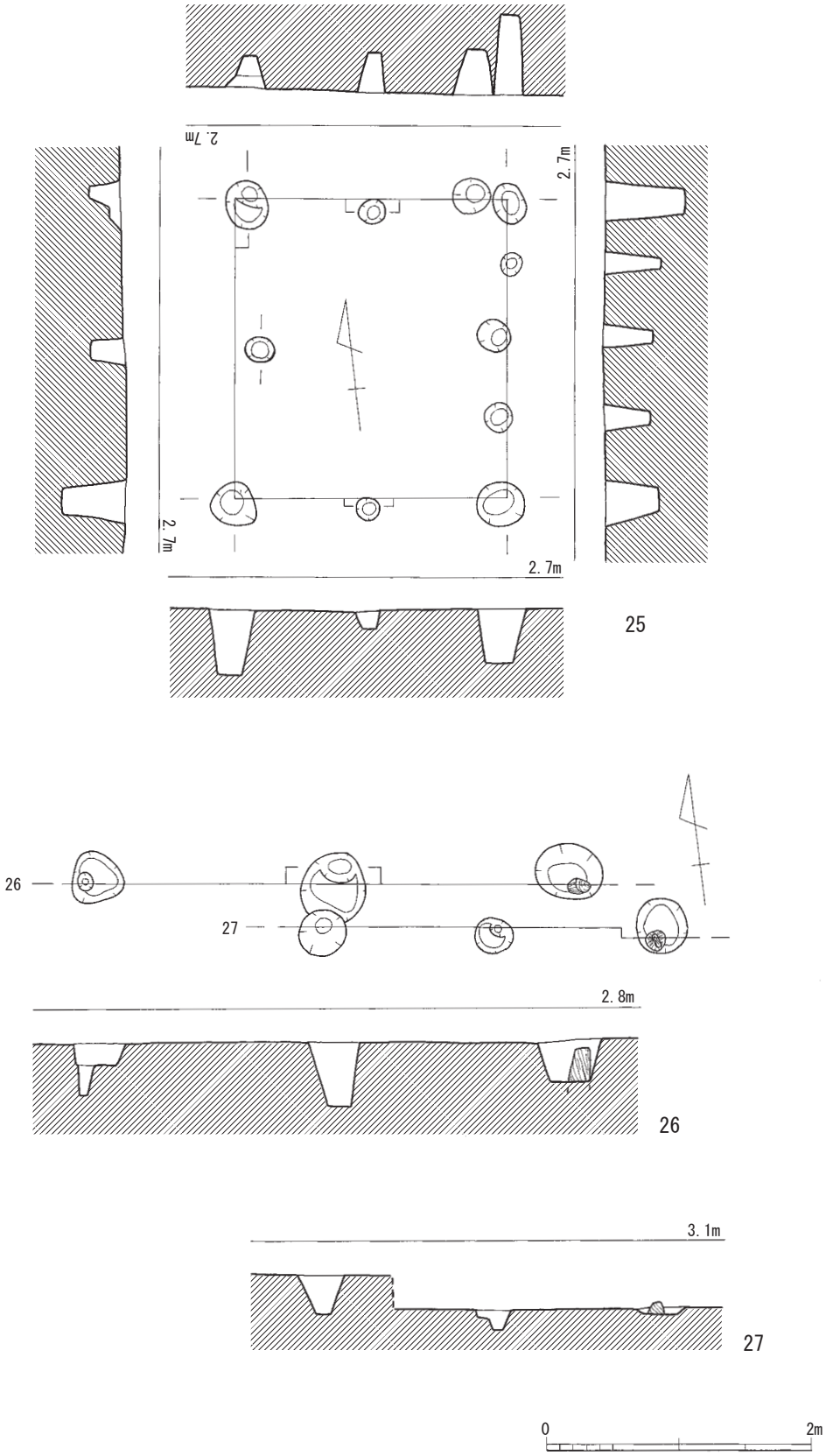
第 16 図　22 号建物跡実測図（1/50）

24 号柵列跡（第 15 図、図版８・９）

23 号柵列跡の北側に位置し、同方向に一列に並んでいる。柱間は 1.7 mで、３間分検出する。ピットの掘り方は 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.3 ～ 0.6 m測る。木杭などは検出されなかったが、底面がさらに一段下がることから杭などがあったと思われる。また一部のピットが３面目から検出されていることから、３面の遺構の可能性もある。

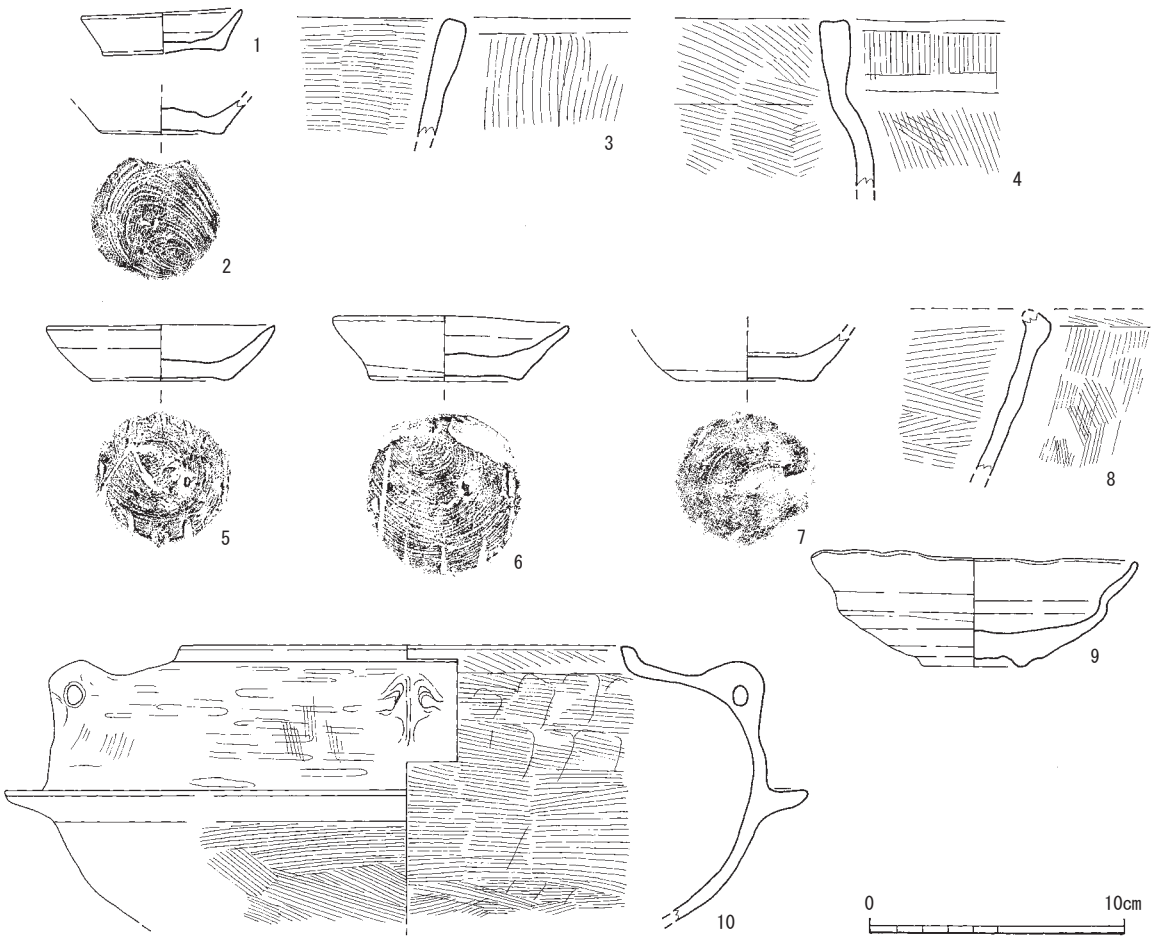
25 号建物跡（第 17 図、図版 14）

２地点南側に位置し、柱間は 1.1 m前後で、２×２間分を検出する。隅のピットの大きさは 0.3 ～ 0.4 mで、深さ 0.3 ～ 0.6 mを測る。中央ピットは、隅のピットに比べて一回り以上小さく、やや柱列



第17図　25号建物跡・26・27号柵列跡実測図（1/50）

の線上からもずれている。また他の建物跡の柱間の半分程しかないので、本来は隅のピットのみで、調査区西側に柱列が延びなければ、1×1間の建物の可能性もある。



第 18 図　22 号建物跡・29・30 号柵列跡出土遺物実測図（1/ 3）

26・27 号柵列跡（第 17 図、図版 18）

３地点の中央南よりに位置し、東西方向に２間分並んでいる。27 号のピットが 26 号のピットを切ることや上面から検出されていることから、27 号の方が新しいと思われる。

26 号柵列跡はピットの大きさは 0.4 m前後、深さ 0.3 ～ 0.5 mを測る。東側のピットのみ木杭を検出したが、他の２基のピットには底面が一段下がる痕跡を確認した。

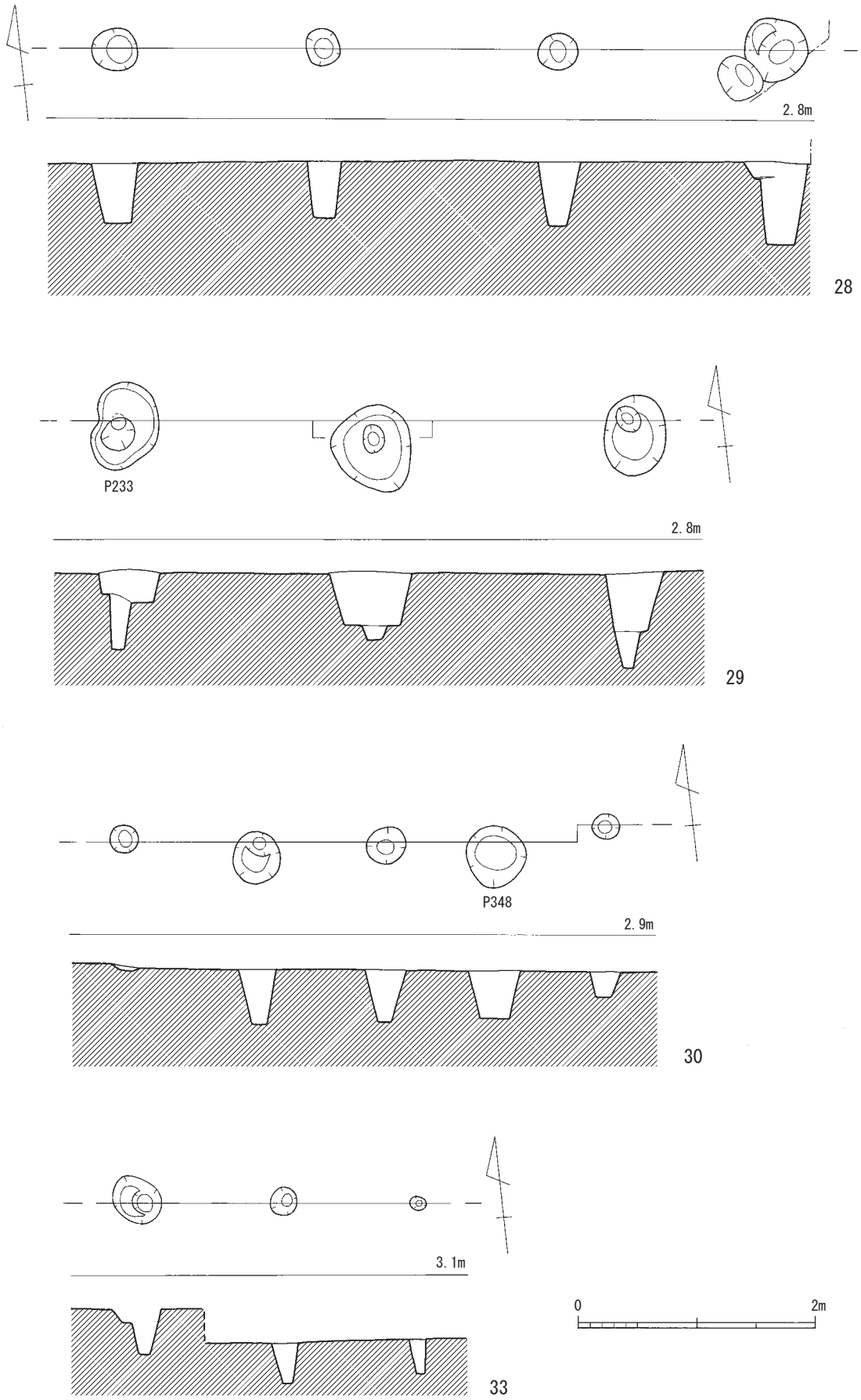
27 号柵列跡はピットの大きさは 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.1 ～ 0.3 mを測る。26 号柵列と同様に木柱や木杭があった痕跡を検出した。いずれも木材が腐っていたため、取り上げていない。

28 号柵列跡（第 18・19 図、図版 18）

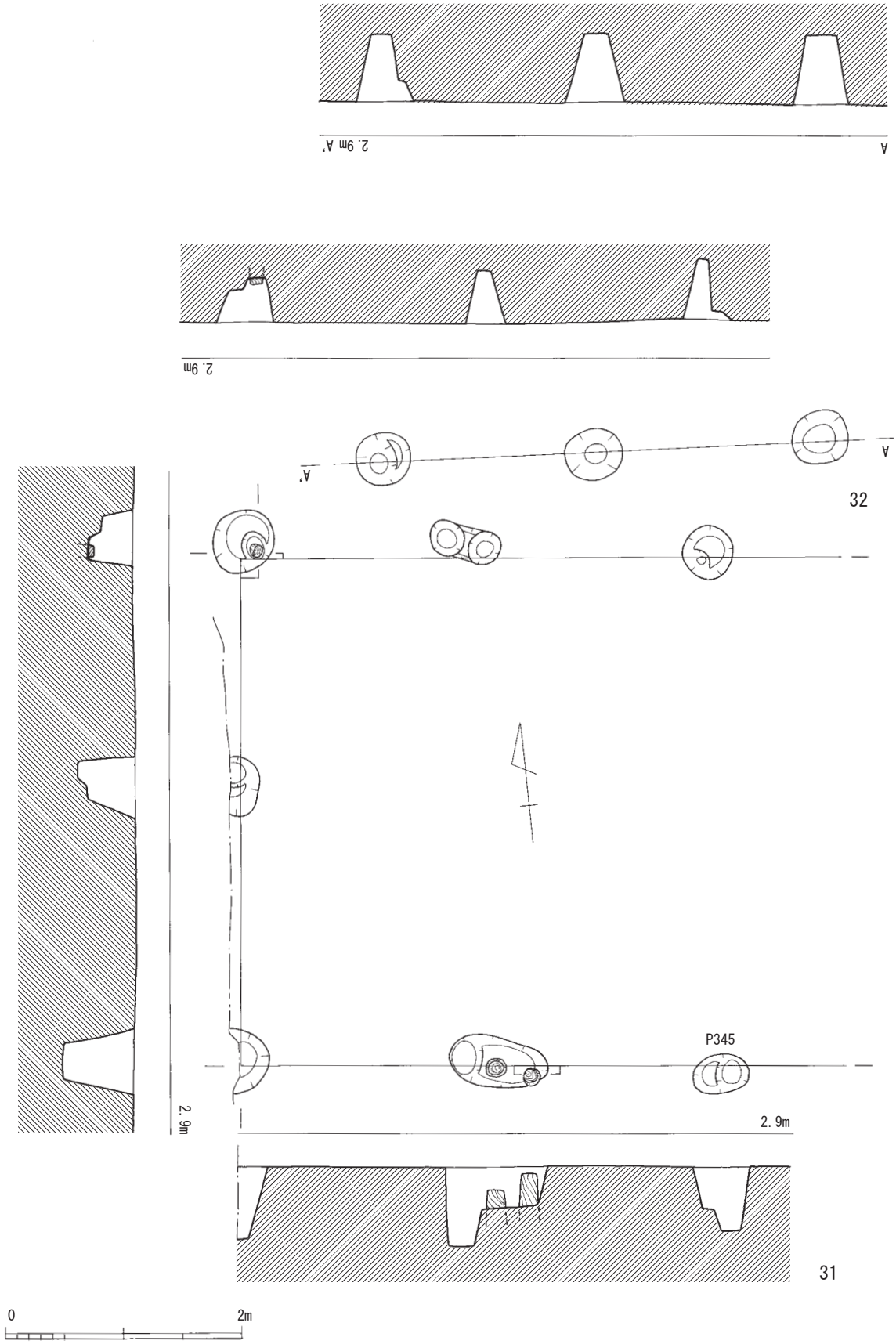
26・27 号柵列の南側に位置し、東西方向に並んでいる。28 号柵列は柱間 1.9 ～ 2 mで、３間分検出する。ピットの大きさは 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.5 ～ 0.7 mを測る。

29 号柵列跡（第 18・19 図、図版 18・33）

28 号柵列跡のすぐ南側に位置し、同方向に並んでいる。柱間は 2.1 mで、２間分検出する。ピットの大きさは 0.6 ～ 0.8 m、深さは 0.6 ～ 0.8 mを測る。ピットの形状や大きさは上面で検出した 21 号柵列と似ている。一段底面が下がっていることから、木柱又は木杭の痕跡と思われる。この柱列と対になるピットは検出していないので、柵列としている。



第19図　28～30・33号柵列跡実測図（1/50）



第 20 図　31 号建物跡・32 号柵列跡実測図（1/50）

18図５はＰ 208出土で、灯明皿として使用されたため、口縁端部は油煙が付着する。６はＰ 233、７はＰ 236出土の土師器皿である。８はP233出土の瓦質土器の鍋で、内外面は刷毛目調整で煤が付着する。

30号柵列跡（第18・19図、図版22）

４地点の南側に位置し、東西方向に並んでいる。柱間は１ｍで、４間分検出する。ピットの大きさは0.2 ～ 0.5ｍ、深さ0.1 ～ 0.4ｍを測るが、ピットの形状などから中央３基のピットのみが本来の柵列の可能性がある。東側と西側のピットは大きさ、深さ、軸などが多少異なっているが、参考に図化している。

18図９はＰ 348出土の陶器碗で、三日月高台で露胎する。外面口縁端部は皮鯨手で、底部はケズリを施す。唐津産か。

31号建物跡・32号柵列跡（第18・20図、図版22・33）

30号柵列跡の北側に位置し、31・32号はほぼ同じ東西方向に並んでいる。31号建物跡は柱間２～ 2.3ｍ、２×２間分検出する。ピットの大きさは切り合いなどもあるが、0.3 ～ 0.8ｍ、深さ0.7ｍ以下を測る。ピットの底面は形状から一段下がるなど柱や杭が置かれた痕跡を示す。北西隅と南列の中央ピットは木柱が残存し、特に中央ピットには２本残存して切り合っていたが前後関係は不明である。32号柵列跡は柱間1.8ｍで２間分検出する。ピットの大きさは0.5ｍ前後、深さ0.6ｍとほぼ同じ形状である。柱などの痕跡は確認できなかった。対になるようなものが確認できなかったので、31号建物に付設する柵の可能性がある。

18図10はＰ 345出土の瓦質土器の湯釜である。内外面は刷毛目調整で、外面鍔より上はミガキで、鍔以下は煤が付着する。把手は中央に穿孔を施す。

33号柵列跡（第19図、図版23）

５地点に位置し、東西方向に並んでいる。柱間は1.1ｍ、２間分検出する。ピットの大きさは0.1 ～ 0.4ｍ、深さ0.3・0.4ｍを測る。ピット内から木杭などは検出されなかったが、ピットの形状から柵又は杭の可能性がある。なお西側のピットは上面で検出されていることから、本来は３面の遺構なのかもしれない。

３　土坑（第21 ～ 32図、図版24 ～ 27）

土坑は32基検出した。土壙墓と確実に判断できる痕跡がなかった遺構や、また５・28号など井戸と判断できるものも土坑として報告している。１面では１～ 22・29・30号土坑、２面では31・33号土坑、３面では24 ～ 26・28号土坑、４面では27・32号土坑を検出し、１～４面ごとに報告している。なお23号は欠番である。

１～ 20号土坑は１地点、21･22号土坑は２地点、30号土坑は４地点の１面で検出した土坑である。

１号土坑（第21・23図、図版24・33）

調査区のやや中央南よりで検出した土坑である。長軸１m、短軸 0.45 ～ 0.7 mでやや崩れた隅丸長方形状である。深さ 0.1 mと浅いが、土層は２層に分層できる。検出時は土壙墓かと判断したが、木棺などの痕跡は確認できなかった。南隅には 0.3 mの礫石と東壁面には 89 図１の銅製鞘を検出した。

23 図１は瓦質土器の火鉢片、２は陶器皿で、高台内に兜巾が明瞭に残る。16 世紀末頃の唐津産が出土する。

２号土坑（第 21・23 図、図版 24）

１号土坑の北西側で検出した土坑である。隅丸長方形状で長軸 1.33 m、短軸 0.6 m、深さ 0.1 mと浅い。中央で銅銭６枚を検出したため、土壙墓と判断して掘り下げたが、木棺の痕跡は確認できなかった。

23 図３は土師器皿片で、外底は糸切りである。

３号土坑（第 21・23 図、図版 24）

２号土坑の南側で検出した土坑である。隅丸長方形状で長軸 0.9 m、短軸 0.6 m、深さ 0.1 mを測る。これも２号土坑同様に中央やや東付近で銅銭と砥石が出土したため土壙墓と判断して掘り下げたが、木棺などの痕跡は確認できなかった。

４号土坑（第 21・23 図、図版 24）

１号土坑の東側に位置し、一部５号土坑に切られている。調査区の東壁で検出したため半裁した状態である。形状は隅丸長方形状で、長軸 1.4 m、深さ 0.15 m以下を測る。南側では 23 図４の厚手の土師器皿片と瓦片などが出土した。

23 図４は土師器皿で、内面は明瞭に工具痕や指頭圧痕が明瞭に残る。

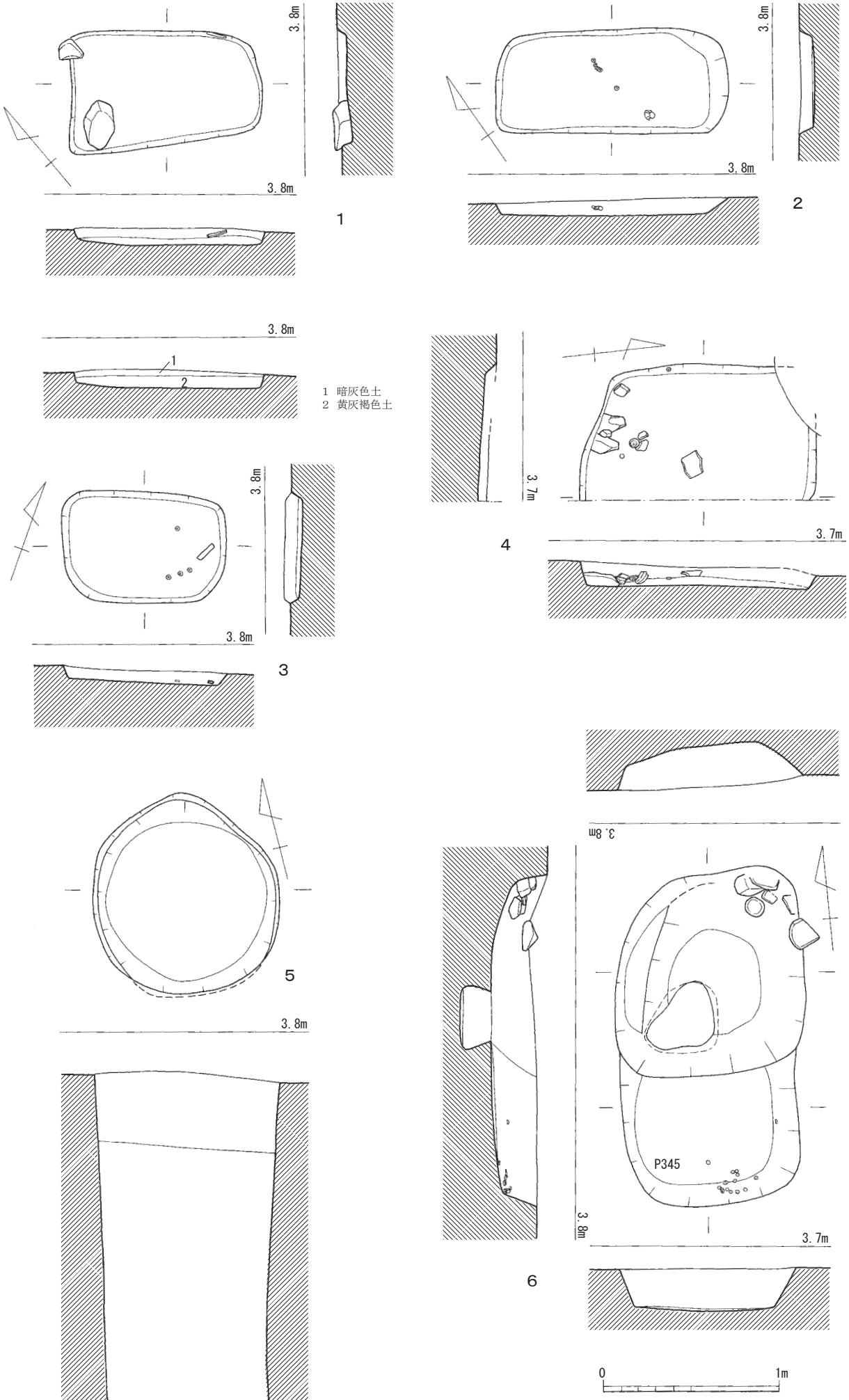
５号土坑（第 21・23 図、図版 24）

４号土坑の北側を一部切る状況で検出した土坑である。やや崩れた円形で径 1.1 m前後、深さ 1.9 mを測る。１面では約 0.5 m程掘り下げたが、更に掘削できると判断できたので２面以降は各面ごとで可能の限り掘削した。約２m掘り下げたが、井戸に関わる礫石や木材片などは一切検出しなかったので素掘りの井戸と思われる。

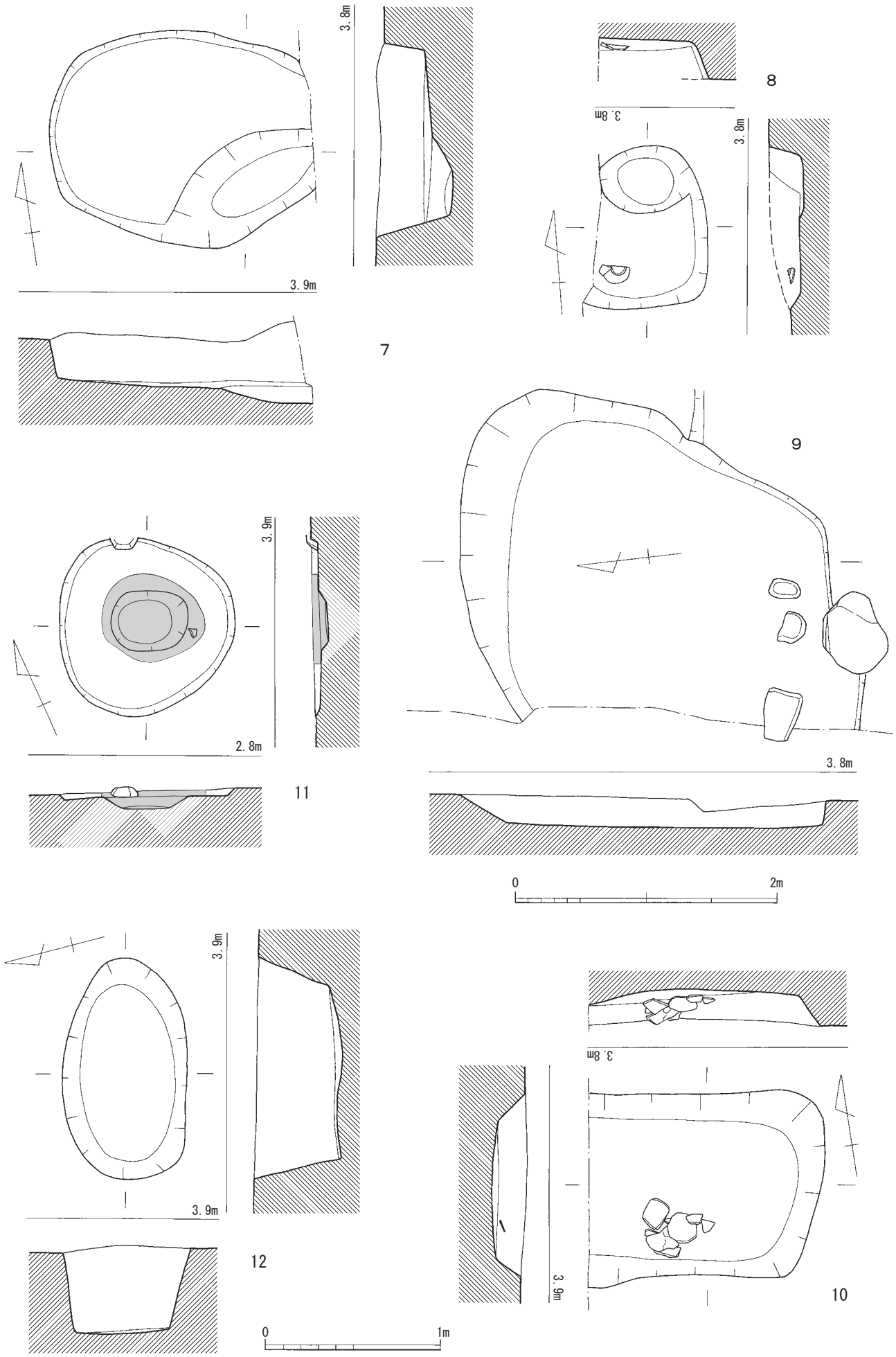
23 図５・６の瓦質土器擂鉢や火鉢である。７は橙色を呈すが、焼成から瓦質土器とした大甕で口縁端部は肥厚する。８は口縁端部が皮鯨手になる唐津産の陶器碗と９・10 の中国系の青花皿などが出土した。9 は内面の丸文内に花卉や見込みに草花文と外面は圏線と縦線で区画し、宝を描く。10 の見込みは「寿」の一部か。

６号土坑（第 21・23 図、図版 24）

５号土坑の北側で、２つの土坑が切り合った状態で検出した土坑である。長軸 1.9 m、短軸 1.05 m、深さ 0.3 m以下を測る。形状は隅丸長方形状で、断面は逆台形状である。土層観察の結果、北側が南側を切る状況であった。土坑内からは北側で 0.2 m以下の石と南側では銅銭と遺物が出土する。



第21図　1～6号土坑実測図（1/30）



第 22 図　7～12 号土坑実測図（1/30・1/40）

23 図 11 の土師器皿は外面底部の糸切り痕をナデ消す。12・13 の陶器鉢片で、13 は口縁部に施釉する。

７号土坑（第 22・23 図、図版 25）

６号土坑の３m北側の東壁際で検出した土坑で、１/４は検出できなかった。長楕円形状で、長軸 1.55 m、短軸 1.25 m、深さは約 0.3 ～ 0.4 mで、さらに 0.1 m一段下がる。

23 図 14 の土師器皿片内には油煙が付着する。灯明皿として使用か。15 の瓦質擂鉢片、16・18 は磁器である。17 は黄緑色の釉を呈す瀬戸産の菊花状の皿か。16 の外面に唐草文、18 の内面は青海波文を描く。

８号土坑（第 22・23 図、図版 25）

３号土坑の南西の西壁際で検出した土坑で、約１/３は調査区外になるが長円形状になるか。長軸 0.9 m、短軸 0.6 m以上で、北側は一段深く下がるが、深さ 0.1 ～ 0.2 m測る。陶器鉢片・磁器碗片などが出土した。

23 図 19 の陶器鉢内面は、鉄絵の上に白化粧土が塗られている。20 は磁器小碗で、見込みに花卉を描く。

９号土坑（第 22・24 図、図版 25・33）

２号土坑の北側の西壁際で検出した不整形状の大型の土坑である。長軸約３m、短軸 2.4 m、深さ 0.2 mを測る。掘り方は北壁でなだらかだが、南壁は直に立つ。遺構検出で周囲に比べて、埋土の色などの違いから掘り上げて土坑としている。

24 図１の土師器皿、２・３瓦質土器である。３は火鉢片で、外面突帯の間に波状文を施す。４～７は陶器である。４は口縁端部にかけて端反する天目茶碗で外面の釉の発色は悪い。５は内面に胎土目痕が４ヶ所ある。６は壺底部片で、外底にヘラ記号がある。７は口縁端部が肥厚する鉢片である。８～ 10 は磁器碗や皿片で、８と 10 は畳付けに砂目が付着する。８は見込みと外面胴部に文様、９は見込みに花卉、外面は花文を描く。高台内銘款の文字は僅かにしか残っていないため、判別できない。10 の見込みにも文様がある。

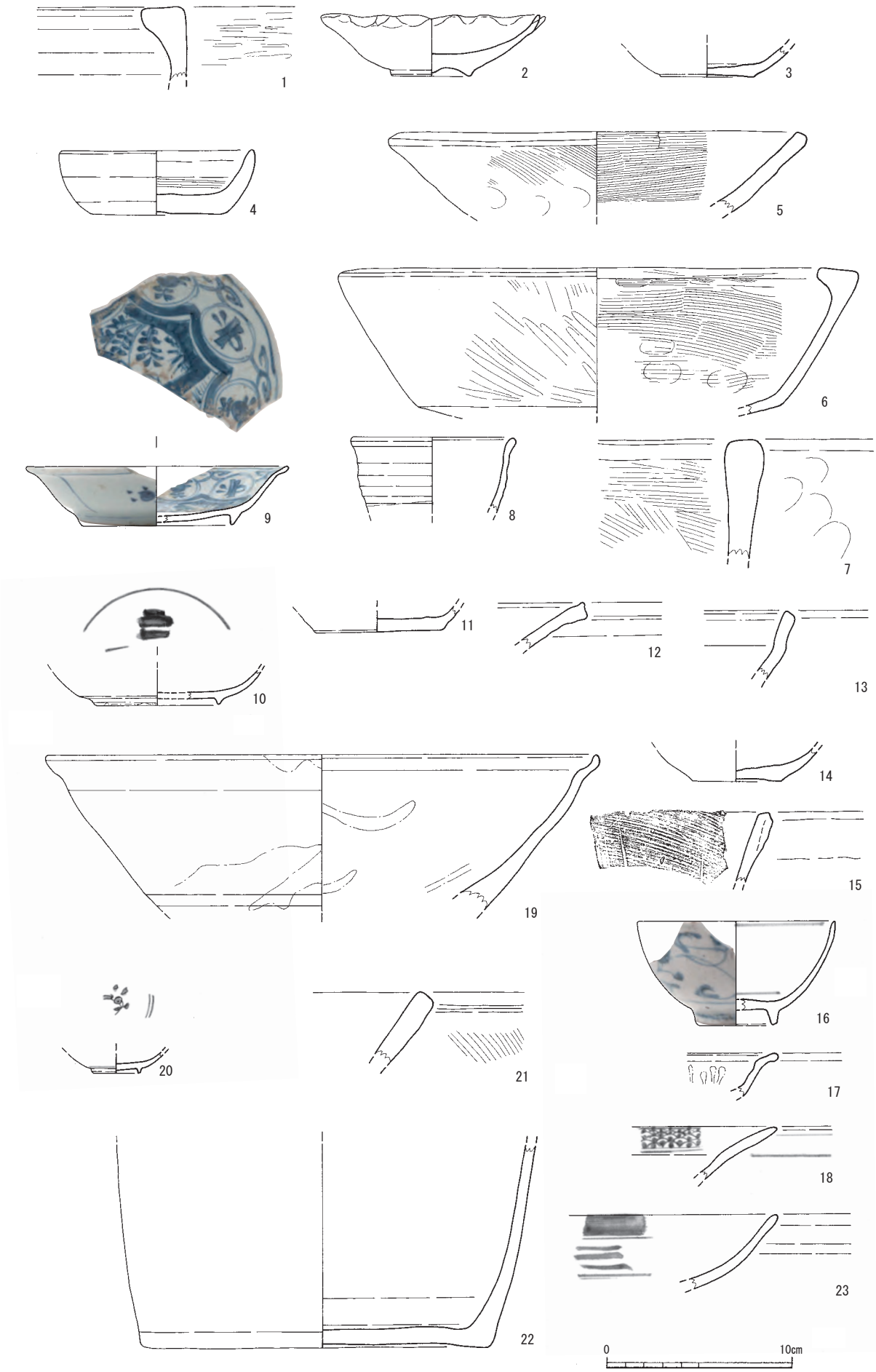
10 号土坑（第 22・23 図、図版 25・33）

９号土坑の北側に位置し、西壁際で検出したため残り１/３は未検出である。隅丸長方形状で長軸 1.3 m以上、短軸 1.1 m、深さ 0.2 mを測る。中央南側では礫石が密集していた。

23 図の 21 は瓦質土器鉢、22 の陶器甕の底部片である。23 は中国系の磁器皿片で、内面は八卦の一部か。

11 号土坑（第 22 図、図版 25）

10 号土坑の２m北側に位置する。やや崩れた円形状で、径約１m、深さ 0.1 mを測る。中央部分はさらに一段ピット状に深掘りする。中央のピット状の深掘り部分を含めた径 0.5 ～ 0.6 m範囲には炭が多く含まれていた。



第 23 図　1・2・4～8・10 号土坑出土遺物実測図（1/3）

12 号土坑（第 22・24 図、図版 25）

11 号土坑の東側に位置する。形状は長楕円形状で、断面逆台形状である。長軸 1.3 m、短軸 0.7 m、深さ 0.5 mを測る。

24 図 11･12 は陶器鉢の口縁部片である。11 の口縁部片付近は鉄釉を施釉する。12 の口縁部は「く」の字状になる。13 は陶器火入れ片で、銅緑釉で波状文を施す。12・13 の内面は、白化粧土を刷毛目で波状と縦方向の線を描く。

13 号土坑（第 24・25 図、図版 26）

12 号土坑の南側 1.5 mで検出した土坑である。形状は瓢箪形で、長軸 0.9 m、短軸 0.4 ～ 0.6 m、深さ 0.3 mを測る。

24 図 14・15 陶器鉢片で、15 は内面に松を描く。16 ～ 19 の磁器である。16 は小碗で外面胴部に突帯がある。17 の碗と 19 の皿は、畳付けに砂目が付着する。18 の外面は雲や山を描くか。19 は土坑以外にピット 7 とピット 12 と 1 地点 2 面遺構検出で出土した破片が接合する。

14 号土坑（第 25・26 図、図版 26）

1 地点 13 号土坑の北東側に位置する。形状は不整形状で、長軸 0.9 m、短軸 0.5 m、深さ 0.3 mを測る。南側に僅かに段をもつ。今回の調査では遺構は検出されなかったが、混入された 26 図 1 の弥生土器甕の底部片が出土した。

15 号土坑（第 25・26 図、図版 26）

1 地点 9 号土坑の東側に位置する。形状は円形で、約 0.7 m、深さ 0.25 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ち、周辺のピットと比較して浅く、やや大きいことから土坑とした。

26 図 2 ・ 3 の瓦質土器の鉢口縁部片である。26 図 4 は陶器壺の底部片か。壺の内面には粗い工具痕が明瞭に残り、釉が所々にかかる。

16 号土坑（第 25 図、図版 26）

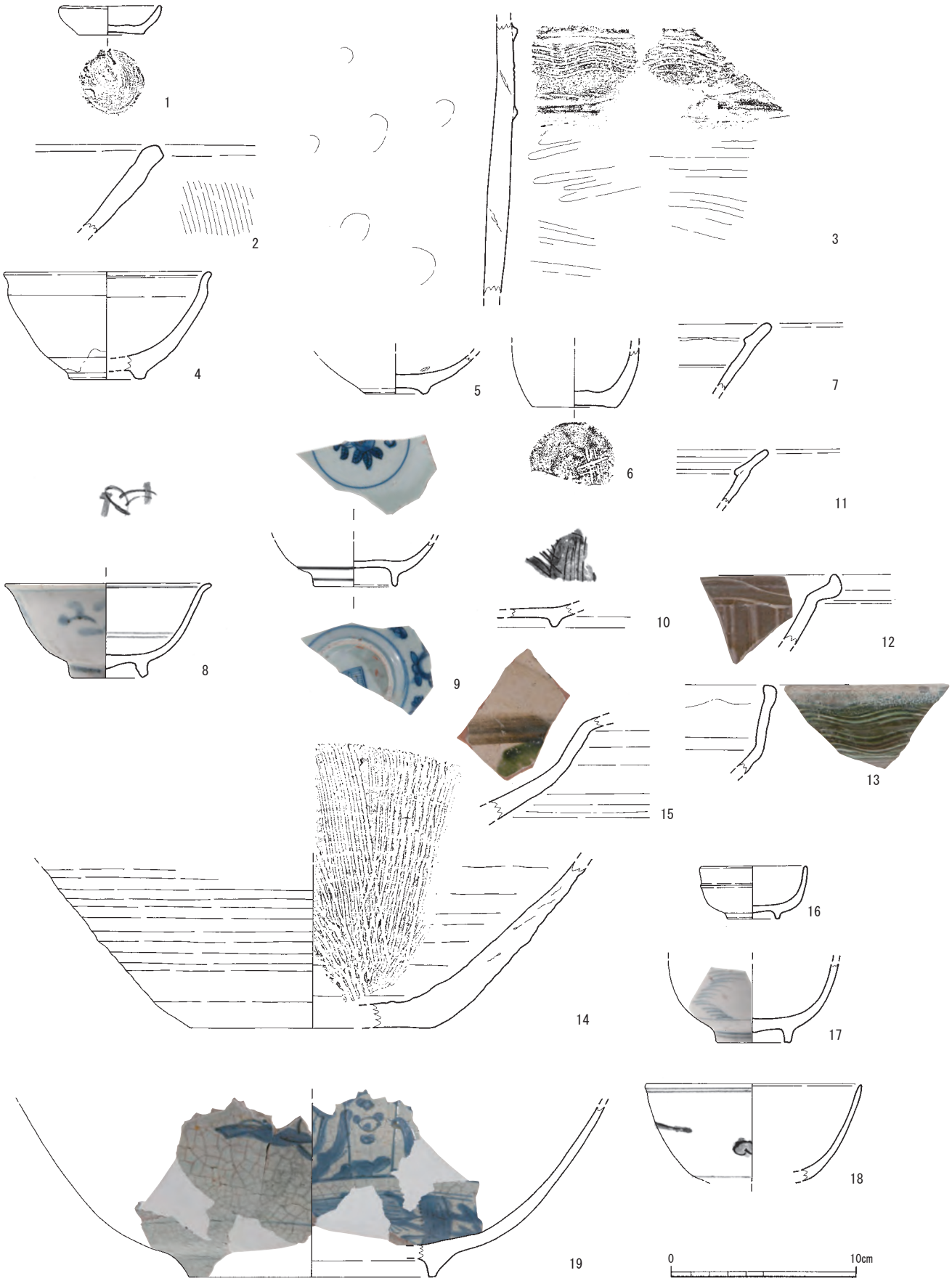
1 地点 6 号土坑の北側に位置する。形状は長円形状で、長軸 1.2 m、短軸 0.7 m、深さ 0.2 mを測る。断面は逆台形状になる。

17 号土坑（第 25・26 図、図版 26）

1 地点 14 号土坑の 1 m東側に位置し、東壁際で検出した土坑である。壁際で検出したため、半円形状である。長軸 1.3 m、短軸 0.75 m、深さ 0.45 mを測る。

26 図 5 は瓦質土器鉢の口縁部片、6 は陶器碗、7 は陶器急須で注ぎ口片である。 8 は朝鮮白磁で、内底と高台に砂目が付着する。 9 は薄手に作られた磁器碗片で、連弁内などに花を描く。口縁部は輪花である。文様から景徳鎮産か。

18 号土坑（第 25・26 図、図版 26）



第 24 図　9・12・13 号土坑出土遺物実測図（1/3）

1 地点 1 号土坑の南側に位置する。やや崩れた長円形状で、長軸 0.8 m、短軸 0.6 m、深さ 0.3 m を測る。断面は逆台形状を呈す。

26 図 10 は内面に鉄絵を描き、底面に胎土目 3 ヶ所付着する。胴部下半以下は露胎する。

19 号土坑（第 25 ～ 27 図、図版 27・33）

1 地点 17 号土坑の北側に位置し、17 号土坑同様に東壁際で検出する。形状は不整形状で、長さ 3.3 m、残存幅で 1.2 m、深さ 0.2 m以下を測る。浅く、広い窪みを土坑と判断した。

26 図 11 ～ 13 は陶器である。11 は碗で内外面口縁部から鉄釉が垂れ、煤が付着する。12 は口縁部を欠損する天目茶碗片で、高台内に僅かに兜巾が残る。13 は京焼風の皿で、内底と高台に砂目 5 ヶ所付着する。14 は瓦質土器の鉢である。15 と 16 は陶器擂鉢である。

27 図 17 ～ 21 は陶器である。17 は擂鉢で、口縁部が内反する。18 は火入れ片で、外面に刷毛目で波状文を描き、その上から部分的に銅緑釉で施釉する。19・20 は胴部下半以下しか残存していない壺か。21 は甕片である。22 ～ 24 は磁器皿片で、内面は唐草文で、見込みに花・柳・雲などを描く。25 は畳付に砂目が付着する漳州窯の皿か。26 は口縁部でくの字に屈曲し、端部で直立する。内面胴部は櫛歯で、見込みに東屋 2 棟や雲を描く。

19 号土坑の 3 m西側に位置する。形状は不整形状で、長軸 1.15 m、短軸 0.85 m、深さ 0.1 mを測る。深さ 0.1 mと浅く、周辺のピットとは異なる形状や大きさから土坑とした。

21 号土坑（第 28・30 図、図版 28・33）

西壁際で検出した土坑のため、5 割以下しか検出できていいない。残存状況から遺構の形状は、長方形状で長さ 2.2 m、残存幅 1.4 m、深さ 0.3 mを測る。断面が逆台形状で、南側は一段下がっている。

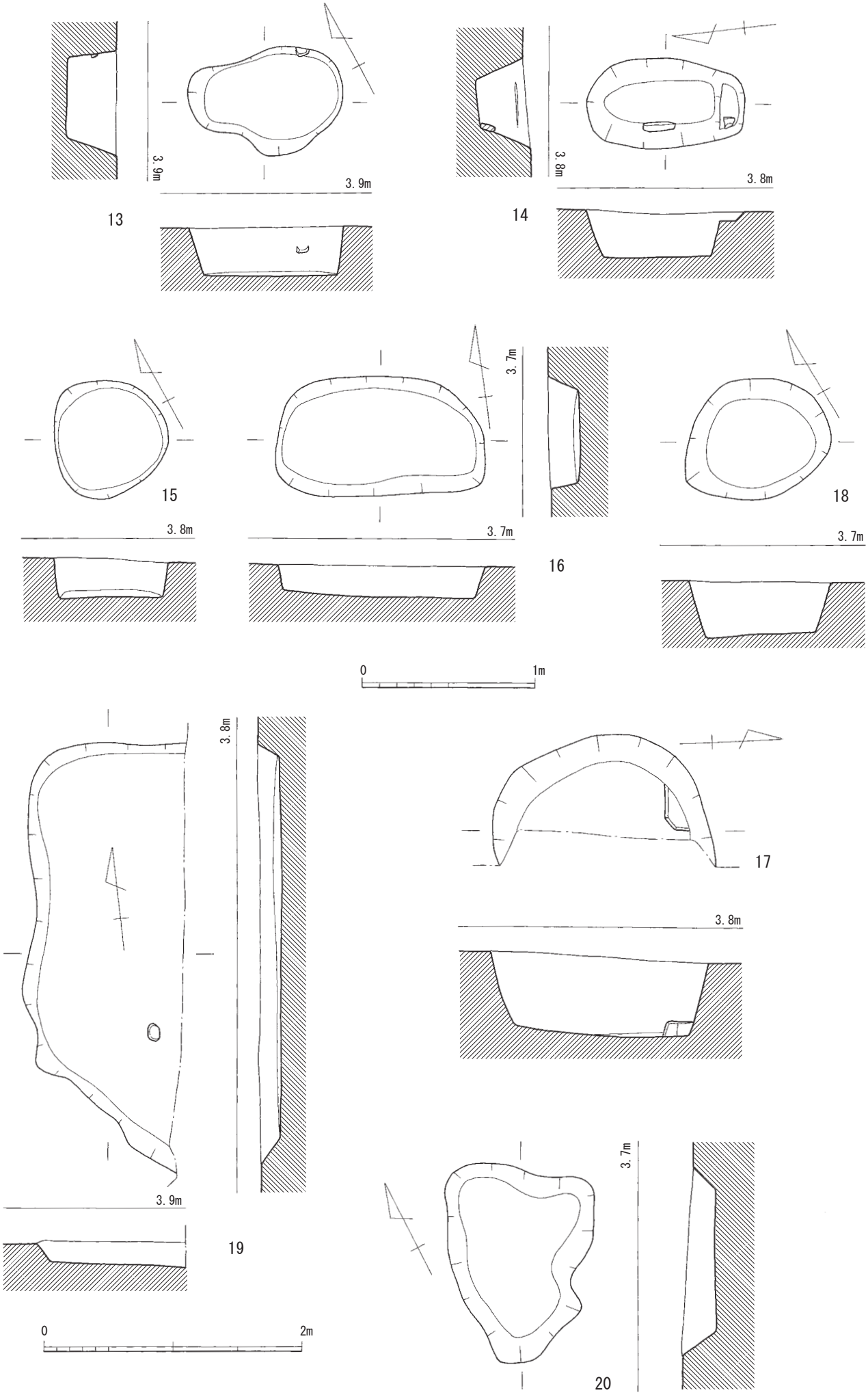
30 図 1 は灯明皿として利用された土師器皿で油煙が付着する。2 も土師器皿で内面に渦状の押し型が残る。3 は黒緑色の釉がかかる天目茶碗片である。4 ～ 8 は陶器である。4 は見込みに胎土目が付着する皿で、唐津産か。5 ・ 6 は鉢片で、6 は口縁部のみ施釉する。7 は口縁部端部が肥厚する火入れか。8 は口縁端部のみ鉄釉で皮鯨手にし、他は茶灰色で施釉する小壺である。作りが甘く内面は火膨れている。9 ～ 12 は磁器碗・皿である。9 は外面に草花文を描く。見込みは 10 に水仙、11 は人物か。10 の高台内銘款に変形文字を記すが、11 は「析」である。12 は内面に四方襷文を描くか。見込みは残りが悪く判別できない。13 は厚手の高台から青磁皿で、見込みに文様を彫る。

22 号土坑（第 28・30 図、図版 11・28）

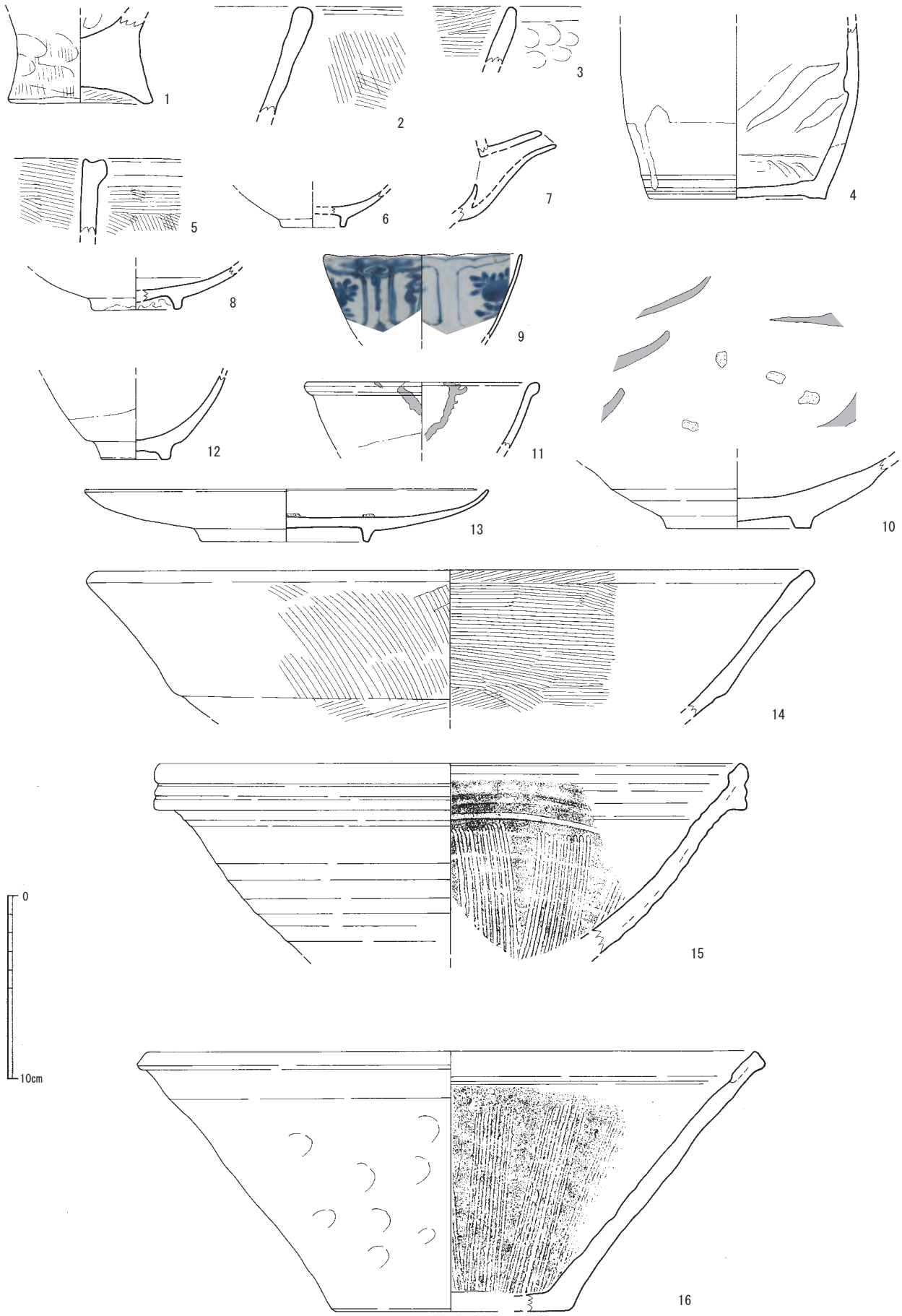
21 号土坑の側に位置する。形状はややくずれた方形状で、長さ 1.7 ～ 1.8 m、深さ 0.2 mを測る。北西隅に一段さがっている。

30 図 14 は瓦質土器鉢片、15 は陶器甕の底部片か。

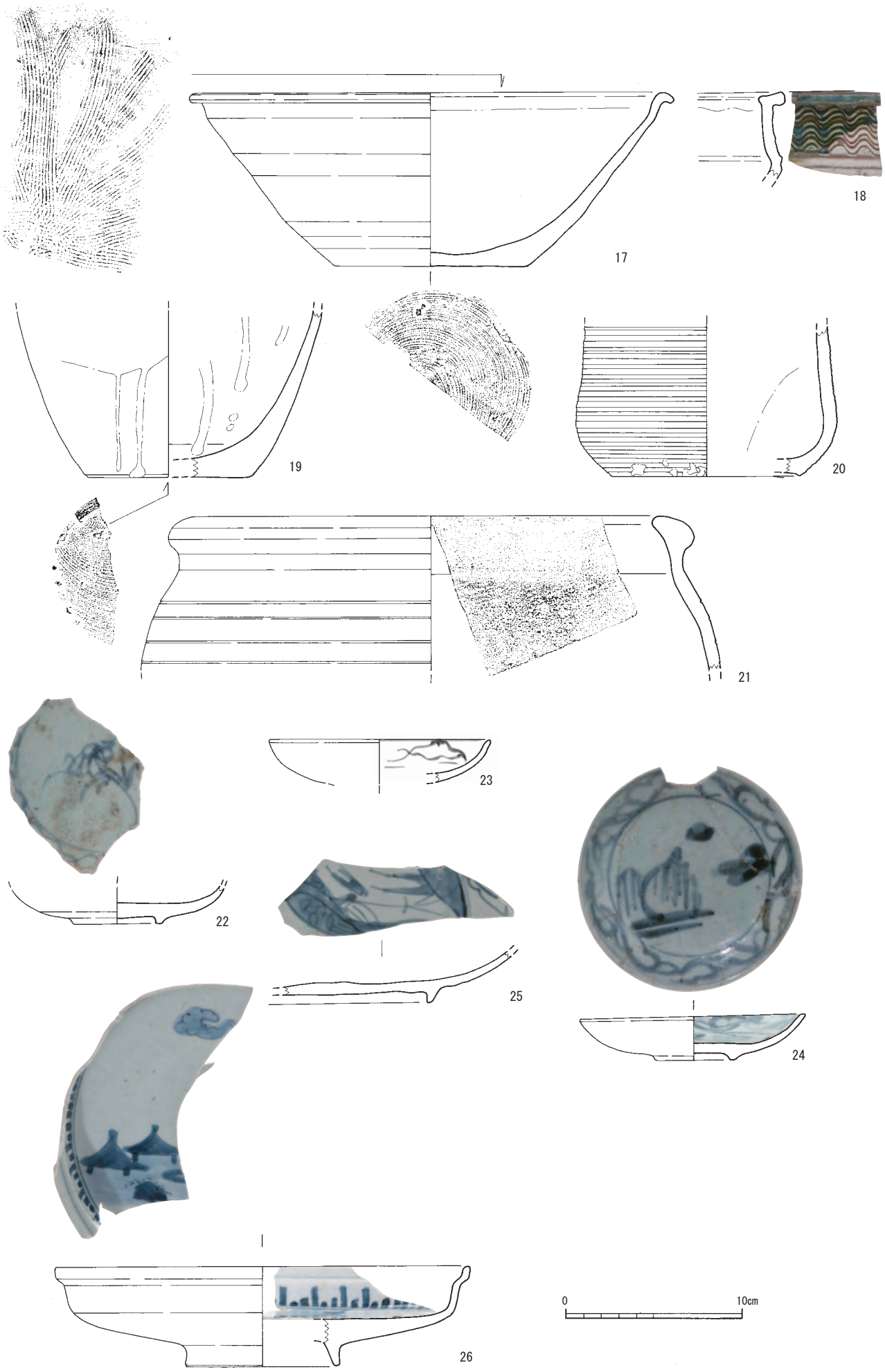
29 号土坑（第 28・31 図、図版 29）



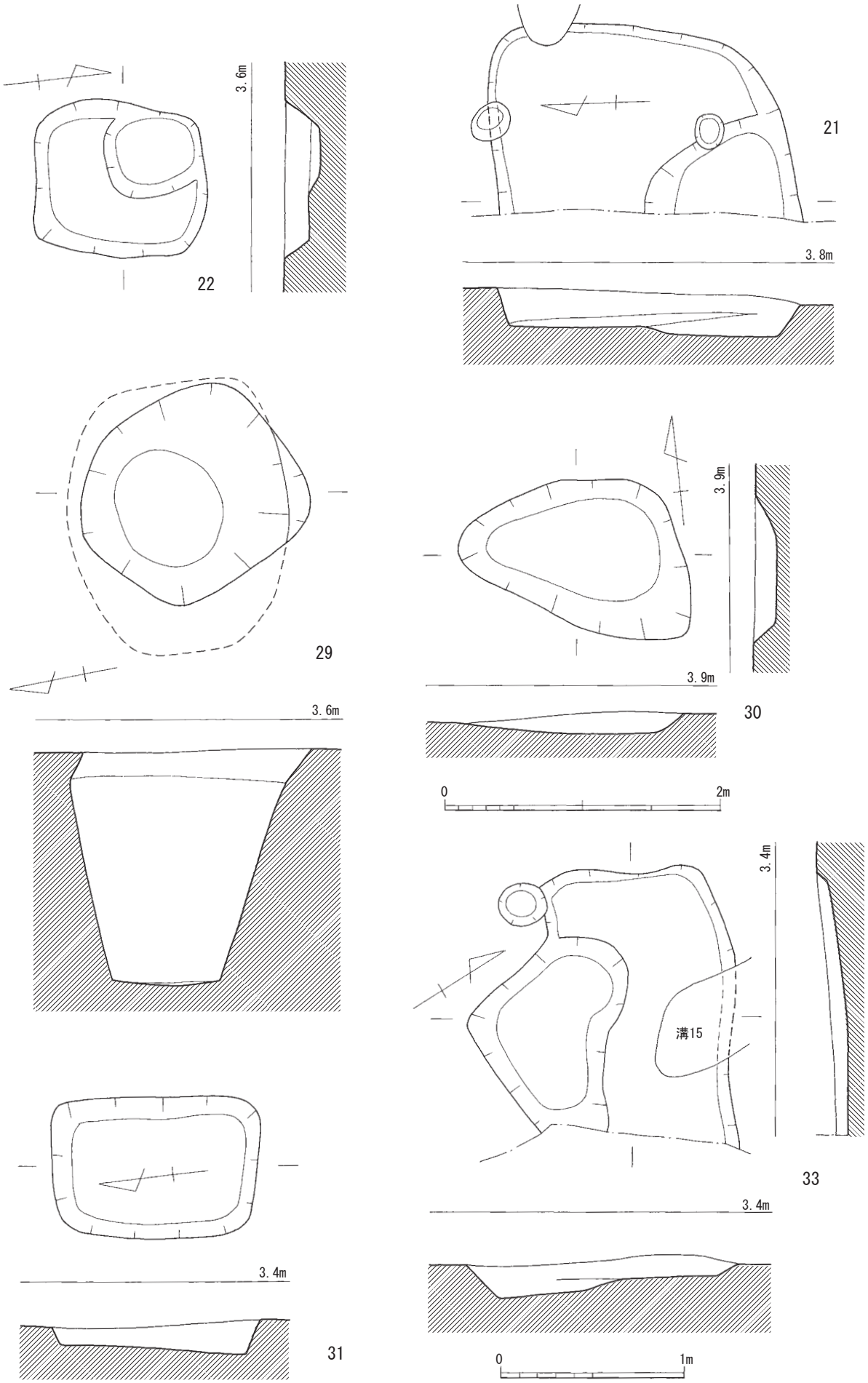
— 37 —　第 25 図　13 ～ 20 号土坑実測図（1/30・1/40）



第 26 図　15・17 ～ 19 号土坑出土遺物実測図（1/3）



第 27 図　19 号土坑出土遺物実測図（1/3）



第 28 図　21・22・29 ～ 31・33 号土坑実測図（1/30・1/40）

４地点中央で８号溝を切る。形状は不整形状で、長さ 1.7 ～ 1.8 m、深さ 1.7 mを測る。掘り方は北側でオーバーハングし、南側の上端は外に広がる。上端に比べて下端は狭くなる。

31 図１～３は陶器皿の底部片、４は象嵌模様の鉢口縁部片、５・６は刷毛目模様の碗、７～９は京焼風である。７の皿片は内面に赤や緑で草花文を絵付けする。８・９は見込みに山水文を描く。高台内は印銘があり、８は渦状、９は「清水」の文字がスタンプされる。10 は陶器甕の底部片で、内面は刷毛目模様、外面は波状文である。11 は陶器鉢片で、肥厚した口縁部のみ施釉する。12 ～ 19 は磁器である。12 ～ 15 は碗片で、圏線・草花文・唐草文・コンニャク印判で桐や丸文を描く。16 は肥前系の碗高台片である。17 は碗片で、外面胴部に氷裂文と唐草文を描くか、18・19 は皿片である。見込みは 18 に山水文･19 は草花文か。17 は高台内銘款に「朱」「米」の篆書体､18 は渦「福」の文字を描く。

30 号土坑（第 28 図）

４地点南側に位置する。形状は西側に尖る不整形状になる。長軸 1.7 m、短軸 1.2 m、深さ 0.2 m を測る。

２面検出土坑

31 号土坑（第 31 図、図版 29）

４地点で検出した土坑である。形状は隅丸長方形状で長軸 1.15 m、短軸 0.8 mを測る。断面は逆台形状で、深さ 0.2 mと浅い。

31 図 20 ～ 24 の唐津産の陶器碗・皿片などが出土した。20 は口縁端部は輪花で、皮鯨手になる。22 は天目茶碗か。21・22 は外面胴部下半は露胎する。21・23・24 は鉄絵で唐草文を描く。

33 号土坑（第 29・32 図）

４地点の北東隅で検出した土坑である。形状は不整形状で南西隅が尖って、一段低くなる。いずれも長さ 1.4 m、深さ 0.2 mを測る。出土遺物は陶器碗・皿・灯明皿・甕・瓶・磁器碗・皿片など多くの遺物が出土した。

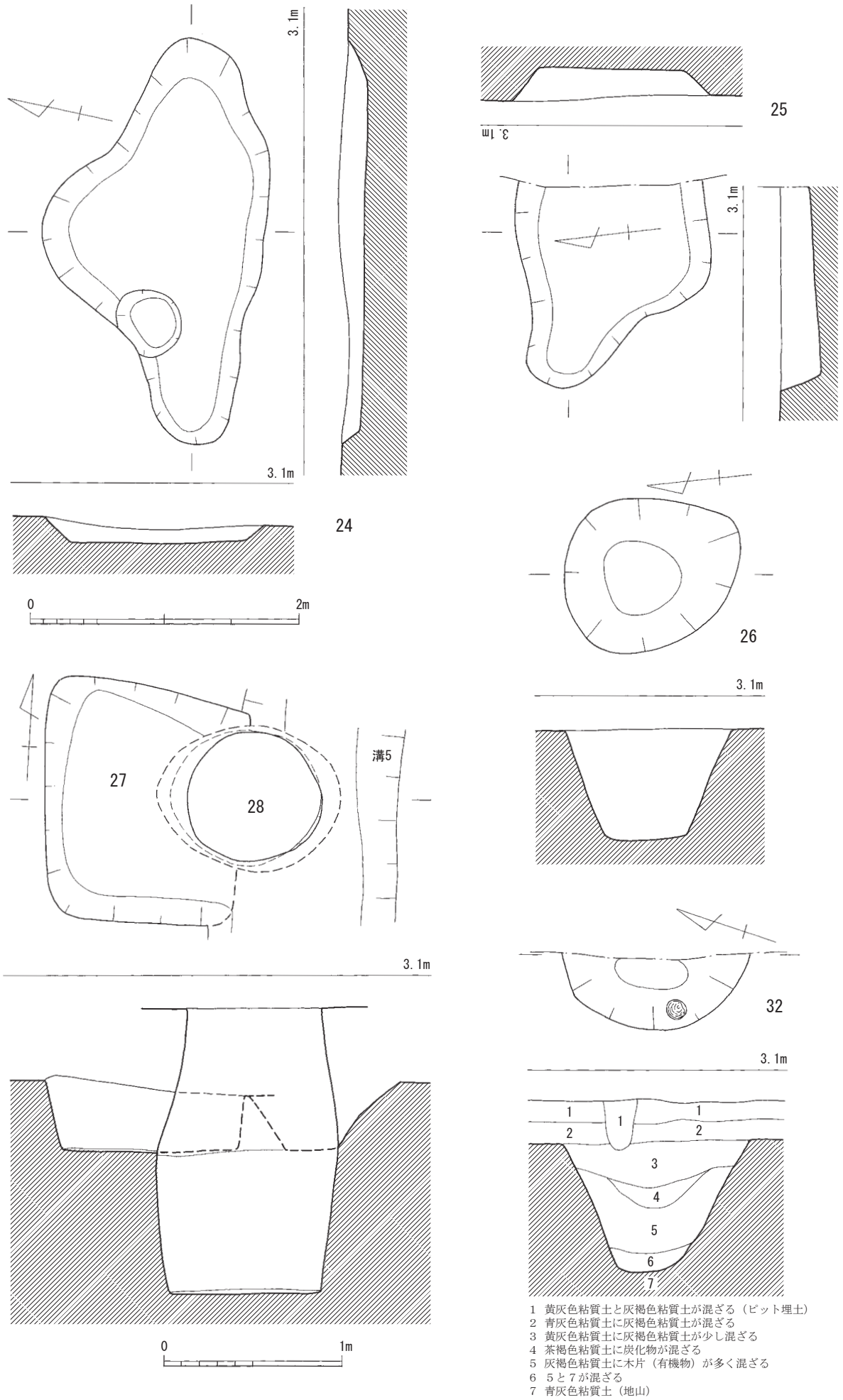
32 図７～ 16 は陶器である。７は蛇の目高台になる皿である。８は内面に鉄絵と別個体の高台片が付着する。９は刷毛目を施す現川焼の碗である。10 は一部欠損する灯明皿、11 は鉢の高台片である。12 ～ 14 は 17 世紀後半頃の甕口縁部片である。15 は鍔を持つ壺胴部片か。16 は瓶の口縁部片で、盤口形になる。17 は磁器の皿で畳付けに砂目が付着する。見込みに何らかの文様を描く。18 と 19 は青磁碗・皿で、いずれも無文である。

３面検出土坑

24・25 号土坑（第 29・30 図、図版 13）

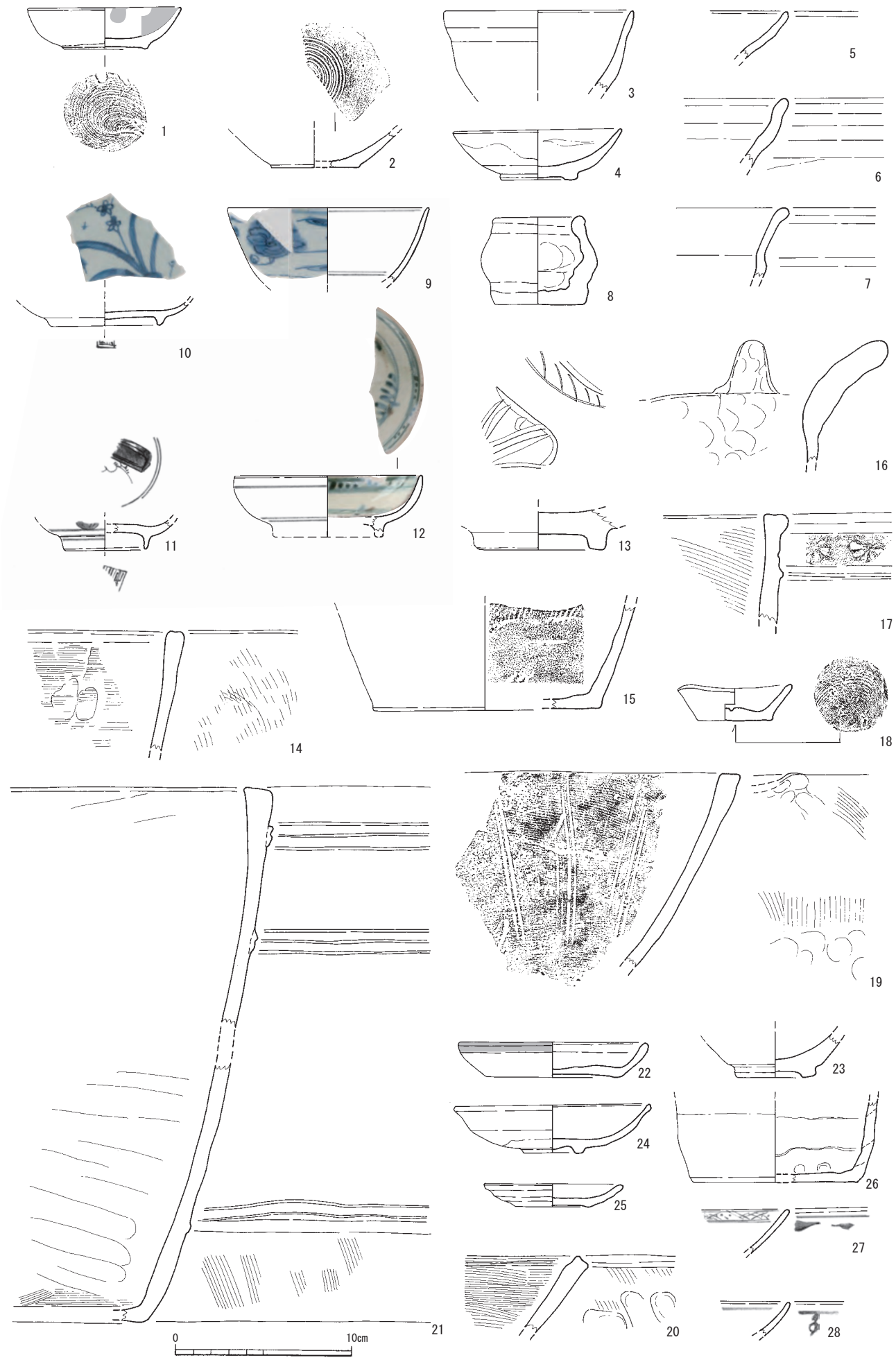
４地点で検出した 24 号土坑である。長軸３m、短軸 1.6 m、深さ 0.2 mを測り、断面は逆台形状になる。24 号土坑の北側で､東壁際で検出した土坑が 25 号土坑になる。北西側に窄まり､残存長 1.55 m、幅 1.4 m、深さ 0.2 ～ 0.3 mを測る。土坑ではなく、一連の溝の可能性もある。

24 号土坑からは 30 図 16 の瓦質土器の鍋把手片と 17 の瓦質土器火鉢片が出土する。17 は外面口

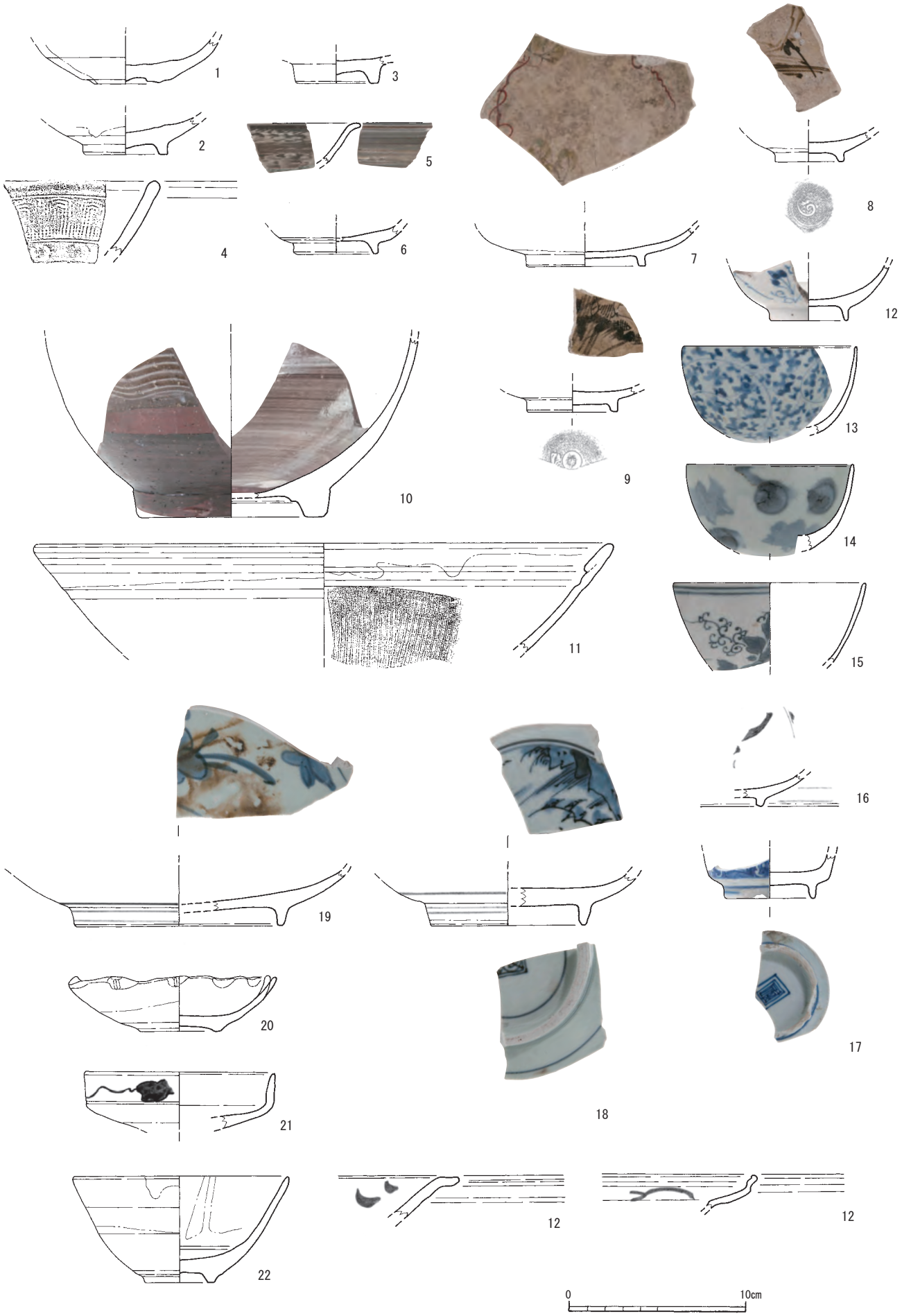


1　黄灰色粘質土と灰褐色粘質土が混ざる（ピット埋土）
2　青灰色粘質土に灰褐色粘質土が混ざる
3　黄灰色粘質土に灰褐色粘質土が少し混ざる
4　茶褐色粘質土に炭化物が混ざる
5　灰褐色粘質土に木片（有機物）が多く混ざる
6　5と7が混ざる
7　青灰色粘質土（地山）

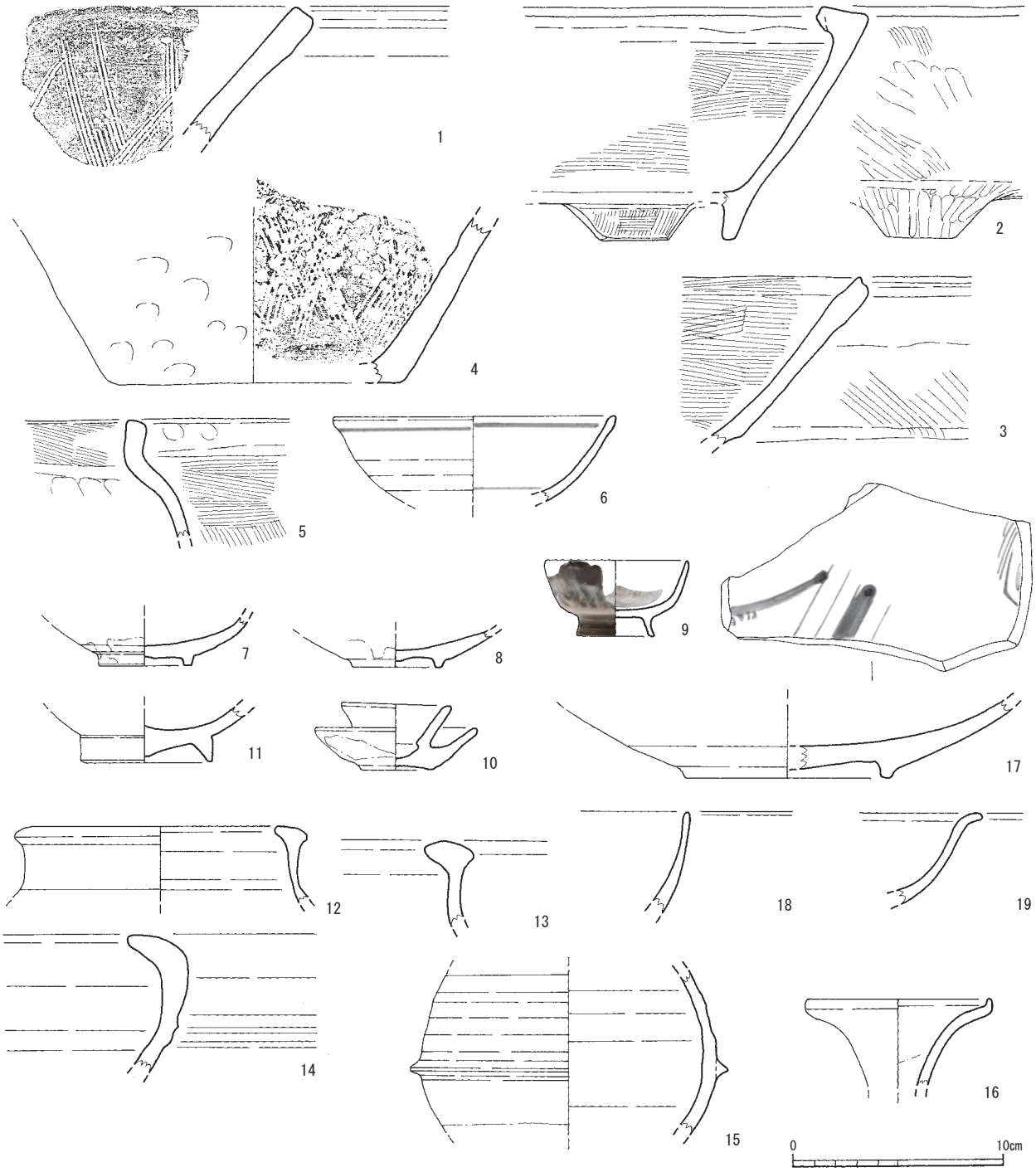
第29図　24～28・32号土坑実測図（1/30・1/40）



第 30 図　21・22・24・25・27・28 号土坑出土遺物実測図（1/3）



第 31 図　29・31 号土坑出土遺物実測図（1/3）



第 32 図　32・33 号土坑出土遺物実測図（1/3）

縁部下に菊花文をスタンプする。25 号土坑では 18 の土師器小皿が出土した。内底中央に約 2㎜の円形状の凹みがある。19 は瓦質土器の擂鉢で、内面には櫛目の単位で２～３本を施す。

26 号土坑（第 29 図、図版 27）

１地点南側に位置する土坑である。形状はややくずれた楕円形状で、径 0.9 ～ 1 m、深さ 0.6 m を測る。他のピットより一回り大きく、掘り方もしっかりしていたので土坑とした。図化できるような遺物はなかった。

27・28 号土坑（第 29・30 図、図版 28・33）

３地点で検出した土坑である。３面目検出の 28 号土坑は 27 号土坑と５号溝を切るように掘られている。形状は円形で径 0.85 ｍを、深さ 1.7 ｍを測る。上端に比べて、掘り方中位や下端は 0.1 ～ 0.2 ｍ程広がっている。埋土は黒色粘質土で、木片など遺物が混ざる。４面目検出の 27 号土坑は 28 号土坑と５号溝に切られている。形状は長方形状で、長軸 1.4 ｍ、短軸 1.1 ｍ、深さ 0.4 ｍを測る。

27 号土坑からは 30 図 20・21 瓦質土器の鍋・火鉢片で、20 は外面に煤が付着することから鍋として使用か。28 号土坑出土は 22 の灯明皿で外面に煤が付着する。23 は２次焼成を受けて釉が熔解した陶器碗、24・25 は陶器皿と小皿で、25 は釉調から瀬戸産か。26 は陶器壺の底部片、27・28 は磁器皿の口縁部片で、いずれも唐草文を描く。27 の内面のみ四方襷である。

４面検出土坑

32 号土坑（第 29・32 図、図版 18・28）

３地点北東側で検出した土坑である。壁面際で検出したため、形状は半円形状になる。径 1.4 ｍ、深さ 1.1 ｍを測る。埋土には炭化物や木片が混ざっていた。

32 図１～５瓦質土器である。１と４は擂鉢片である。２は外面に煤が付着することから火鉢として使用か。３は火鉢片で口縁端部は丁寧に磨かれる。５は湯釜片である。６は磁器碗片で内外面に圏線が巡る。

４　溝（第４・５・33 ～ 36 図、図版 4・10・15・27）

溝は 15 基検出した。

各地点の１面で検出した溝は８条、２面は２条、３面は２条、４面は４条である。

１号溝（第４・33 図、図版 27）

１地点南側で検出した東西方向に直線上に延びる溝である。残存長 2.4 ｍ、幅 0.3 ｍ以下、深さ 0.1 ｍ以下を測る。周辺で検出した１号建物跡と同方向である。

２・３号溝（第４・33・34 図、図版４・33・34）

１地点北側で 20 号土坑の周りを巡るように検出した南北・東西方向延びる溝である。２号溝は北側の調査区際まで延び、残存長 2.7 ｍを測る。幅は 0.2 ～ 1.2 ｍであるが、深さは 0.1 ｍと浅い。３号溝は長さ 2.5 ｍ、幅 0.4 ～ 0.9 ｍ、深さ 0.2 ｍ以下を測る。いずれも不整形状で、幅が一定ではないが、長さが２ｍを越えていることから溝と判断している。

34 図１～８は陶器で、いずれも 16 世紀末～ 17 世紀初め頃の唐津産である。１は胴部上半より上を欠損する碗。２～７は皿である。２は内面に砂目付着する。３の外面は煤が付着し、２次焼成を受けている。４は内面に鉄絵がある。５～７は胎土目が内面に付着する。９～ 14 は磁器である。９と 10 は見込みに、鳥・建物・樹木・山などの風景を描くが、10 のみ２隻の舟である。11 の見込みや内面は花卉を描く。いずれも高台は狭く、低いが口縁部に向かって大きく開く。伊万里産か。12 の見込みは松、内面口縁は七宝などを描く。13 の見込みは、金襴手で菊花文を描く。外面は赤で梅を描く。14 は無文の小坏である。15 は弥生土器高杯の脚部で、内面は絞り痕が明瞭である。

４号溝（第４・33・34 図、図版 10）

２地点の東側調査区際で検出したほぼ南北方向に直線上に延びる溝である。長さ 1.9 m、残存幅 0.4 m以下、深さ 0.2 mを測る。溝の全幅を検出してはいないが、断面は逆台形状になるか。

34 図 16・17 は陶器鉢の口縁部片で、口縁端部は外に張り出すタイプと肥厚して丸くなるタイプである。

10・18 号溝（第４・33 図、図版 15）

３地点北側で検出した東西方向に併行して延びる溝である。10 号溝は西側調査区際で検出した溝は残存長 2.3 m、幅 0.5 ～ 0.8 m、東側調査区際で検出した溝は残存長 3.9 m、幅 0.7 ～ 1.5 m、共に深さは 0.1 mを測る。18 号溝は西側調査区際で検出した溝は残存長 1.8 m、幅 0.3 ～ 0.6 m、東側調査区際で検出した溝は残存長 2.5 m、幅 1.5 mで、深さは共に 0.2 m以下を測る。東側では石臼や石塔の一部などが 0.4 m以下の石と共に出土する。10・18 号溝は東西方向に併行し、共に一旦途切れ、東側で拡幅されているなど同様の溝か。今後、東側での調査にもよるが、溝は側溝でその間は通路、途切れている所は出入口の可能性もある。

11 号溝（第４・33 図、図版 20）

４地点の南側で検出した東西方向に延びる溝である。長さ 1.5 m、幅 0.4 m、深さ 0.2 m以下を測る。周辺で検出したピットと比べ、長さもあることから溝と判断している。

12 号溝（第４・33 図、図版 19）

11 号溝の南側で検出した東西方向に延びる溝である。長さ 1.9 m、幅 0.7 ～ 1 mと西側に延びるにつれ拡幅される。深さは 0.1 m以下と浅い。

15 号溝（第４・33 図、図版 19）

４地点北側で検出した南北方向に延びる溝である。残存長 1.9 m、幅 0.4 以下、深さ 0.2 mを測る。断面形状は逆台形状である。

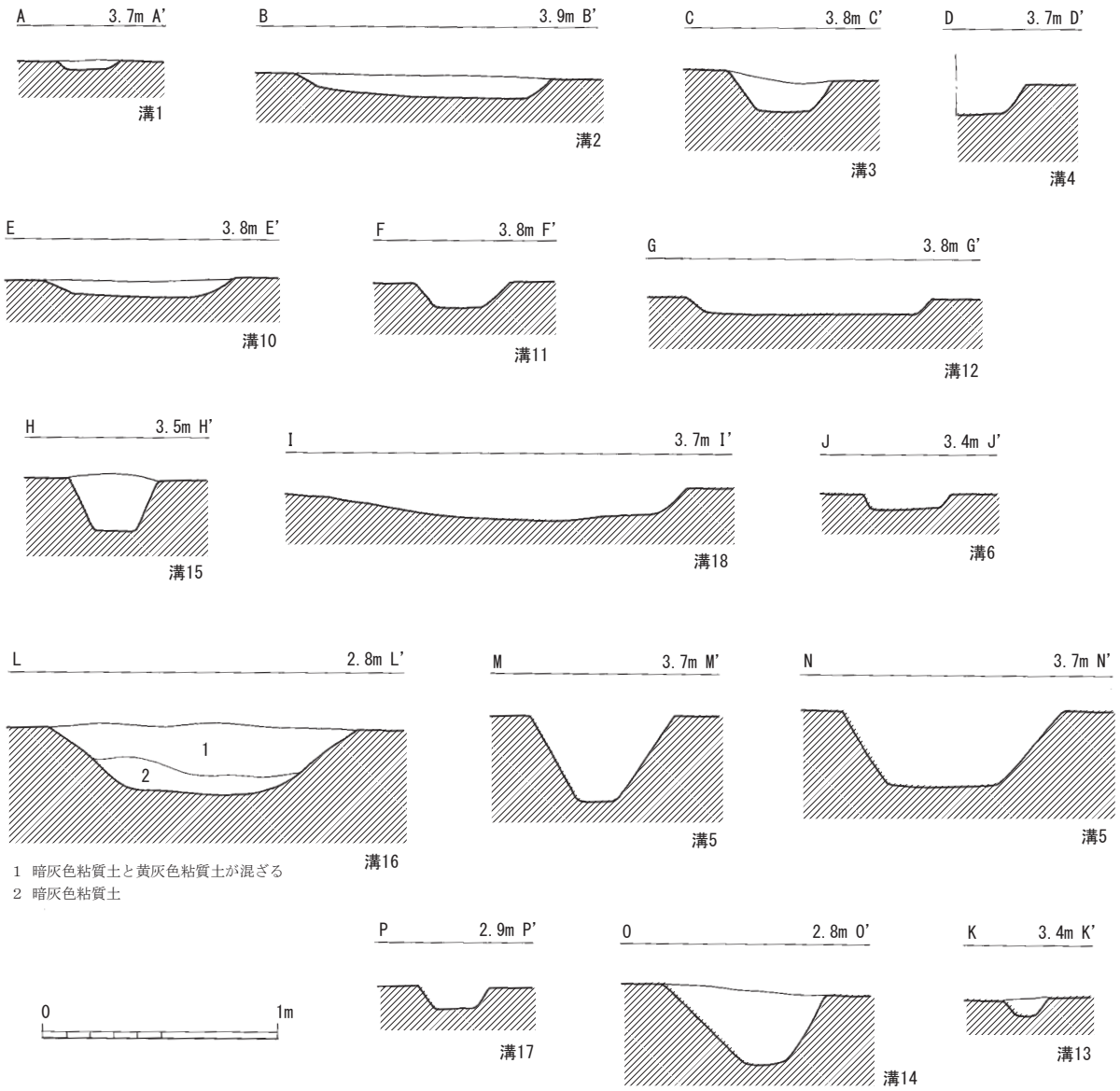
35 図５～８は陶器である。５は京焼風の碗で、見込みに山水文を描く。６は端部を欠損する灯明皿である。外面は釉垂れているが、外底と胴部も露胎する。７は瓶の口頸部片で、２種類の釉を施釉する。８は擂鉢の胴部片で、外面は釉の濃淡がある。９～ 12 は磁器である。９は外面に花唐草文を描く。10 と 11 の見込みには、内面に五弁花文と外面には「□□□春」と渦「福」を描く。12 は外面に蝶などを描く小碗である。

２面検出溝

６号溝（第４・33 図）

４地点の中央で検出した東西方向に延びる溝である。10 号建物跡のピットに切られ、途切れているが長さ 1.6 ＋ 2.7 m、幅 0.4 ～ 0.9 m、深さ 0.1 mを測る。断面形状は逆台形状である。

34 図 23 は土師器皿で、口縁端部に油煙が付着することから灯明皿として使用か。



第 33 図　溝断面実測図（1/30）

13 号溝（第 4・33 図、図版 20）

６号溝の南側で検出した東西方向に直線上に延びる溝である。長さ 3.1 m、幅 0.2 m以下、深さ 0.1 mを測る。断面形状は逆台形状である。

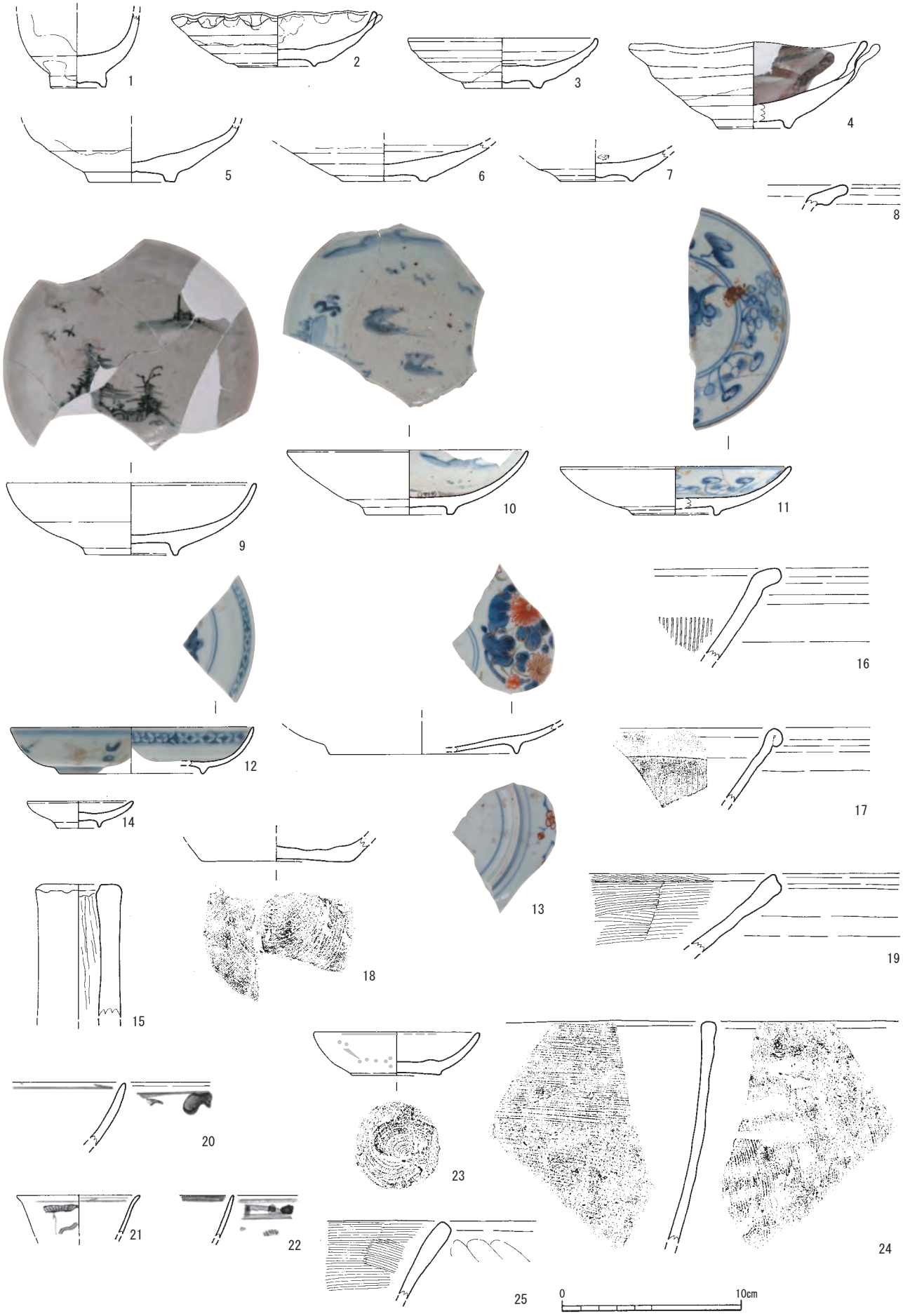
35 図２は磁器碗片で、内外面に圏線と外面は唐草文を描く。

４面検出溝

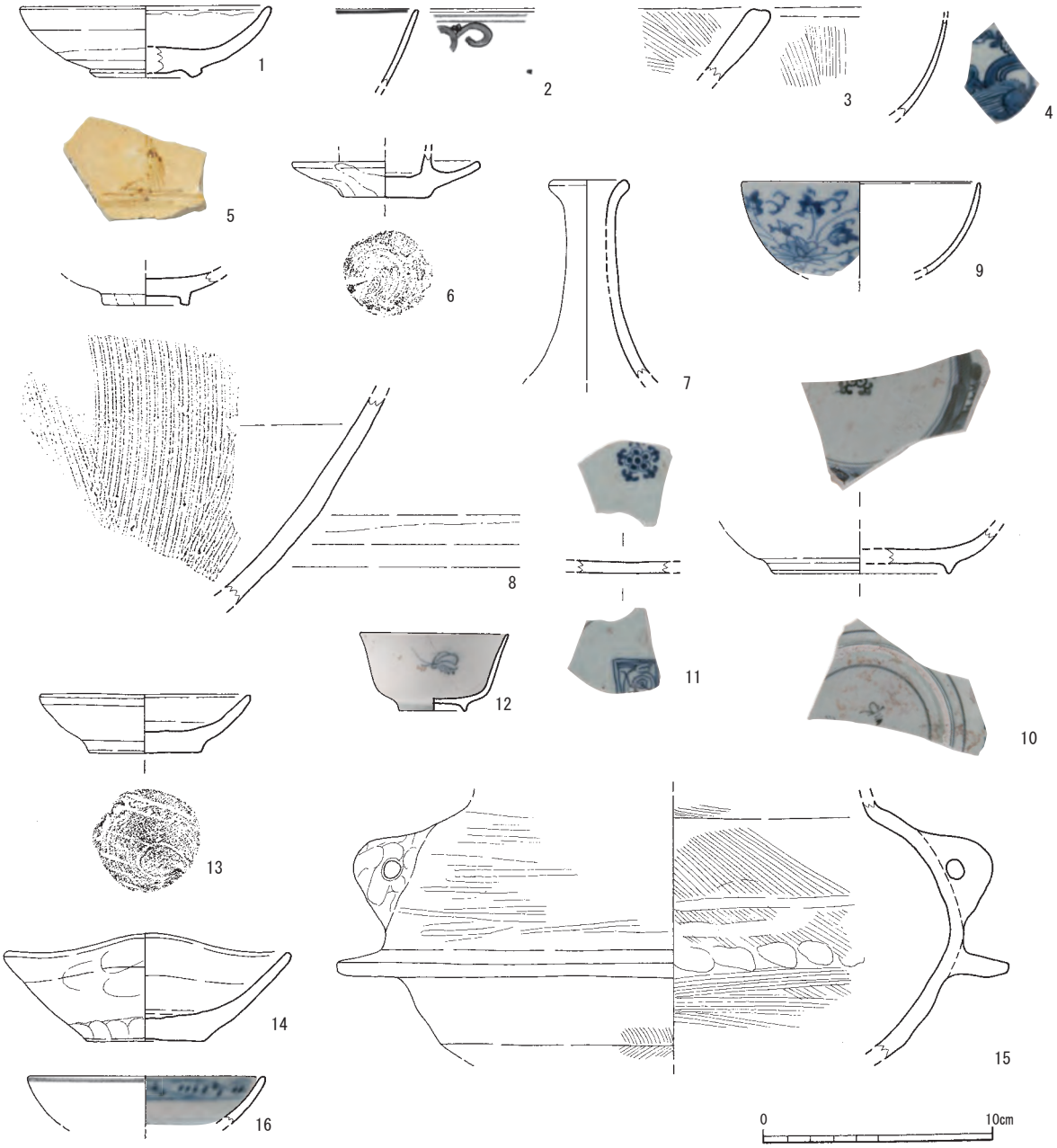
５号溝（第５・33・34 図、図版 18・30）

３地点４面の中央付近で 27 号土坑を切って検出した東西・南北方向に延びてＴ字状のなる溝である。東西方向は長さ 4.9 m、幅は東側に延びるにつれ 0.9 ～ 0.4 mへと狭まる。南北方向は長さ 4.5 m、幅 0.9 m、深さは共に 0.4 m以下を測る。そのため断面形状は逆台形状だが、傾斜が異なる。

34 図 18 は土師器皿底部片である。19 は瓦質土器鍋の口縁部片で、外面は煤が付着する。20 ～ 22 は磁器碗片である。内面は圏線が巡るが、外面は 21 に菊、22 に唐草文を描く。



第 34 図　2～4・6・8号溝出土遺物実測図（1/ 3）



第 35 図　9・13 ～ 16 号溝出土遺物実測図（1/ 3）

14 号溝（第４・33・35 図、図版 22）

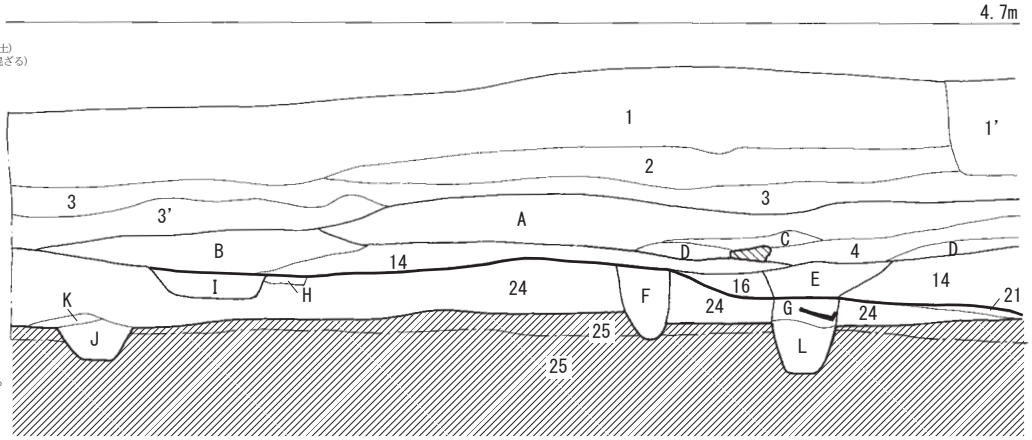
４地点南側の４面で検出した溝で東西方向へ直線上に延びる。西側調査区際まで延びているため、残存長 3.7 m、幅 0.6 m以下、深さ 0.3 mを測る。断面形状は逆台形状になる。30 号柵列跡・31 号建物跡の間で検出し、同方向に延びていることから関連する遺構なのかもしれない。

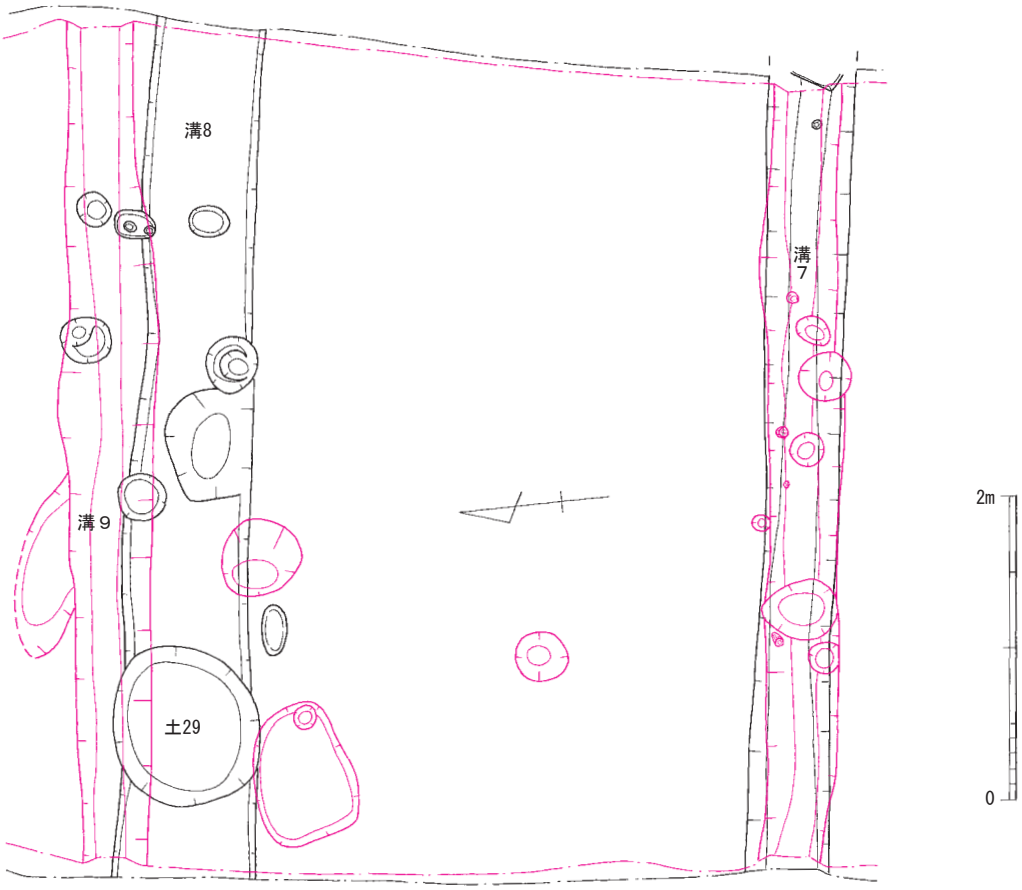
35 図３は外面に煤が付着しているので、瓦質土器の鍋か。４は磁器碗の胴部片で、外面は雨龍か。

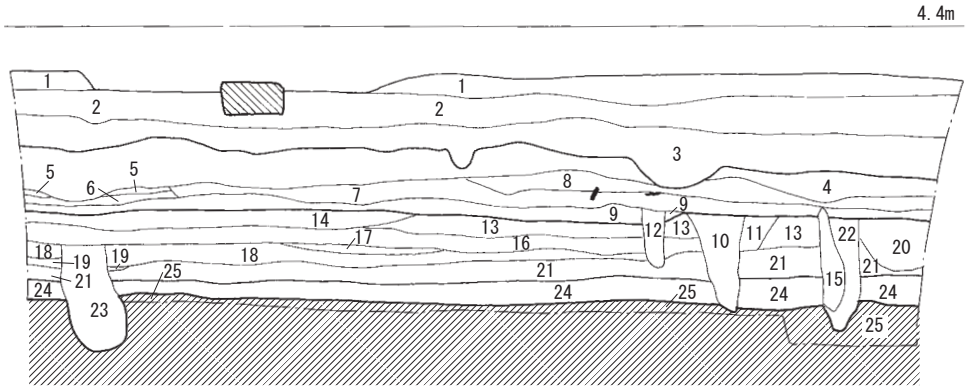
16 号溝（第５・33・35 図、図版 22・30）

４地点北側の４面で検出したＬ字状に東西南北方向に延びる溝である。長さは東西で６m、南北で２m、幅は 1.8 ～ 0.6 mと角の部分で狭まる。深さは 0.3 mを測り、断面形状は逆台形状である。埋土は暗灰色粘質土の２層に分けられる。

1　灰褐色土
（ゴミや石を多く含む現代住居盛土）
1’現代ピット（灰褐色土と砂礫が混ざる）
2　暗褐色土
3　２よりも炭化物を多く含む
3’３に貝類を含む
4　黄灰褐色粘質土（１面）
14　黄灰色・青灰色・灰色粘質土が混ざる（２面）
16　暗青灰色粘質土に灰褐色土粘質土が多く混ざる
21　暗青灰色粘質土に炭層が全体に混ざる
24　暗青灰色粘質土に灰褐色土粘質土が混ざる（３面）
25　青灰色粘質土（地山鉄分部が沈着し、所々黄灰色粘質土になる）
A　暗灰色褐色土（瓦や磁器などの遺物が混ざる）
B　Aより黄灰色粘質土を多く含む
C　Aより貝類が多く混ざる（Aに似る）
D　Aとほぼ同じだが、瓦など多く混ざる
E　黄灰褐色粘質土（非常に軟質で、しまりなし）
F　暗灰色粘質土に、炭化物が混ざる（３面ピット埋土）
G　灰色粘質土に瓦が混ざる（７号溝埋土）
H　Lに比べて炭や焼土の量が多い
I　灰褐色粘質土（炭や焼土を含む）
J　汚れた青灰色粘質土に灰色粘質土が混ざる（９号溝埋土）
K　灰褐色土
L　灰色粘質土に灰色細砂が混ざる（７号溝埋土）







※
1～4・14・16・21・24・25は上の土層と同じ

5　焼土層（焼土と炭が混ざる）
6　黄灰色粘質土
7　黄灰色粘質土と灰色粘質土が混ざる
8　黒灰色粘質土（焼土層の一部か）と黄灰色粘質土が混ざる
9　黄灰色粘質土に灰色粘質土が混ざる
10　灰褐色粘質土（ピット埋土）
11　黄灰色粘質土
12　灰色粘質土に黒色粘質土が混ざる（ピット埋土）
13　灰褐色粘質土に焼土層の一部が混ざる（２面）
15　木杭と灰褐色粘質土が混ざる
17　青灰色粘質土（地山に近い）
18　暗青灰色粘質土（炭が混ざる）
19　17に似るが、灰色粘質土を一部含む（鉄分多い）
20　青灰色粘質土に灰色粘質土が混ざる
22　青灰色粘質土に灰色粘質土が混ざる（かなりやわらかい）
23　汚れた青灰色粘質土

第 36 図　7～9号溝および1地点北壁土層実測図（1/50）

35 図 13・14 は土師器皿である。14 は全体的に歪んでいることから耳皿か。15 は内面に刷毛目とナデ、外面の鍔より上はミガキを施す。鍔より下は煤が付着する。16 の内面に唐草文を施す青花皿である。

通路遺構（７・８・９号溝）（第５・34・36 図、図版 31・32）

４地点の北側では通路遺構と思われる空間を３・４面で検出した。３面では７号溝と８号溝の間で 3.2 ～ 3.35 ｍの空間を確認した。この空間には、他の地点で多く確認されているピットなどは検出されていない。そのため、両側溝が付属した通路と判断した。通路内には硬く締められた路面などの痕跡は確認していない。土層観察からも、通路の路面などに伴う層は検出されていない。なお、通路側溝と考えられる北側の７号溝は２層に分層でき平瓦を多く出土している。南側の８号溝は９号溝に接するように南側に新たに掘られている。

４面は７号溝と９号溝の間で、３面より広い４～ 4.2 ｍの空間を確認した。３面とは異なり、一部この空間内にピットがあるが、それ以外は通路に関する目立った痕跡は確認されていない。遺物はいずれも通路内では検出されていない。（瓦についてはＰ 90 を参照）

出土遺物には 34 図 24 と 25 の瓦質土器片である。24 は口縁端部に向かって、真っ直ぐ立つことから火鉢片か。25 の外面に煤が付着することから鍋である。35 図１は陶器皿で、内面に胎土目の痕跡がある。口縁端部は皮鯨手になる。

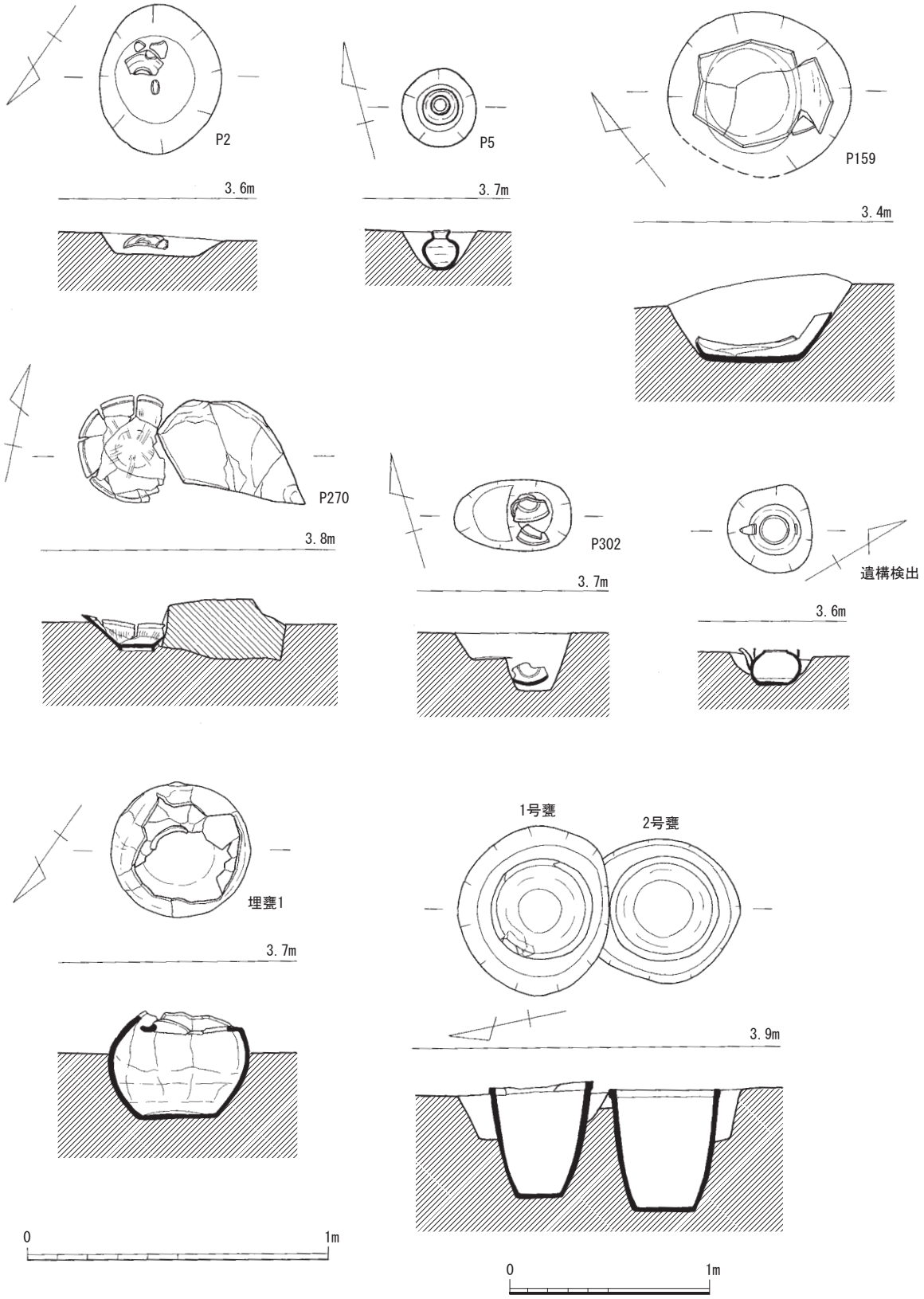
５　ピットおよび遺構検出出土遺物（第 37 ～ 50 図、図版 27 ～ 29・34 ～ 39）

ここでは図化した遺物出土状況を紹介する。ピット２・15・159・270・302 について遺構実測図を作成したので掲載する。埋甕２基は３地点で検出した遺構である。埋甕の体部上半のみ甕より一回り大きな掘り方があり、甕を据え置いた状況で検出している。

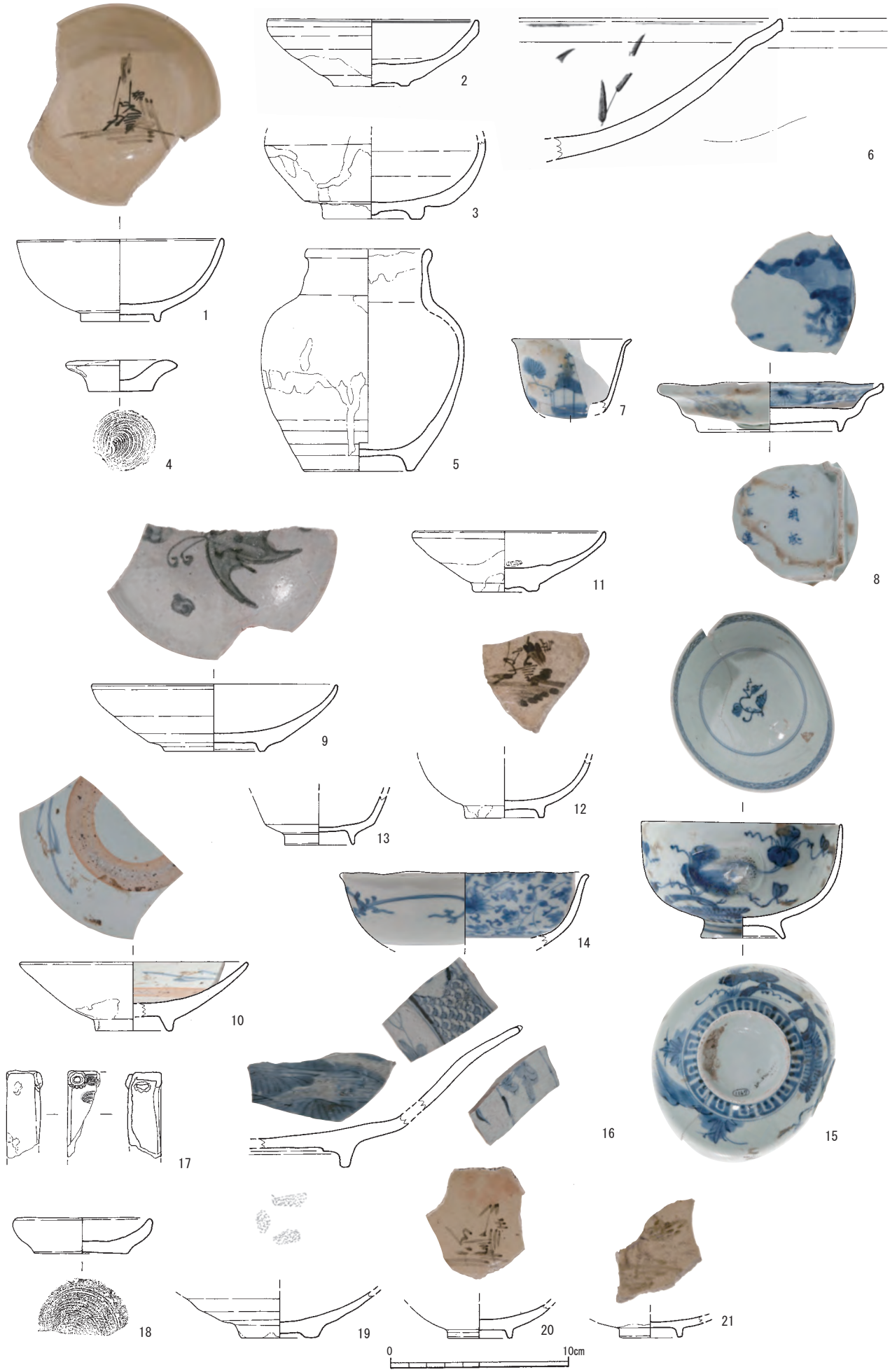
その他の遺物については、遺構検出時に検出したものになり、それぞれの面の上層と下層の遺物が混入している可能性がある。

38 図１～ 21 は１～３地点１面ピット出土遺物である。１～６・11 ～ 13・20・21 は陶器である。１・12・20・21 は京焼風の碗で、見込みに山水文を描く。17 世紀後半頃か。２・３・11 は唐津産の碗で、高台内に兜巾が残る。2 の口縁端部は皮鯨手、11 は見込みや外面に胎土目痕がある。４は土瓶の蓋で、外底は糸切りで露胎する。５は壺で、外面口縁下胴部上半にかけて白化粧土の上に銅緑釉、胴部下半は鉄釉で施釉する。武雄産か。６は内面に植物文様の鉄絵あり、胴部下半は露胎する。７～ 10・14 ～ 17 は磁器である。７の外面には松・岩などを描く、小碗である。８は皿で高台内銘款に「太明成化年造」。９は皿の見込みに蝶を描く。10 は皿で、見込みに蛇の目釉剥ぎを施す。13 は現川焼の小碗で、内面は打ち刷毛目である。14 は皿で、内外面に唐草文。15 は内面は四方襷、見込みに花卉である。外面は花卉と連弁を描く。かなり歪んでいて、外面には別個体の透明釉が付着する。18 は土師器皿である。17 は水滴で注ぎ口部分に文様がある。19 は白磁で見込みと畳付けに砂目が付着する。

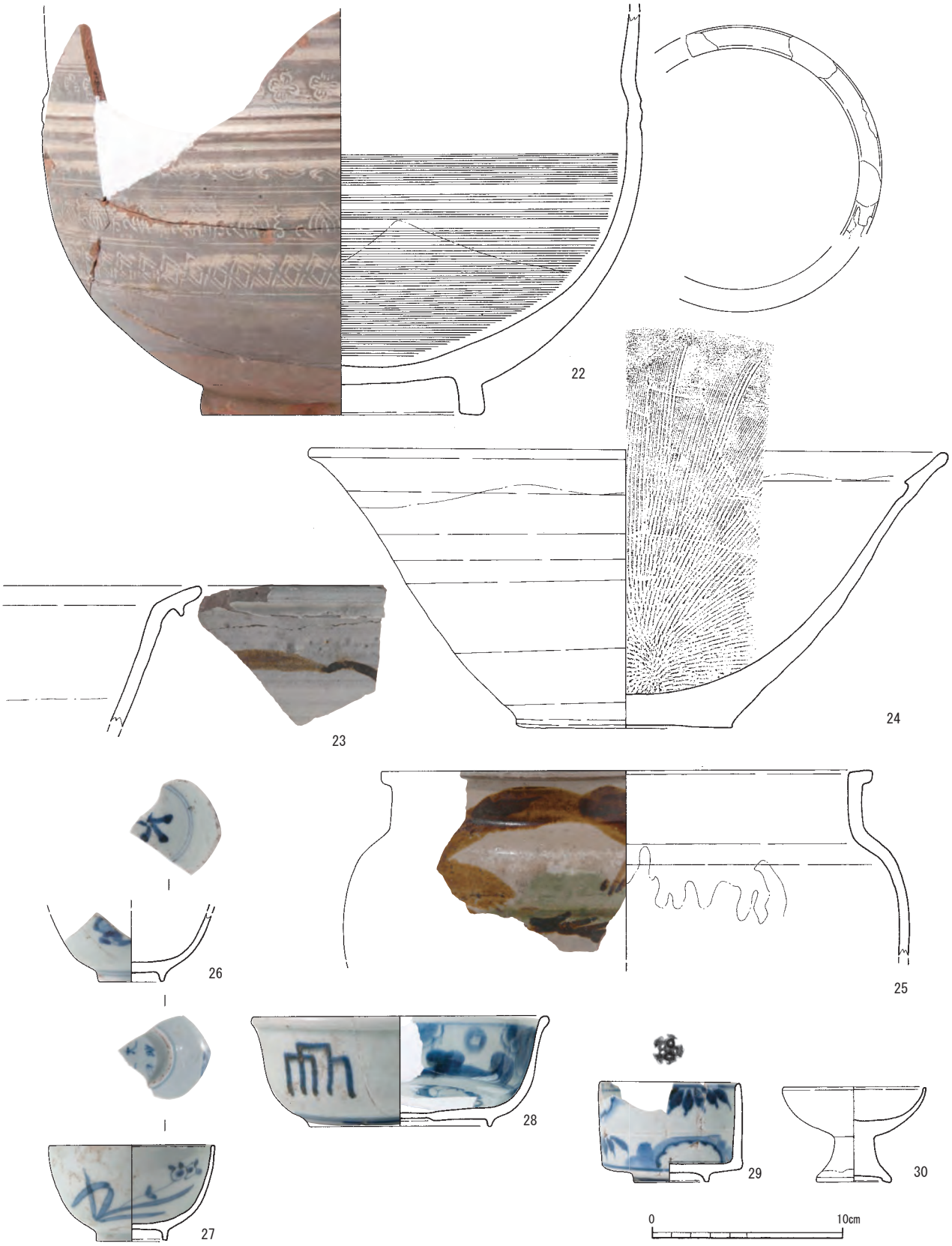
39 図は４地点１面ピット出土遺物である。22 ～ 25 は陶器である。22 は三島手の鉢で、外面に象嵌が入る。23 の鉢と 25 の甕は白化粧土の上から透明釉を施釉し、外面に松を描く。24 は擂鉢で



第 37 図　遺物出土状況実測図（1/20・1/30）

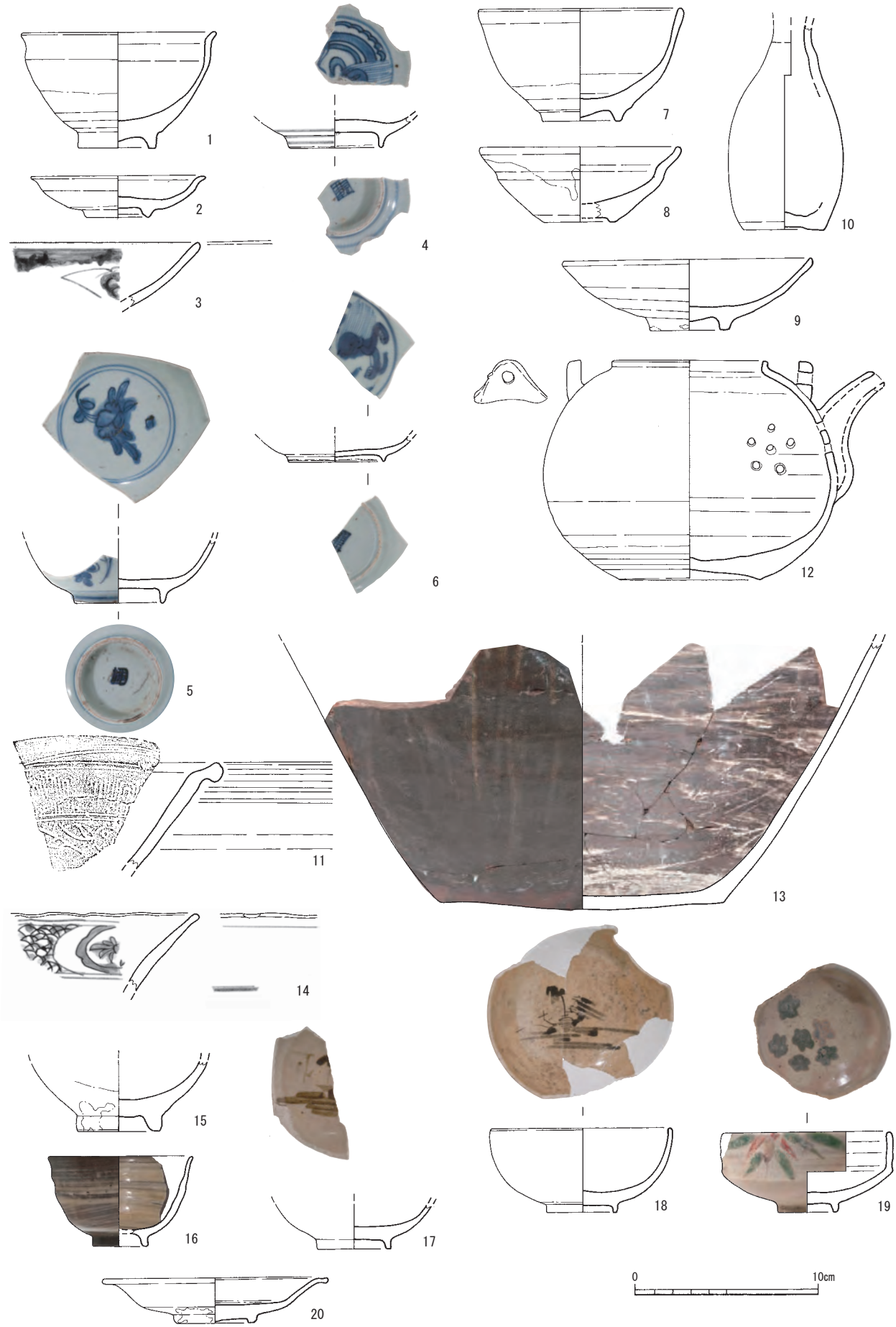


第 38 図　1～4地点1面ピット出土遺物
実測図（1/ 3）

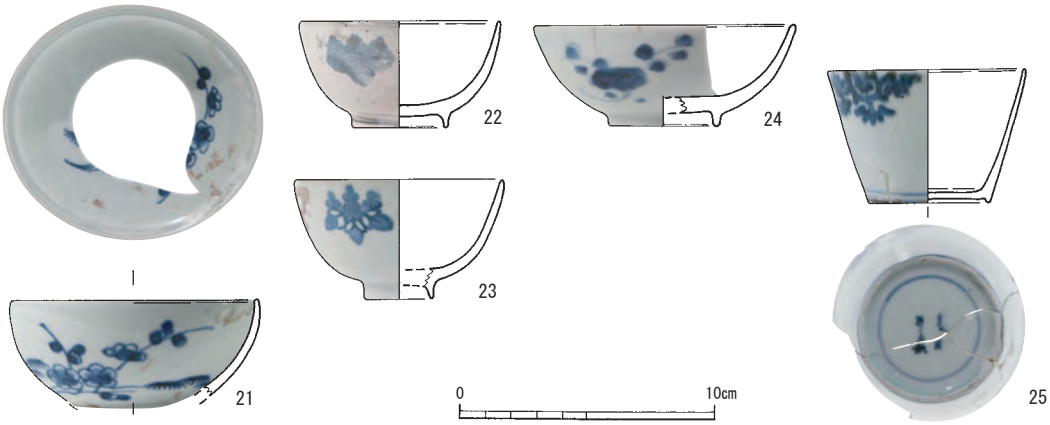


第 39 図　4地点1面ピット出土遺物実測図（1/ 3）

内外面の口縁端部のみ鉄釉をかける。26 ～ 29 は磁器の碗・皿である。26 は見込みに花文、高台内銘款に「大明年製」。27 は外面に蝶と水仙か。28 は見込みに環状の松竹梅文か。内面胴部は花で、外面は源氏香文を描く。29 は筒型碗で見込みに五弁花文、外面は雪持笹を描くか。30 は白磁の高



第 40 図　1～4地点2面ピット出土遺物実測図（1/ 3）



第 41 図　４地点２面ピット出土遺物実測図（1/３）

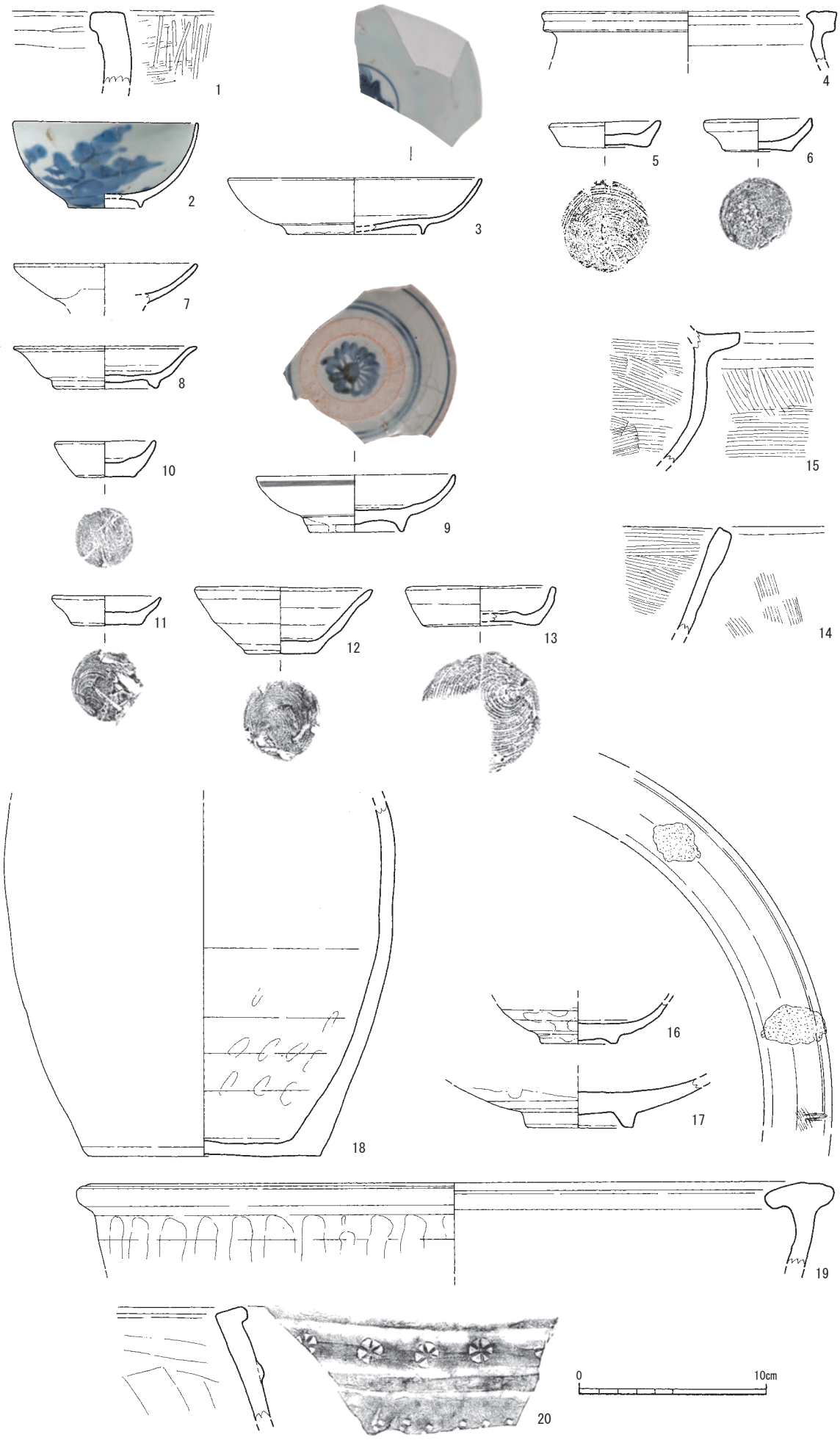
杯で、無文である。

40 図は１～ 20 は１～４地点２面ピット出土遺物である。１は黒縁色釉で、口縁端部も端反する器形から天目茶碗か。２は白磁皿で、見込みは露胎する。３～６は磁器である。３は内面の絵つけから漳洲窯の碗か。４・６の見込みは団龍と獅子か。高台内銘款は、４に「乾」、６に「雍」の篆書体か。５の見込みは花卉と圏線２条である。外面は草花文と高台内銘款は変形文字か。７～ 10 は深緑色や灰色の釉を施釉する碗や瓶である。８は見込みに胎土目痕、９は畳付けに砂目、10 は外底全面に砂が付着する。11 は象嵌の上に白化粧土を塗る三島手か。12 は 19 世紀後半以降の汽車土瓶で、外面には鉄釉で描く。13 は陶器甕の底で、白化粧土の上から刷毛目を施す模様である。14 は発色があまり良くない青花皿で、内面に区画された青海波文と花文を描く。15 も陶器碗で、内外面は鉄釉で施釉する。16 は刷毛目模様の現川焼か。17 ～ 19 は京焼風の碗で、17・18 の見込みに山水文を描く。18 のみ高台内に印銘がある。19 は見込みに緑釉で花文、外面は緑色と赤色で笹を描く。20 は見込みと高台に砂面が付着する。

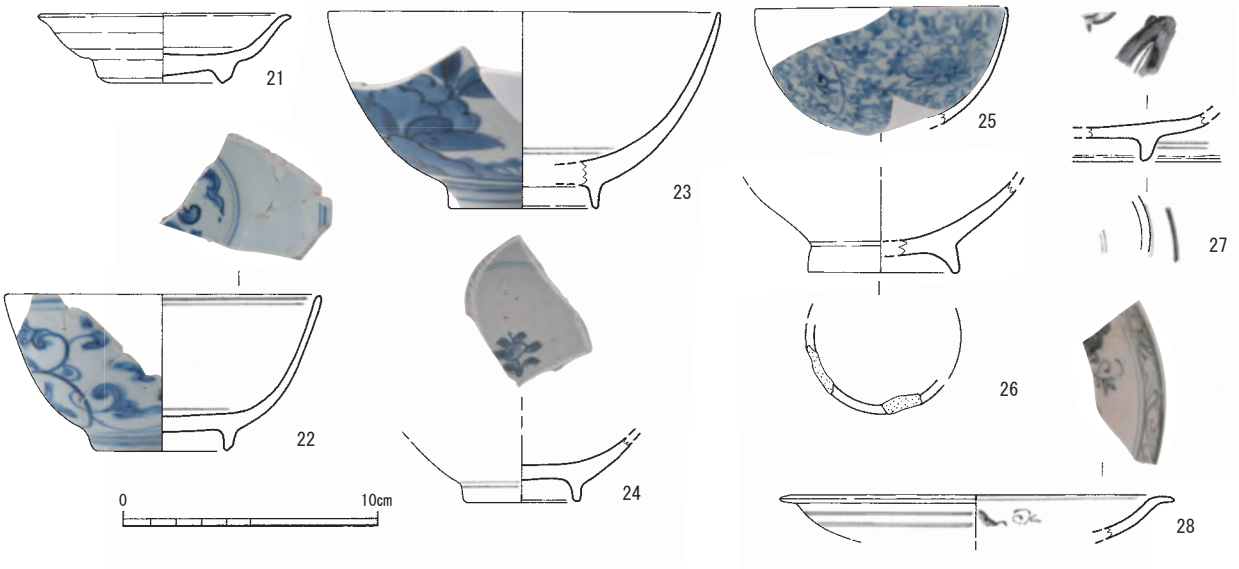
41 図 21 ～ 25 も４地点２面検出ピット出土遺物である。21 ～ 25 は磁器の碗である。21 は見込みと外面に松・梅を描く。器形は歪んでいる。22・23 はコンニャク印判で桐を押印する。24 は外面に花卉を描く。25 は型紙摺りの唐草文か。高台内銘款に「太明年製」があることから 18 世紀前半頃のものか。

42 図１～ 20 は１～３地点３面検出ピット出土遺物である。１･14･15･20 は瓦質土器である。１・20 は火鉢片である。20 の外面には突帯を挟んで上に六弁の花文状のスタンプ、下に刺突文を施す。14 は鍋・15 は湯釜片で外面に煤が付着する。２・３・９は磁器ある。２の碗の外面は、松や楼閣などの建物を描く。９は皿で内外面に圏線が巡る。見込みの中央に菊花文を描き、その周りを蛇の目釉剥ぎをする。４・18・19 は陶器の甕である。19 は口縁部片上部に砂目付着する。５・６・10 ～ 13 は土師器皿である。６・13 は油煙が付着することから灯明皿として利用か。白磁皿である７は口縁端部を釉剥ぎ、８は見込みを蛇の目釉剥ぎをする。

43 図 21 ～ 28 は４地点３面検出ピット出土遺物である。21 は白磁皿で、畳付けは釉剥ぎする。22 ～ 25 は磁器碗である。22 の外面は唐草文で、見込みに僅かに文様が残る。23 は外面に葉、24 は見込みに花卉、25 の外面は花唐草文を描く。26 は陶器碗の高台片で、高台はなだらかで畳付けは砂目が付着する。胎土は灰白色で粉っぽいことから、瀬戸産か。27・28 は磁器皿片である。27 は青花皿高台片で、見込みに文様が残るが判然としない。。28 は底部を欠損する皿片で、内面の圏線間に唐草文、胴部に草花文か。



第 42 図　1～4地点3面ピット出土遺物実測図（1/ 3）



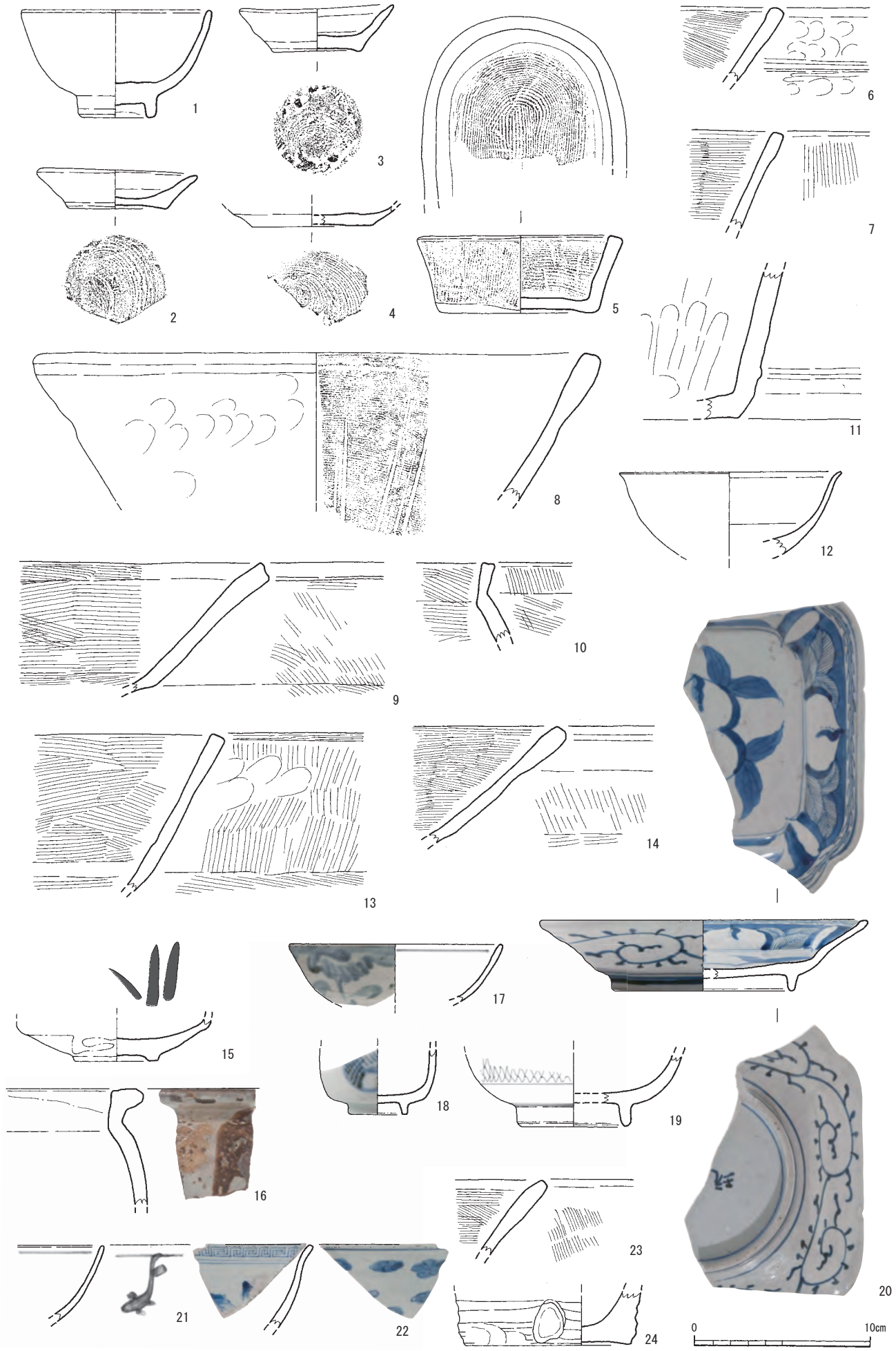
第 43 図　4地点3面ピット出土遺物実測図（1/ 3）

44 図は４面ピット出土遺物である。１は産地不明の陶器碗で、削り出し高台である。釉調は緑灰色で、青磁に近いか。２～４は土師器皿である。２は内外面に油煙が付着するので灯明皿として使用か。５は土師質土器で隅丸方形状の鉢である。内外面に刷毛目が明瞭に残る。外底の刷毛目はナデ消されている。6 ～ 11・13・14 は瓦質土器である。６は外面に３条の沈線状の凹みがある鉢である。７・９・13・14 は外面に煤が付着する鍋である。８は内面に櫛目があることから擂鉢で、櫛目の単位は３条である。10 は湯釜片である。11 は火鉢の底部片で、外面を強くナデることで突帯を作る。12 は白磁碗片で、外面に横ナデが強く残って段になる。15 は陶器皿で、見込みに鉄絵がある。16 は陶器甕の口縁部片で、白化粧土の上に透明釉をかける。外面には描かれているのは松か。17 ～ 21 は磁器である。17 は外面に花、18 は丸文、19 は外面に赤絵で亀甲状である。20 の内面は桃や葉、唐草文で見込みに葉文、外面は蛸唐草文を描く。高台内銘款に「玩」の文字がある。方形皿だが、円形高台がつく。21 の外面は鯰か、22 の内面は雷文と山、外面に雲文を描く。23 は瓦質土器鉢片である。24 は火鉢の底部片で、外面に指押さえや強い横ナデを施す。

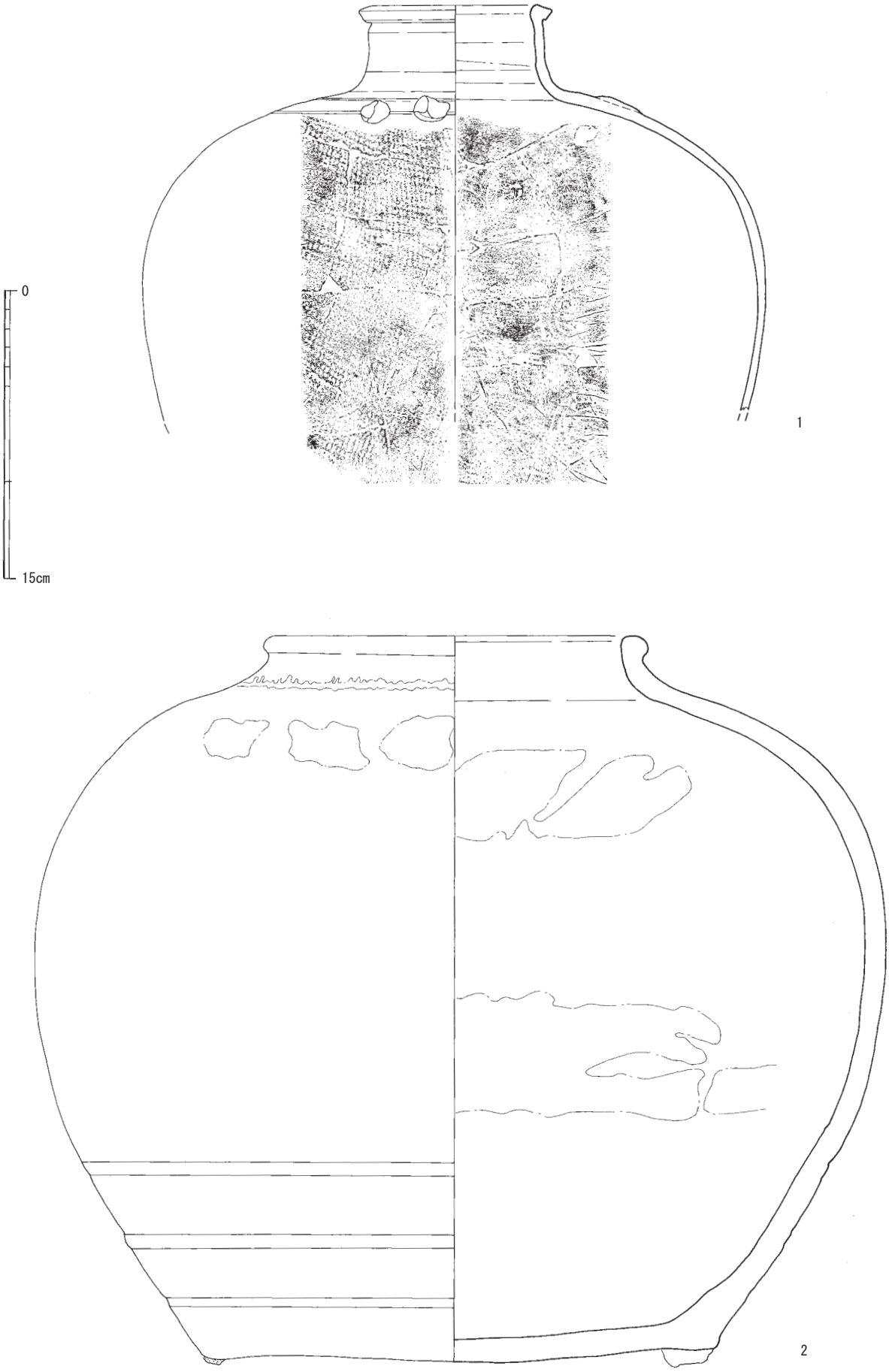
45 図～ 61 図は１面遺構検出出土である。45 図１・２は陶器の甕である。１の内面は同心円文、外面胴部は格子目の叩きである。外面肩部に３ヶ所耳がつく。２は外面肩部に砂目が付着する。外底には胎土目が付着する。

46 図は１・２は大型の瓦質土器甕である。外面は横ナデと粗い刷毛目で所々に工具痕がある。外底にはハケ目状の痕跡がある。内面にはカルキがびっしり付着していることから便槽として使用か。３～７は 46 図１の甕内出土の遺物である。３は丁寧になでられて作られた土師器皿で、内外底は黒斑する。４は完形の京焼風の碗である。５は肩部以下を破損する陶器の瓶である。６は広東の碗である。見込みは文字で、外面に舟・山・樹木を描く。７は傾きから磁器の皿で、外面は草花文か。８～ 10 は 46 図２の甕から出土である。８は接合はできなかったが、算盤玉形状になる火鉢片か。口縁部下に穿孔１ヶ所ある。９・10 は磁器である。９は猪口片で、外面は梵字文か。10 は碗片で、外面は唐草文か。

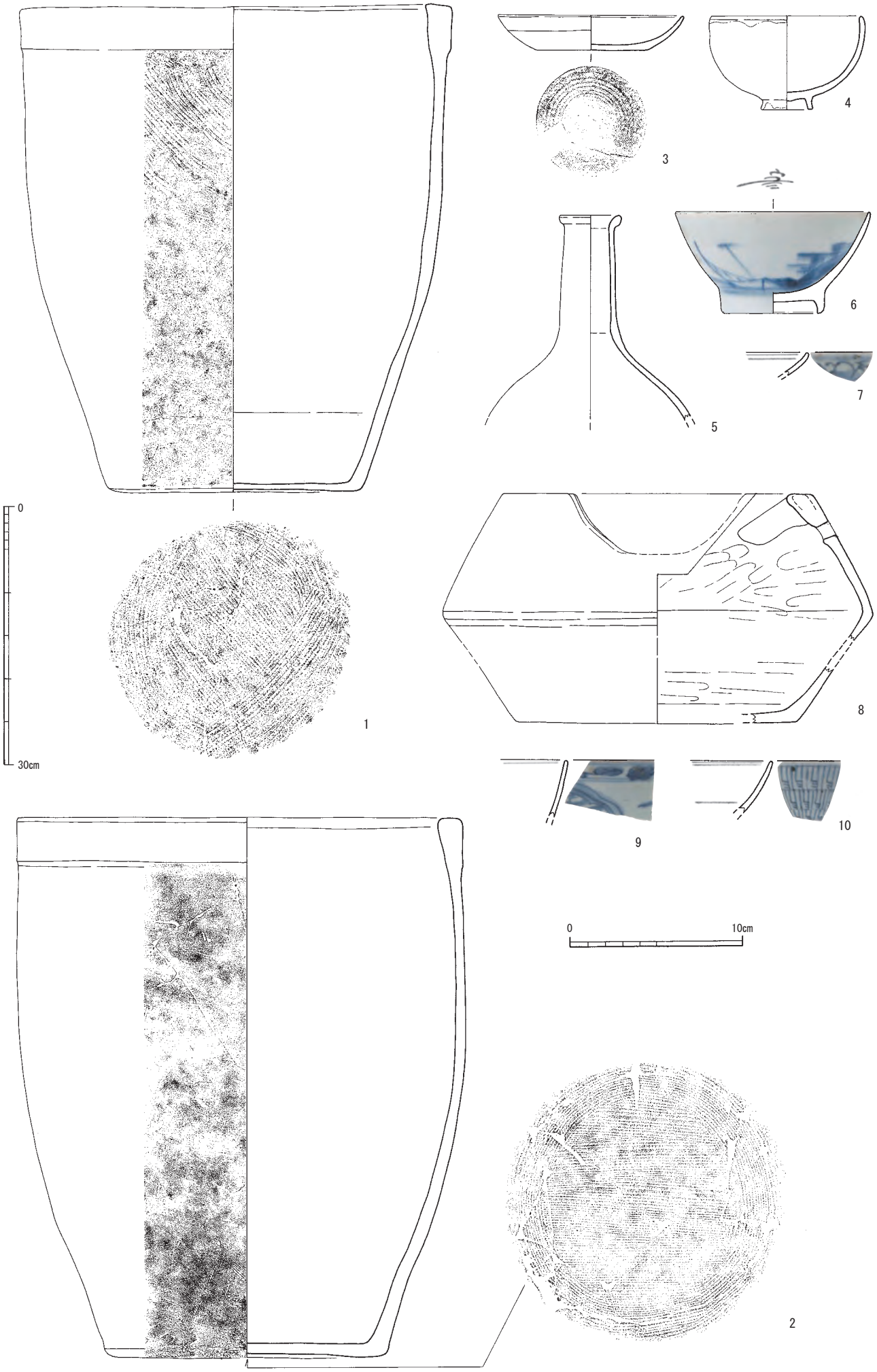
47 図１～ 18 は土師器皿である。１～３・６・７・12・13・15・17 は口縁端部などに油煙が付着しているので灯明皿として使用か。19 ～ 23 は瓦質土器で、いずれも形状から火鉢片である。19 は口縁部に煤が付着する。23 は指ナデや工具痕などが明瞭に残る粗いつくりである。２次焼成を



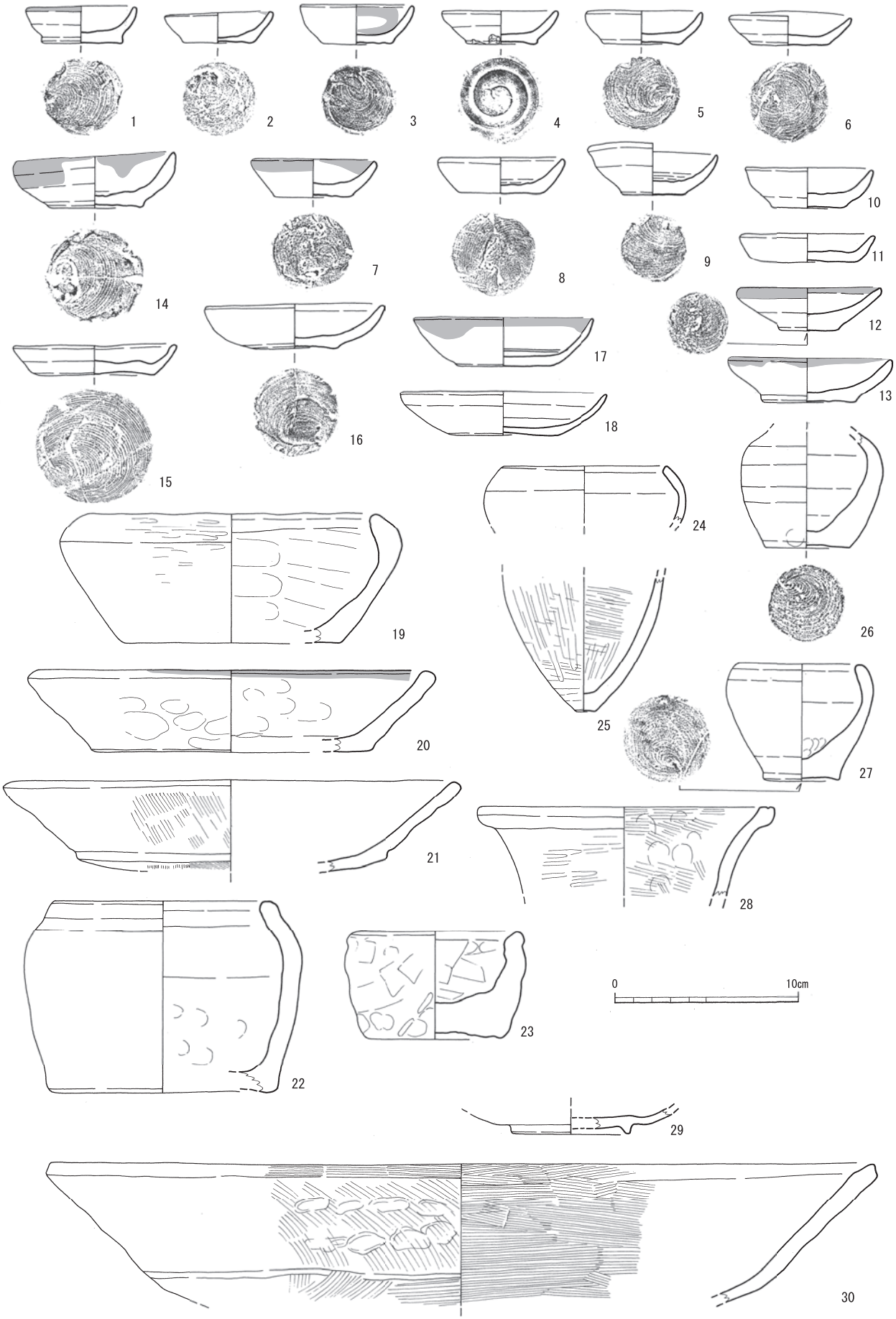
第 44 図　1～4地点4面ピット出土遺物実測図（1/ 3）



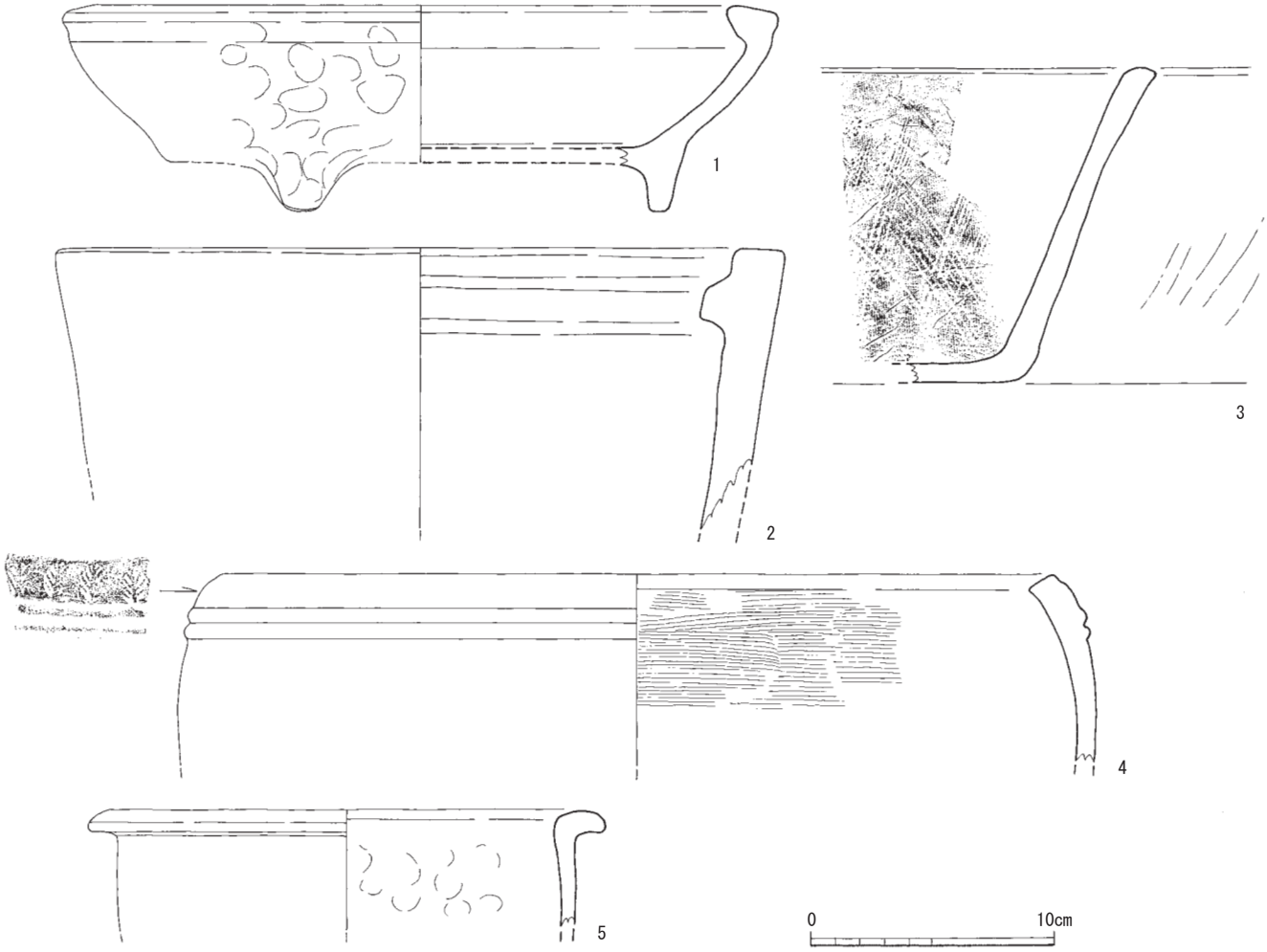
第 45 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図1（1/ 3）



第 46 図　1～4地点1面出土遺物実測図2（1/ 3）



第 47 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図3（1/ 3）



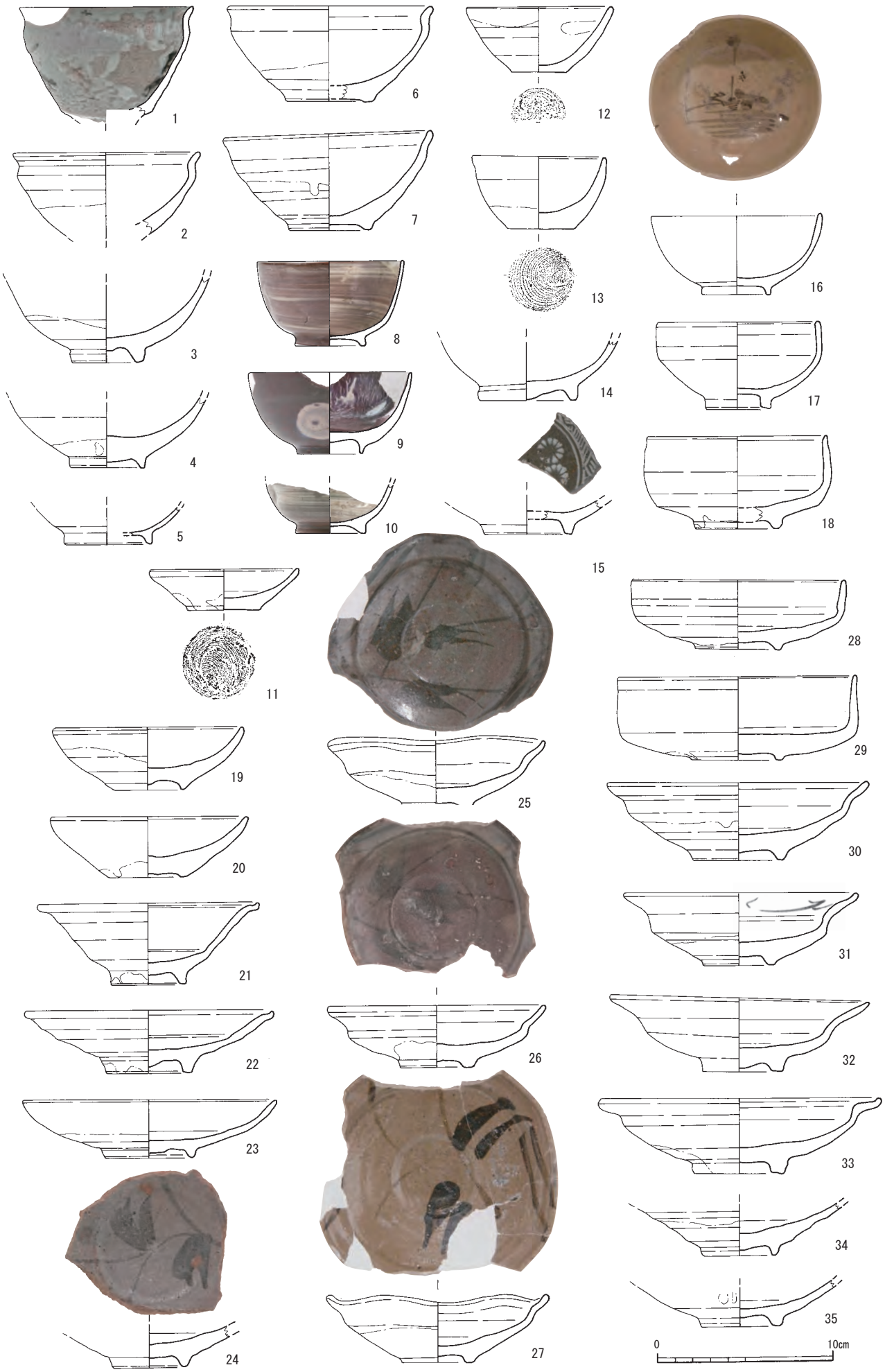
第 48 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図4（1/ 3）

受け硬化しているので、鍛冶などで使用か。24 ～ 27 は瓦質土器の壺である。25 のみ内外面にミガキを施し丁寧に作る。28 は弥生土器の壺片で、外面は丹塗りしてミガキを施す。29 は瓦器椀の高台片で、唯一今回の調査で出土する。30 は瓦質土器の鉢で、復元口径 46.0cmと大型品である。

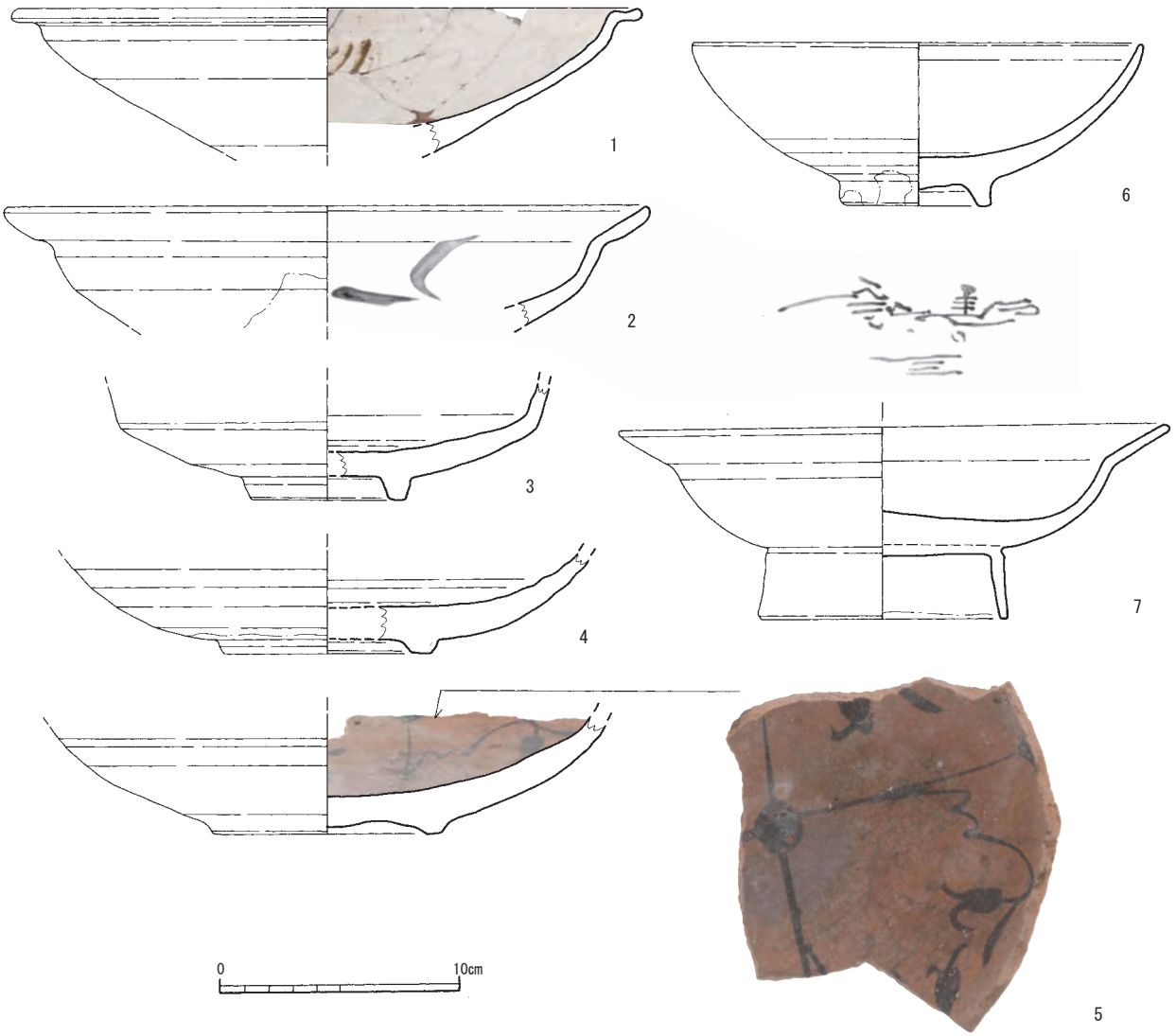
48 図１～５は瓦質土器の火鉢や鉢片などである。１は三足の火鉢で、口縁端部断面は逆「く」字状に肥厚する。２は断面２～３cmの厚さがある厚手の火鉢片か。３は内面に摺目が残る鉢である。４は口縁部が内傾する火鉢片である。５は口縁部が逆「Ｌ」字になる鉢又は甕か。

49 図１～ 10 は陶器碗である。１・２・６・７は端反形の口縁部から天目茶碗か。外面は胴部下半以下、ケズリで露胎する。５・８～ 10 は現川焼か。刷毛目や打ち刷毛目模様と円文を施す。11 ～ 13 は陶器皿で、外底は糸切りである。14 ～ 18 は陶器碗である。15 は内面に象嵌があるので、三島手か。16・17 は京焼風で、16 の内面見込みには山水文、17 は無文である。18 も陶器碗で、高台のみ露胎する産地不明。19・20・22 ～ 35 は陶器皿である。21 は 22 と形状は似るが、釉調から白磁皿とした。19・20 は口縁端部に皮鯨手である。内面の目跡痕跡は、胎土目が 19、24 ～ 26・31、砂目で 21 ～ 23・32・33 である。28・29 は胴部から口縁部に向かって直立する碗で、外面高台付近は露胎する。24 ～ 27・31・34 の内面には鉄絵で植物文様を施すが、31 内面には白化粧土のみで、釉はかかっていない。35 のみ内面に銅緑釉を施釉し、蛇の目釉剥ぎを施す。

50 図１～７は１面出土遺物で、陶器皿・鉢である。１の皿は内外面に白化粧土を塗り、その上から鉄絵で描く。２は内面に松を描くか・３は鉢で、内部に砂目胴部は直立する。４・５は低い高台



第 49 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図5（1/ 3）



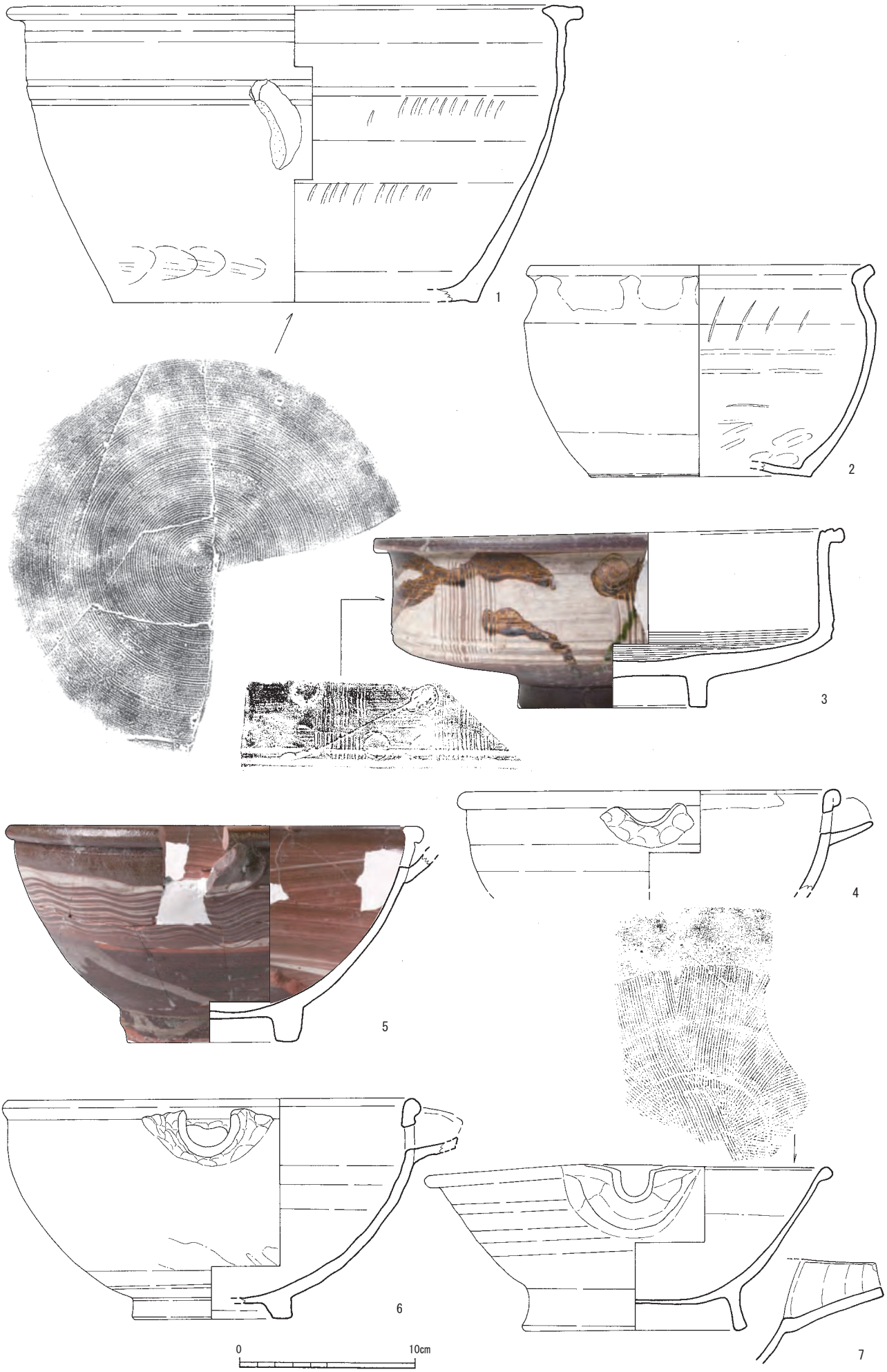
第 50 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図6（1/ 3）

の皿で、５の内面見込みには鉄釉で描く。６・７は京焼風の皿で、６の内面は蛇の目釉剥ぎで、その部分に鉄釉を塗る。７は内面見込みに山水文を描くか。５・６の高台には胎土目痕がある。

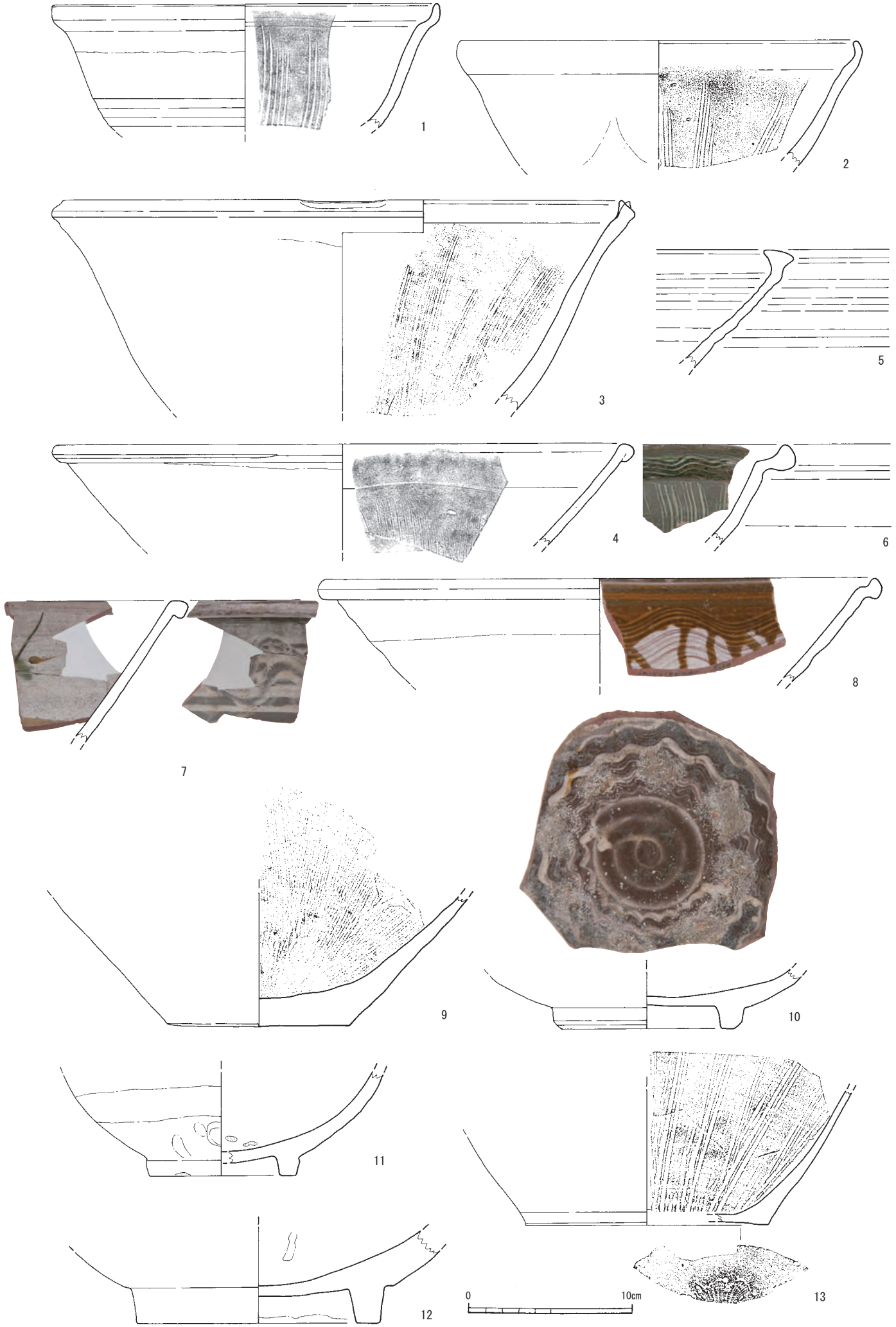
51 図１～７は１面出土遺物で陶器鉢である。１は内面に同心円の叩きが僅かに残り、口縁には貝目が付着する。16 世紀末～ 17 世紀初頭。２は施釉した後、天地を逆に置いたため、口縁端部下に釉垂れが残る。３も鉢で､外面は白化粧土の上に貝を付着させ､胴部に松を描く。その上から､所々櫛書きする。４～７は片口鉢で、いずれも口縁端部の形状が似ていることから同時期か。５は白化粧土の上から刷毛目を施し、外面は波状文を描く。７の内面には摺目がある。

52 図１～ 13 は１面出土遺物で、陶器の鉢である。１・２は口縁の断面が逆「く」の字状、１～４は口縁部に施釉する。６の内面は白化粧土を塗り、内面は刷毛目で波状や櫛掻きする。７の内外面も白化粧土を塗り、外面は刷毛目で波状にする。９～ 13 は鉢の底部片である。10 は見込みに砂目が付着する。11 は内面のみ銅緑釉を施す。12 の内面は白化粧土の上に施釉し、見込みは刷毛目で波状に模様する。その上に砂目８ヶ所付着する。13 は外底に貝目が付着する。

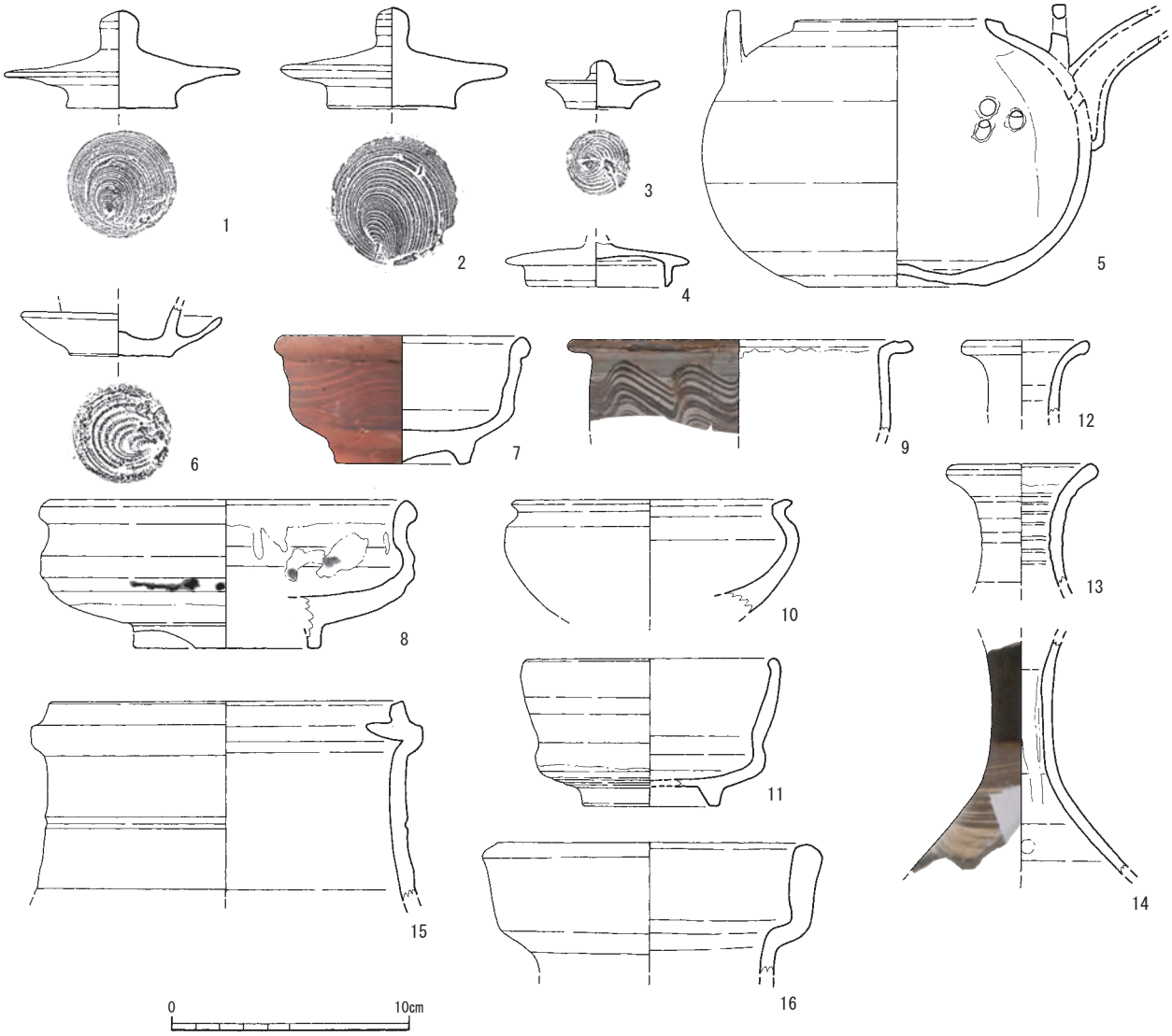
53 図１～４は土瓶蓋である。１・２は白化粧土を塗るが、２は銅緑釉がまばらに見える。３は鉄釉の上に灰がかぶる。４は摘みを欠損するが、銅緑釉で施釉する。５は完形ので土瓶で、底部は削って上げ底にする。６は陶器の灯明皿である。７・９～ 11 は火入れである。７・９の外面は刷



第51図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図7（1/3）



第 52 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図8（1/ 3）

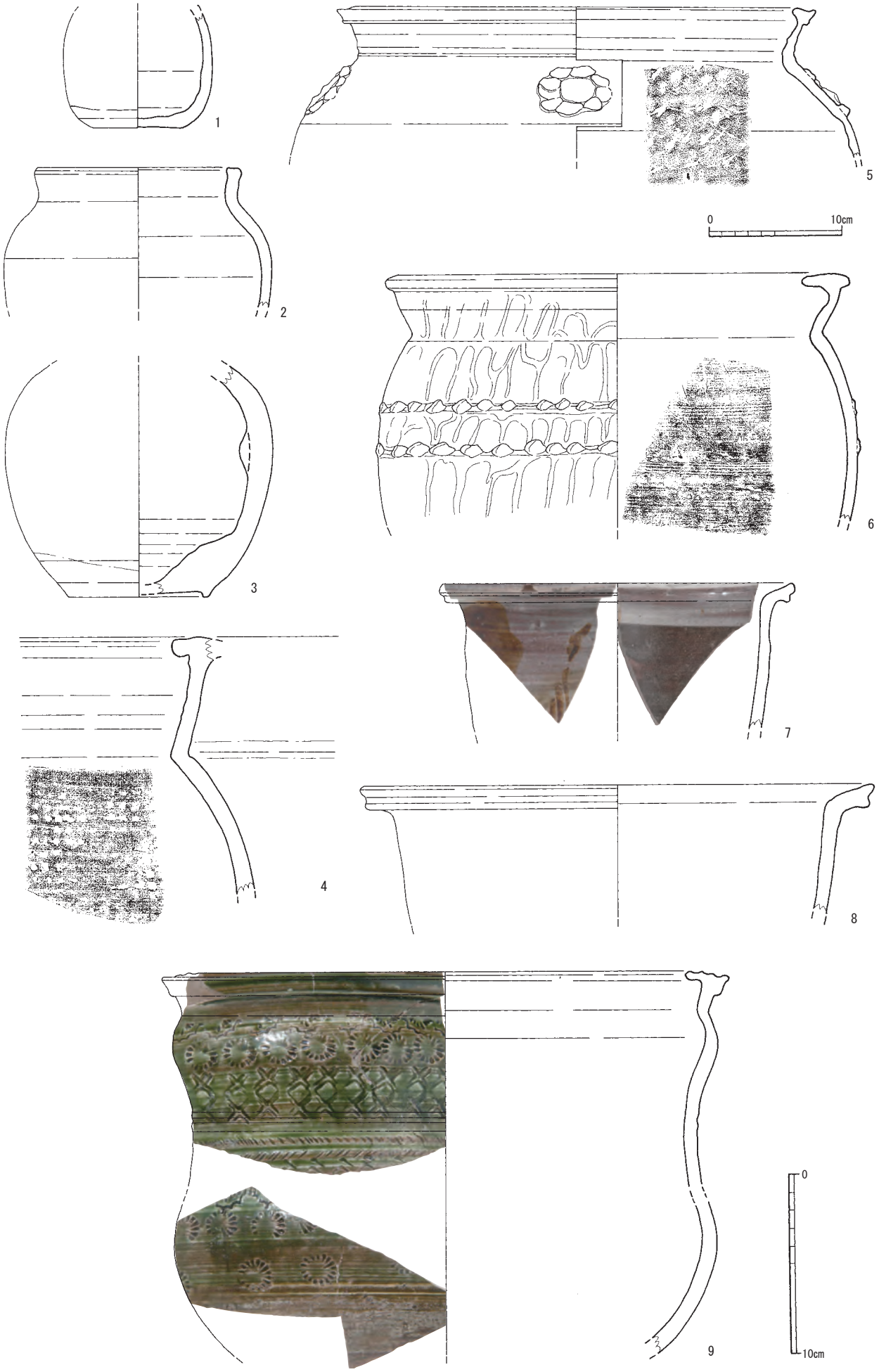


第 53 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図9（1/ 3）

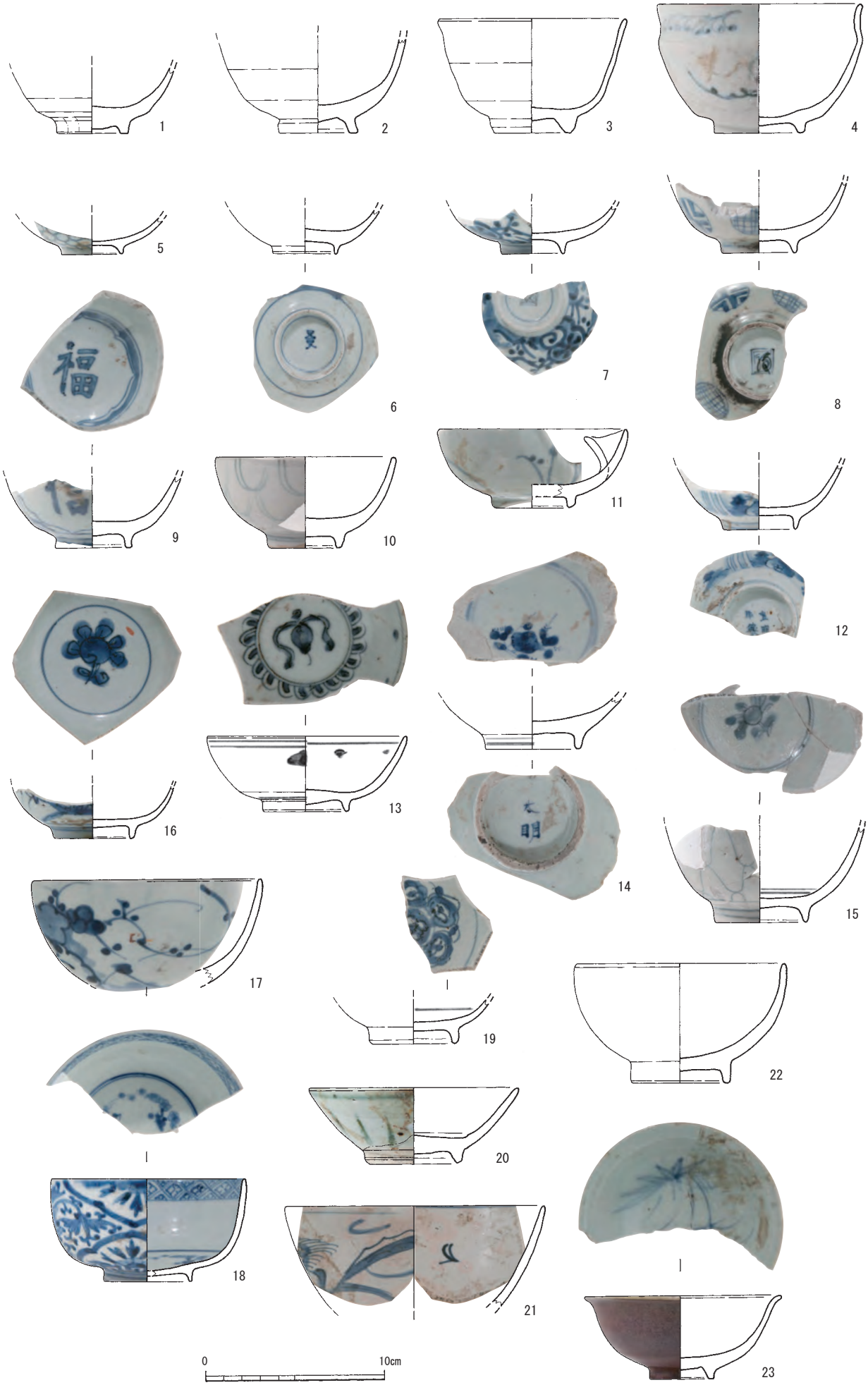
毛目による波状模様である。８は香炉で外面の灰釉に、所々緑釉が付着する。10 は口縁部に煤が付着する。11 は橙色の胎土に黒茶色の鉄釉を内面口縁～外面胴部に施釉する。12 ～ 14 は瓶の口縁～頸部片である。15 は水差しの破片か。釉は内面口縁下に段から外面にかけて施釉する。外面にはカキ目を施す。16 は陶器の土管で、内外面に薄い鉄釉を施釉している。

54 図１～３は陶器壺である。１・３は胎土・釉調も同じことからは同一産か。１は底部に煤が付着する。３の内面は火膨れしている。４～９は陶器甕である。５は内面に同心円叩き、外面には貼花文がつく。６は内面に格子目叩きとカキ目、ナデ、外面は縄状突帯が２条巡る。７は内面の口縁部と外面には白化粧土を塗って刷毛目を施す。その上に松を描くか。８も白化粧土を塗るが、釉はかかっていない。９は図上で復元している甕である。銅緑釉で施釉するが、内外面胴部下半以下は露胎する。外面には格子目状や菊花文を陰刻する。

55 図１～３は白磁碗である。１は高台内、２・３は内面に砂が付着する。４～ 21・23 は磁器碗であるが、６のみ天目茶碗型になる。外面に唐草文、網目文、風景、梅花文などの文様を描く。８は外面の丸文内に籠目や沙綾形を描く。９は見込みに「福」、外面に「信」の１文字を大きく描く。10 は他の碗の口縁部が溶接する。11 は竈の土が付着し、耳皿状に器形が変形している。14 ～ 16 の見込みは花卉である。高台内銘款は、６の文字は解読できないが、７・８は渦「福」、13 は「宣



第 54 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 10（1/ 3）



第 55 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 11（1/ 3）

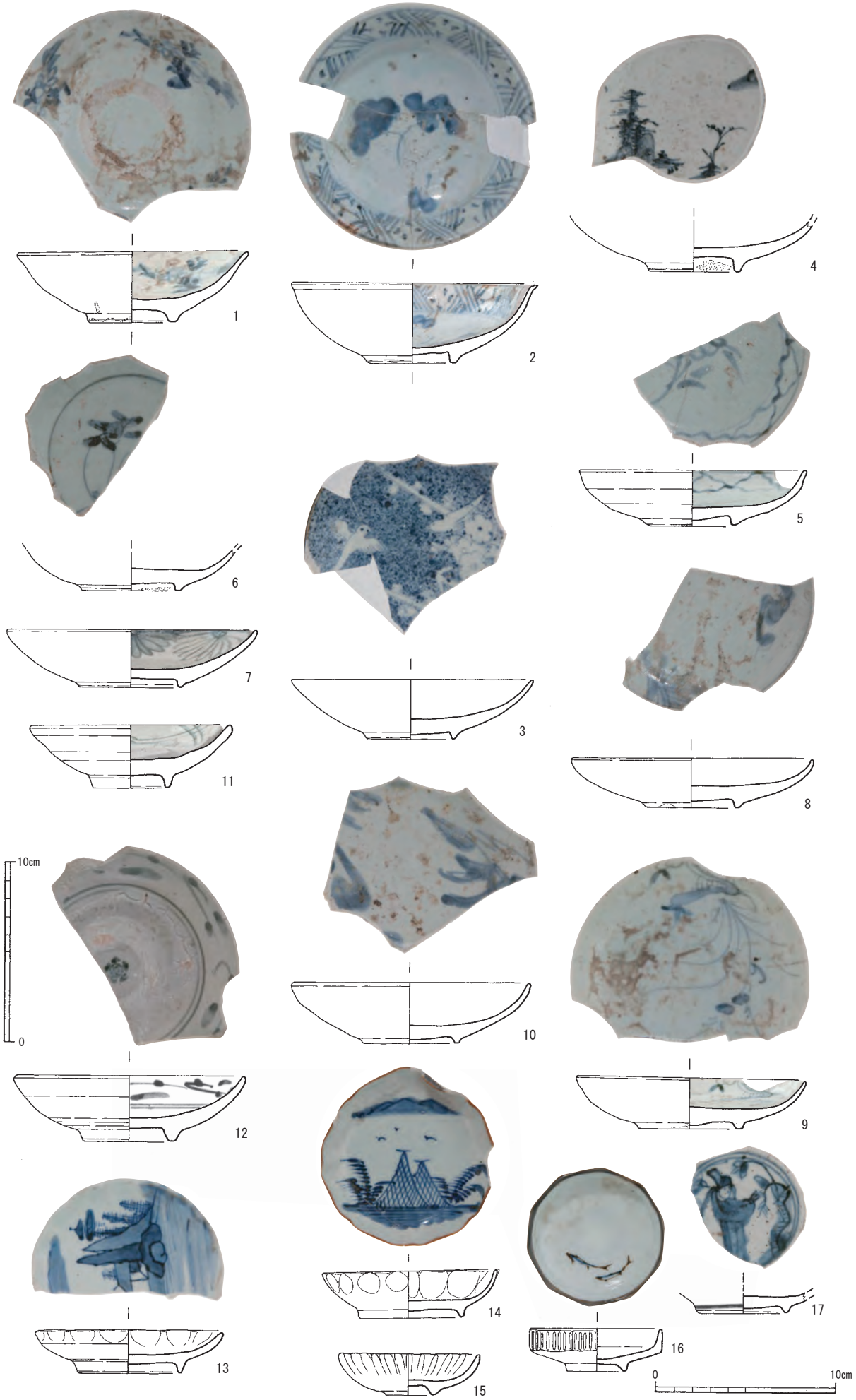
第 56 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 12（1/ 3）

明年製」、14 は「太明」である。18 は見込みに環状の松竹梅花文と口縁下に四方襷、外面に花唐草と連弁文を描く。20 は見込みを釉剥ぎし、外面に細い連弁文様である。21 の内面は松葉か。22 は青磁碗で、内外面無文である。23 は磁器の碗で、外面は鉄釉で施する。見込みに菊花文を描くか。

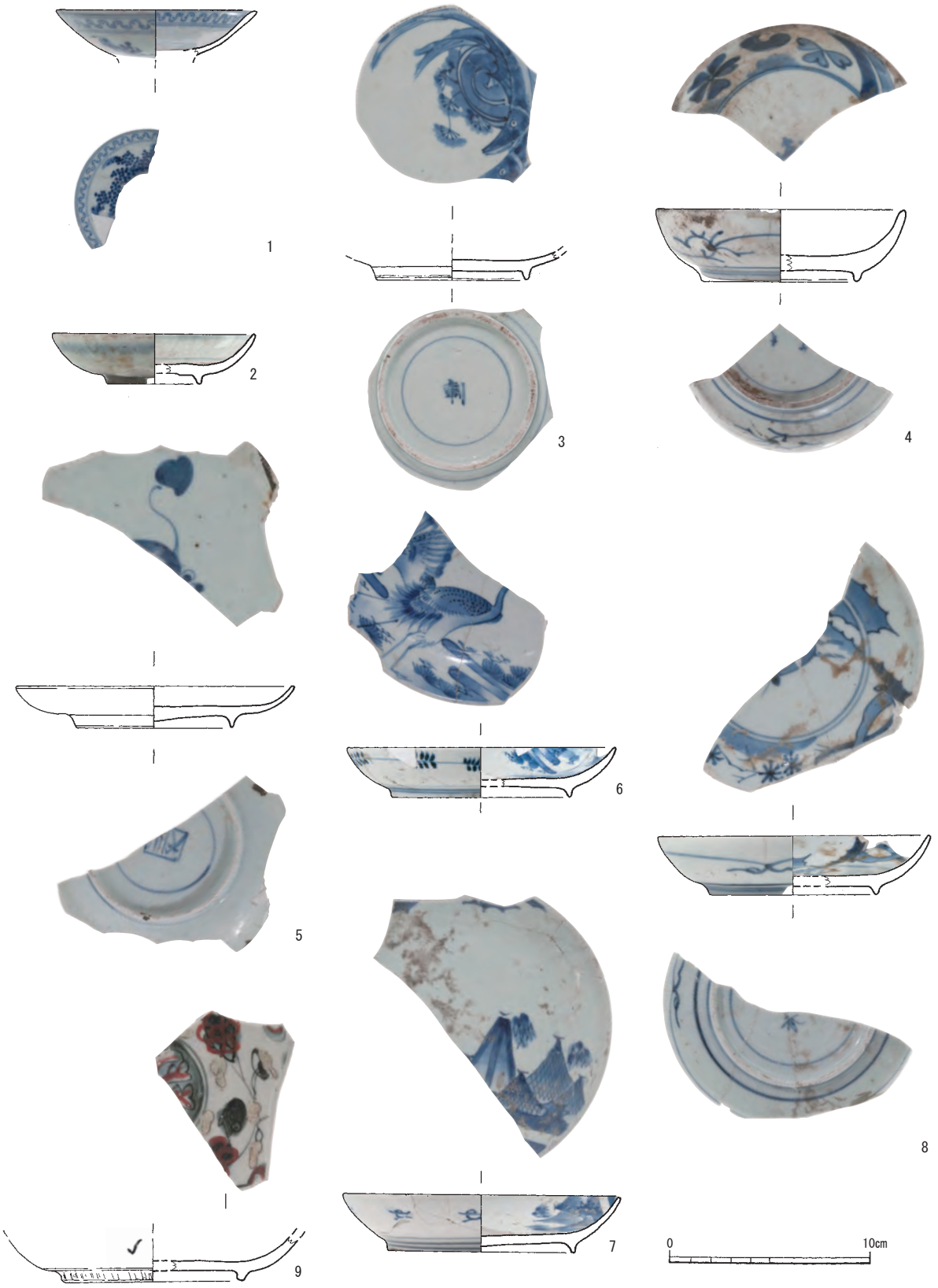
56 図 1 ～ 8 は磁器である。1 は外面に網目と樹木を描く筒形碗である。3 の見込みは、環状の松竹梅文で、内面口縁下に四方襷である。外面は氷裂花文・連弁・渦を描く。口縁は輪花である。5 は白磁の小坏で、高台は露胎する。高台内銘款は、2 に「大明成化年製」、4 に「大明年製」がある。6 は蓋で、見込みに 2 条の圏線と環状の松竹梅文、外面は蛸唐草文・連弁文、高台内銘款に「冨貴長春」がある。7 は唐草文、8 は網目文を外面に描く。

57 図 1 ～ 17 は磁器皿である。口径 13cm前後に比べて、高台は低く径は 5 cm前後と小さい。また畳付を釉剥ぎや砂目を付着するなどから 1 ～ 10 は伊万里産の皿か。1・12 は見込みに蛇の目釉剥ぎである。1 は内面に草花文、2 は内面に四方襷と見込みに銀杏か。3 の内面は吹墨で、梅と鶯を描く。4 は樹木、岩、東屋又は楼閣などの建物、5 の内面に網目文と見込みに花か。7 は半菊花と虫か、8 に雲と草か、9 に草と虫、10 は草か。11 の内面は 2 本線で井桁又は斜格子である。12 は見込み中央に五弁花文、内面口縁は花唐草を描く。13・14 の形状は輪花である。13 に楼閣・家屋・岩・樹木、14 に網干・樹木・鳥・山などを描く。口縁は口銹である。15 は菊花皿で、無文である。16 は十角形皿である。見込みは 2 匹の魚、外面口縁は口銹で雨降文である。17 は見込みに官人風の人物を描く。

58 図 1 ～ 9 は磁器皿である。1 は内外面の圏線間に波、その波のうねり間に点を描く。外面胴部は葡萄か。2 は内面のみ蛇の目釉剥ぎである。3 は高台内銘款に「朝」の一字あることから朝妻焼か。4 の内面は花文と見込みに五弁花文のコンニャク印判、外面に唐草文である。高台内銘款は、4 に「大□年□」、5 に「朱」「米」の篆書体、8 に「□□□春」か。6 の内面は鶴と風景、外面は



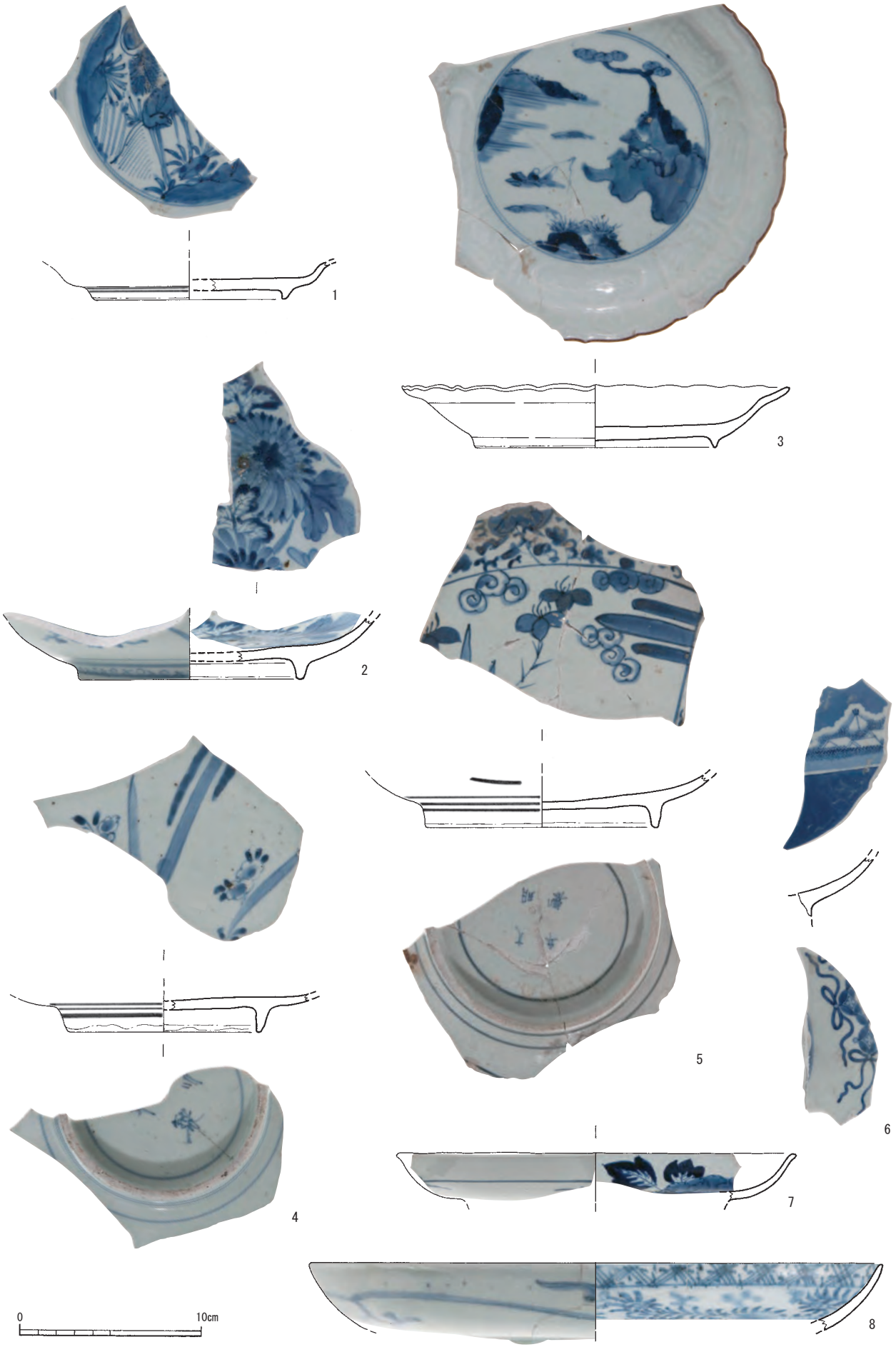
第 57 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 13（1/ 3）



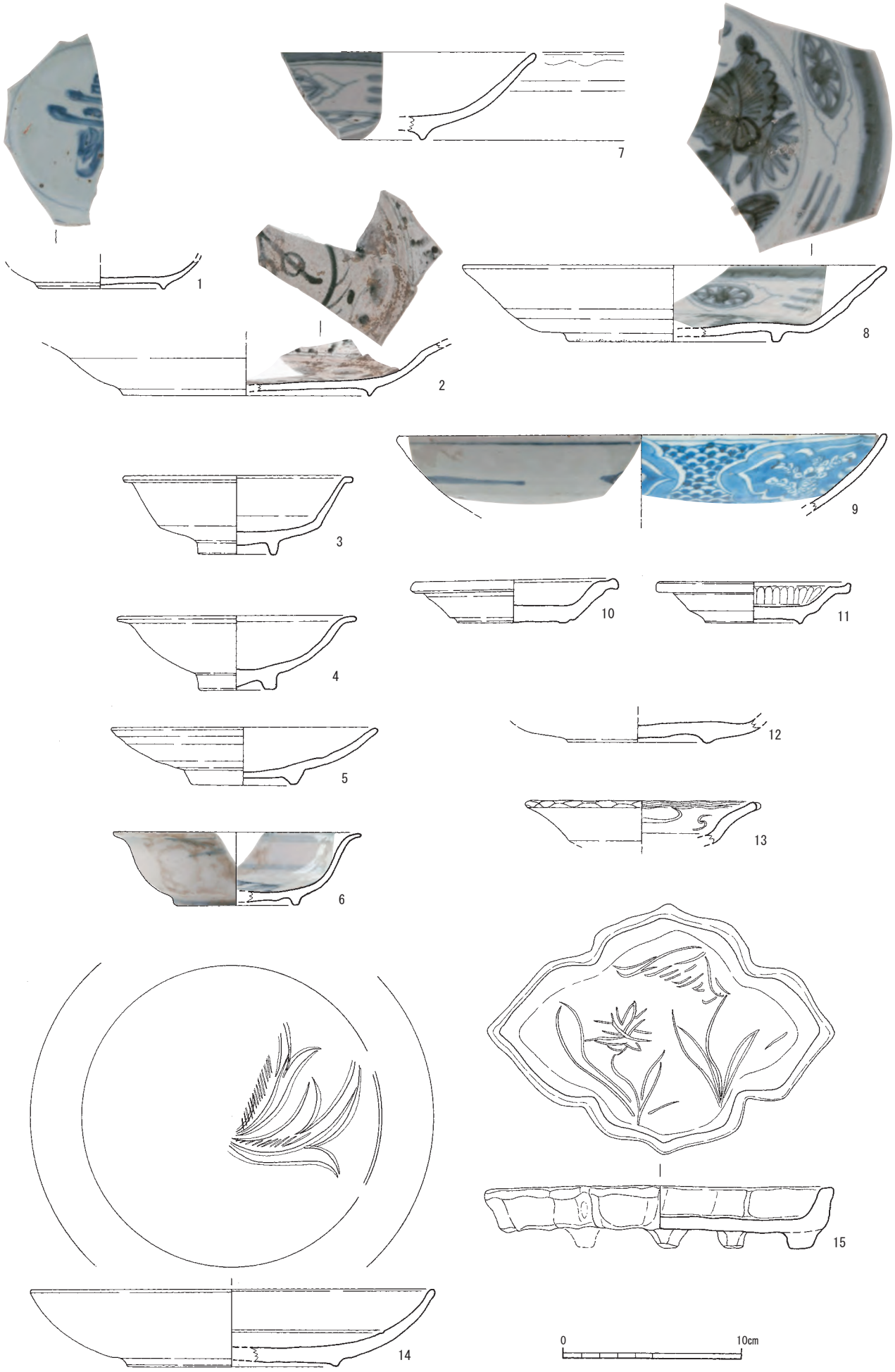
第 58 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 14（1/ 3）

圏線と花唐草か。７の見込みに網干など、外面は圏線と記号か。８の内面は松か、外面は唐草文である。９のみ見込みに赤絵で草花文を描くか。外面にも赤絵が僅かに残る。

59 図１～８は肥前産の磁器皿である。１は鹿・草花文などを描く。２の内面は菊花か、外面は唐草文と高台の圏線間に○×の連続文を描く。３は型打ち整形で稜花形に作り、口縁は口銹である。



第 59 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 15（1/ 3）



第 60 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 16（1/ 3）

第 61 図　1～4地点1面遺構検出出土遺物実測図 17（1/ 3）

見込みは舟とその舟の上で釣人、松や家屋など風景を描く。内面口縁付近には如意頭、連弁形で区画、陽刻する。高台内にハリ痕もある。４の見込みは水仙か。５の見込みは桐・唐草文、雲気などを描く。４・５の高台内銘款は「大明年製」である。６は胴部片で、見込みに建物など風景、外面は七宝結びで高台文様に櫛歯を描く。鍋島焼か。７の内面は桐葉で、外面は唐草文である。８の内面に四方襷、菊唐草文で、外面は唐草文である。

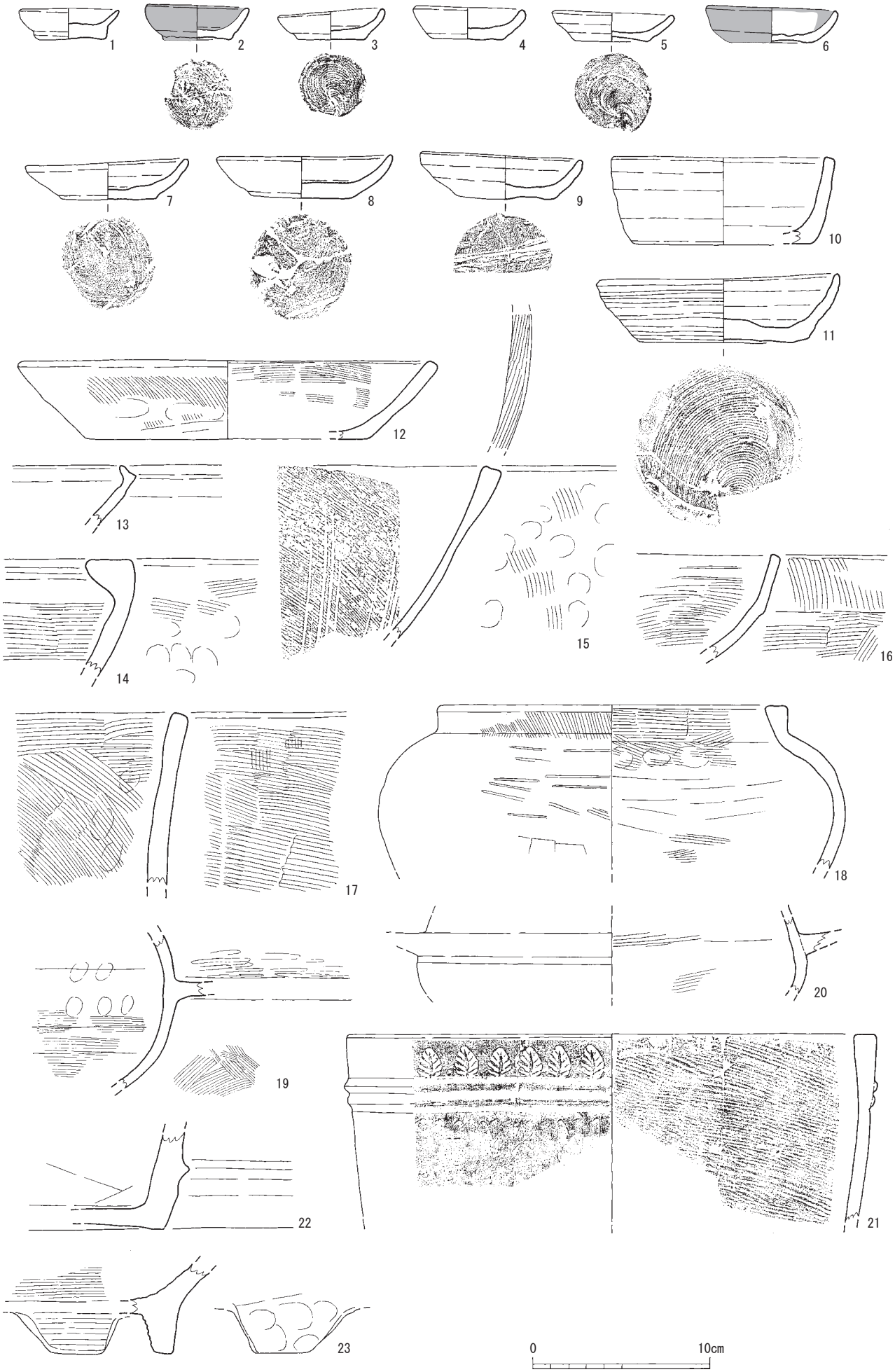
60 図１・２は磁器皿である。１は見込みに「寿」の一字がある。２は内面に施釉するが、釉は発色不良である。見込みは文様と「ＶＯＣ」の文字がある。３～５・12 は白磁皿である。高台畳付けや内面見込みに砂目が付着する。６～９は磁器皿で畳付けは釉剥ぎし、砂目が付着する。６は連弧状と圏線、見込みには草花文を素書きする。７・８は八卦や花文などから中国産か。９の内面は青海波文で区画され、間に花文を描く。10 と 11 は陶器皿で、黄緑釉や器形から瀬戸産か。12 が高台内に砂が付着する。13 は龍泉窯系青磁皿片で、内面に波状や花文を櫛書きする。14 と 15 は青磁皿である。14 は蛇の目高台で、蛇の目部分に鉄釉を塗る。15 は花菱形状で、内面に草花文を櫛書きする。底面には三足が接合する。

61 図１は陶器・２は青磁の火入れである。１は内面と外面高台は露胎する。２は畳付を釉剥ぎする。３は釜道具で、上面に透明釉が付着するのみだが、胎土などから磁器とした。４は磁器小坏で、内外面は無文である。５～７は瓶である。外面胴部に草花文・蛸唐草・網目文などを描く。いずれも畳付は釉剥ぎするが、７のみ砂目が付着する。

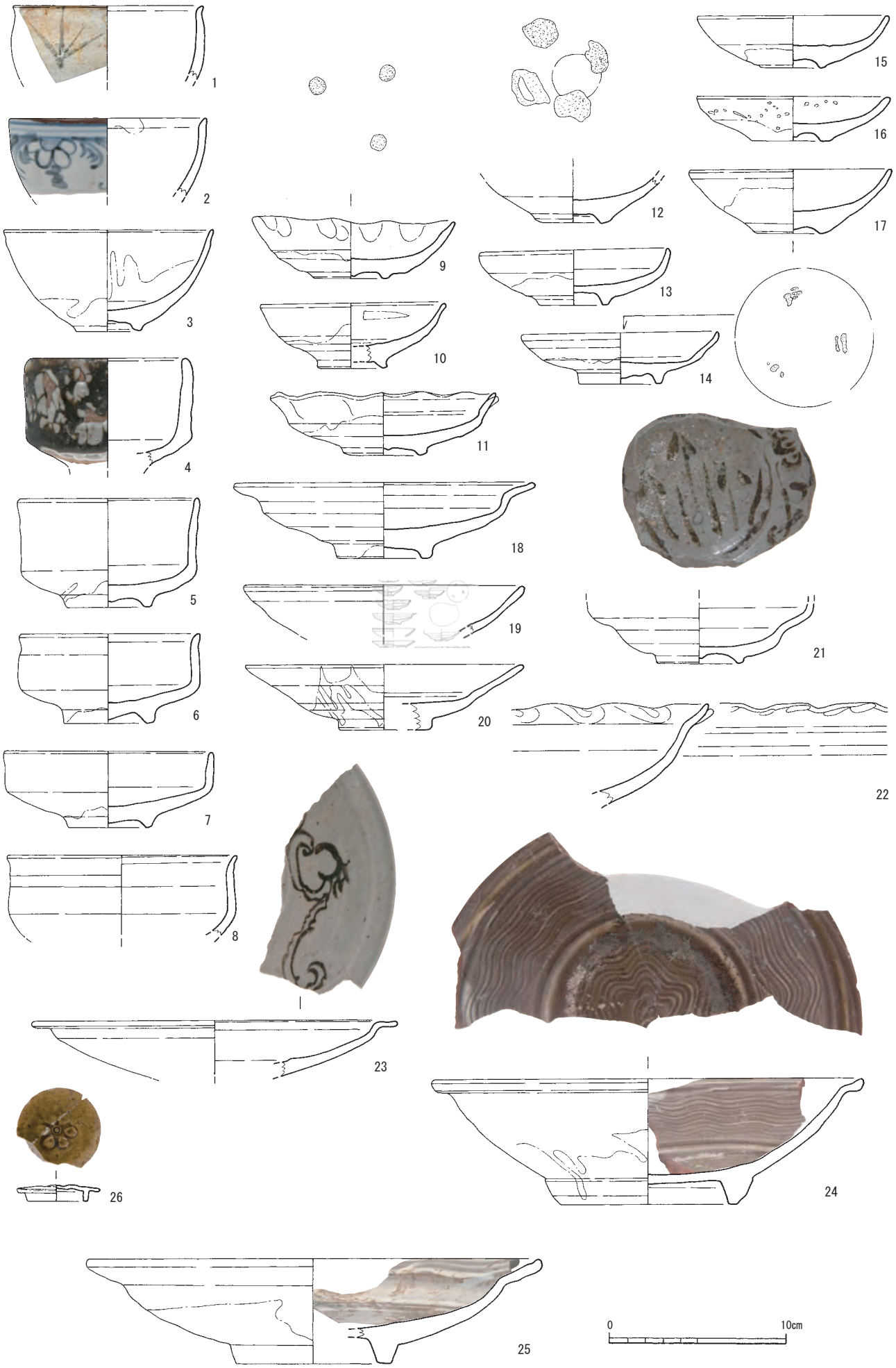
62 図～ 68 図は２面遺構検出出土である。

62 図１～ 11 は土師器小皿・皿である。いずれも内外面はナデ、外底は糸切りである。２・６・８は内外面に油煙が付着することから灯明皿として使用か。11 は外面に強い板ナデにより、明瞭に痕跡が残る。12 ～ 23 は瓦質土器である。12 は浅鉢である。14 は形状から火鉢の口縁部片か。15 の内面には、櫛目があることから擂鉢か。16・17 は火鉢などの口縁部片か。18 ～ 20 は湯釜片である。18 の外面はミガキを施し、丁寧に仕上げる。19 と 20 の鍔下胴部に煤が付着する。21 ～ 23 は火鉢片か。21 の外面口縁に木葉文のスタンプがつく。22 は丁寧に板ナデされた底部片で、23 は脚部片か。

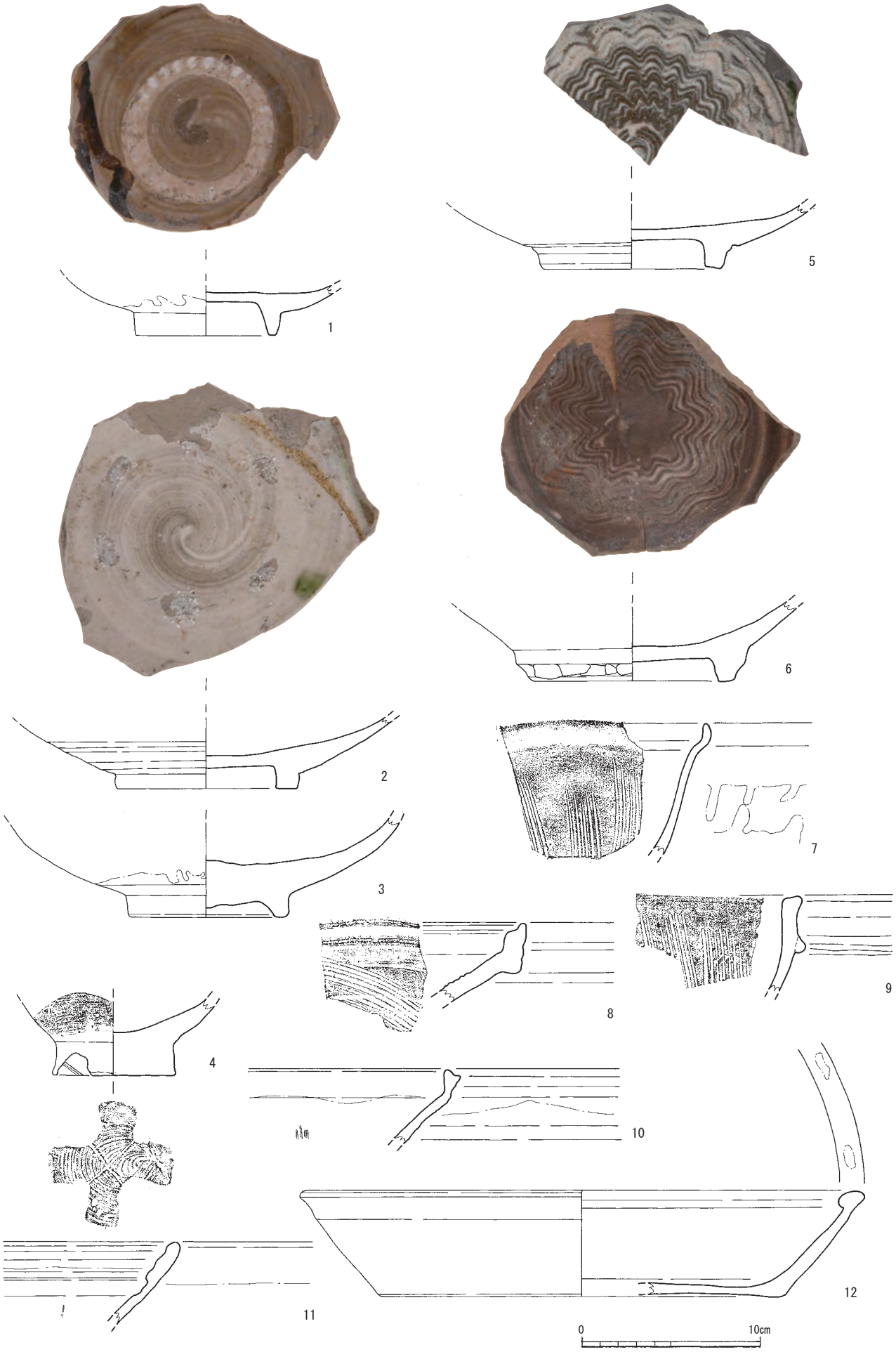
63 図１～７は陶器碗である。１の外面は松葉を描くか。２の内面は鉄釉を施釉するが、外面は



第62図　1～4地点2面遺構検出出土遺物実測図1（1/3）



第 63 図　1～4地点2面遺構検出出土遺物実測図2（1/ 3）



第 64 図　1～4地点2面遺構検出出土遺物実測図3（1/ 3）

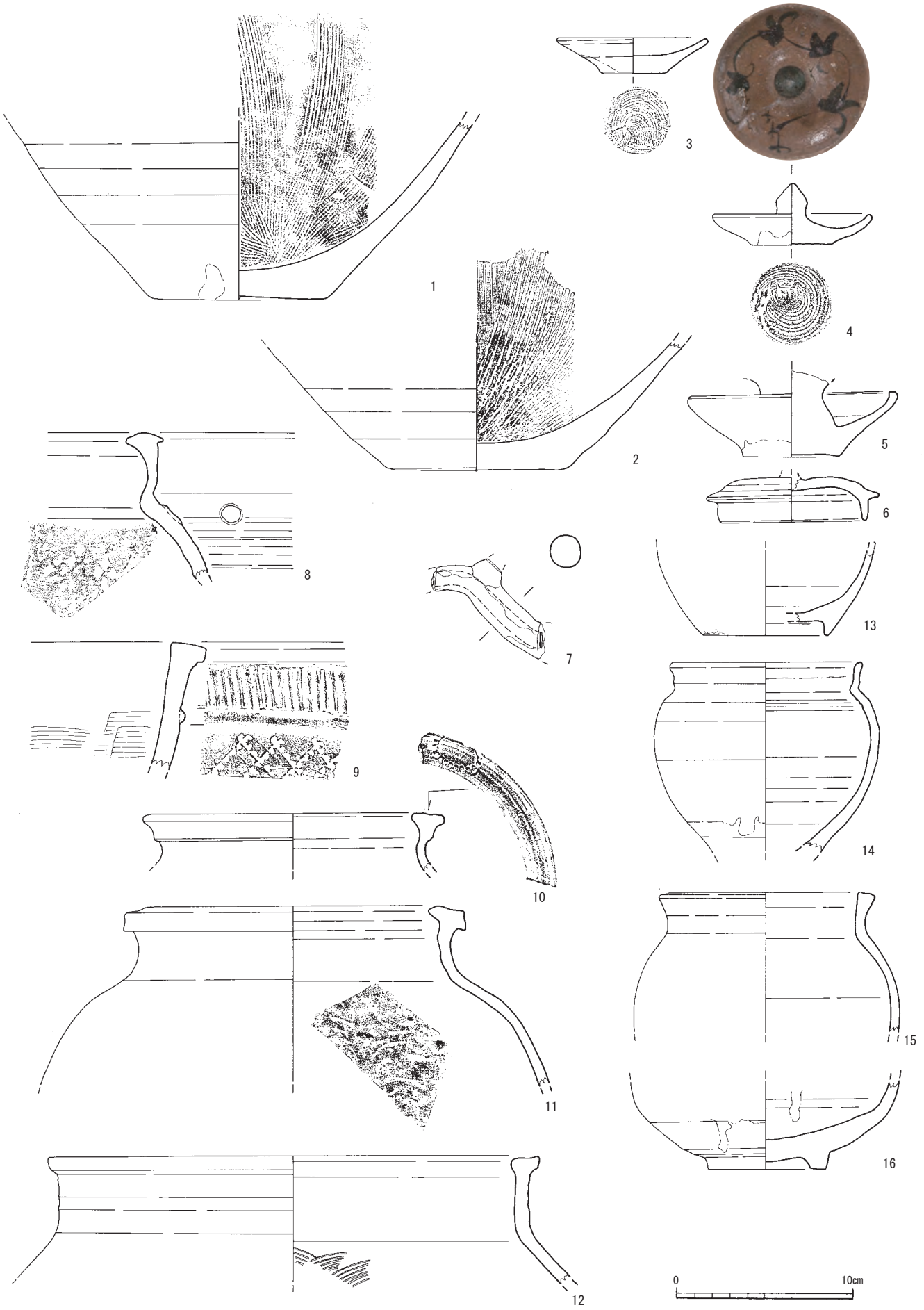
透明釉で半菊唐草文を描く。３は器形や黒茶釉から天目茶碗である。４～６は胴部下半から口縁まで直立する器形である。4 は灰釉の上に黒緑釉を施釉する。いずれも肥前系の碗片か。8 も碗である。９～ 25 は陶器皿である。９・11 の口縁は皮鯨手で輪花になる。内面や畳付に胎土目が付着するのは 9・11・14 ～ 17・21、砂目が付着するのは 12・18 である。19 のみ内面に松を描く武雄産か。20 は白化粧土を釉の上から塗る。21 の内面は草花文や唐草文の鉄絵か。22 は波状口縁である。23 ～ 25 は口縁が「く」の字に曲がる皿である。23 は内面に鉄絵がある。24・25 の内面は白化粧土で波状になる刷毛目模様である。26 は陶器の蓋である。天井部に六弁の花文があり、ここだけ施釉する。釉調は他の瀬戸産と似る。

64 図１～ 12 は陶器鉢である。１～６は底部片である。１・２は内面に松を描くか。１の内面は蛇の目釉剥ぎする。２・３は内面に砂が付着する。４の高台は「×」ヘラ記号入れた後に、切り込みを入れて高台の形状が十文字状になる。５・６の内面は波状の刷毛目模様になる。４を除いて武雄産か。７～ 11 は内面に櫛目があることから、擂鉢の口縁部片である。７・10・11 は口縁部を中心に施釉する。８は無釉で、9 は鉄釉を薄く塗る。12 の口縁部上面は露胎し、胎土目痕が付着する。

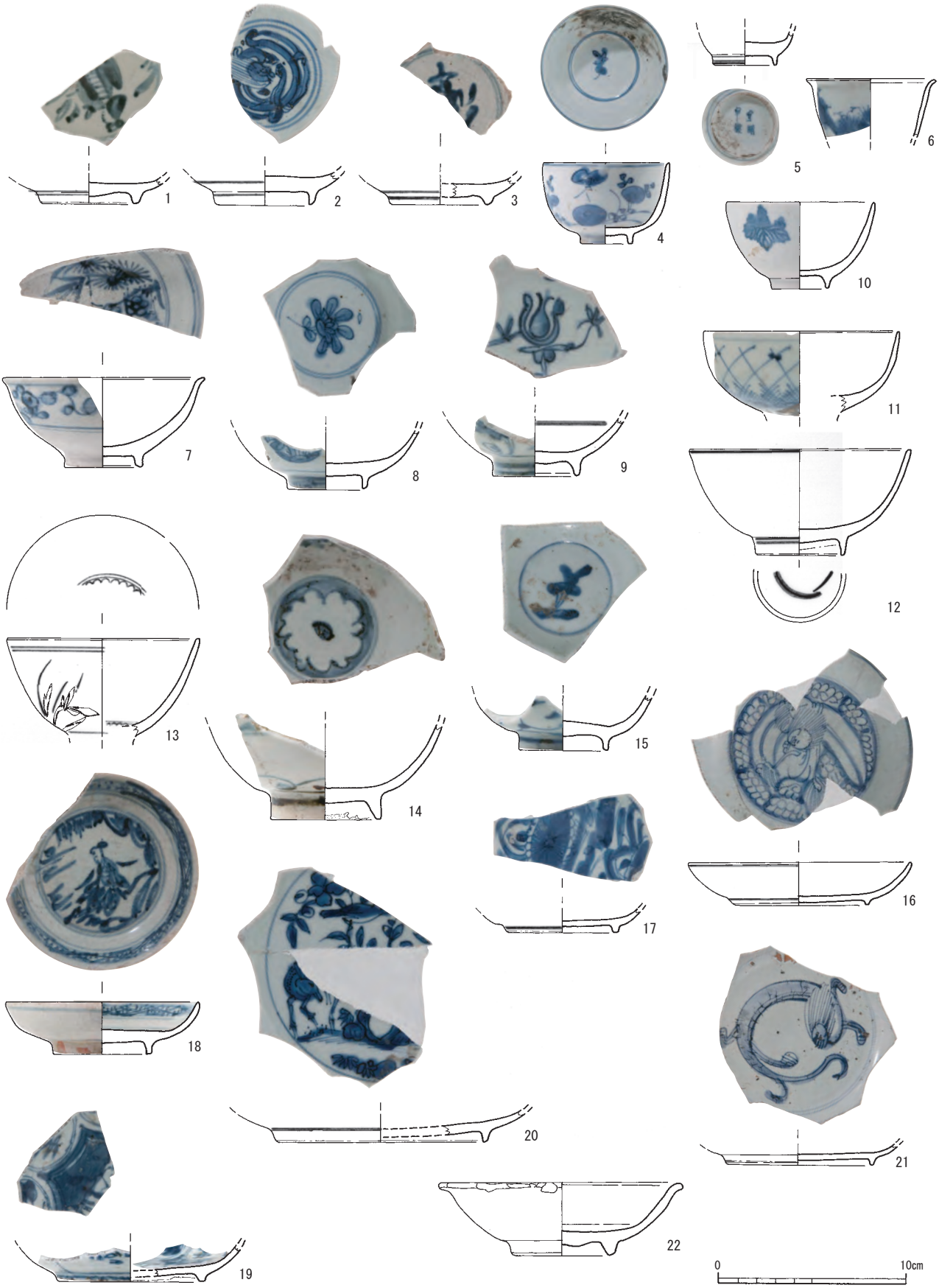
65 図１～ 15 は陶器である。１・２は擂鉢の底部片で、外底は糸切りである。３・４は小皿、５は灯明皿である。４のみ内面に鉄絵で唐草文を描く。６は土瓶蓋で、内面は露胎し、外面に薄い鉄釉を塗る。７は水差しの注ぎ口の一部で、鮮やかな緑釉を施釉する。８～ 12 は甕片である。８は口縁の釉の拭き取りをする。外面に円形の浮文が付着する。９は外面口縁下の突帯間に斜線文や格子目状のスタンプを施す。10 と 11 は甕の口縁に貝目が付着する。12 は内面肩部に同心円の叩きが残る。13 ～ 16 は壺片で、13 と 14 は胎土や釉調が似ていることから唐津産か。15 は内外面は露胎するが、釉垂れがある。壺の底部としたが、甕や鉢の底部の可能性もある。

66 図１～ 21 は磁器で肥前産と中国産が出土する。１～ 15 は小碗や碗で、畳付けは釉剥ぎや砂目が付着する。見込みは、１に草花文、２に団龍、３は文字か。４のみ完形で、見込みと外面に花卉を描く。高台内銘款は５の「宣明年製」と 12 に円が巡るのみである。６は端反する碗片で、外面は松を描く。７の見込みは松・梅、外面は圏線間に花唐草である。８の見込みは花卉、外面は草花文である。９の見込みは柘榴か。10 のみコンニャク印判の桐葉文である。13 のみ赤と黒２色で草花文を描く。14 の見込みに花で、外面は花唐草文か。15 の見込みは「天」の字にも見える花卉か。16 ～ 21 は皿である。16 の見込みに獅子と網目文を描く。内面は薄い釉で施釉し、他の物とは異なる。これ以外にも同じ個体片がある。見込みは 17 に菊、18 は人物と風景と内面口縁下は四方襷である。19 は砂が多く付着する。20 の見込みは鹿や鳥、草花文、高台内銘款も僅かに残るが判別はできない。21 の見込みは団龍か。22 は嘴状に外へ延びる口縁端部の白磁の皿である。口縁部は切り込みを入れて、輪花状になる。

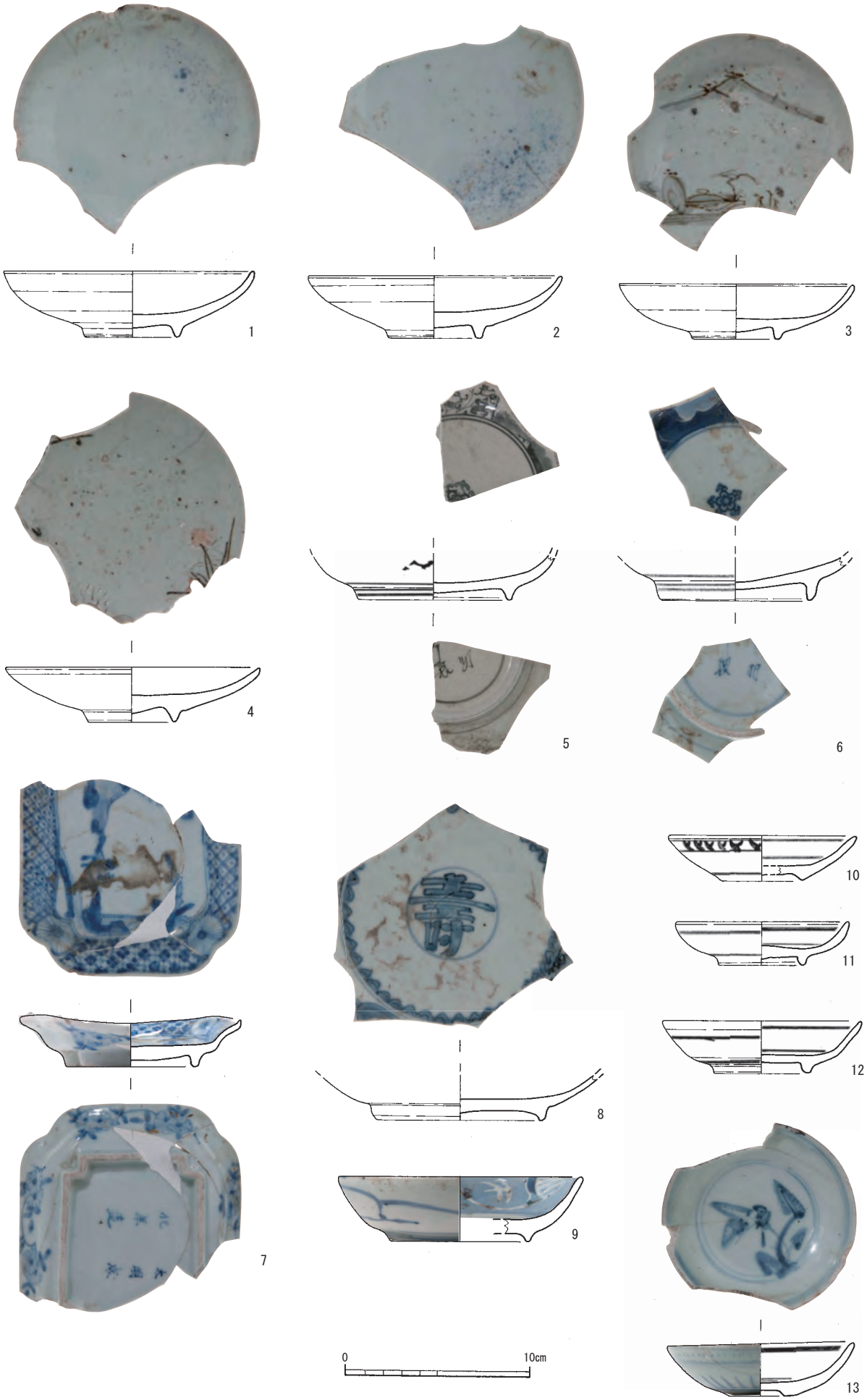
67 図１～ 13 は磁器皿である。１～４は口径 13 ～ 14cmと外に口が開くに対して、高台径５cm前後と狭い。１・２は内面に吹墨、３は見込みに山･網干などの風景、４は竹か、文様はほとんど残っていない。いずれも伊万里産か。５・６は見込みに五弁花文、７は角皿で、見込みに風景、内面胴部に四方襷と隅に菊花文、外面胴部は花唐草である。17 世紀中頃か。８の見込みには胴部との境に崩れた連弧文、中央に大きく「壽」の一文字を描く。高台内銘款は５と６に「□明□製」、７は「太明成化年造」である。38 図の８と同一の別個体になる。９は染付した後に、彫り込んで文様を作る。10 ～ 12 は内外面に圏線が巡る漳洲窯産で、見込みは釉剥ぎするが、11・12 のみ蛇の目釉剥ぎであ



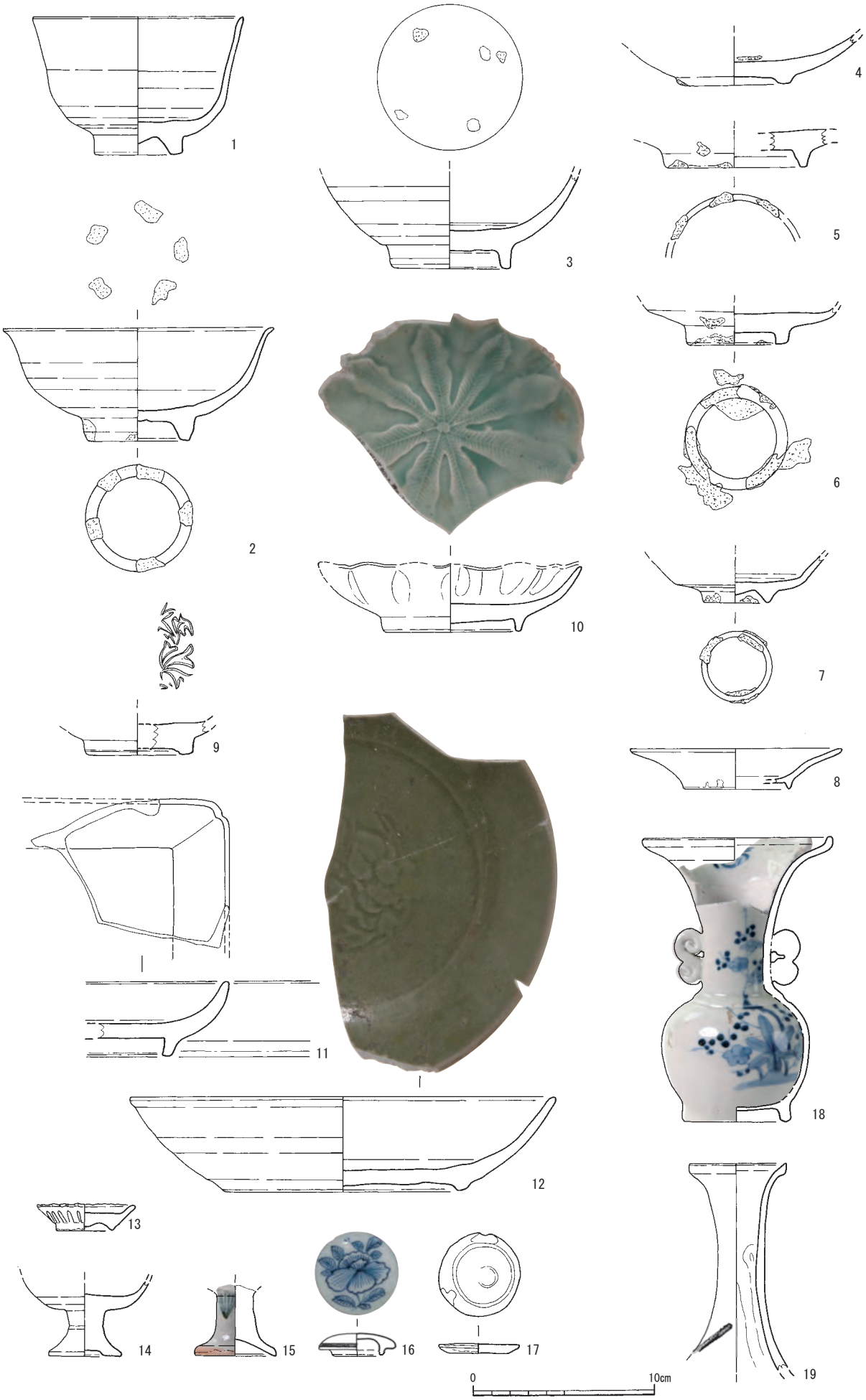
第65図　1～4地点2面遺構検出出土遺物実測図4（1/3）



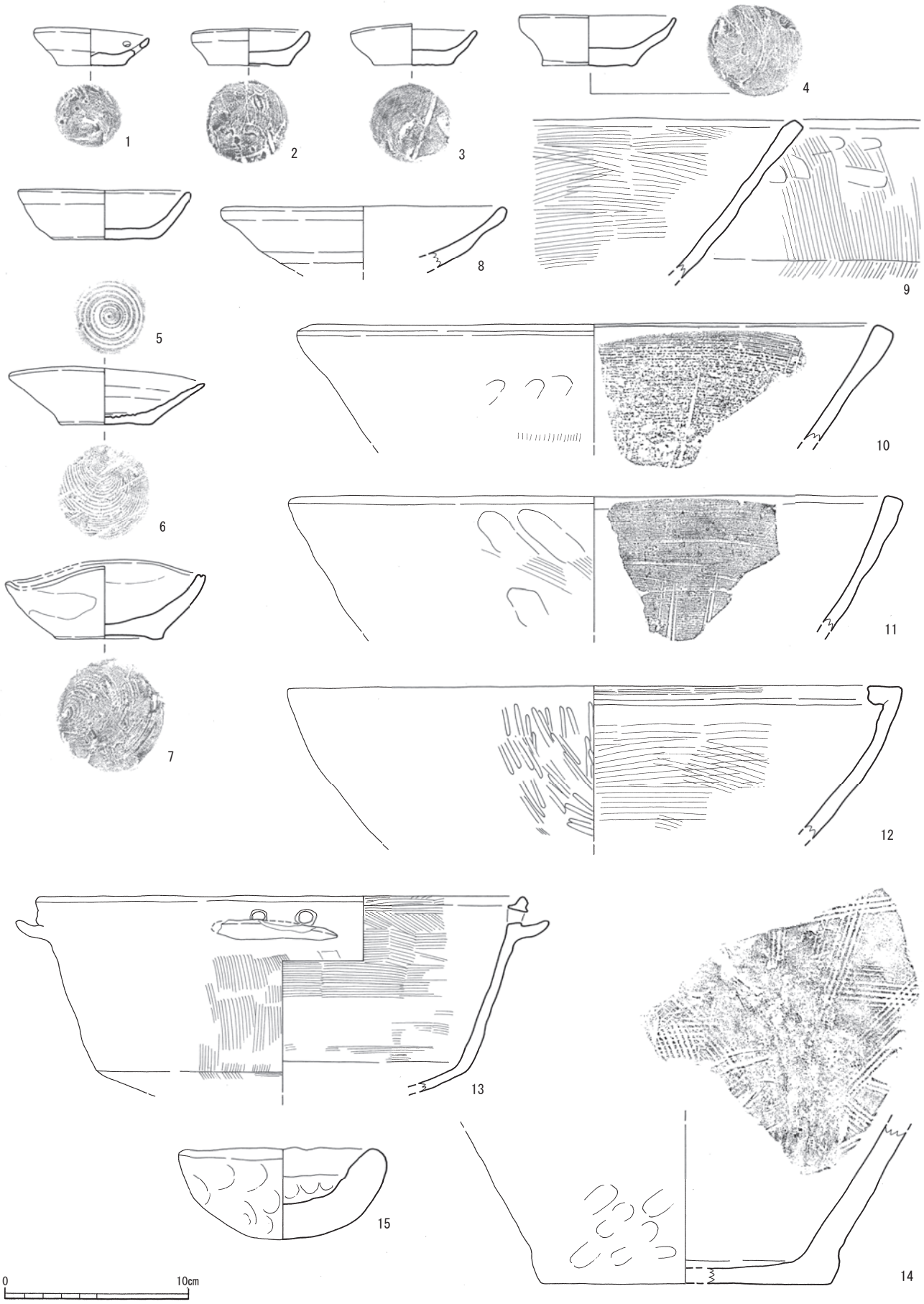
第 66 図　1～4地点2面遺構検出出土遺物実測図5（1/ 3）



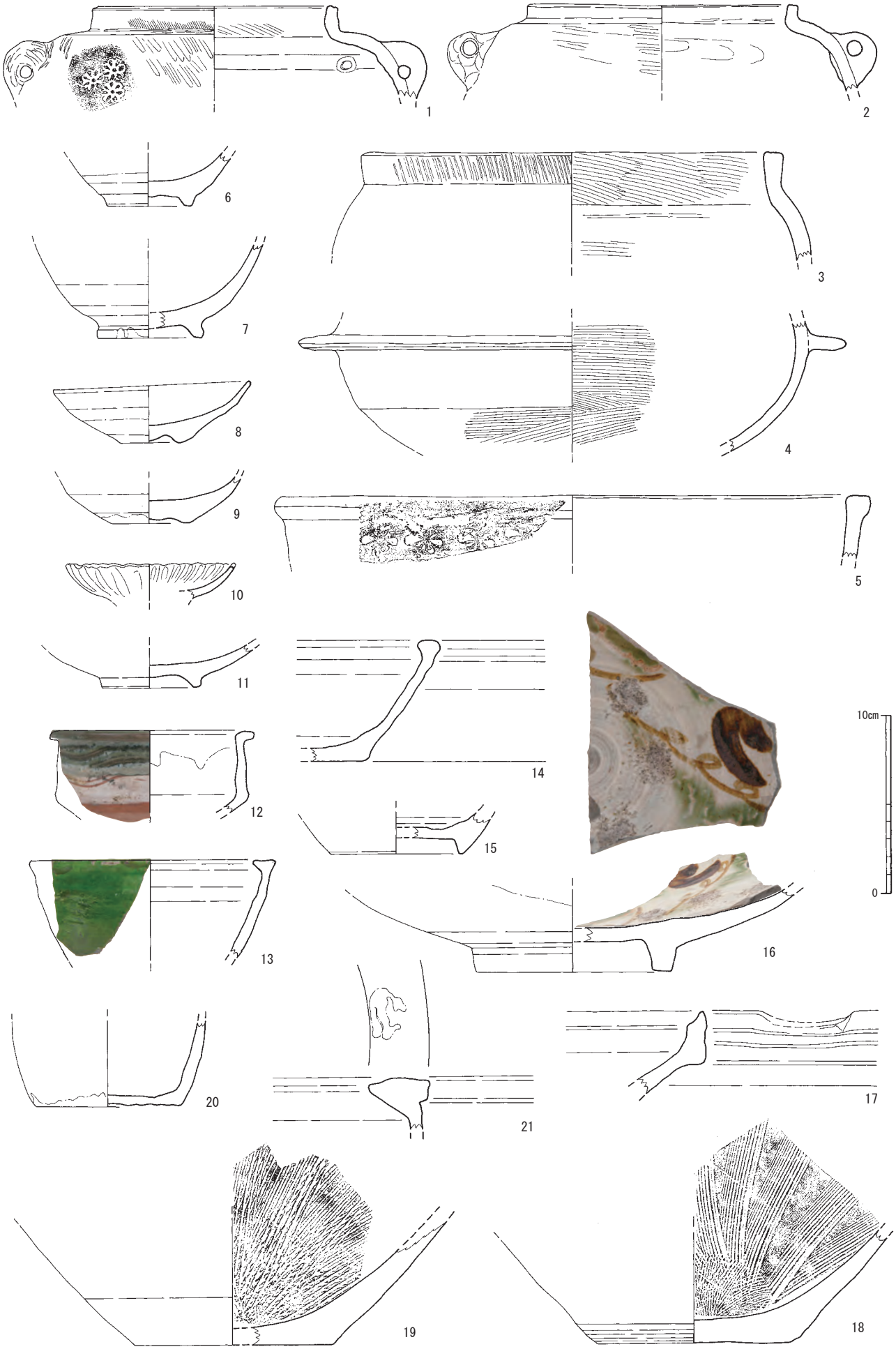
第 67 図　1～4地点2面遺構検出出土遺物実測図6（1/ 3）



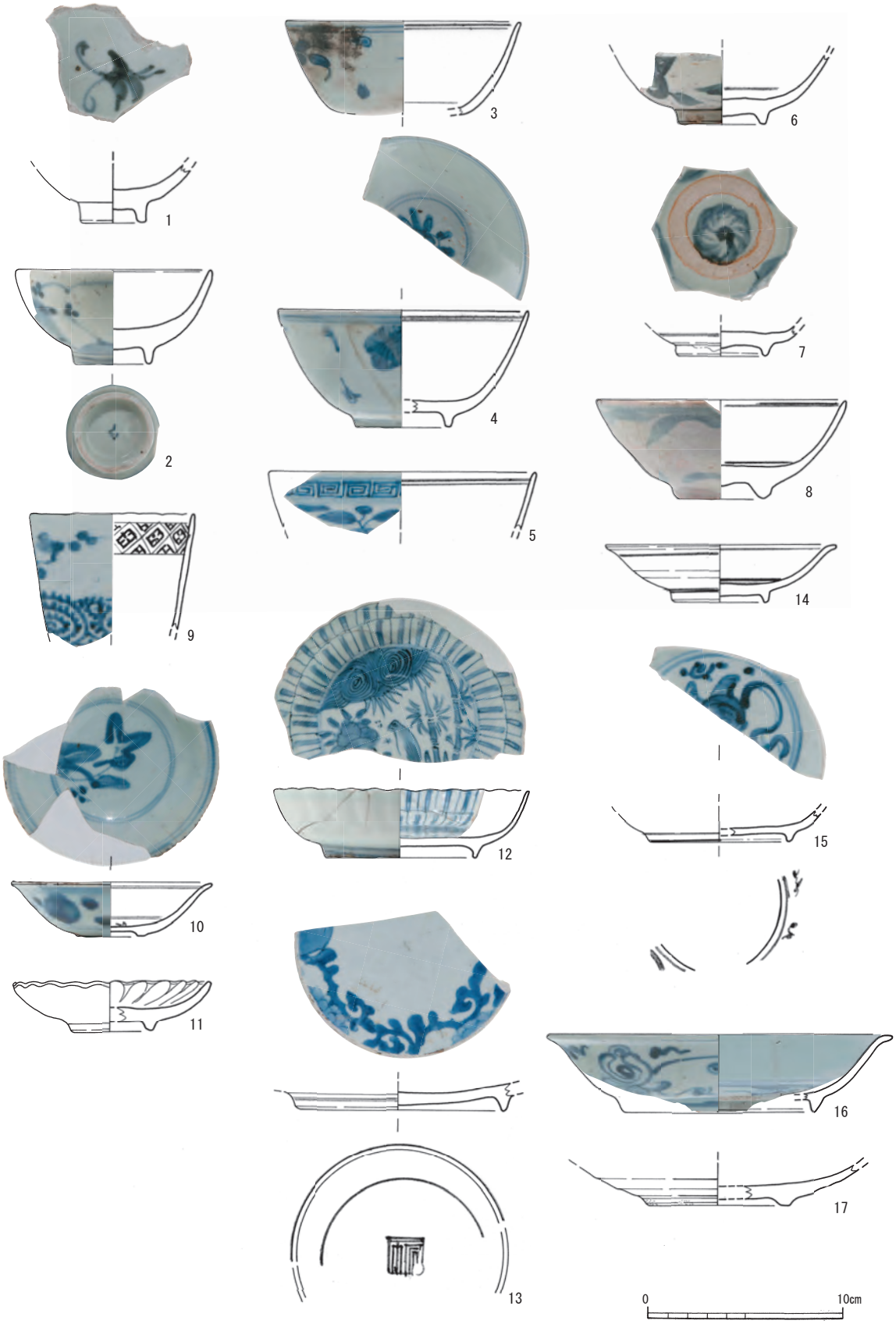
第 68 図　1～4地点2面遺構検出出土遺物実測図7（1/ 3）



第69図　1～4地点3面遺構検出出土遺物実測図1（1/ 3）



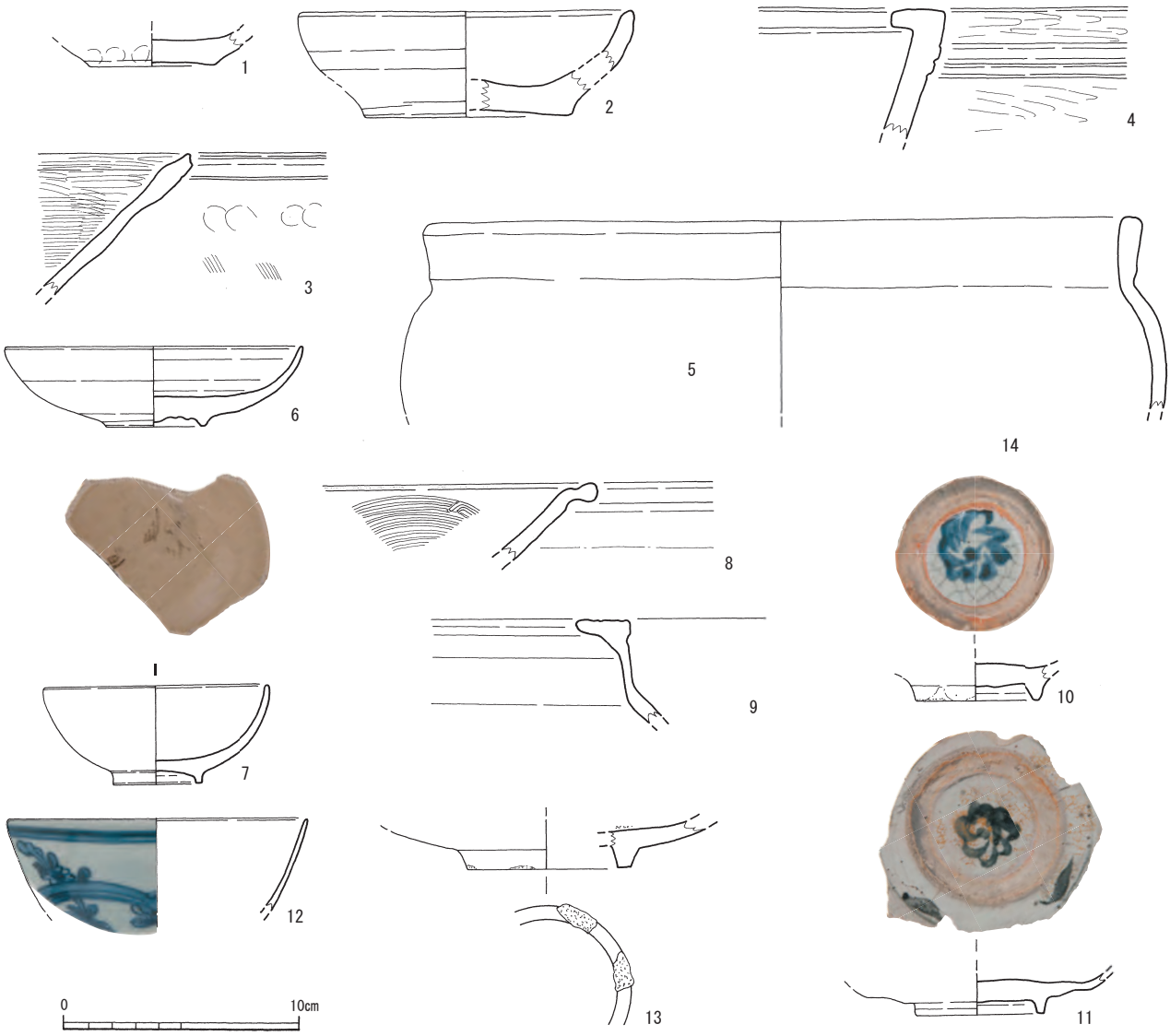
第 70 図　1～4地点3面遺構検出出土遺物実測図2（1/ 3）



第 71 図　1～4地点3面遺構検出出土遺物実測図3（1/ 3）

る。13 は碁笥底で、見込に花鳥文と圏線、外面は波濤文と芭蕉葉文と圏線を描く。

68 図１～８は白磁碗である。１・３～７は見込みや畳付に、胎土目が付着する。２の内外面は



第 72 図　1～4地点4面遺構検出出土遺物実測図（1/ 3）

釉は薄く、無文である。見込みには胎土目の痕跡が残る。６・７は他よりも青磁に近い釉調である。８は小皿で、無文である。９～ 12 は青磁碗・皿である。９は見込みに花文を櫛書きする。龍泉窯系青磁碗の高台か。10 は型押し成型の輪花皿で、見込みに８枚の葉である。11 は無文の方形皿で、口縁端部に口銹する。12 は蛇の目高台の皿で、見込みには大きな花文を櫛書きする。13 は磁器での菊花皿である。14 と 15 は仏飯器である。14 は無文、15 は磁器で脚部に描かれたのは連弁か。16 は磁器の合子蓋で、天井に牡丹を描く。17 は磁器製の竈道具のハマで、天井は露胎し、接地痕がある。18 と 19 は磁器の瓶である。18 は盤口形で内面口縁下にも文様あるが不明である。外面は梅や竹を２ヶ所に描く。19 の内面は露胎するが、釉垂れがある。外面の文様は、僅かにしかなく不明である。

69 図～ 71 図は３面遺構検出出土である。

69 図１～７は土師器小皿や皿である。いずれも内外面はナデ、外底は糸切りである。１のみ胴部に２ヶ所穿孔されている。４・６・７は歪みが大きく左右非対称になっている。６は内底中央にに同心円状に残る。８は底部を欠損する皿の口縁部片である。９～ 14 は瓦質土器の鉢・鍋片で、いずれも調整は刷毛目やナデを施す。10・11 は内面に櫛目があるので、擂鉢か。12 は口縁部が逆「L」字状になる火鉢片か。外面はミガキを施し、丁寧に仕上げている。13 は把手部分に穿孔が２ヶ

所ある耳鍋片である。７・９・13・14は外面に煤が付着している。15は手づくね状に作られた坩堝である。内外面には指頭圧痕が明瞭に残り、外面には被熱痕跡もある。

70図１～４は瓦質土器の湯釜片である。１・２は外面はミガキを施し丁寧に仕上げる。１のみ外面に六弁花のスタンプがつく。３も湯釜片で、内外面に刷毛目が明瞭に残る。４は胴部片で、煤が付着する。５は瓦質土器火鉢片で、外面に１と同様なスタンプがつく。６～11は陶器の碗と皿である。６～９は器形などから唐津産の碗である。９は高台内と畳付に多量の砂が付着する。11は京焼風の皿で、11の見込みと畳付に砂目が付着する。10の口縁は輪花形になる皿で、菊花状の皿である。12は火入れで、内外面の口縁部付近に白化粧土を塗り、その上に銅緑釉を施釉する。外面口縁下は波状の刷毛目模様である。13～19は鉢である。13は濃い緑釉から源内焼か。14は鉄釉と銅緑釉を２種類を施釉する。15は内外面で別々の釉を施釉する。16は白化粧土の上に透明釉を施釉する。見込みは銅緑釉と鉄釉で松を描くか。17は口縁部片で、薄い釉を内外面に施釉する片口の擂鉢か。18と19は底部片である。20の外面は白化粧土の上に透明釉を施釉する。21は甕の口縁部片で、上面に貝目が付着する。

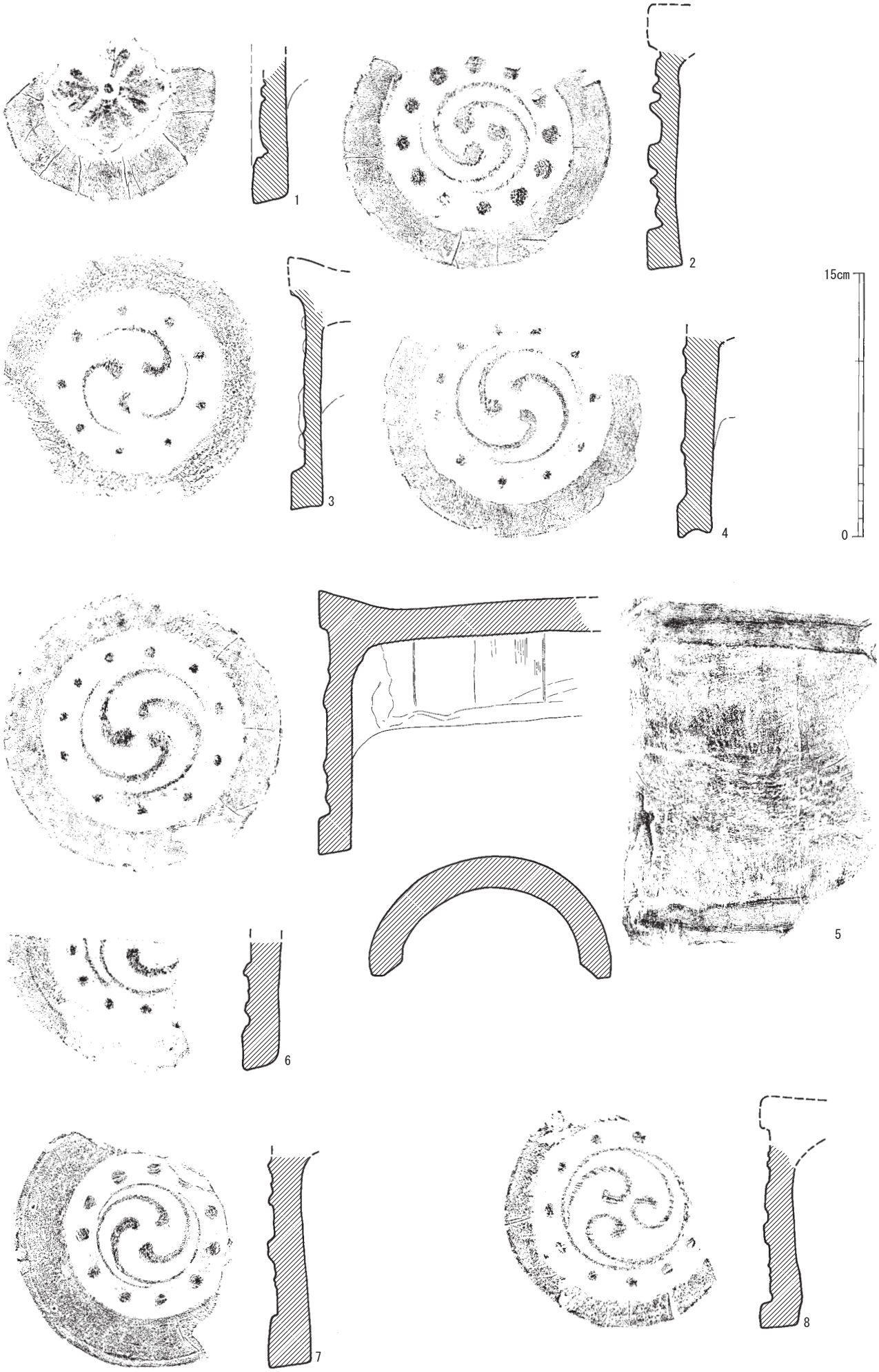
71図１～９は磁器碗である。主に草花文や圏線を描くが、１は見込みに蝶か。２の外面は草花文で、高台内銘款は判別しにくいが記号か。３の外面は草花文か。５の外面口縁下に雷文と草花文か。６も外面は草花文か。７の見込みは蛇の目釉剥ぎし、中央に菊花文を描く。８の外面は笹か。９は猪口片で、外面は蛸唐草文と梅花文、内面は四方襷を描く。10～17は皿である。10は16世紀中～後半頃の漳洲窯産の皿で、見込みに花鳥文、外面は波濤文と芭蕉文を描く。11はを菊花皿である。12も輪花状で、見込みに鳥・竹・花、その周囲を二重に菊弁を描くか。高台際には渦と圏線を描く。13は見込みに唐草文、高台内銘款に圏線と「析」の篆諸体の変形文字か。14の見込みを釉剥ぎする。15の見込みは獅子か。16は見込みに僅かに文様あるが、判別できない。外面は唐草文と圏線である。17は白磁皿で見込みと畳付に砂目が付着する。

72図は４面遺構検出出土である。１・２は土師器皿である。１は底部片、２は口縁部と底部しか残存しておらず、図面上で接合している。３～５は瓦質土器で、３は鉢、４は火鉢・５は湯釜はである。６は高台は露胎し畳付に胎土目痕跡が少量残る。唐津産か。７は見込みに薄い山水文を描く京焼風の碗である。８は内面に刷毛目模様のある武雄産の鉢か。９は内外面施釉する甕片か。10・11の内面は見込み中央に花文。高台は露胎する。12の外面に唐草文。13は内面見込みと畳付に砂目が付着するあ朝鮮白磁か。

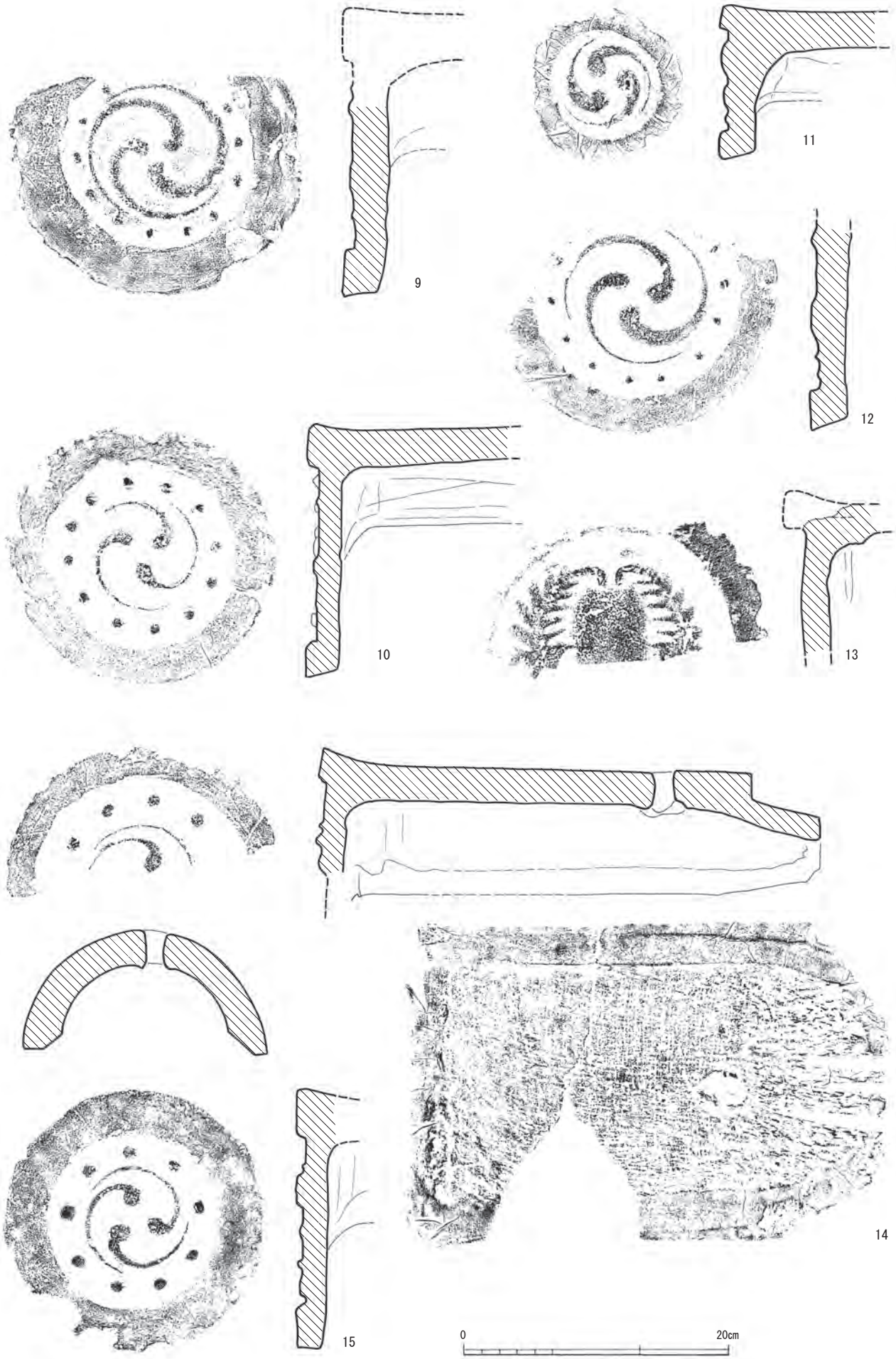
６　その他の出土遺物

瓦（第73～77図、図版40・41）

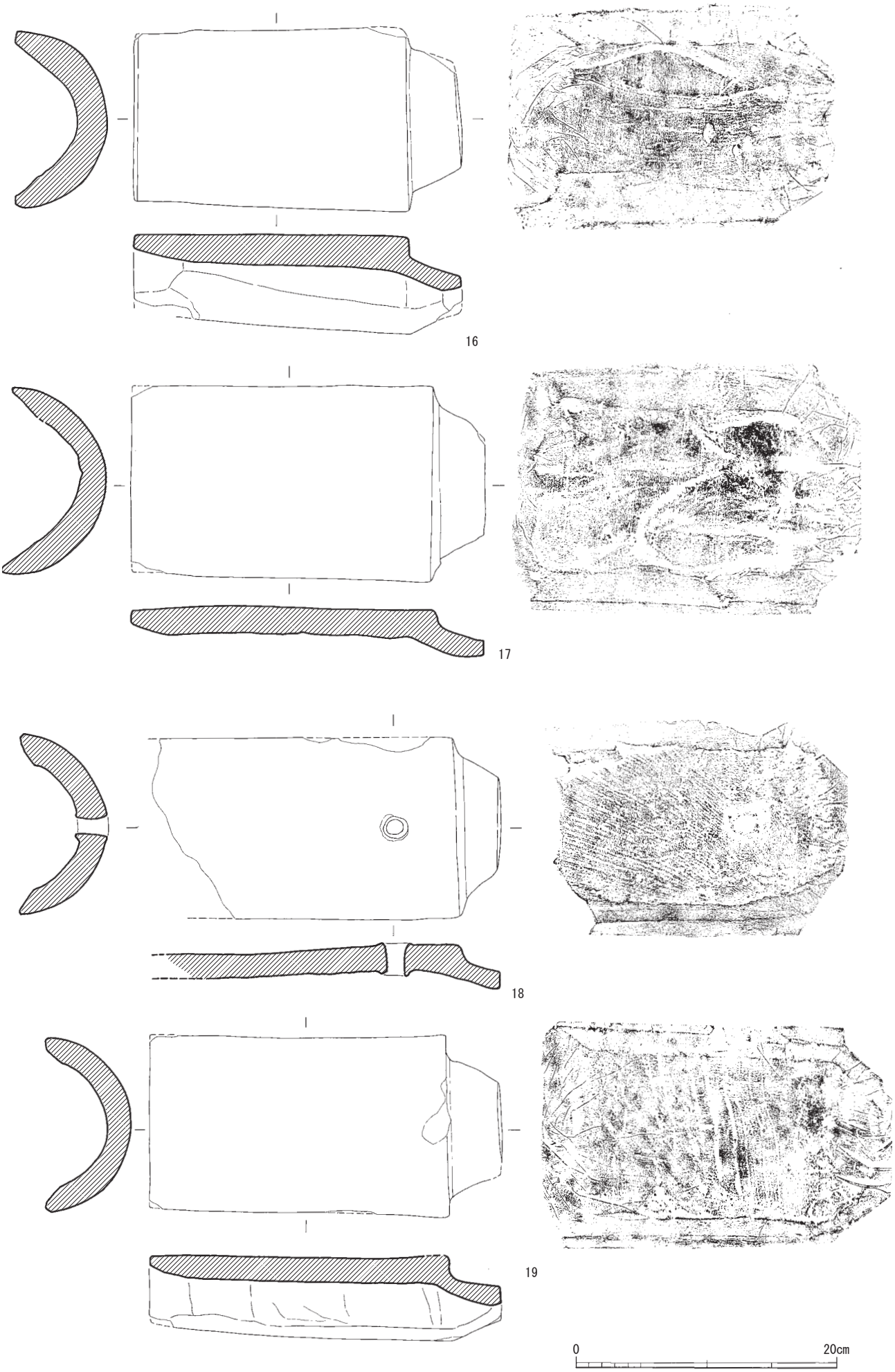
73図・74図は74図11の桟瓦以外は軒丸瓦で、75図16～19は丸瓦である。73図１は菊花文、73図２～８・74図９～12・14・15は巴文である。13のみ家紋瓦で、上り藤である。調整は基本的に凹凸面はナデであるが、５・10・14の凹面は布目や板ナデなどである。14・18のみ１ヶ所釘穴がある。16・17の内面は凹面に布目と吊紐、凸面はナデ、側端部はケズリである。17・19の凹面には鉄線の痕跡がある。



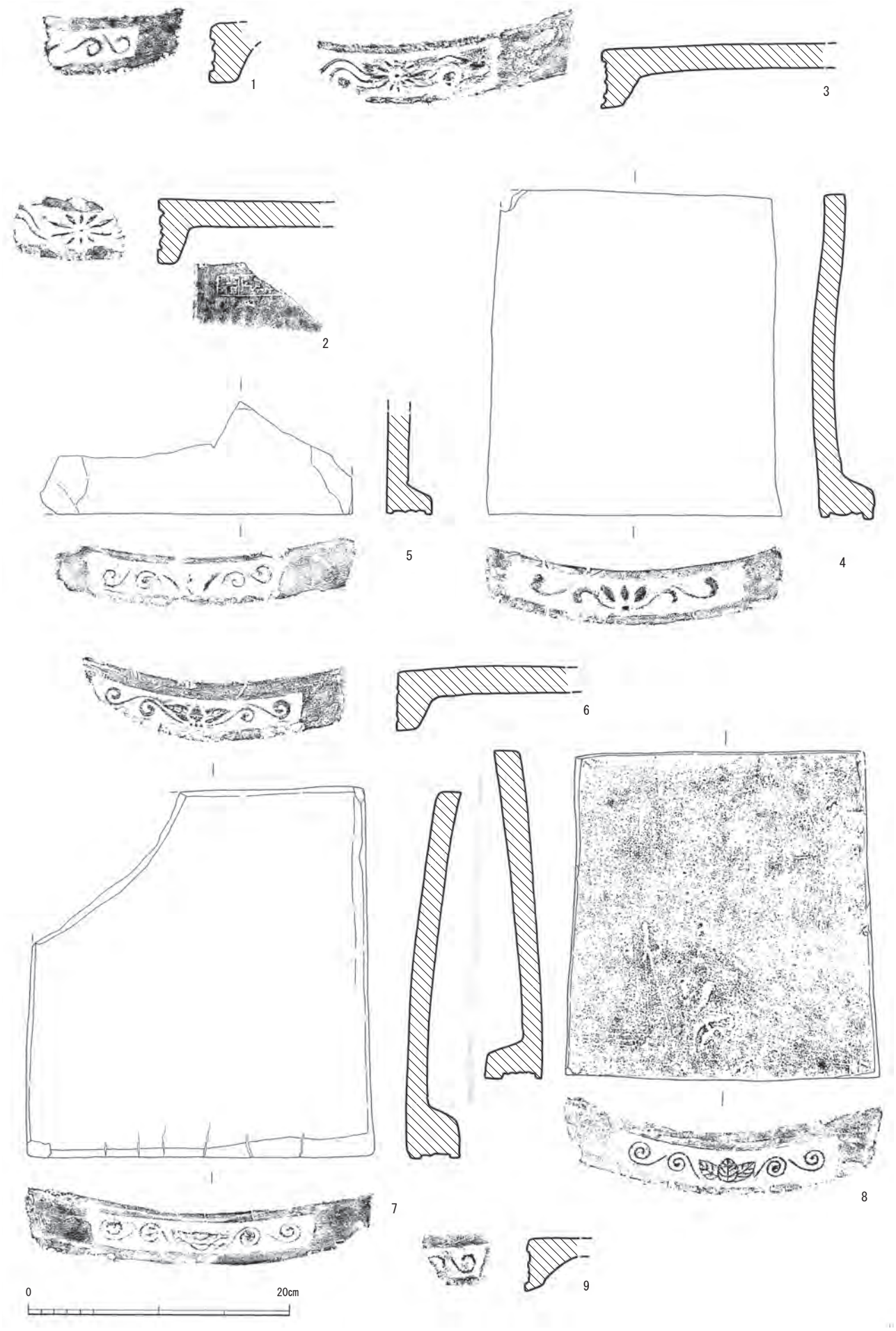
第 73 図　軒丸瓦実測図1（1/ 3）



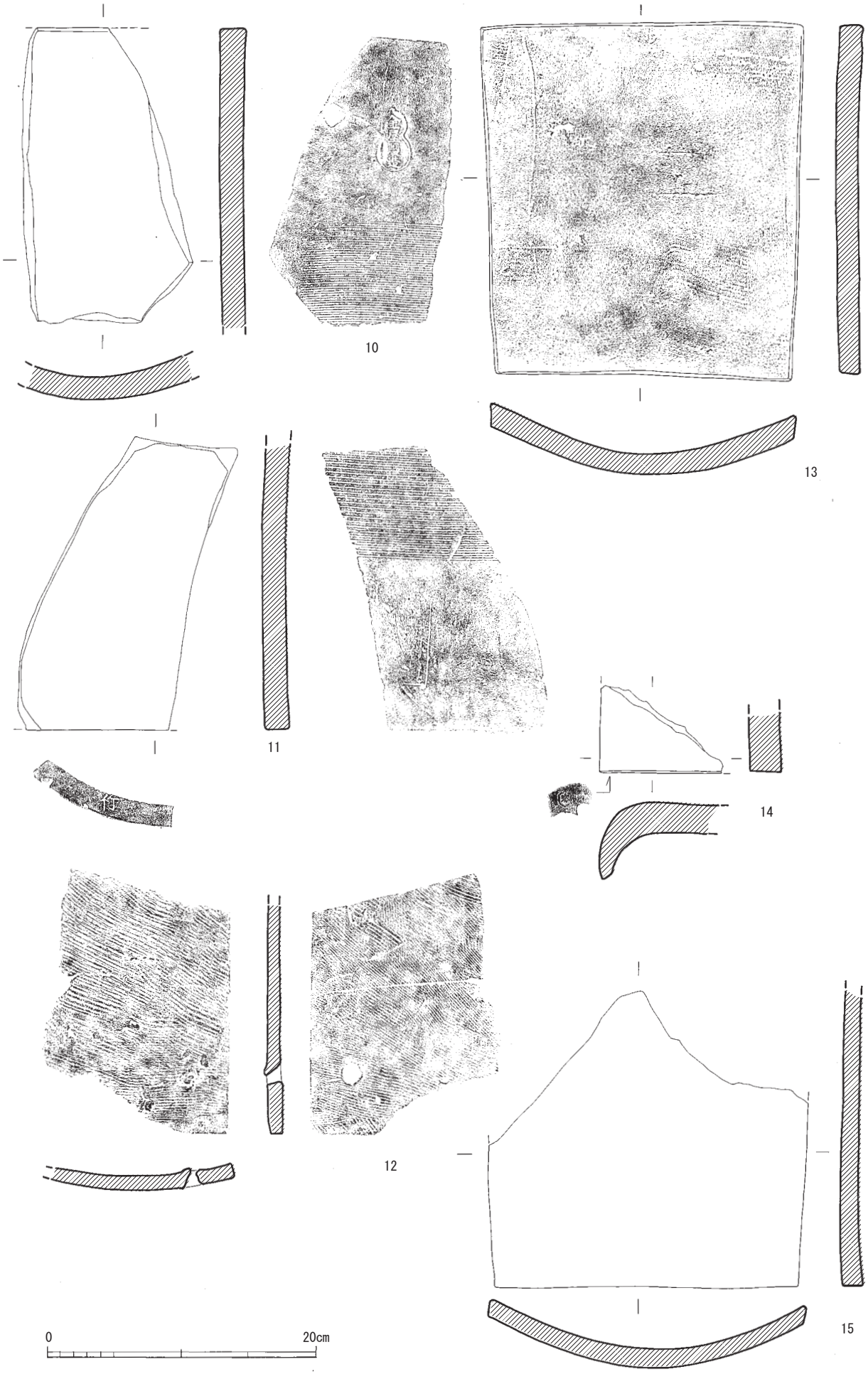
第 74 図　軒丸瓦実測図2（1/ 3）



第75図　丸瓦実測図（1/3）

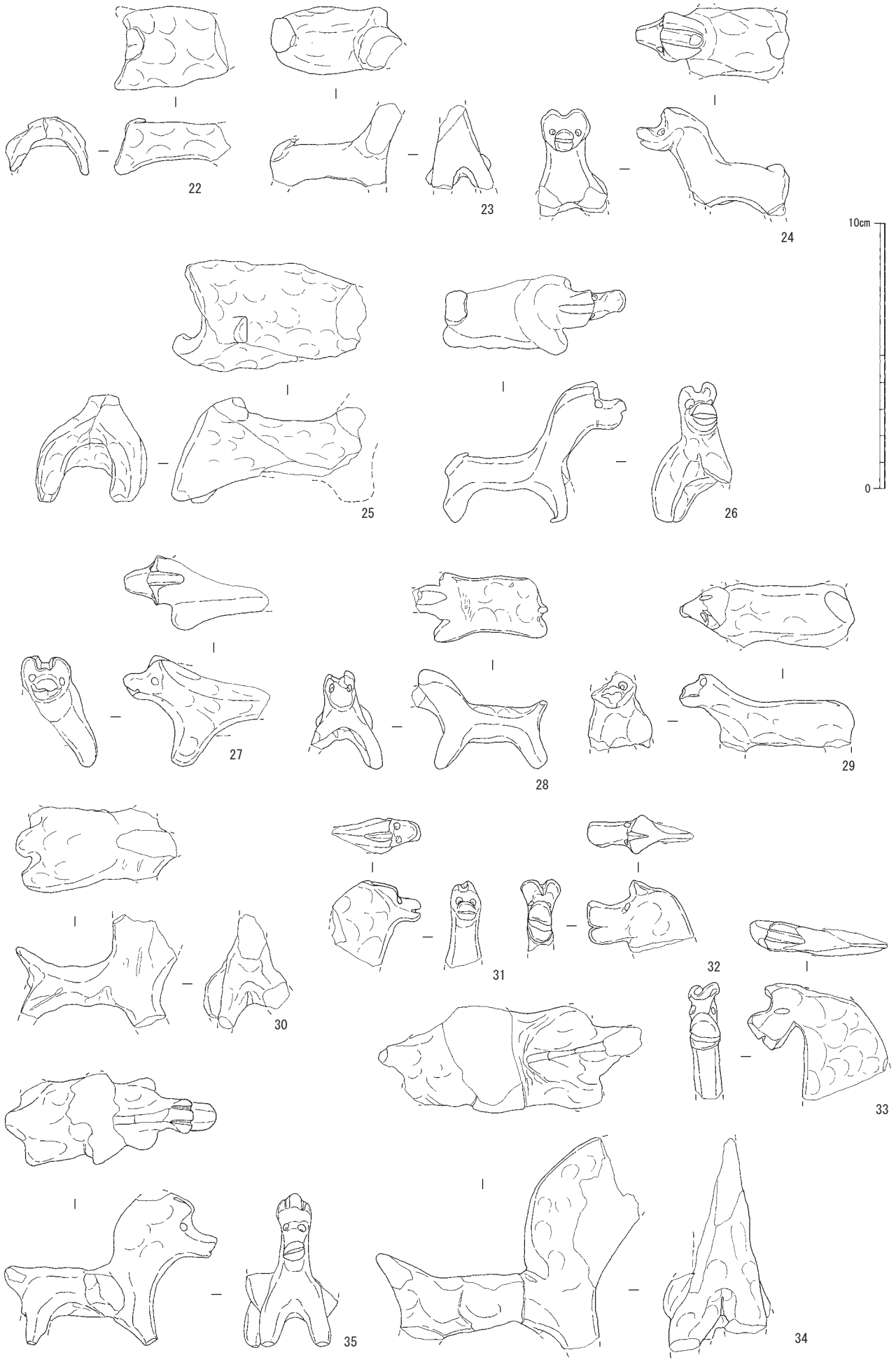


第 76 図　軒平瓦実測図（1/ 4）

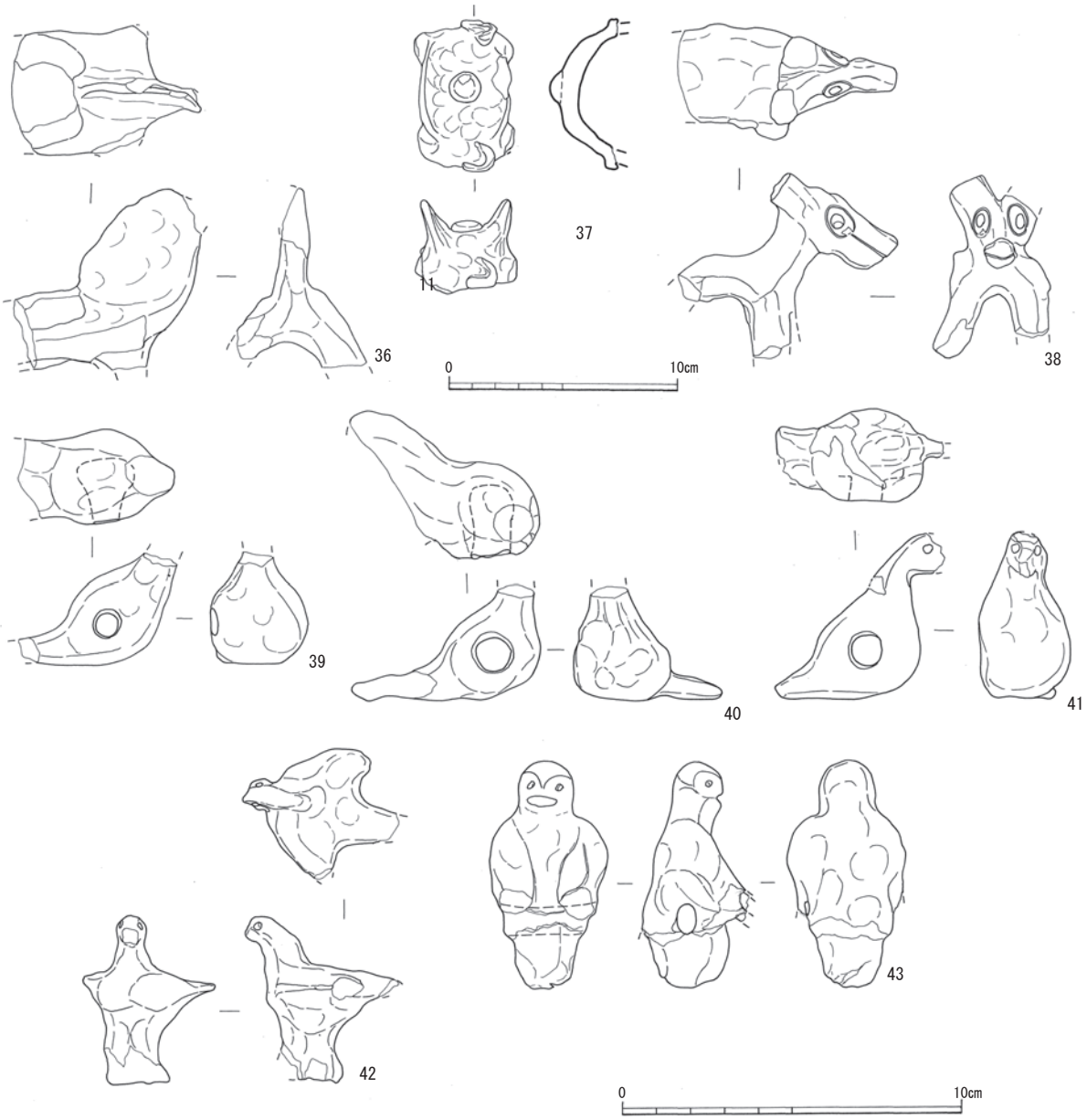


第 77 図　平瓦実測図（1/ 4）

第 78 図　土製品実測図1（1/ 2）



第 79 図　土製品実測図2（1/ 2）



第 80 図　土製品実測図3（1/ 2、36・37 は1/ 3）

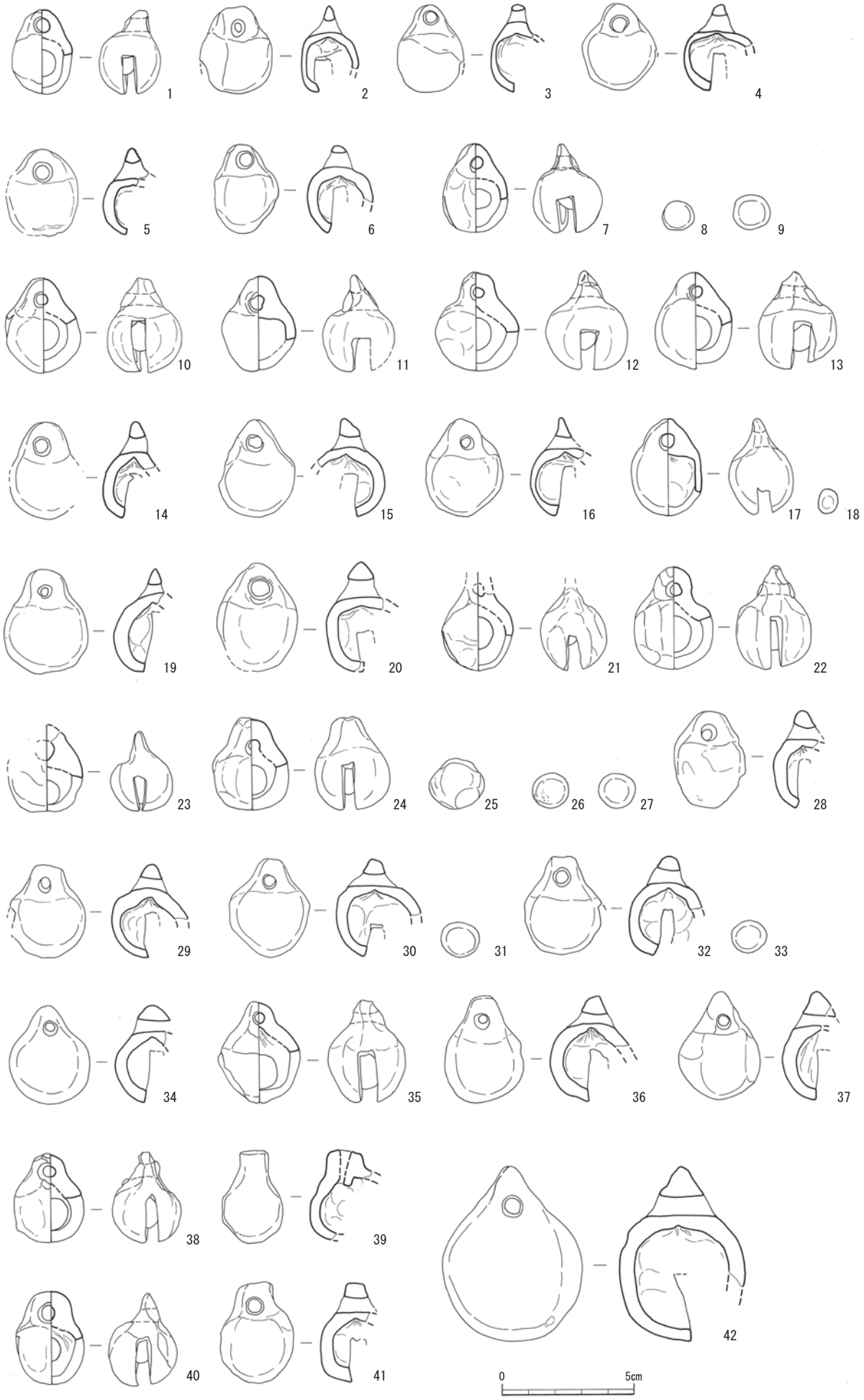
76 図１～７は軒丸瓦である。１・９は端部しか残存しておらず、唐草文のみである。中心飾は２・３は菊花、４・５・７は三葉、６は宝珠である。２は全体的に剥離する。３は凸面にスタンプがあり、「□下河」で、最初の一字は判読できない。４は唯一還元されておらず、橙褐色に焼成されている。５・７は板ナデ調整された完形に近い瓦で、７・８は７号溝から出土した。

77 図は平瓦である。12･13 の瓦は明治以降のものだが､10 の凸面には｢金屋製造｣､11 の凸面には、判読しづらい｢□下河□□｣と側面に｢竹｣のスタンプがあるので掲載した。12 は凹凸面に刷毛目で、穿孔１ヶ所ある。13・15 は平瓦である。14 のみ桟瓦の一部か。側面に「本」のスタンプがある。

土製品（第 78 ～ 81 図、図版 42・43）

78 図１は土玉で、中央の孔は貫通していない。２・３は土製模造鏡か。２は中央に持ち手状の凹みがあるが、３は凹みがない。４は円形の盤である。５～７は土錘である。７のみ幅広である。

78 図８～ 20 は人形の土製品である。８は底部から背中にかけて孔が穿たれていることから灯芯



第 81 図　土製品実測図4（1/ 2）

押である。磁器であるが、人物の顔の部分に鉄釉、帽子部分は銅緑釉がかけられている。17 世紀中頃。９は磁器製の人形の頭部片である。10 ～ 20・22 ～ 43 は土製である。10 は仏像片で、首から上は欠損する。11 は武人の脚部片である。12･13 は人形の頭部片である。12 は内部は空洞である。13 は薄い釉を施釉され、黄灰色になる。14 ～ 19 も土人形で、指頭圧痕が明瞭に残る。14 は一部欠損する烏帽子付人形である。15 は 14 に形状が似る頭部、腕を欠損する。16 ～ 18 は顔の部分に目や口に切り込みを入れた人形である。18 は側面に切り込みがある。19 は頭部と左腕を欠損する人形である。20 は頭部と脚部を欠く人形か。中央に∧状の切り込みがある。21 は陶器製で、獅子の文鎮である。顔を上に上げて､口を「へ」の字に曲げている。79 図 22 ～ 29 は土人形の犬である。22・23・25 は頭部や脚部を欠損するが、尻尾を折り曲げた形状から犬と判断した。25 は高さ 7cm と大型である。24・26 ～ 29 は頭頂部に切り込みを入れて耳、顔には２ヶ所の刺突と切り込みで目と口を表現している。30 ～ 36 は馬である。30・34・36 は頭部と脚部を欠損するが、形状から馬と判断した。31 ～ 33・35 は犬と同様に頭頂部と顔に刺突や切り込みを施す。頸部背面は細く長く作ることで、馬の鬣を表現している。犬とは異なり尻尾は真っ直ぐ後ろに伸ばす。37 は 34・36 のような大型品の鞍で、側面には鐙を表現する。38 は耳や脚部を欠損するが鼠か。大きな耳と目が特徴である。39 ～ 43 は鳥で、体部中央の片側を円形約 1cm程刳り貫く。41 のみ中に小玉が入り、鈴状になる。42 は翼を広げた鳥である。43 は枝に留まる雀も模したものか。

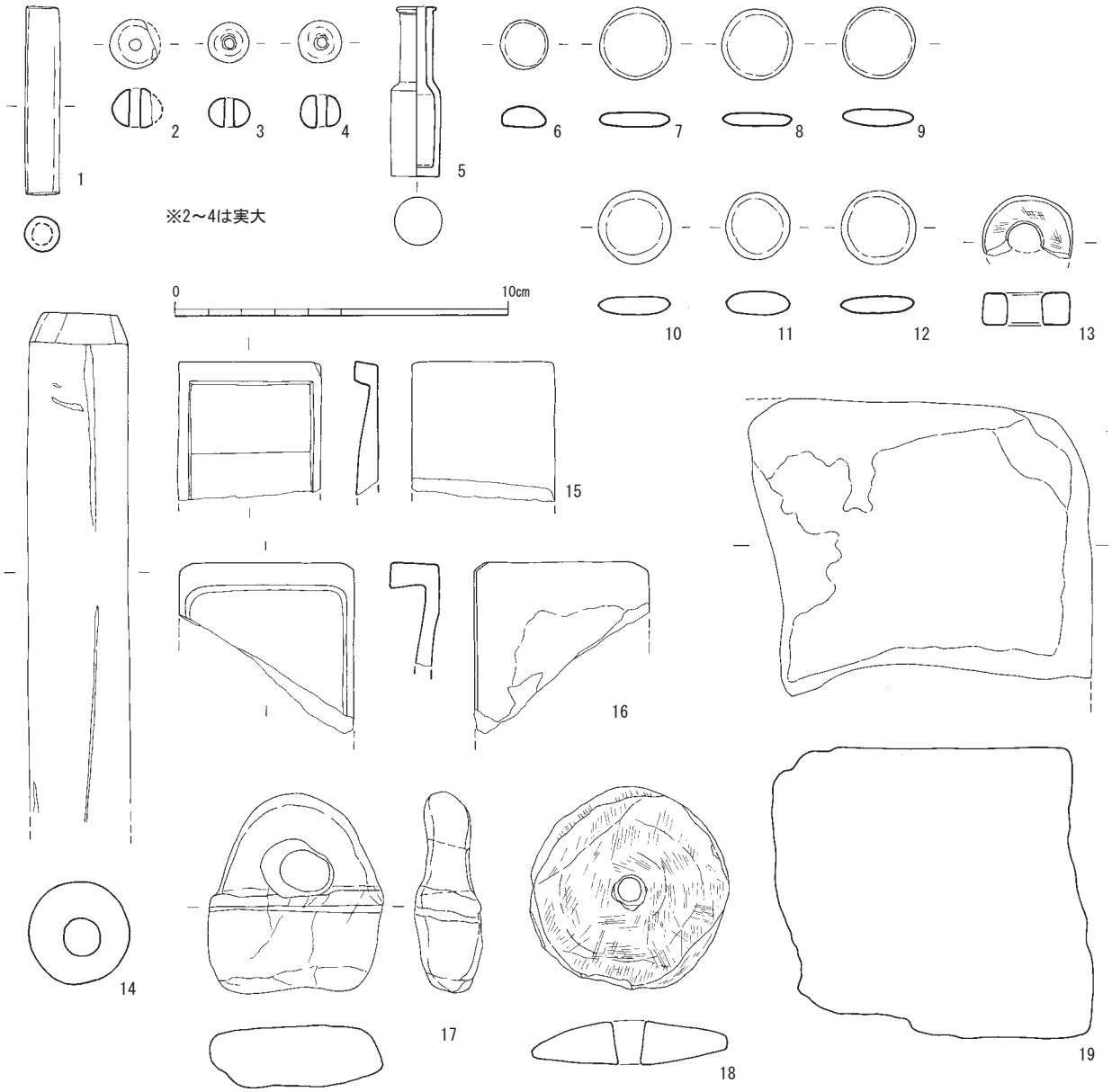
81 図１～ 42 は土鈴で、上部内面にシボリ痕が残るほど、摘み上げている。上部は両面から穿孔する。側面からみると上部の厚さでやや異なる。形状は卵形を呈し、長さ 3.1 ～ 4.1cmを測る。１・７・10・12・13・22・24・35・38・40 は完形品である。17・18、30・31、32・33 が鈴本体とそれに付属する玉である。39 は横の穿孔はなく、真上に穿孔がある。形状もやや歪で、他は異なるので土鈴ではない可能性がある。42 は長さ 6.6cmと他の土鈴とは倍程の大きさになる。25 がこの土鈴の玉であるかもしれない。なお、土鈴は３・４面からは出土していない。

骨・ガラス・石製品（第 82 ～ 87 図、図版 43 ～ 47）

82 図は１は鹿角製の管玉である。２は青色ガラス玉である。３・４は水晶製の小玉で、約 1cm程の大きさから数珠の玉か。５は平底の目薬瓶で、何も陽刻されてはいない。６は陶製の玉か。７～ 11 は変成岩､12 は花崗岩製の碁石で､７～ 11 は黒色､12 は灰色である。13･18 は滑石製の紡錘車か。18 は径 6cm程の大型である。14 は瓦質の石錘で、断面は円形で棒状になる。先端は斜めに切って磨いている。15･16 は輝緑凝灰岩製の硯、海部は 5mm、11mmと深さは異なり、16 のみ上げ底になる。17 は錠のような形の凝灰岩製石錘か。19 は金床石の石材片か、上面を使用したため黒色を呈す上面を使用したものか。

83 図１～ 19 は砥石である。１・３～７・11・13 は粘板岩製、２・８は泥岩製、９・10・12・14・16 ～ 18 は砂岩製、15 のみ石灰岩製である。１・３～９・15・17 は両面・側面を砥石として使用する。２は上面のみで、左側面は原石のままである。８は焼けて全体的に煤が付着して黒褐色を呈す。15 が最も使用された砥石で、長さ 2.5cm以下、厚さ 0.2cmと他の砥石と比べて短くそして薄い。10･18 は２面、14 は１面、16 は３面のみを使用する。10・12・14・16・18 は擦痕が明瞭に残り、粗砥石として使用されたものか。

84 図は五輪塔・宝居印塔で、１～３面の建物跡などの礎石として使用されている。１は空風輪

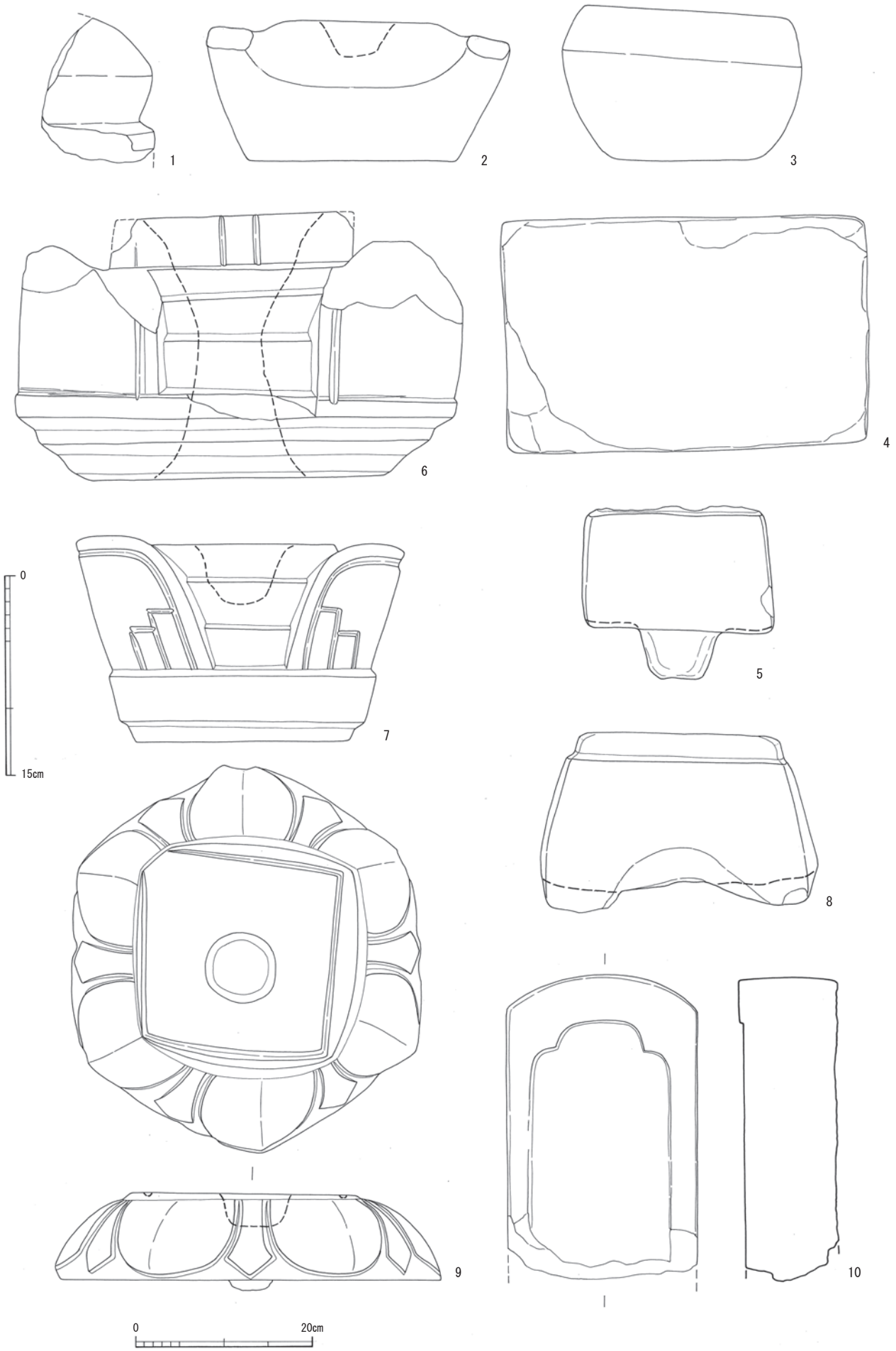


第 82 図　鹿角・ガラス・石製品実測図（1/ 1・1/ 2）

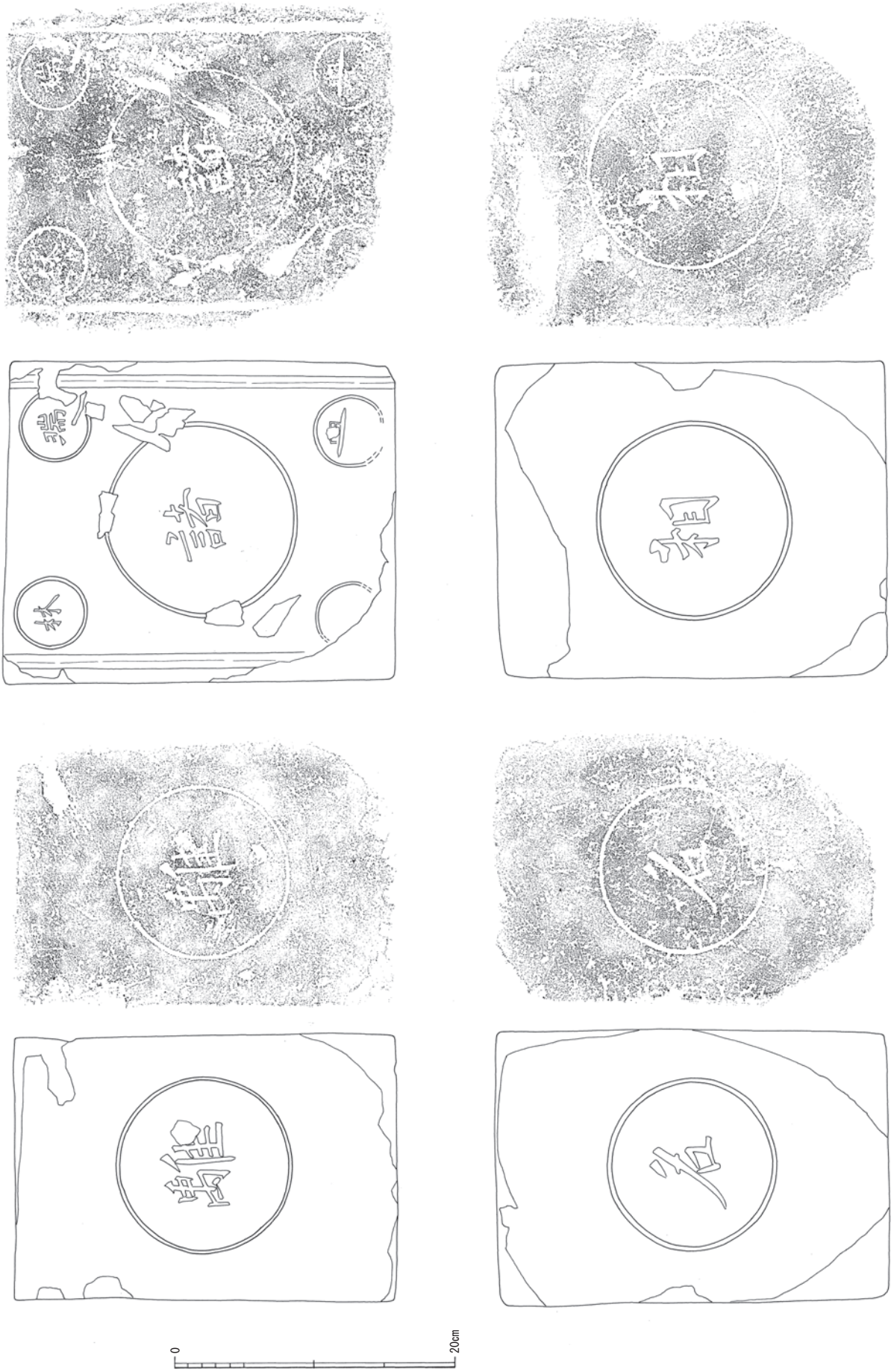
片で、1/ 3が残存する。2は火輪片、3は水輪である。3は中央に梵字が彫られていると思われるが、判別できない。4は五輪塔の地輪又は宝篋印塔の基礎である。5～9は宝篋印塔の部材である。5は相輪で、上部を欠損する。6と7は笠である。6は中央上部と隅飾りに、7は四隅に彫り込みを入れる。7は火災にあったのか、煤が全面に付着する。8は宝篋印塔の基礎である。9も石塔の基礎で、反花は幅広の単弁である。10は18世紀以降の墓石で、墓誌名はない。裏側は粗く仕上げている。6のみ凝灰岩製で、他は花崗岩製である。

85図は宝篋印塔の一部で4面の月輪に文字が彫られ、「離諸名相」と並べるものか。「諸」の面にのみ、さらに四隅に文字が彫られている。左上隅に「林」、右上隅に「瑞」だけがは判別できるが、残りの2文字は不鮮明である。石材は高さ14cm、「離・名」で幅約9.5cm、「諸・相」で幅約11cmの長方形状となる。なお、これと同様なものが、柳川市東蒲池の崇久寺にある蒲池艦盛の供養塔がある。

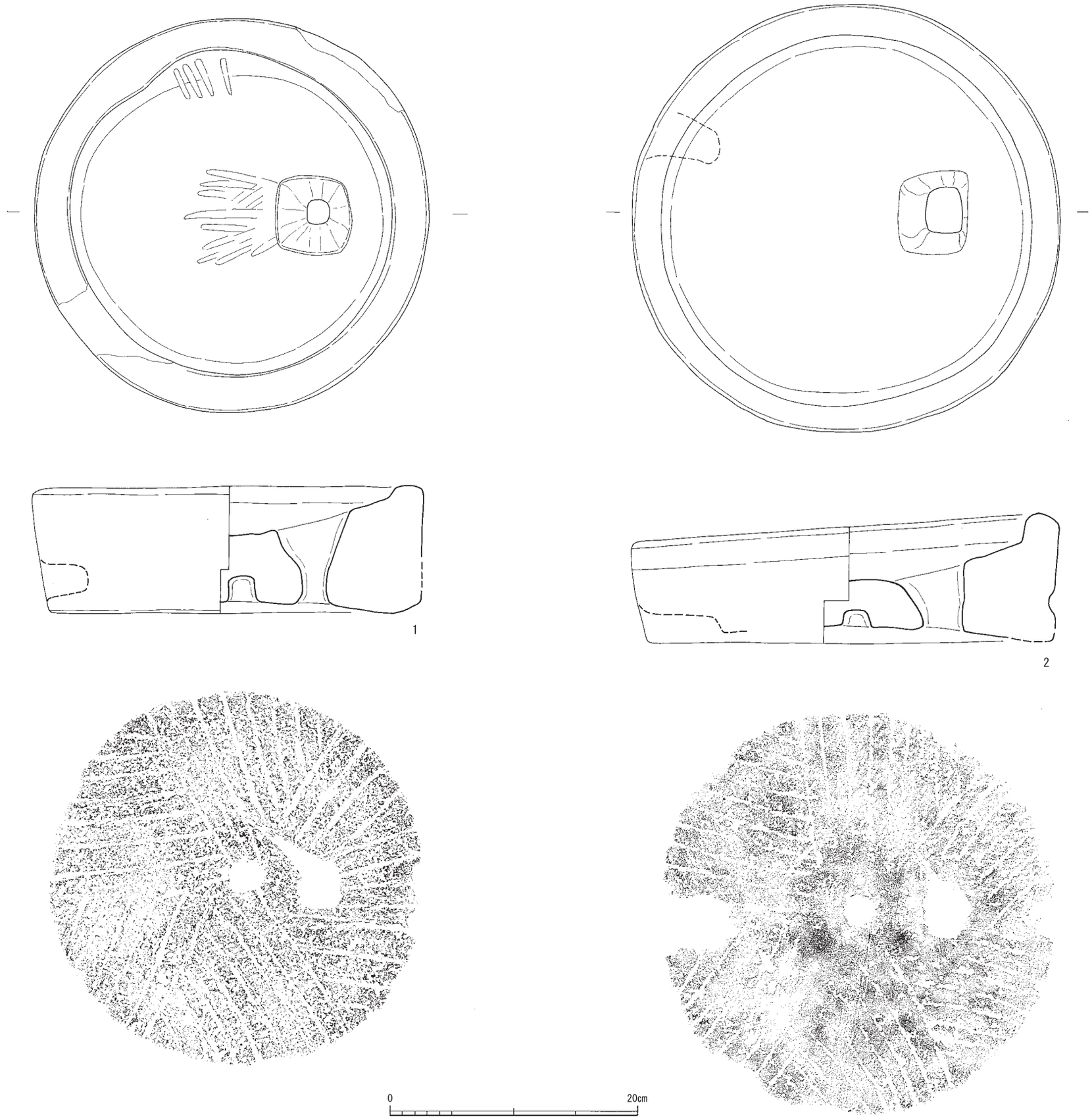
第 83 図　砥石実測図（1/ 3）



第 84 図　石塔実測図1（1/ 3、9・10 は1/ 6）



第 85 図　石塔実測図2（1/ 3）



第86図　石臼実測図１（１／４）

86・87 図は石臼で、いずれも花崗岩である。86 図１・２は石臼の上臼の完形品である。１・２の供給口は方形で区画された中に、両側から穿孔されている。また側面の挽手口も方形状で、１辺が１で約 2.5cm、２で約４cm である。２は挽手口傍に、長方形で長さ約４×５㎝、深さ２㎝の凹みがある。下面は６分画である。なお２は２地点２面で礎石として使用されたものである。87 図３・５～９も石臼の上臼片である。４のみ茶臼の上臼の受け皿片である。５は下面の主溝が残っていない。７の下面には煤が付着する。８の側面にも挽手口があり、方形で１辺約 3cm を測る。

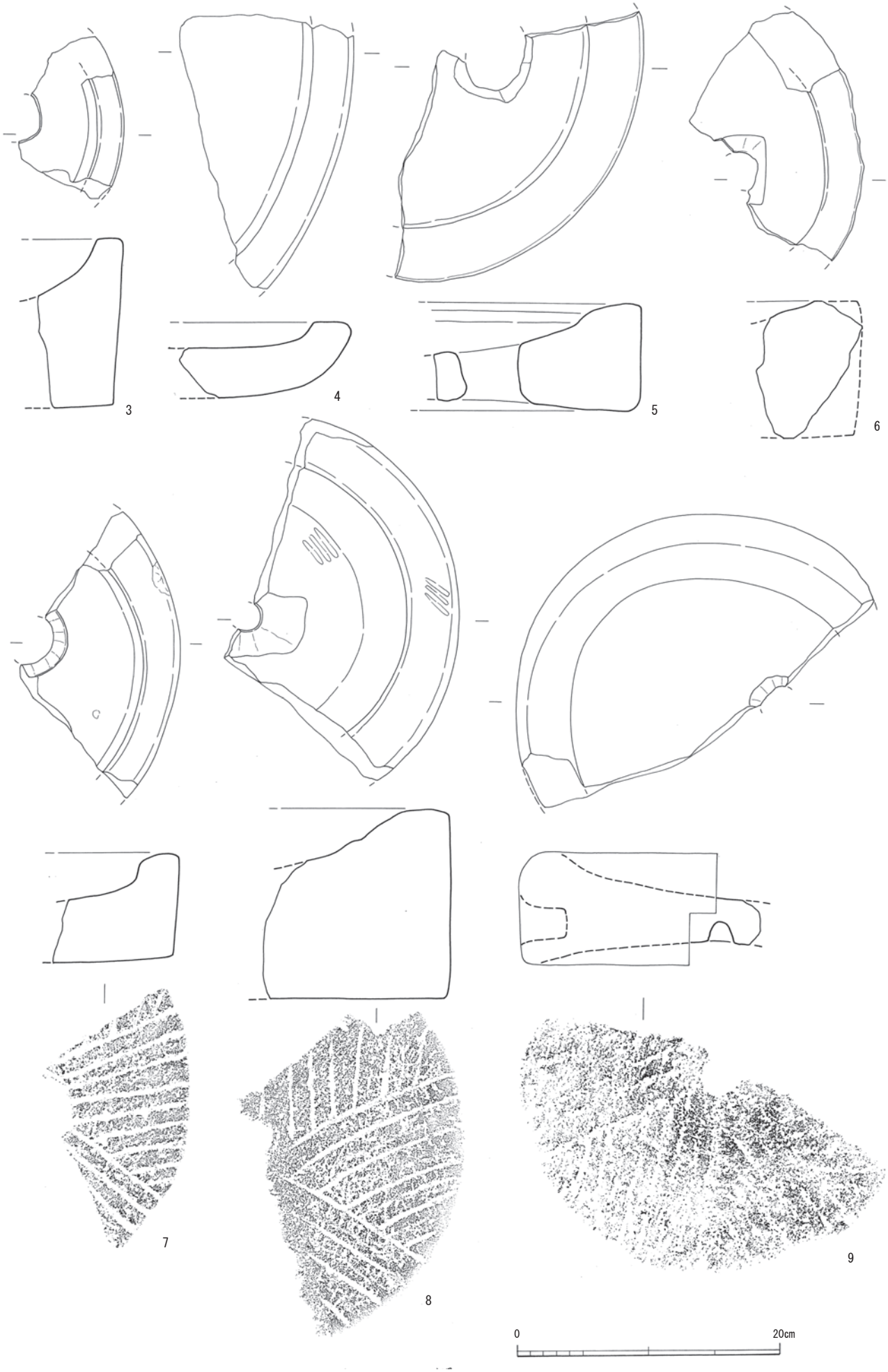
金属製品（第 88 ～ 93 図、図版 48 ～ 54）

88 ～ 90 図は銅製品である。

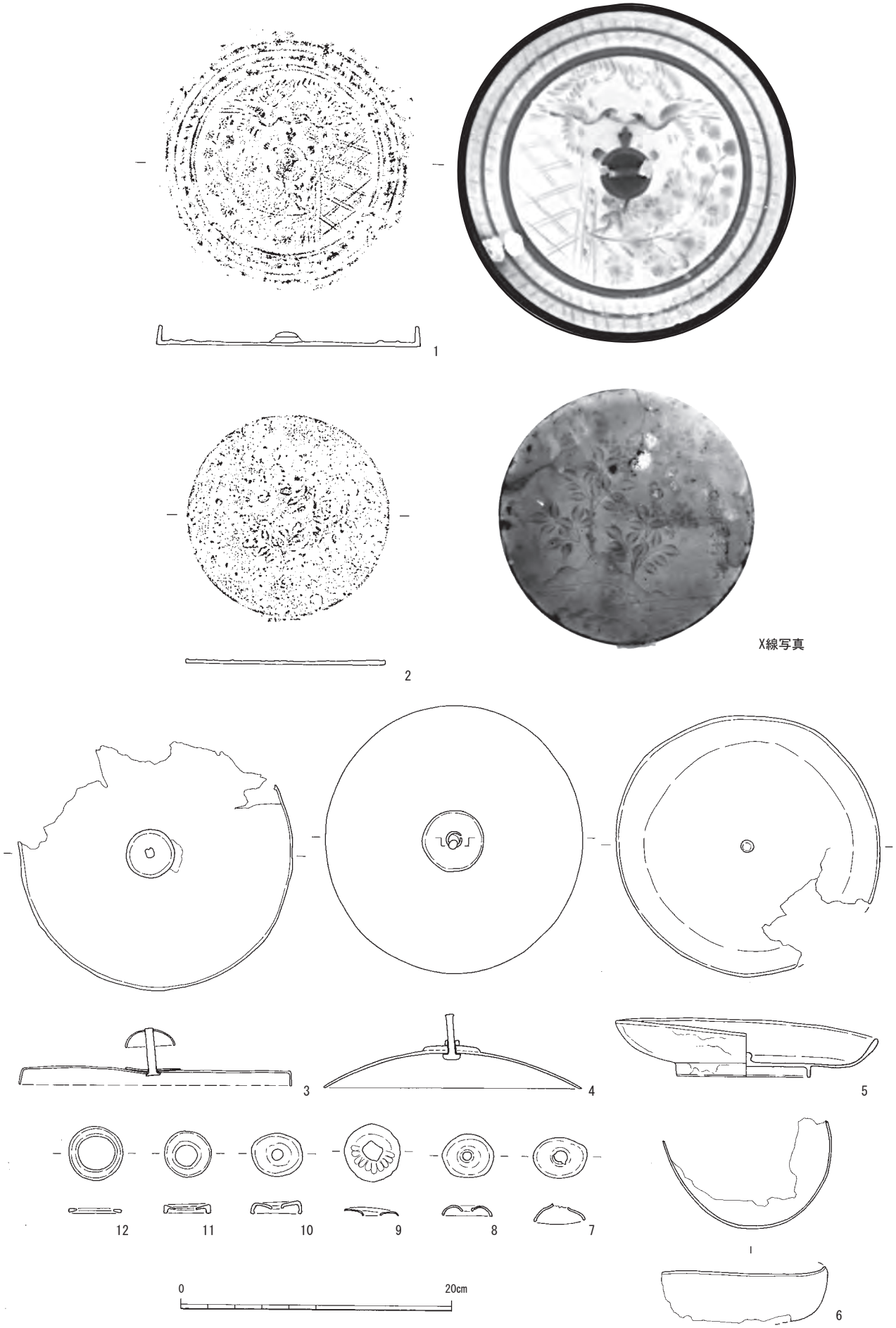
88 図１・２は銅鏡である。１は中央の幅広の突帯内に文様を描く。径 1.5cm の紐の周りには頭、手足、尾があることから亀である。亀の上部には２羽の鶴か。左側には斜格子、右側から下部にかけて菊花か。外側の突帯との間には、斜線文が巡っている。２は手鏡で、中央に上部に五弁の花が描かれている。梅花か。右下にはっきりと判読できないが、「□原光長」銘もあるが、製作者名か。３は中央に 1.8cm の半球が被さる蓋である。４は薄い湾曲する板状であるが、これも蓋か。３と同様に７は４に付属するもので、７が４の中央の棒状先端部に付着して、３のような形状をしていたと思われる。８も４に付属して棒状と蓋本体との接合部を覆い隠していた部品である。５は銅碗であるが、中央に径 0.4cm、高さ 0.4cm の凸部があることから、何らかの台座として使用されたものか。６も銅碗片である。９～ 12 は７・８と同じ用途の部品として掲載している。９のみ欠けてはいるが、上面に菊花状の模様がつく。

89 図１～５は鞘である。２のみ丸に雁金の花紋と細かい三葉状の刻印が施されている。３は持ち手と鞘の部分が合わさるタイプである。刃部は欠損する。６ははばき、７・８は鍔で、周囲に刻目が入る。９は簪である。10 ～ 12 は権である。撮み部には１㎜程の穿孔を施す。2 面に文字が刻印されているが、摩滅していて判読できなかった。13 ～ 28 は煙管雁首である。16 は火皿と雁首との接合部が段になり、他とは異なる。19 は羅宇との接合部に小さな敲打痕がある。24 も羅宇との接合部に痕跡がある。29 ～ 37 は吸い口である。30 は吸い口と羅宇との接合が２段構造になる。37 が比較的この中では最も長いタイプである。38 は火皿を欠いているが、今回出土した中では最も長く細い雁首か。

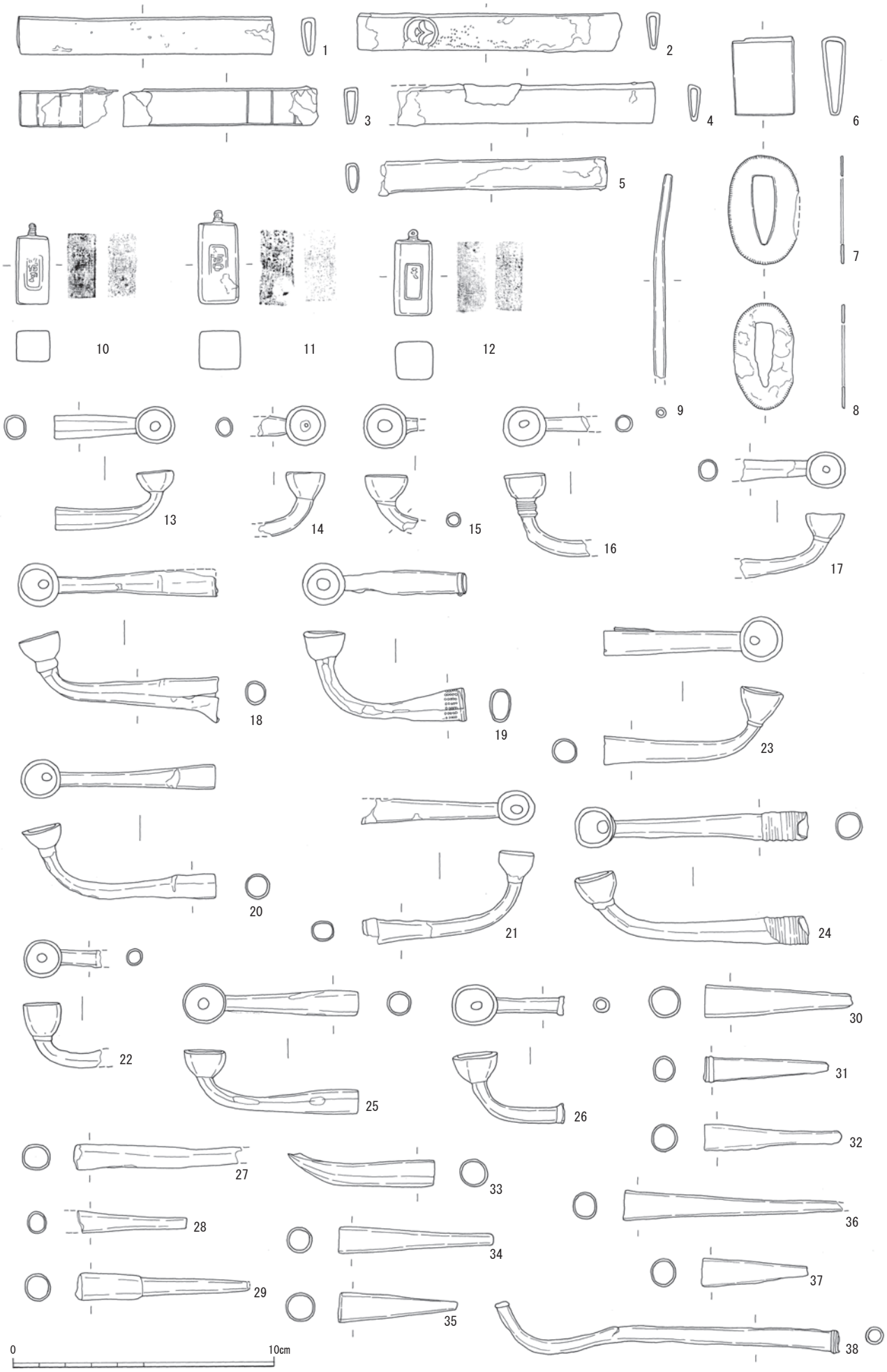
90 図１～４は筒の部品で、径６cm 未満とほぼ同じ形状から同一製品のである可能性が高い。１と２は、接着していたものが分離している。３は中央に径 0.7cm、高さ 2.1cm の凸状がある。本来、何らかの物がこれに差し込まれていたと思われる。1・２と３がどのように接着していたかは不明であるが、これらの周囲を４で覆われていたと思われる。５は孤状残存する破片で、側面には 0.1cm の穴がある。６も五弁花形になる板状飾りで、中央に 0.5cm 程の穴が空く。７は蓋又は皿か。８は中央に 0.4cm 程の穴があり、それを中心に上面は線が彫られる。９は厚さ 0.1cm 程の板状である。10 鉤金具の一つか。上部には０0.4cm 程の穴があく。表裏には菊花状の細かい装飾が打たれている。11・12 は仏像などを飾る金具か。11 は中央に稜線が入る剣形状になる。12 は上部に僅かに凸部がある札状である。13 と 14 は留金具か。13 は径 0.6cm の穴が２ヶ所ある。14 は上面から見た形状は８の字状になる。15･16 は鋲である。16 は上部の接合部で折れ曲がっている。17･18 は飾り金具で、17 は断面三角形状で、下部も輪花状に形取られている。18 か笠状になる部品で、中央に 0.3cm 程



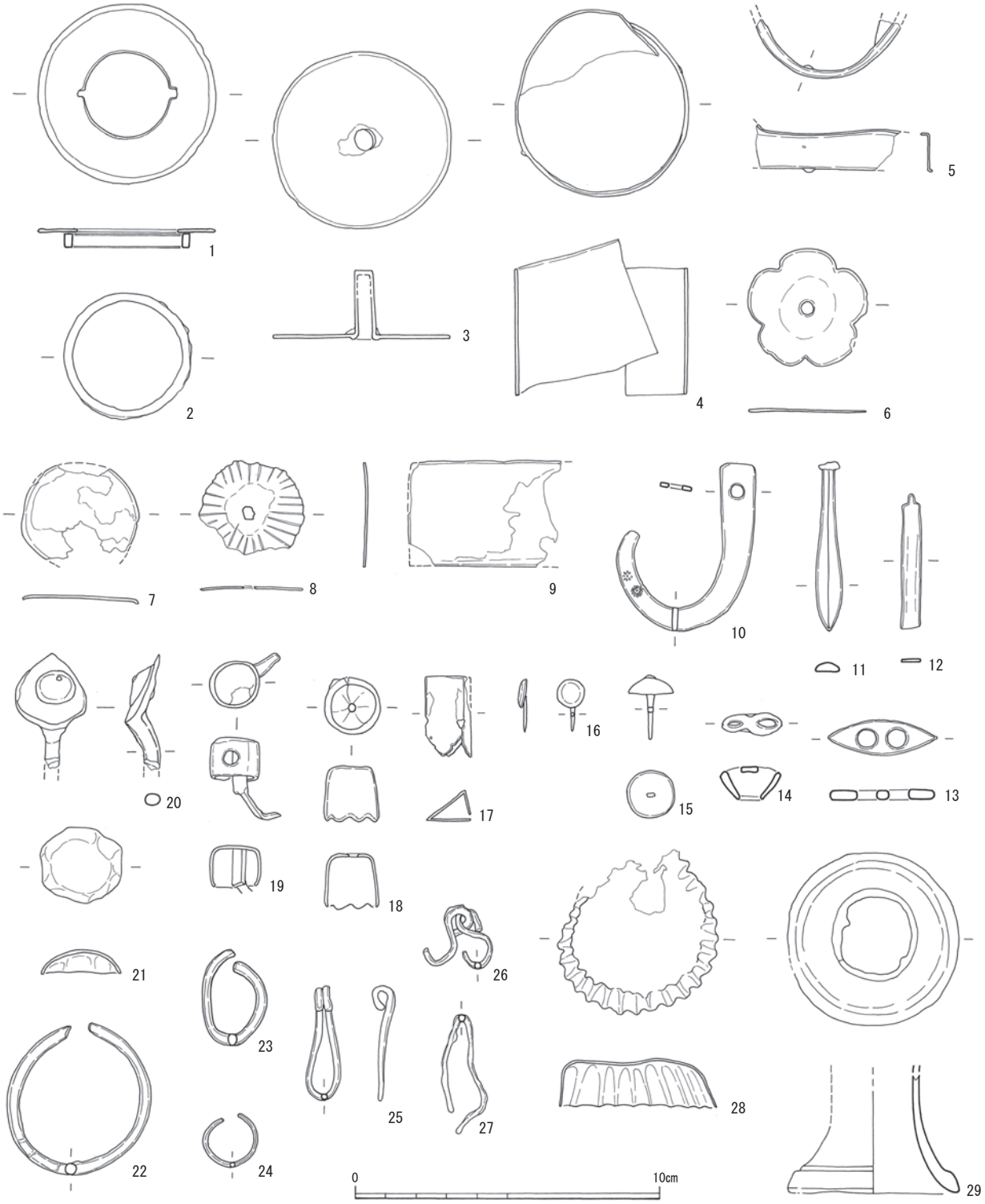
第 87 図　石臼実測図2（1/ 4）



第 88 図　銅製品実測図1（1/ 2）



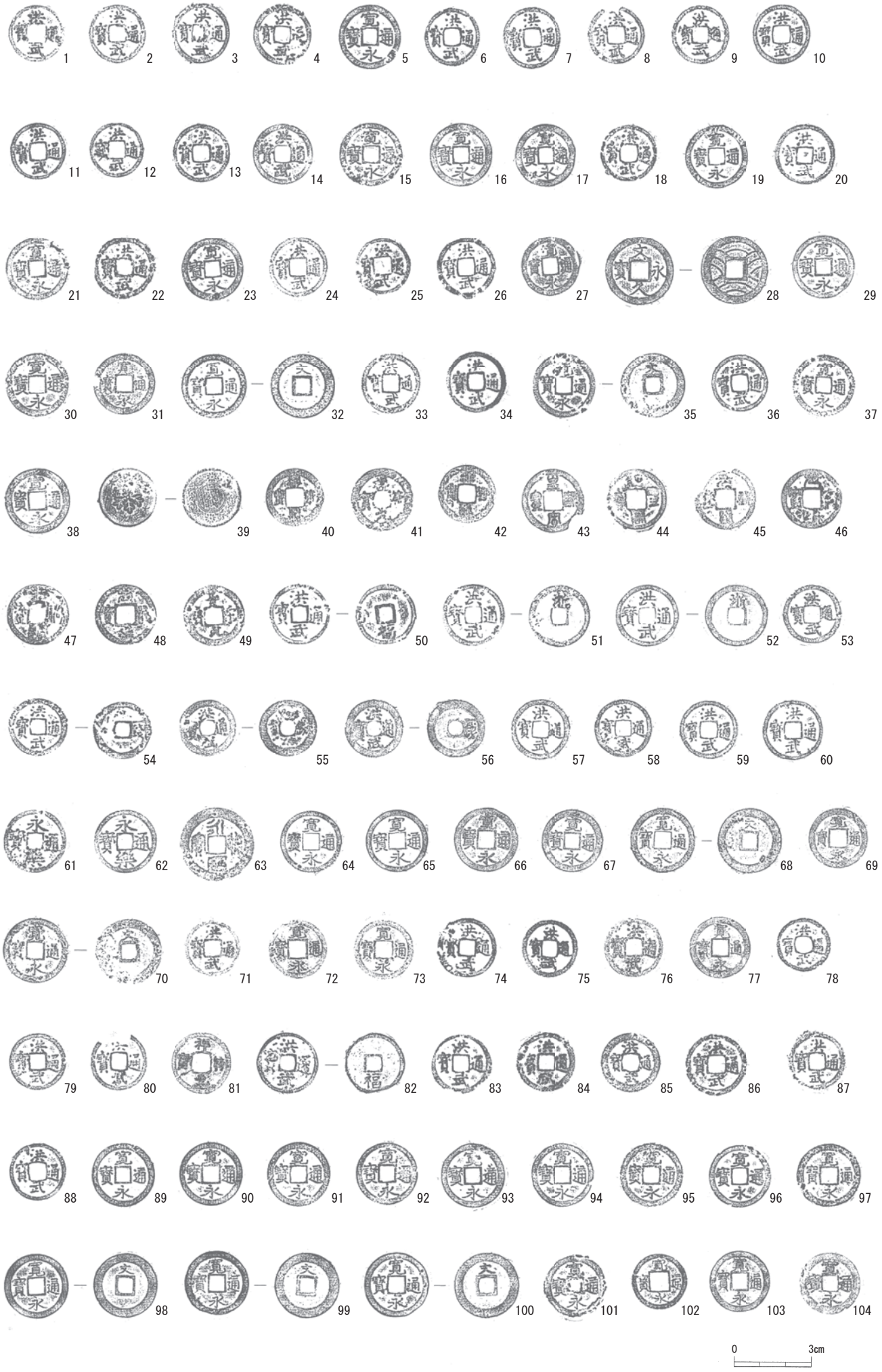
第 89 図　銅製品実測図2（1/ 2）



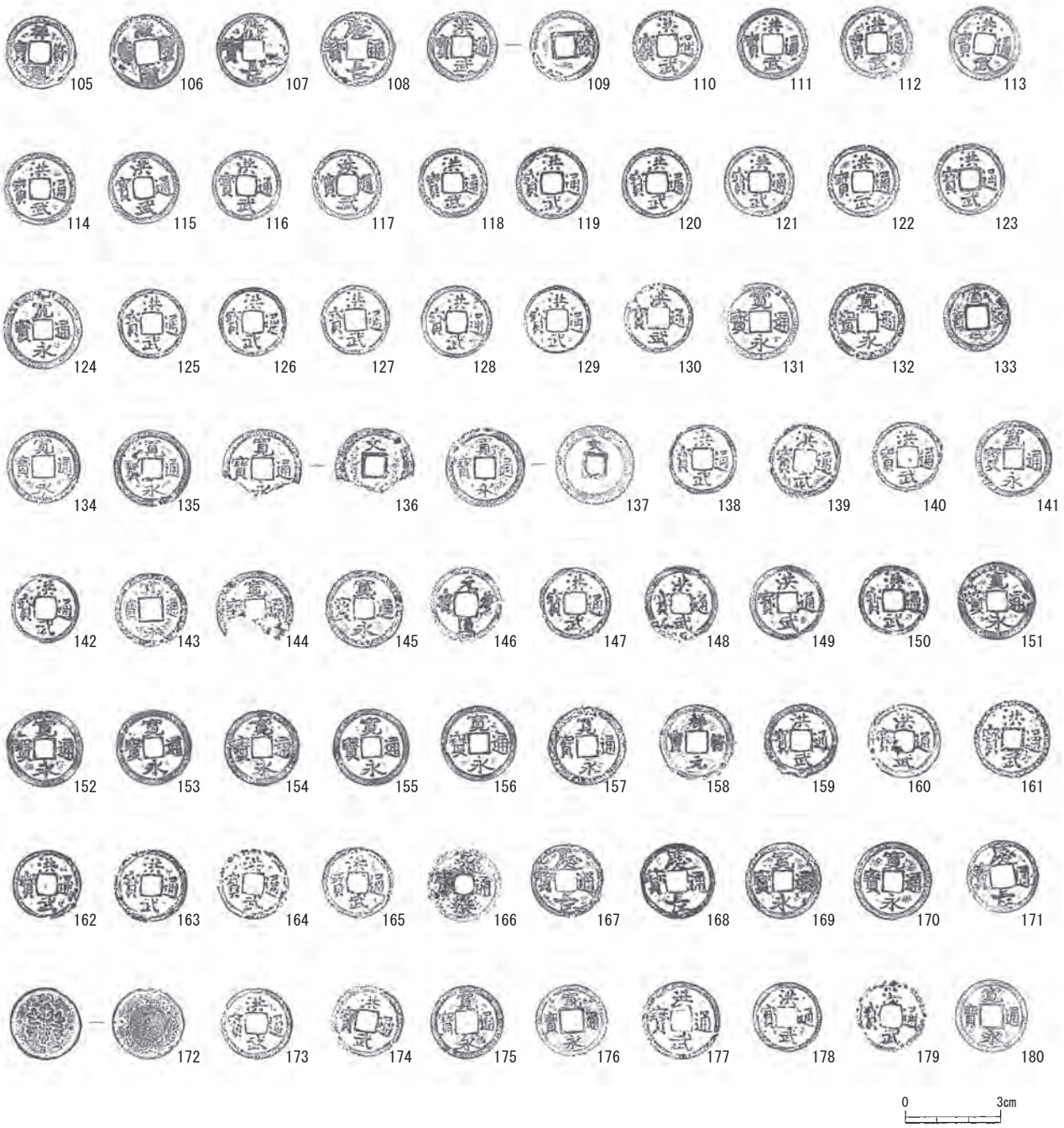
第 90 図　銅製品実測図3（1/ 2）

の穴が空く。19 も笠状になるが、外側に向けて棒状に伸びる。20 は植物の葉を形取った印象を受ける。仏具関係の一つか。21 も不明銅製品である。上面は菱形状であるが、断面は半円形になる。22 は径 4.7cm と比較的大きい。鍋用の把手などか。22･23 は厚さ 0.3 cm だが、24 は厚さ 0.2cm と細い作りである。25 ～ 27 も不明銅製品で、何かの部品の一つか。25 は 9 字状、26 は S 字状になる。28 はランプなどの蓋の一つか。29 は鉛製で仏飯具の脚部片か。

91・92 図は銅銭である。銅銭は全部で 989 枚出土するが、その中で残りが良い 180 枚を拓本して掲載している。銅銭は寛永通寶が最も多く、次に洪武通寶が出土する。5・15 ～ 17・19・21・23・29・30・37・38・64 ～ 67・89 ～ 96・101・124・131・132・141・145・151 ～ 156・169・170



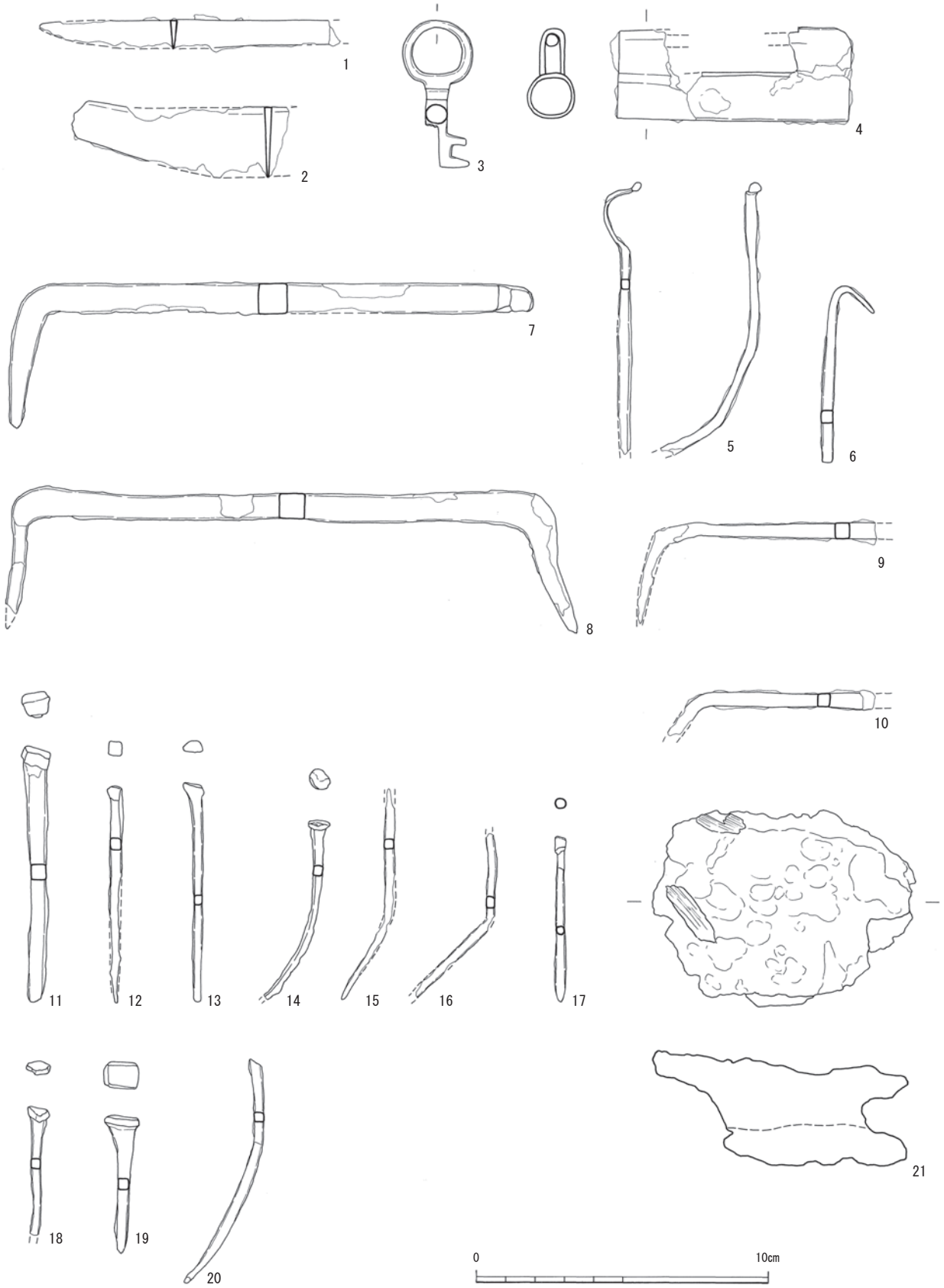
第91図　銅銭拓本図1（1/2）



第 92 図　銅銭拓本図2（1/ 2）

は寛永通寶の古寛永である。28 は文久永寶の書体は真書で、背は 11 波になる。32・35・68・70・98 ～ 100・136・137 は寛永通寶の文銭である。39・172 は大正９年と大正８年発行の一銭である。40・41・81・158 は祥符元寶（北宋 1008 年初鋳）で、判読しづらいが 42・105 は祥符通寶（北宋 1008 年初鋳）である。43 は篆書体の皇宋通寶（北宋 1038 年初鋳）、44・106・146 は元豊通寶である。45 ～ 48 は篆書体の元祐通寶で、47 は叶手か。49 は聖宋元寶（北宋 1101 年初鋳）である。洪武通寶は大部分が無背であるが、50 は「福」、51･52 は「浙」、54 ～ 56･109 は「一銭」、82 は「福」の背にある。61・62・166 は永楽通寶である。63 は折二の永暦通寶で、篆書体である。107・108・167・168・171 は慶長通寶である。

93 図は１～ 20 は鉄製品である。１は小刀で、刃部は錆て朽ちている。２は鎌などの刃部片で、湾曲している。３は鍵で、断面は円形である。４は錠であるが、鍵穴はない。５・６は不明鉄製品で、５は上部が V の字状に曲がる。６は上部は先細り折れ曲がる。７～ 10 は鎹で、７・８は先端

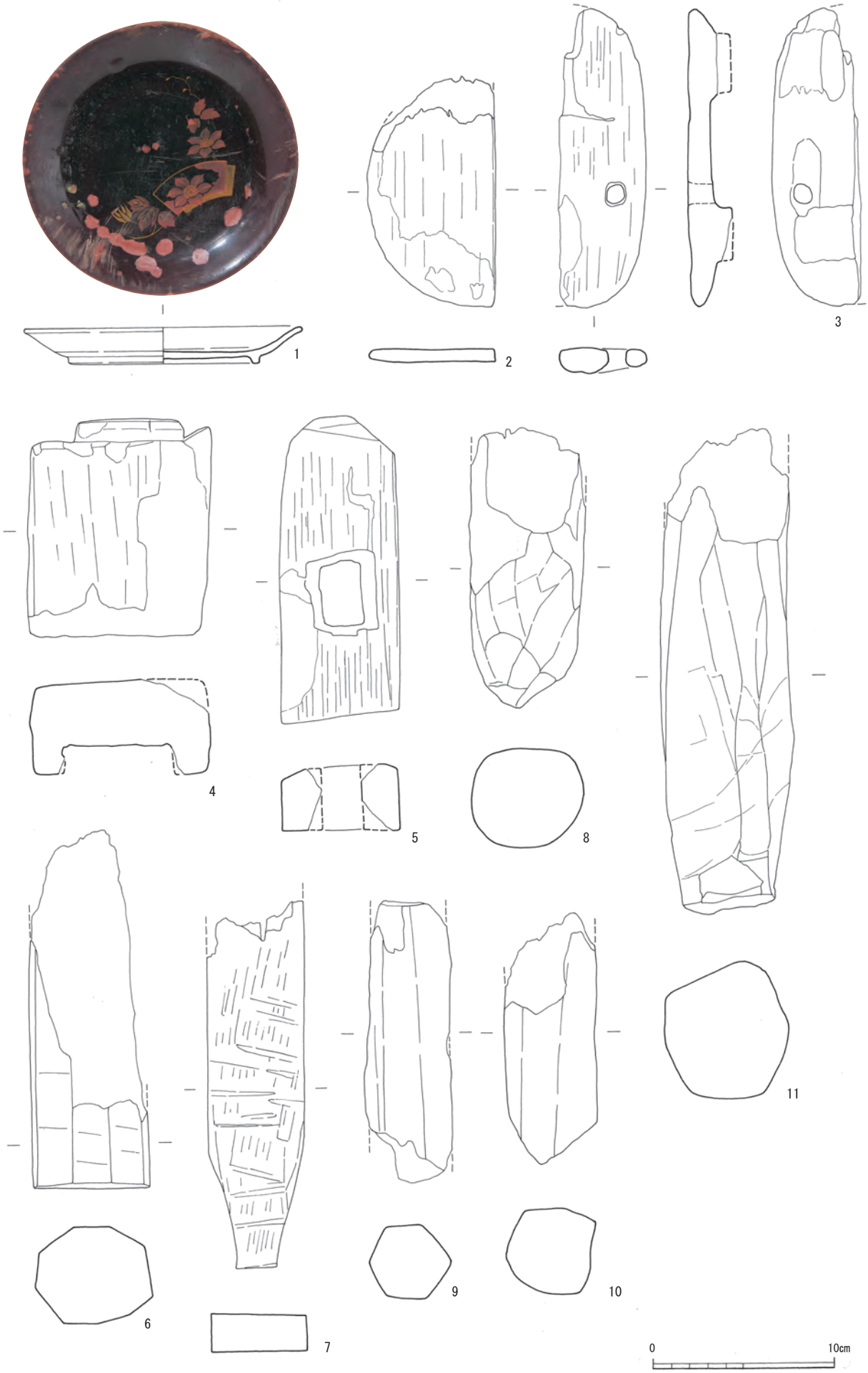


第 93 図　鉄製品実測図（1/ 2）

部を欠損する。11 ～ 16・18 ～ 20 は角釘で、17 のみ丸釘で、時期が新しいか、21 は椀形滓である。

木製品（第 94・95 図、図版 55・56）

94 図 1 は漆皿で、内面見込みに花文を描く。1 地点 1 面で検出しているため、明治以降の可能



第 94 図　木製品実測図1（1/ 3・1/ 6）

第 95 図　木製品実測図2（1/ 6）

性がある。２・３は樹種同定しておらず不明。２は桶などの底板材で、半分以上欠損する。３は下駄片で、木目にそって半分以上を欠損する。樹種同定では、これとは別の未図化の分になり、スギである。４は箱状木製品で断面「コ」の字になる。他の部材との接合するために上面に凸部がある。マツ属。５は周りを面取りされた建築材か。中央に5㎝程の方形の切り込みが両側から入る。６は上部は腐れているが、九角形上に面取りされている。底面も水平に切られており、柱材として使用か。シキミ。７は矢板で、幅広の面には、鉋の痕跡が明瞭に残る。先端部は切り込みを入れ、逆台形状にする。８は柱材下端で、上部は欠損するが、先端は切り込みいれて僅かに尖らせる。９・10は杭材か。９は杭の上端片で六角形状に面取りされ、上は丁寧に切られている。ナツツバキ。10は先端部を尖らせていることから杭か。11も柱材で、鉋で周囲は面取りされている。先端部は粗く平たく切られている。12は二つに割れているが、上部の側面には節が所々残っている。先端部はほぼ水平に切られている。13は上部が腐れている。クスノキ。14も二つに折れたものが、接合してた柱材である。これも所々に節が残るが、九角形状に丁寧に面取りされている。先端部は尖るまで切り込みは入っていない。クスノキ。15は角張るまでは面取りされていない。下部はやや雑に切って尖らせ、現在の丸太材のようになる。16は全体的に鉋などで面取りし、先端部を尖らせている。樹種同定はしていない。17も角張るまでは面取りされていないが、先端部を斜めに切り込んでいる。18は出土位置不明の大形柱材で腐れてはいるが、粗く面取りされている。先端部は切り込まれていて、尖っている。イスノキ。なお４・５・７・８・10・12・14・15・17はマツ属。

動物遺体

本遺跡ではパレオ・ラボによる獣骨同定を行っている。１面では１地点２・９・14号土坑・Ｐ13・遺構検出、３地点で埋甕１・Ｐ156、４地点遺構検出などでサルボウ、硬骨魚網、マグロ属、ヒト、イヌ、ウマ、キジ科（ヤマドリに近似）などが出土している。２面では２地点遺構検出、４地点29号土坑・Ｐ400・遺構検出でサメ類、クロダイ属、イヌ、シカ、ハクジラ亜目が出土している。３面では３地点遺構検出でネズミザメ科椎骨、４地点３面Ｐ431で硬骨魚網が出土する。４面では１地点Ｐ93で哺乳網、３地点５号溝ではシカとウシが出土する。

なお、これらの動物遺体について詳細は、木製品と同様に平成30年度（2019）に刊行予定の保加町遺跡で報告する予定である。

Ⅳ　まとめ

今回の上町遺跡２次調査では、遺構は主に１・２面で検出され、３・４面と下層面になるにつれて遺物の量は減少していく。

建物跡は、調査区が狭く本来の建物の構造を示していないのかもしれないが、１～４面で検出されている。１面では１～10号建物跡･柵列跡を検出している。建物規模がはっきりしている遺構で、１地点１号建物跡で２×４間以上、２地点４号建物跡で３×４間以上、３地点７号建物跡で２×３間以上もある一方で、３地点６号建物跡で１×２間以上、４地点９・10号建物跡で２×２間のような小規模の建物もある。特に３地点では他の地点と比べて幅広に調査範囲を確保できたため、７号建物跡のようなやや大型な建物跡を検出している。いずれも礎石を使用した建物跡になる。８号柵列跡は３間以上の柱列を確認している。これらの建物の時期は柱穴から17～18世紀頃の遺物も出土はしているが、１号建物跡のP106からは19世紀後半の紅猪口（14図３）が出土したことからこの時期頃の建物跡とするのが妥当か。

２面では１地点11・12号建物跡で２×２間以上、２地点で13号建物跡２×１間以上、４地点15号建物跡は２×１間以上の建物跡を検出しているが、他の建物と比べて軸が南東方向へずれている。３地点14・16号柵列跡は２間以上検出するが、１辺の柱列しか検出できなかったので柵列跡としている。

３面では２地点17・18号柵列跡２間以上、３地点で19・20・21号柵列跡で３～４間以上がある。

４面では１地点22号建物跡で２×２間以上、２地点25号建物跡で２×２間、４地点31号柵列跡で２×３間以上がある。１地点23・24号柵列跡、３地点26～29号柵列跡、４地点30・32号柵列跡、５地点33号柵列跡は２間以上を検出する。４地点30号柵列跡から16世紀末～17世紀初頭頃の唐津産の陶器皿が出土している。

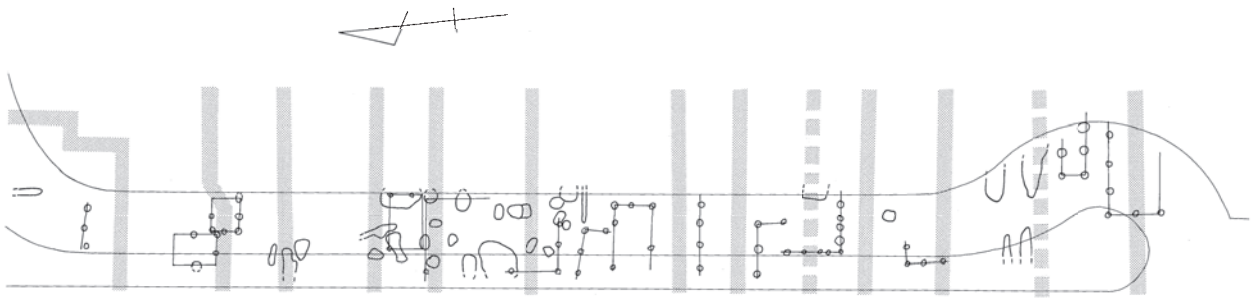
土坑は主に１面で１～22号、29・30号など比較的多く検出するが、遺構の性格としては廃棄土坑が主に考えられる。中には１地点５号土坑のように１面で検出し、約１m下の４面でもその痕跡を確認した素掘りの井戸もある。また１地点１～３号土坑のように長方形状で、底面近くから銅銭が出土することから墓と考えられるが、木棺などの痕跡は確認できていない。なお19号土坑からは19世紀後半以降の「金屋製造」スタンプ入りの平瓦（77図10)、29号土坑からは18世紀後半の染付碗（31図13）が出土している。

２面では４地点31・33号土坑、３面では２地点24・25号土坑のような途切れてはいるが、溝に近い遺構もある。33号土坑からは17世紀後半～18世紀の陶器甕と唐津産の陶器皿が出土する。

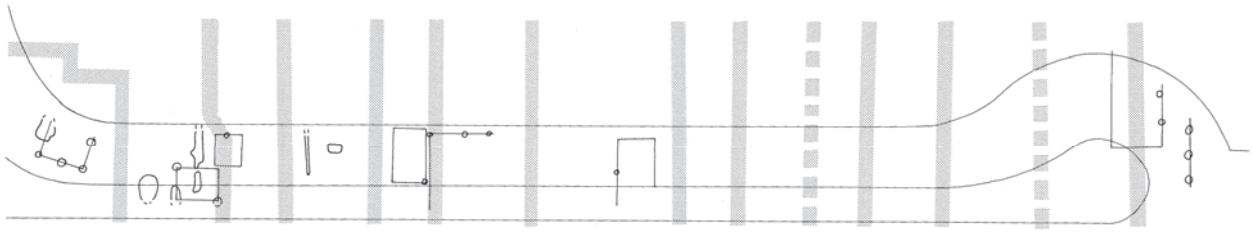
３面では３地点28号土坑があり、深さ約２m測ることからこれも素掘りの井戸で、17世紀前半頃の唐津産の陶器皿が出土している。４面では３地点で27・32号土坑のみとなり土坑の検出は極端に少なくなる。

溝は土坑同様に１面からの検出が多い。１面１～４・10～12・15・18号溝、２面６・13号溝、３面７・９号溝、４面５・８・９･14･17号溝を検出する。溝の性格は形状などからばらつきもあり、不明であるが、４地点検出の７・８号溝と９号溝の通路の側溝もある。

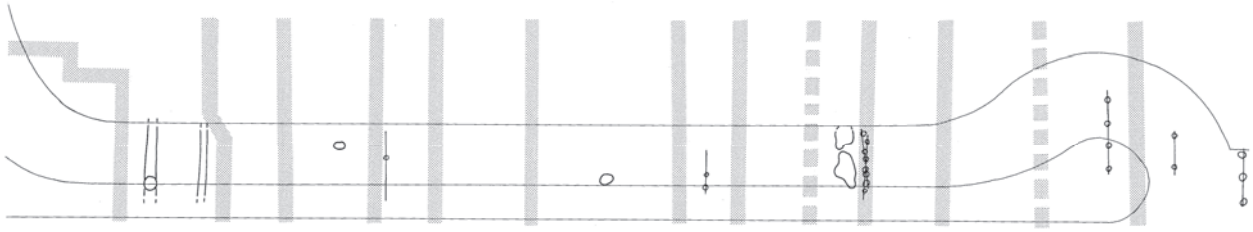
１地点１面２号溝の出土遺物が16世紀末～17世紀中頃までの唐津産の陶器碗・皿、伊万里産の染付皿がまとまって出土するが、周囲の同レベルの遺構と１世紀以上の時期差がある。４号溝では



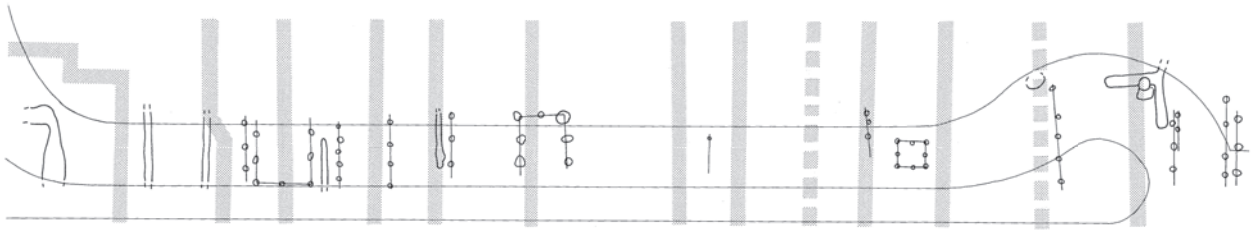
1面



2面



3面

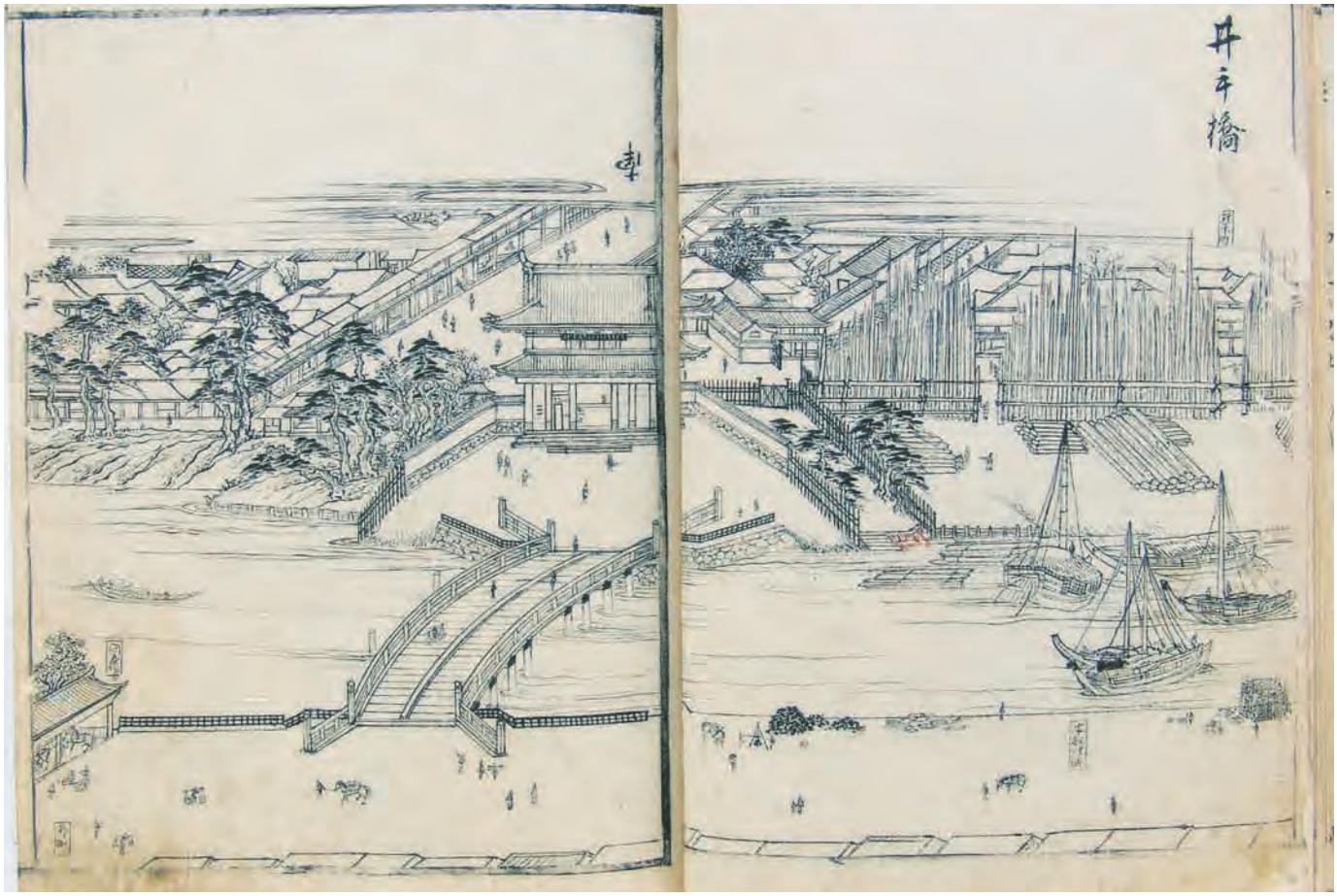


4面

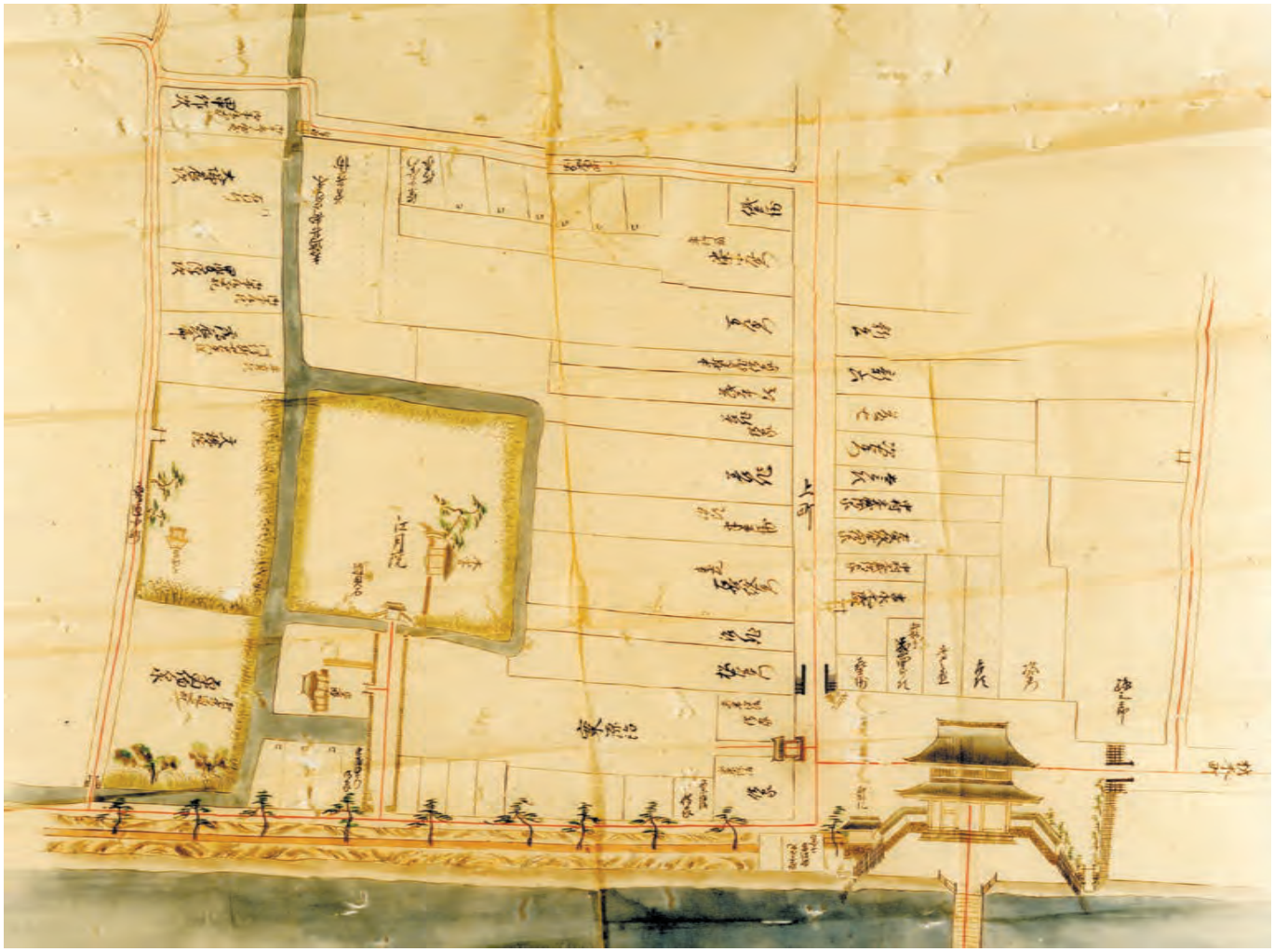
※アミかけのラインは現在まで残る町割

0　30m

第 96 図　遺構配置図（1/600）



第 97 図　井手橋「柳河明証図絵」柳川古文書館所蔵



第 98 図　上町略御絵図「柳河藩立花家文書」柳川古文書館所蔵

18 世紀後半頃の陶器擂鉢が出土する。

最も溝の中で特徴的なものは４地点の３・４面では７・８号溝と９号溝で、東西方向に並列している。３面では７号溝と９号溝間で 3.2 ～ 3.35 m、８号溝と９号溝間で４～ 4.2 mの空間には、遺構もないことから通路の可能性がある。上町略御絵図（明和２ 1765 年以降作成）によれば、「安東源治」借家間に大通りへと出る短い通路が描かれている。今回検出した７・８号溝と９号溝はその通路を表す側溝ではないかと考えられるが、絵図の描かれた時期と溝を検出した３・４面の時期とは隔たりがある。

その他に４面の４地点 14 号溝などは、建物と並行して掘られていることから区画溝の一つなのかもしれない。

各面の時期については様々な遺物が混在するが、それぞれの面の時期を以下の遺物などから今回の調査で判断している。

１面で１号建物跡が 19 世紀後半頃、19 号土坑が 19 世紀後半の平瓦（77 図 10）、４地点 P398 で 19 世紀前半～中頃の染付皿（39 図 28）、３地点で便槽として使用された瓦質土器甕内から、18 世紀後半～ 19 世紀前半頃の肥前産の染付猪口（46 図９）が出土する。その他にも各地点から 18 世紀代の陶器・磁器が出土するが、染付碗（56 図３）や明治時代以降の汽車土瓶（53 図３・４）、染付瓶（61 図６）などが出土する。このことから少なくとも 18 世紀後半～ 19 世紀頃の面の可能性がある。

２面遺構検出では 17 世紀代の遺物が多く出土しているが、17 世紀末頃～ 18 世紀中頃の陶器皿（63 図 24・25）などから少なくとも 18 世紀前半～中頃と判断する。18 世紀～ 19 世紀中頃の白磁の仏飯器（68 図 14）、18 世紀の磁器花生（68 図 18）なども出土する。

３面では唐津産の 16 世紀末～ 17 世紀初め陶器碗（70 図６～９）も出土するが、17 世紀後半の京焼風の陶器碗（70 図 11）、武雄産の陶器火入れ（70 図 12）なども出土する。

４面では 17 世紀後半以降の遺物が出土しているが、逆に１・２面で多く出土している 16 世紀末～ 17 世紀前半頃を示す遺物は少ないことから、17 世紀後半以前で、磁器類の出土が少ないこともふまえれば、さらに時期は古くなる可能性はある。

出土遺物の中には、その他に１点だけであったが、見込みに VOC の文字がある皿（60 図２）、16 世紀中～後半頃の青花皿（67 図 10）なども出土する。なお 67 図 10 と同様な皿が福岡市の博多遺跡群第 124 次調査の SK236 の一括埋納遺構で出土している。第 97 図柳河明証図会の井手橋では、船が描かれていてこの木材の荷卸しの様子が描かれており、木材だけではなく肥前産や中国系の磁器類の交易もこのような場所で行っていたかもしれない。

また鍋島焼片（59 図６）、朝妻焼の染付皿（58 図３）など貴重な遺物も破片であるが出土したことを改めてここでも報告したい。

最後に第 36 図の１地点北側土層で検出した５・13 層の焼土層が気になる所である。柳川では 1780（安永９）年７月外町大火、1794（寛政６）年４月 26 日外町より火を失し、上中町辻其他の横町焼失し飛火家中に及ぶ。井出の橋御門も消失す。之を外町火事と云などの火事の記載がある。特に後者の外町火事は上町も焼失と記されており、この層がいずれかの火事と判断できれば、１面から２面がその頃と判断でき、１・２面の時期については多少変わるかもしれない。

今回の調査では第 98 図、絵図に描かれているような区画内やそれに並行する形で、建物や溝を

検出できたことが一番の成果なのかもしれない。遺物については時間の関係上、主に残存状況が良いものを中心に載せたためもう少し微細な資料も含めた検討が必要なのかもしれない。

参考文献

大橋康二 1989『考古学ライブラリー 55　肥前陶磁』ニューサイエンス社
大橋康二 1994『古伊万里の文様』理工学社
中世土器研究会 1995『概説　中世の土器・陶磁器』
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年ー九州近世陶磁学会 10 周年記念ー』
財団法人　瀬戸市埋蔵文化財センター 2001『瀬戸大窯と３の時代』
白石直樹 2002「江月院跡」『新柳河明証図会』柳川市史編集委員会・別編部会
※江月院とは普化宗金先派の寺院で、三池郡大間村（現大牟田市三池の一部）で却月院と号していたが、天和３（1683）年に藩主立花鑑虎の命で、上町に移りその時に江月院と改めている。
福岡市教育委員会 2004『博多 87 ー博多遺跡群第 124 次調査の報告ー』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 758 集
福岡県教育委員会 2007『矢加部町屋敷遺跡Ⅰ』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告第３集
柳川市教育委員会 2008『本町袋町遺跡・南長柄町遺跡』柳川市文化財調査報告書第４集
柳川市教育委員会 2008『細工町遺跡・新町遺跡』柳川市文化財調査報告書第５集
福岡県教育委員会 2010『矢加部町屋敷遺跡Ⅱ』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告第９集
福岡県教育委員会 2011『矢加部町屋敷遺跡Ⅲ』有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告第 11 集
九州国立博物館 2013『江戸のモダニズム　古武雄　まぼろしの九州やきもの』
柳川市教育委員会 2016『上町遺跡Ⅰ』柳川市文化財調査報告書第 10 集
柳川市教育委員会 2016『出来町遺跡』柳川市文化財調査報告書第 13 集
櫻木晋一 2016『考古学調査ハンドブック 15　貨幣考古学の世界』ニューサイエンス社
※柳川関連の災害については、柳川市教育委員会堤伴治氏が 1935「柳河年表」『福岡縣史資料』第五輯、渡辺村男『柳河年表』抄をもとに作成された柳川関連の災害年表を参考にさせて頂いた。

現在の上町遺跡（2018.3.7）

表1　出土遺物観察表

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点1面 建1　P106 14図1	土瓶蓋	口径 6.3 器高 4.0 摘み径 2.1	陶器 精良 茶日色	茶褐色	内面は露胎、外面のみ施釉する。		残0.7	肥前系	19ｃ
3地点1面 建1　P106 14図2 図版33	土瓶	口径 9.1 器高 12.1 底径 8.6	陶器 精良 赤茶色	黒茶色	胴部下半以下は露胎し、底部はヘラケズリ。内面の注ぎ口は3ヶ所穿孔する。	口唇部釉剥ぎ 底部露胎	残0.9	肥前系	19ｃ
3地点1面 建1　P106 14図3　図版33	紅猪口	口径 6.3 器高 1.9 底径 2.7	磁器 精良 白色	透明	型押し成型で、外面は蛸唐草文、内面は無文。内外面は施釉する。	高台砂目付着	完形	肥前系	19ｃ後～
3地点1面 建1　P106 14図4	染付碗	口径 (9.4) 器高 5.4 底径 (3.8)	磁器 精良 白色	透明	内面は雷文、見込みにわずかに文様あり。外面は3条の圏線と銀杏か。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系	
4地点南3面 建4　P34 14図5	鍋		瓦質土器 精良 灰色　黒灰色		内面は刷毛目、外面は刷毛目をナデ消す。外面のみ煤が付着する。		残0.1	在地系	
2地点北2面 建5　P232 14図6	皿	口径 (13.6) 器高 3.5 高台径 (5.0)	陶器 白色細砂粒 橙灰色	灰褐色	内面は鉄絵を「一」状に描き、高台内は兜巾が残る。	高台露胎	残0.5	肥前系 唐津	16ｃ末
3地点1面 建6　P155 14図7	碗	口径 (11.6) 器高 4.5 高台径 (4.4)	陶器 細砂粒 黄灰色	黄灰色	見込みに山水文を描く。	高台露胎	残0.4	肥前系 京焼風	17ｃ後～18ｃ
3地点北1面 建6　P310 14図8	染付皿	高台径 (8.6)	磁器 精良 白色　橙白色	透明	内面に花唐草文、外面に唐草文か。高台内銘款に文字あるが判読できず。	畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系 有田	18c前～中
3地点北1面 建6　P310 14図9	染付皿		磁器 精良 白色	透明	見込みに五弁花文と胴部に菊花文。外面は唐草文を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	18ｃ中～後
4地点南1面 建9　P257 14図10	擂鉢		陶器 精良 赤茶色	黒茶色	内面の櫛目の単位は5条。肥厚する口縁部のみ施釉する。		残0.1	肥前系	17ｃ後
4地点南1面 建9　P255 14図11	染付碗	口径 (11.2)	磁器 精良 灰色	透明	外面は圏線の間に網目文を描く。		残0.3	肥前系 有田	17ｃ中～後
4地点南1面 建10　P282 14図12	甕	底径 (21.8)	陶器 精良 赤茶色	赤茶色	内面は格子目叩き、外面は工具によるナデ。外面は釉が垂れる。	底部砂目付着	残0.2	肥前系？	
4地点南2面 建10　P293 14図13	皿	底径 (4.4)	陶器 細砂粒 灰褐色	緑灰色	外面はケズリ、高台内に兜巾が残る。	高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末
4地点南2面 建10　P293 14図14	すのこ	口径 (14.0) 器高 2.9	瓦質土器 精良 茶褐色	茶灰色	径1.4cmの円形の透かしが入る。		残0.2	在地系	
3地点2面 建14　P176 14図15	小皿	底径 (5.2)	土師器 細砂粒 橙白色		外底は糸切り、内外面はナデ。		残0.3	在地系	
3地点2面 建14　P176 14図16	小碗	高台径 (3.6)	陶器 精良 灰色　赤茶色	灰色	外底はケズリ。	高台露胎 三日月高台	残0.3	肥前系 唐津	
3地点2面 建14　P168 14図17	染付碗	口径 (11.8)	磁器 精良 白色	透明	内面口縁部に四方襷と底部に2条の圏線、外面は唐草文か。		残0.2	肥前系 有田	
4地点北2面 建15　P411 14図18	皿	口径 (13.4)	陶器 精良 灰色	黄緑色 濃緑色	内面と外面口縁部は銅釉を施釉する。	蛇の目釉剥ぎ	残0.2	肥前系	
4地点北2面 建15　P411 14図19	碗	口径 (11.8)	陶器 黒色細砂粒 黄灰色	黄灰色	内外面は無文である。	口縁釉剥ぎ	残0.2	肥前系 京焼風	
4地点北2面 建15　P411 14図20	染付碗	高台径 (4.6)	磁器 精良 白色	透明	内面は無文、外面は桐花か。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	
4地点北2面 建15　P411 14図21	染付碗	高台径 (5.0)	磁器 黒色細砂粒 白色	透明	高台内銘款に「大明年製」、外面胴部は草花文か。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	17ｃ末～18ｃ前
2地点4面 建17　P62 14図22	皿		白磁 黒色細砂粒 灰	透明	器形は八角形で菊弁である。内外面は無文である。	高台露胎	残0.3	肥前系	
3地点北4面 建19　P359 18図1	小皿	口径 6.6 器高 1.6 底径 5.0	土師器 精良 灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。		残0.3	在地系	
1地点4面 建22　P82 18図2	小皿	底径 5.0	土師器 赤色細粒 橙褐色		内底はナデが明瞭残る。外底は糸切り。		残0.2	在地系	
1地点4面 建22　P82 18図3	鉢		瓦質土器 白色細粒 灰白色		内外面は刷毛目で、外面に煤が付着する。		残0.1	在地系	
1地点4面 建22　P82 18図4	湯釜		瓦質土器 黒色細粒 灰白色		内外面は刷毛目が明瞭に残る。		残0.1	在地系	
3地点3面 建29　P208 18図5　図版33	灯明皿	口径 8.8 底径 5.4	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切りである。灯明皿として使用されたため、口縁端部は煤が付着する。		残0.9	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点4面 建29　P233 18図6　図版33	小皿	口径 8.8 器高 2.6 底径 6.0	土師器 細砂粒 橙色		内外面はナデ、外底は糸切りである。		残0.8	在地系	
3地点4面 建29　P236 18図7	皿	底径 5.4	土師器 細砂粒 灰白色		外面は糸切り後に、ナデ消す。		残0.3	在地系	
3地点4面 建29　P233 18図8	鍋	高台径 (8.6)	瓦質土器 精良 灰色		内外面は刷毛目で、煤が付着する。		残0.1	在地系	
4地点南3面 建30　P348 18図9　図版33	皿	口径 13.0 器高 4.5 底径 4.4	陶器 精良 橙白色　橙褐色	緑灰色	外面は口縁端部は皮鯨手、底部はケズリ。	高台露胎 三日月高台	残0.7	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
4地点南3地点 建31　P345 18図10　図版33	湯釜		瓦質土器 精良 黒色　赤灰色		内面は刷毛目、外面はミガキと刷毛目である。外面は鍔を以下に煤が付着する。		残0.2	在地系	17c～
1地点1面 土坑1 23図1	火鉢		瓦質土器 細砂粒 黒灰色		外面は丁寧なミガキ、内面はヨコナデ		残0.1以下	在地系	
1地点1面 土坑1 23図2　図版33	皿	口径 (12.4) 器高 3.4 底径 4.4	陶器 細砂粒 淡茶色	灰色	内面は釉垂れし、外面口縁部～高台付近にかけてケズリ、高台内は兜巾。	高台露胎	残0.7	肥前系 唐津	16ｃ末
1地点1面 土坑2 23図3	皿	器高 1.8 底径 5.0	土師器 精良 白黄茶色		外面底部は糸切り後にナデ、内外面はヨコナデ		残0.2	在地系	
1地点1面 土坑4 23図4	皿	口径 (10.2) 器高 3.5 底径 (7.0)	土師器 細砂粒 黄茶色		内外面はナデや工具痕が残る。、外面底部もナデで、底部中央は指圧痕が明瞭に残る。		残0.　6	在地系	
1地点1面 土坑5 23図5	擂鉢	口径 (22.6)	瓦質土器 赤褐色粒 白黄茶色		内面は刷毛目で、外面は刷毛目とナデ		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑5 23図6	火鉢	口径 (28.4)	瓦質土器 暗灰褐色 茶褐色		内外面に煤が付着し、黒色化する。内外面は刷毛目で、外面胴部上半は刷毛目を消すようにミガキを丁寧に施す。		残0.2	在地系	
1地点1面 土坑5 23図7	大甕		土師器 精良 橙色		内面は刷毛目、外面は刷毛目を丁寧にナデ消す。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑5 23図8	碗	口径 (9.0)	陶器 細砂粒 白色	黒緑色	口縁部は外反し、皮鯨手である。		残0.1	肥前系 唐津	
1地点1面 土坑5 23図9	青花皿 芙蓉手皿	口径 (14.3) 器高 3.2 底部 (8.2)	磁器 精良 白色	透明	内面は丸文内に花卉など、見込みに草花文などを描くか。高台は一部露胎し、砂粒が付着する。　外面は圏線と縦線で区画し、宝を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系 景徳鎮	17c
1地点1面 土坑5 23図10	青花皿	高台径 (7.0)	磁器 精良 白色	透明	高台は一部露胎し、砂粒が付着する。　内面胴部下半に圏線で、見込みは「寿」の一部か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系 景徳鎮	16c
1地点1面 土坑6 23図11	皿	底径 7.0	土師器 精良　雲母 白黄色		内面はナデ、外面底部は糸切りをナデ消す。		残0.4	在地系	
1地点1面 土坑6 23図12	鉢		陶器 細砂粒 淡茶色	淡茶色	口縁部片は断面三角形。		残0.1	肥前系 唐津？	17ｃ前
1地点1面 土坑6 23図13	鉢		陶器 細砂粒 橙褐色	こげ茶青色	内外面の口縁部のみ釉をかけ、他は露胎する。口縁部片は断面三角形。		残0.1	肥前系 唐津？	17ｃ前
1地点1面 土坑7 23図14	皿	底径　4.9	土師器 精良 白黄茶色		外面底部は糸切り、板状圧痕がつく。内外面に油煙が付着する。灯明皿として使用か。		残0.3	在地系	
1地点1面 土坑7 23図15	擂鉢		瓦質土器 細砂粒　雲母 灰色		内面は刷毛目、櫛目が僅かに残る。外面は刷毛目とナデ。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑7 23図16	染付碗	口径 (10.2) 器高 5.35 底径 (4.2)	磁器 精良 白色	透明	内面は口縁部と胴部下半に圏線が巡る。外面は３条の圏線と唐草文が描く。高台は一部露胎する。	畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	
1地点1面 土坑7 23図17	皿		陶器 精良 黄緑色	黄緑色	内面は菊花状か。		残0.1	瀬戸	16c末～17c初
1地点1面 土坑7 23図18	青花皿		磁器 精良 白色	透明	内面は青海波文、外面には二条の圏線を施す。		残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
1地点1面 土坑8 23図19	鉢	口径 (30.2)	陶器 細砂粒 茶褐色	白色 茶色	内面は鉄絵の上に白化粧土が塗らる。外面は茶色釉の上から白色が釉垂れている。	胎土目	残0.2	肥前系 唐津	17ｃ前か
1地点1面 土坑8 23図20	染付小碗	底径 (2.8)	磁器 精良 白色	透明	見込みは、二条の圏線の内に花卉を描く。		残0.4	肥前系 有田	17ｃ中～後か
1地点1面 土坑10 23図21	鉢		瓦質土器 細砂粒(雲母) 灰黄色		内面にはナデ、外面に刷毛目とナデを施す。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑10 23図22　図版33	鉢又甕	底径 (19.0)	瓦質土器 1～3mmの粗砂粒 こげ茶		内外面にはナデ、薄手に作られている。		残0.4	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
1地点1面 土坑10 23図23	青花皿		磁器 精良 白色	透明	内面には八卦の一部か。		残0.1	中国系 漳州窯	16ｃ後～17ｃ前
1地点1面 土坑9 24図1　図版33	皿	口径 5.7 器高 1.6 底径 3.5	土師器 精良 橙褐色		内外面はナデ、外面体部は糸切り。		残0.8	在地系	
1地点1面 土坑9 24図2	鉢		瓦質土器 細砂粒含 灰黄褐　黒灰色		内外面はナデ。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑9 24図3	火鉢		瓦質土器 細砂粒 暗灰黄褐　茶褐色		内面はナデ、外面は粗いミガキと外面突帯の間に波状文を施す。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑9 24図4　図版33	天目茶碗	口径（11.4） 器高（5.8） 底径（4.2）	陶器 細砂粒 橙褐色	緑茶色	外面胴部下半はケズリ。		残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点1面 土坑9 24図5	皿	底径 3.6	陶器 細砂粒 赤茶色	灰色	内面には胎土目４ヶ所あり、外面はケズリ。	高台露胎 内面胎土目痕跡	残0.3	肥前系 唐津	17ｃ前
1地点1面 土坑9 24図6	壺？	器高 3.4 底径 4.6	陶器 精良 こげ茶　赤茶色	こげ茶色 赤茶色	内面はナデ、外面底部にヘラ記号あり。		残0.3		
1地点1面 土坑9 24図7	鉢		陶器 細砂粒 こげ茶色	こげ茶色	口縁端部は肥厚し、その付近に鉄釉をかける。		残0.1	肥前系	17ｃ中～
1地点1面 土坑9 24図8	染付碗	口径（11.2） 器高 5.1 底径（4.25）	磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線と見込みと外面胴部にも文様を描く。	畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	
1地点1面 土坑9 24図9	染付碗	口径（4.5） 器高 2.6 底径（4.6）	磁器 精良 白色	透明	見込みには圏線と花卉、外面に花文を描く。高台内銘款に文字あり。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系？	17c
1地点1面 土坑9 24図10	青花皿		磁器 精良 橙白色	透明	見込みには文様あり。	畳付砂目付着	残0.1	中国系 漳州窯	16ｃ後～17ｃ前
1地点1面 土坑12 24図11	擂鉢		陶器 細砂粒 こげ茶色	こげ茶色	口縁端部は肥厚し、その付近に鉄釉をかける。		残0.1	肥前系	17ｃ中～
1地点1面 土坑12 24図12	鉢		陶器 細砂粒 茶灰色	茶灰色 白色	口縁部は「く」の字状になる。内面は白化粧土を刷毛目で波状と縦方向の線を描く。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ末～18ｃ中
1地点1面 土坑12 24図13	火入れ		陶器 精良 こげ茶色	暗黄茶色	内面は鉄釉、外面に塗られた白化粧土を刷毛目で波状に施す。その上から銅緑釉を施釉する。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ中～
1地点1面 土坑13 24図14	擂鉢	底径（13.0）	陶器 細砂粒 こげ茶色		内面の櫛目の単位は７条、外面はナデを施す。		残0.2	肥前系？	
1地点1面 土坑13 24図15	鉢		陶器 細砂粒 橙褐色	暗茶褐 黄白色	内面には松を描く。		残0.1	肥前系 武雄	
1地点1面 土坑13 24図16	小碗	口径 5.9 高さ 2.9 底径 3.0	磁器 精良 白色	透明	外面中程に突帯が巡る。	畳付釉剥ぎ	残0.5	肥前系 有田	
1地点1面 土坑13 24図17	染付碗	口径（9.2） 器高 4.4 底径（8.2）	磁器 精良 白色	透明	外面には圏線と水か。	畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	
1地点1面 土坑13 24図18	染付碗	口径（11.8）	磁器 精良 白色	透明	外面は圏線２条と雲や山を描くか。		残0.3	肥前系 有田	
1地点1面　土坑13 P7、12 1地点2面遺構検出 24図19	青花皿 芙蓉手皿	底径（8.6）	磁器 精良 灰色	透明	内面に縦線で区画された中に宝、見込みに草花文か。外面にも文様あり。	畳付砂目付着	残0.2	中国系 漳州窯	16ｃ後～17ｃ前
1地点1面 土坑14 26図1	甕	底径（8.0）	弥生土器 粗砂粒 灰黄色		内面はナデ、外面は刷毛目を粗くナデ消す。外底は粗く削る。		残0.1	在地系	弥生
1地点1面 土坑15 26図2	鉢		瓦質土器 細砂粒(雲母) 黄褐色、黒褐色		内面はナデ、外面は刷毛目。外面は煤が付着する。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑15 26図3	鉢		瓦質土器 細砂粒 灰色、黒灰色		内面は刷毛目、外面はナデ。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑15 26図4　図版33	壺？	底径（9.8）	陶器 3mm程の小石 暗灰色	灰緑色	外面胴部下半～底部は露胎する。内面は粗い工具痕と釉が所々にかかる。		残0.6	肥前系？ 唐津？	
1地1面 土坑17 26図5	鉢		瓦質土器 精良 灰色	灰色	内外面は刷毛目、口縁上部は工具により凹み、刷毛目が残る。外面はナデ。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑17 26図6	碗	底径（3.6）	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	高台のみ露胎する。	高台露胎	残0.3	肥前系 京焼風	17ｃ後
1地点1面 土坑17 26図7	土瓶		陶器 精良 黒茶色	黒茶色	注ぎ口のみ残存する。		残0.1	肥前系？	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
1地点1面 土坑17 26図8	碗		白磁 精良 灰色		内底と高台に砂目が付着する。	畳付砂目付着	残0.2	朝鮮系	17ｃ前か
1地点1面 土坑17 26図9	青花碗	口径（11.0）	磁器 精良 白色	透明	内外面の連弁内などに花を描く。口縁部は輪花である。		残0.1	中国系 景徳鎮	17c
1地点1面 土坑18 26図10	皿	高台径（8.0）	陶器 細砂粒 灰色　茶褐色	灰色	内面に鉄絵を描き、底面に胎土目３ヶ所付着する。	畳付釉剥ぎ 高台露胎	残0.1	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
1地点1面 土坑19 26図11	碗	口径（13.0）	陶器 精良 橙色	灰白色	内外面に煤が付着する。		残0.1	肥前系 唐津	
1地点1面 土坑19 26図12	天目茶碗	高台径（3.8）	陶器 1～2mm砂粒 橙色	黒茶色	外面はケズリ、胴部下半以下は露胎する。高台内に僅かに兜巾が残る。	底部露胎	残0.4	肥前系 唐津	～17ｃ前
1地点1面 土坑19　遺構検出 26図13　図版33	皿	口径（22.3） 器高（9.2） 高台径（9.2）	陶器 精良 黄白色	黄白色	内外底に砂目5ヶ所付着する。無文。	畳付砂目付着	残0.5	肥前系 京焼風	17ｃ前～
1地点1面 土坑19 26図14	鉢	口径（40.0）	瓦質土器 １～2mm細砂粒 茶灰色、灰色		内面は横刷毛目、外面は縦刷毛目。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑19 26図15	擂鉢	口径（32.0）	陶器 細砂粒 暗茶色	緑灰色	外面口縁部のみ施釉。櫛目の単位は8本。		残0.1	備前？	16～17ｃ
1地点1面 土坑19 26図16	擂鉢	口径（34.6） 器高 14.2 底径（13.2）	陶器 粗砂粒 暗茶色	暗茶色	内底底のみ無釉。櫛目の単位は6本。		残0.3	肥前系	17ｃ前
1地点1面 土坑19 27図17	擂鉢	口径（29.6） 器高 9.9 底径（11.0）	陶器 6mmの小石 こげ茶色	こげ茶色	口縁部のみ施釉し、外面にも釉が所々付着する。櫛目の単位10本。外底は糸切り。		残0.5	肥前系	17ｃ前か
1地点1面 土坑19 27図18	火入れ？		陶器 細砂粒 暗茶褐色	暗灰緑色	外面胴部に刷毛目を施し、銅釉を施釉する。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ後～
1地点1面 土坑19 27図19	壺	口径（17.5） 残存高 9.4 底径（9.0）	陶器 精良 灰色	茶黒色	内外面ともに釉垂れている。外底は糸切り。		残0.2	肥前系	
1地点1面 土坑19 27図20	壺？	底径（11.0）	陶器 細砂粒 灰茶色	赤茶色	外面胴部カキ目が明瞭に残る。外底付近に小石などが付着する。		残0.1	肥前系？	
1地点1面 土坑19 27図21	甕	口径（30.0）	陶器 細砂粒 赤茶色	赤茶色	内面胴部は粗い叩き、鉄釉が所々付着する。外面口縁端部は肥厚し、胴部に沈線が巡る。		残0.1	肥前系	17ｃ後～
1地点1面 土坑19 27図22	染付皿	高台径（5.1） 現存器高 2.1	磁器 精良 白色	緑白色	見込みは花、内面胴部は唐草文である。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 土坑19 27図23	染付皿	口径（12.0）	磁器 精良 白色	緑白色	内面は唐草文を描く。		残0.2	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 土坑19 27図24　図版33	染付皿	口径 12.9 器高 2.3～2.6 底径 4.5	磁器 精良 白色	緑白色	見込みは柳・雲、内面胴部は唐草文である。		残0.9	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 土坑19 27図25	染付皿		磁器 精良 灰色	透明	見込みは鳥などの文様か。高台内に露胎し、砂付着する。	高台内露胎	残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
1地点1面 土坑19 27図26	染付皿	口径（23.8） 器高（5.7） 底径（8.8）	磁器 精良 白色	透明	見込みは東屋が２棟・雲、胴部は櫛歯を描く。口縁部片は「く」の字に直立する。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系	
2地点1面 土坑21 30図1　図版33	皿	口径 8.7 器高 2.4 底径 4.8	土師器 細砂粒 黄橙色、		内外面はナデ、外底は糸切り。油煙が付着することから灯明皿か。		残1.0	在地系	
2地点1面 土坑21 30図2	皿	底径（5.0）	土師器 精良 白黄褐色		内外面はナデ調整である。内底は工具痕が明瞭に残る、外底はケズリ。		残0.3	在地系	
2地点1面 土坑21 30図3	天目茶碗	口径 9.2	陶器 白色粒 暗灰褐色	黒緑色	口縁端部は尖る。		残0.2	肥前系 唐津	17ｃ前後
2地点1面 土坑21 30図4　図版33	皿	口径（9.7） 器高 2.9 底径 4.2	陶器 精良 橙灰色	灰茶色	見込みに胎土目３ヵ所付着する。外面胴部下半ケズリで、三日月高台。	高台露胎	残0.7	肥前系 唐津	16ｃ後
2地点1面 土坑21 30図5	皿		陶器 細砂粒 灰茶色　灰黄色	透明	内外面で釉の発色が異なる。口縁端部は尖る。		残0.1	肥前系？	
2地点1面 土坑21 30図6	鉢		陶器 細砂粒 暗茶褐色	黒緑色	口縁部付近に施釉する。		残0.1	肥前系？	17ｃ前～
2地点1面 土坑21 30図7	火入れ？		陶器 精良 灰黒色	黒茶色	外面口縁端部は肥厚する		残0.1	肥前系？	
2地点1面 土坑21 30図8　図版33	壺	口径 5.4 器高 5.0 底径 5.1	陶器 細砂粒 灰茶色	茶灰色 黒茶色	内面は火膨れている。外面口縁端部は皮鯨手。	底部砂目付着	残0.7	肥前系 唐津	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
2地点1面 土坑21 30図9	染付碗	口径 5.4	磁器 精良 白色	透明	内面は圏線を３条巡らし、外面は草花文を描く。		残0.3	肥前系 有田	17c～18c
2地点1面 土坑21 30図10	染付碗	高台径（6.4）	磁器 精良 白色	透明	見込みは水仙か。高台内銘款に変形文字あり。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.2	中国系 景徳鎮	18c
2地点1面 土坑21 30図11	染付碗	高台径（4.8）	磁器 精良 白色	透明	見込みは人物か、高台内銘款は「析」の変形文字と圏線を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	18c
2地点1面 土坑21 30図12	青花皿	口径 10.2	磁器 精良 白色	透明	内面は四方襷状のもか。見込みにも文様あるが不明。外面には圏線を３条巡らす。		残0.3	中国系 漳州窯	16c後～17c前
2地点1面 土坑21 30図13	皿	高台径 7.3	青磁 精良 白色	緑白色	見込みに文様を描く。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 波佐見	
2地点1面 土坑22 30図14	鉢		瓦質土器 精良 灰黒色		内面は刷毛目とナデ、外面は刷毛目をナデ消す。		残0.1	在地系	
2地点1面 土坑22 30図15	壺・甕？		陶器 細砂粒 暗茶褐　灰色	淡黄色	内外面とナデだが、内面に刷毛目状の叩きあり。底部も含めて内外面施釉する。		残0.3	肥前系？	
2地点 土坑24 30図16	土鍋 把手		瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ、指押さえの痕跡。		残0.1	在地系	
2地点 土坑24 30図17	火鉢		瓦質土器 精良 灰色		内面は刷毛目、外面はナデ、口縁部下に菊花文のスタンプあり。		残0.1	在地系	
2地点1面 土坑25 30図18	小皿	口径 6.6 器高 1.9～2.1 底径 4.3	土師器 赤褐色粒 灰褐色		内底中央に2mm程の浅い凹みある。内外面ナデ、外底は糸切り。		残0.9	在地系	
2地点1面 土坑25 30図19	擂鉢		瓦質土器 細砂粒（雲母） 灰色　黒灰色		内面は刷毛目、櫛目2～3条、外面は刷毛目、ナデ調整。外面に片口部分が僅かに残存する。胴部下半は煤が付着する。		残0.2	在地系	
3地点4面 土坑27 30図20	鍋		瓦質土器 精良 灰色　黒灰色		内外面は刷毛目で、外面のみ刷毛目をナデ消す。外面は煤付着する。		残0.1	在地系	
3地点4面 土坑27 30図21	火鉢		瓦質土器 細砂粒（雲母） 灰色　黒灰色		内面は丁寧なナデ、外面は口縁部下に2条突帯が合わさった突帯が２ヶ所、胴部下半に2条の沈線と1条の突帯が巡る。		残0.2	在地系	
3地点3面 土坑28 30図22　図版33	灯明皿	口径 10.9 器高 1.9 底径 7.5～7.7	土師器 胎良 灰色		口縁部は煤付着する。内外面ナデ、外底は糸切り。		完形	在地系	
3地点4面 土坑28 30図23	碗	底径 4.6	陶器 精良 灰色	緑灰色	内外面に煤が付着する。内面は２次焼成を受けているため釉が熔解する。外面はケズリ。	高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	
3地点3面 土坑28 30図24　図版33	皿	口径（11.2） 器高 2.7 底径（3.4）	陶器 精良 灰色	灰緑色	内面は釉垂れし、外面高台付近にかけてケズリ、高台内は兜巾が僅かに残る。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.5	肥前系 唐津	17ｃ前
3地点3面 土坑28 30図25　図版33	皿	口径（8.0） 器高 1.2 底径（4.4）	陶器 精良 灰黄色	黄緑色	ひび割れが目立つ	畳付砂目付着？	残0.5	瀬戸	16c末～17c初
3地点3面 土坑28 30図26	壺	底径（9.6）	陶器 細砂粒 黒灰	緑灰色	内面および外面胴部下半～底部は露胎する。	底部露胎	残0.3	肥前系？	
3地点3面 土坑28 30図27	青花皿		磁器 精良 白色	透明	内面は四方襷か。外面は圏線と唐草文か。		残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
3地点3面 土坑28 30図28	青花皿？		磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線と唐草文か。		残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点南1面 土坑29下層 31図1	皿	高台径 3.2	陶器 精良 灰色	緑灰色	外面胴下半以下は露胎し、調整はケズリで高台に兜巾が残る。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末
4地点南2面 土坑29 31図2	皿	高台径 4.9	陶器 精良 灰色	緑灰色	内底に砂目４ヶ所付着。外面胴下半以下は露胎し、調整はケズリで、高台に兜巾が残る。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	17ｃ前
4地点南2面 土坑29 31図3	皿	高台径 4.8	陶器 精良 灰黄茶色	透明	高台は畳付砂目3ヶ所付着し、兜巾が残る。	畳付砂目付着	残0.2	肥前系 唐津	17ｃ前
4地点南1面 土坑29 31図4	皿		陶器 精良 灰黄茶色	透明	内面に象嵌文様である。		残0.2	肥前系 三島手	17ｃ前～
4地点南2面 土坑29 31図5	碗		陶器 精良 灰色	灰色・茶色	内外面は刷毛目模様である。		残0.1	肥前系 現川	17ｃ末～18ｃ中
4地点南1面 土坑29下層 31図6	碗	高台径 5.0	陶器 精良 黄灰色	灰白色 赤褐色	内外面は刷毛目模様である。	畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系 現川	17ｃ末～18ｃ中
4地点南1面 土坑29 31図7	皿	高台径 6.8	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みに赤色や緑色で草花文を描くか。	高台露胎	残0.2	肥前系 京焼風	17ｃ後

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点南1面 土坑29下層 31図8	碗	高台径 4.0	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みに山水文、高台内に渦状の印銘あり。	高台露胎	残0.2	肥前系 京焼風	17ｃ後
4地点南2面 土坑29 31図9	碗	高台径 5.2	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みに山水文を描く。高台内に「清水」の印銘か。	高台露胎	残0.2	肥前系 京焼風	17ｃ後
4地点南1面 土坑29下層 31図10	甕	高台径 10.6	陶器 白色粒 赤茶色	赤茶色	内面は刷毛目模様、外面胴部のみ波状の刷毛目である。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 武雄	
4地点南1面 土坑29下層 31図11	擂鉢	口径（33.4）	陶器 精良 赤茶色	赤茶色	内面の櫛目の単位は12本。肥厚した口縁部のみ施釉する。		残0.1	肥前系	17ｃ後
4地点南1面 土坑29下層 31図12	染付碗	高台径 5.6	磁器 精良 白色	透明	外面に草花文を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	
4地点南1面 土坑29下層 31図13	染付碗	口径（10.0）	磁器 精良 白色	透明	外面に唐草文を描く。		残0.4	肥前系 有田	18ｃ後
4地点南1面 土坑29下層 31図14	染付碗	口径（9.6）	磁器 精良 白色	透明	外面はコンニャク印判で桐と丸文を描く。		残0.4	肥前系 有田	18ｃ前
4地点南2面 土坑29 31図15	染付碗	口径（11.0）	磁器 精良 白色	透明	口縁部下の2条の圏線下に唐草文か。		残0.2	肥前系	
4地点南1面 土坑29 31図16	染付碗	高台径（5.2）	磁器 精良 白色	透明	見込みに圏線と文様、外面に薄い２条の圏線。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系	
4地点3面 土坑29最下層 31図17	染付碗	高台径（5.2）	磁器 精良 白色	透明	外面は胴部に氷裂文と唐草文か、高台に２条の圏線。高台内銘款に「朱」「米」の篆書体の文字か。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	
4地点南3面 土坑29最下層 31図18	染付碗	高台径（8.6）	磁器 精良 白色	透明	見込みは山水文、外面は胴部と高台に３条の圏線。高台内銘款に渦「福」か。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	
4地点南3面 土坑29最下層 31図19	染付皿	底径（11.4）	磁器 精良 白色	透明	見込みに草花文か。外面は胴部下半に圏線が巡る。外面は胴部下半は露胎するが、高台際以下は施釉される。	畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系 有田	
4地点南2面 土坑31 31図20　図版33	染付碗	口径 11.0 器高 3.1 高台径 4.6	陶器 精良 橙灰色	緑灰色	内面は胎土目４ヶ所、外面口縁部は輪花で皮鯨手である。胴部下半以下は露胎する。	高台露胎 三日月高台	残0.7	肥前系 唐津	16ｃ末
4地点南2面 土坑31 31図21	染付碗	高台径 5.2	陶器 精良 茶褐色	赤茶色	内外面を鉄絵で描く。外面胴部下半は露胎する。		残0.2	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
4地点南2面 土坑31 31図22	染付碗	口径 12.6 器高 6.0 高台径 4.0	陶器 精良 橙色	黒茶色	内面と外面胴部上半は鉄釉で施釉する。	高台露胎	残0.7	肥前系 唐津	17ｃ前
4地点南2面 土坑31 31図23	染付皿		陶器 精良 茶褐色	赤茶色	内面は唐草文か。		残0.1	肥前系 唐津	17ｃ前か
4地点南2面 土坑31 31図24	染付皿		陶器 精良 茶褐色	赤茶色	内面は唐草文か。		残0.1	肥前系 唐津	17ｃ前か
3地点北4面 土坑32 32図1	擂鉢		瓦質土器 細砂粒 灰黒色		内面櫛目の単位２～３条。内外面はナデ調整		残0.1	在地系	
3地点北4面 土坑32 32図2	火鉢		瓦質土器 細砂粒 灰色		外面は煤付着する。内外面は刷毛目調整。		残0.1	在地系	
3地点北4面 土坑32 32図3	火鉢		瓦質土器 細砂粒 灰色		外面は煤付着する。内面は刷毛目、外面は口縁部はミガキ、胴部は刷毛目をナデ消す。		残0.3	在地系	
3地点北4面 土坑32 32図4	擂鉢		瓦質土器 細砂粒 灰色		内外面はナデ、内面の櫛目の単位は9条。		残0.2	在地系	
3地点北4面 土坑32 32図5	湯釜		瓦質土器 細砂粒 灰黒色		内外面は刷毛目とナデ調整。		残0.1	在地系	
3地点北4面 土坑32 32図6	碗	口径（13.0）	磁器 細砂粒 灰色	透明	内外面に圏線が巡る。		残0.2	肥前系 有田	
4地点北2面 土坑33 32図7	皿	高台径 4.6	陶器 精良 灰色	緑灰色	外面胴部下半はケズリ。	蛇の目釉剥ぎ 高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	
4地点北2面 土坑33 32図8	皿	高台径 4.4	陶器 精良 赤灰色	緑灰色	内面に鉄絵する。内面に別個体の高台片付着する。	高台露胎	残0.2	肥前系 唐津	
4地点北2面 土坑33 32図9	碗	口径6.8 器高4.7 高台径5.6	陶器 精良 灰色	黒茶色　白色	内外面に刷毛目模様を施す。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 現川	17c後か
4地点北2面 土坑33 32図10	灯明皿	口径 7.8 器高 3.2 底径 5.4	陶器 精良 赤茶色	赤茶色	外底は糸切り。	高台露胎	残0.9	肥前系 唐津	18ｃ

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点北2面 土坑33 32図11	鉢	高台径 6.4	陶器 精良 赤茶色	赤茶色	外底はケズリ	高台露胎	残0.1	肥前系 唐津	
4地点北2面 土坑33 32図12	甕	口径 14.0	陶器 精良 赤茶色	赤茶色	内面は頸部以下露胎し、外面は施釉する。		残0.1	肥前系	17ｃ後
4地点北2面 土坑33 32図13	甕		陶器 精良 赤茶色	赤茶色	内面は露胎し、外面のみ施釉する。		残0.1	肥前系	17ｃ後
4地点北2面 土坑33 32図14	甕		陶器 精良 赤茶色	赤茶色	外面口縁下に２条突帯がつく。		残0.1	肥前系	17ｃ後
4地点北2面 土坑33 32図15	壺？		陶器 細砂粒 黒茶色	黒灰色	外面胴部は沈線が幾条も巡り、鍔以下から露胎する。		残0.2	肥前系 唐津	
4地点北2面 土坑33 32図16	花生		陶器 精良 赤茶色	緑灰色	内面頸部以下から露胎する。口縁部は盤口形である。		残0.1	肥前系 唐津	18ｃ
4地点北2面 土坑33 32図17	染付皿		磁器 精良 灰色	緑灰色	見込みに絵付けする。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 伊万里	
4地点北2面 土坑33 32図18	碗		青磁 精良 灰色	緑灰色	無文		残0.1		
4地点北2面 土坑33 32図19	皿		青磁 精良 灰色	緑灰色	無文		残0.1		
1地点1面 溝2 34図1	碗	高台径 (3.2)	陶器 黒色細砂粒 灰色	緑灰色	外面の緑釉に濃淡の差がある。見込みに砂目付着、高台内に兜巾が残る。	高台露胎 三日月高台	残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点1面 溝2 34図2	皿	口径 12.0 器高 3.0 高台径 (3.2)	陶器 精良 灰褐色	茶灰色	内面は橙灰色の上から茶灰色を施釉する。外面胴部下半はケズリである。口縁部はなぶり口で、端部は皮鯨手になる。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末
1地点1面 溝2 34図3	皿	口径 10.8 器高 2.9 高台径 (3.2)	陶器 精良 灰褐色	緑灰色	外面は２次焼成を受けて、煤が付着する。外面胴部下半はケズリである。	高台露胎	残0.2	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点1面 溝2 34図4　図版33	皿	口径 14.2 器高 4.9 高台径 (4.4)	陶器 精良 橙灰色	茶灰色	内面は鉄絵で描かれ、見込みには胎土目２ヶ所付着。外面胴部下半はケズリである	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点1面 溝2 34図5	皿	高台径 5.0	陶器 精良 橙灰色	緑灰色	内面に胎土目２ヶ所が付着する。外面胴部下半以下はケズリと露胎。	高台露胎 胎土目付着	残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点1面 溝2 34図6	皿	高台径 5.0	陶器 黒色細砂粒 橙灰色	緑灰色	内面に胎土目２ヶ所が付着する。外面胴部下半以下はケズリと露胎。	高台露胎 胎土目付着	残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点1面 溝2 34図7	皿	高台径 4.4	陶器 黒色細砂粒 橙灰色	緑灰色	内面に胎土目４ヶ所が付着する。外面胴部下半以下はケズリと露胎。	高台露胎 胎土目付着 三日月高台	残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点1面 溝2 34図8	皿		陶器 精良 橙灰色	灰白色	口縁部下に突帯が付く。		残0. 1	肥前系 唐津	
1地点1面 溝2 34図9　図版33	染付皿	口径 14.2 器高 4.1 高台径 5.2	磁器 精良 灰色	透明	見込みは鳥・建物・樹木を描く。外面は無文。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 溝2 34図10　図版33	染付皿	口径 13.4 器高 3.6 高台径 5.0	磁器 黒色細砂粒 灰色	透明	内面見込みに、二艘の舟・鳥・山など風景を描く。外面は無文。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.5	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 溝2 34図11	染付皿	口径 13.0 器高 2.8 高台径 5.0	磁器 精良 白色	透明	内面胴部と見込みは圏線と花卉を描く。外面は無文。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.5	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 溝2 34図12	染付皿	口径 13.0 器高 2.5 高台径 (7.7)	磁器 精良 白色	透明	見込みは松、内面口縁は七宝とを描く。外面に文様あり。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.1	肥前系 有田	
1地点1面 溝2 34図13	染付皿	口径 13.0 器高 2.8 高台径 5.0	磁器 精良 白色	透明	見込みは菊花文？に金や赤で絵付けする。外面は梅を赤で描く。。	畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系 有田	
1地点1面 溝2 34図14　図版34	染付小坏	口径 5.8 器高 1.4 高台径 2.4	磁器 精良 白色	透明	内外面は無文。内面は砂目が付着する、	畳付釉剥ぎ	残0.9	肥前系 有田	
1地点1面 溝3 34図15	高坏		弥生土器 細砂粒 褐色		内面には絞り痕、外面は摩滅。		残0.1	在地系	弥生
2地点1面 溝4 34図16	擂鉢		陶器 白色細砂粒 橙色	黒茶色	内外面は施釉する。内面は櫛目ある。		残0.1	肥前系	18ｃ後
2地点1面 溝4 34図17	擂鉢		陶器 黒色細砂粒 橙色	黒茶色	口縁端部の鉄釉をかける。内面は櫛目ある。		残0.1	在地系	17ｃ末～18ｃ中
3地点4面 溝5 34図18	皿		土師器 細砂粒 灰褐色		内面はナデ、外底は糸切り。		残0.2	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点4面 溝　5 34図19	鍋		瓦質土器 細砂粒 黒茶色		内面は刷毛目、外面は煤が付着する。		残0.2	在地系	
3地点4面 溝　5 34図20	染付碗		磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線と外面に文様あり。		残0.1	肥前系 有田	
3地点4面 溝5 34図21	染付小碗		磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線と外面は菊を描く。		残0.1	肥前系 有田	
3地点4面 溝5 34図22	染付碗		磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線と外面は唐草文などを描く。		残0.1	肥前系 有田	
4地点南2面 溝6 34図23	灯明皿	口径 9.4 器高 2.4 高台径 5.0	土師器 精良 白黄褐色		口縁端部に油煙が付着することから、灯明皿として使用か。外底は糸切り。		完形	在地系	
4地点南3面 溝8 34図24	鉢		瓦質土器 雲母　白色細粒 黒灰色		内外面は刷毛目、外面口縁端部はナデ。		残0.1	在地系	
4地点南3面 溝8 34図25	鉢		瓦質土器 細砂粒 黒灰色		内面は刷毛目、外面はナデで煤が付着する。		残0.1	在地系	
4地点南4面 溝9 35図1	皿	口径 11.2 器高 3.1 高台径 (5.0)	陶器 黒色細粒 灰褐色	灰色、黒茶色	内面は胎土目の痕跡あり。外面胴部下半はケズリである。口縁端部は皮鯨手になる。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
4地点南2面 溝13 35図2	染付碗		磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線と外面は唐草文か。		残0.1	肥前系 有田	
4地点南4面 溝14 35図3	鍋		瓦質土器 細砂粒 灰褐色		内外面は刷毛目で、外面に煤が付着する。		残0.1	在地系	
4地点南4面 溝14 35図4	染付碗		磁器 精良 白色	透明	外面は雨龍か。		残0.1	肥前系 有田	
4地点北1面 溝15 35図5	碗	高台径 (3.8)	陶器 黒色細粒 黄灰色	黄灰色	見込みは山水文を描く。	高台露胎	残0.1	肥前系 京焼風	17ｃ後
4地点北1面 溝15 35図6	灯明皿	口径 (8.4)	陶器 白色細粒 赤茶色	黒茶色	外面は釉垂れするが、大部分は露胎する。外底は糸切りである。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	18ｃ
4地点北1面 溝15 35図7	瓶	口径 3.6	陶器 精良 黒灰色	緑灰色、灰白色	2週類の釉を施釉する。内面口縁端部以外は露胎する。		残0.4	肥前系 武雄	18ｃ
4地点北1面 溝15 35図8	擂鉢		陶器 精良 赤茶色	黒茶色	内面の櫛目の単位は17本以上か。外面の釉は濃淡がある。		残0.1	肥前系	
4地点北1面 溝15 35図9	染付碗	口径 (10.0)	磁器 精良 白色	透明	外面は花唐草文を描く。		残0.1	肥前系 有田	18c前～中
4地点北1面 溝15 35図10	染付碗	高台径 (7.4)	磁器 精良 白色	透明	見込みは五弁花文と圏線、外面は圏線と高台内銘款に「□□□春」か		残0.1	肥前系 有田	18c
4地点北1面 溝15 35図11　図版	染付皿		磁器 精良 白色	透明	見込みはに五弁花文、外面は渦「福」である。		残0.1	肥前系 有田	18c
4地点北1面 溝15 35図12	染付小碗		磁器 精良 白色	透明	外面に蝶などを描く。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	17c後～18ｃ
4地点北4面 溝16 35図13	皿		土師器 黒色細粒 黄灰色		内外面はナデ、外底は糸切りと板状圧痕がある。		残0.4	在地系	
4地点北4面 溝16 35図14	皿		土師器 黒色細粒 黄灰色		全体的に歪んでいることから耳皿か。内外面はナデ、外底は糸切りである。		残0.4	在地系	
4地点北4面 溝16 35図15	湯釜		瓦質土器 白色細粒 灰色、黒色		外面鍔以下は煤が付着する。内外面は刷毛目であるが、外面鍔より上はミガキを施す		残0.3	在地系	
4地点北4面 溝16 35図16	青花碗	口径 (10.0)	磁器 精良 白色	透明	内面は唐草文で、外面口縁部下に圏線が巡る。		残0.1	中国系？	
1地点1面 P7 38図1　図版34	染付碗	口径 11.8 器高 4.7 高台径 4.5	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みは山水文を描く。	高台露胎	残0.3	肥前系 京焼風	17ｃ後～
1地点1面 P10 38図2　図版34	碗	口径 11.8 器高 4.7 高台径 4.5	陶器 精良 橙灰色	緑灰色	高台内に兜巾が残る。口縁部は皮鯨手で、胴部以下はケズリ。	高台露胎 三日月高台	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末
1地点1面 P13 38図3	碗	高台径 5.8	陶器 精良 橙灰色	灰色	高台内に兜巾が残る。胴部以下はケズリ。外面は緑釉で描くか。	高台露胎 三日月高台	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末
1地点1面 P16 38図4　図版34	土瓶蓋	口径 6.4 器高 1.7 底径 3.6	陶器 精良 茶灰色	黒茶色	外面はナデ、外底は糸切り。	底部露胎	完形	肥前系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
1地点1面 P15 38図5　図版34	壺	口径 7.2 器高 12.6 高台径 7.6	陶器 精良 橙色	緑灰～赤茶色	外面口縁～胴部上半は白化粧土の上から銅緑釉を施釉する。胴部下半は薄い鉄釉を施釉する。内面は一部口縁を除いて露胎。	高台露胎	残0.9	肥前系 武雄	
1地点1面 P10 38図6	皿		陶器 白色細粒 橙灰色	灰色	内面に植物文様あり、胴部下半は露胎。		残0.2	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
1地点南 P112 38図7	小碗	口径 (6.8)	磁器 精良 白色	透明	外面は松・岩などを描く。		残0.3	肥前系 有田	17c末～18c
1地点南 P112 38図8	染付皿	口径 (12.8) 器高 (2.9) 高台径 (8.2)	磁器 精良 白色	透明	内面は四方襷とと見込みに風景、高台内銘款に「太明成化年造」。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 有田	17ｃ中～後
1地点1面 P2 38図9	染付皿	口径 (14.0) 器高 3.8 高台径 5.7	磁器 精良 橙灰色	灰色	見込みに蝶。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 伊万里	17ｃ前
2地点北1面 P200 38図10	染付皿	口径 (13.0) 器高 3.9 高台径 4.4	磁器 精良 白色	透明	見込みは蛇の目釉剥ぎ、内面に松か。	蛇の目釉剥ぎ 高台露胎	残0.4	肥前系 伊万里	17ｃ前
3地点1面 P139 38図11	染付皿	口径 (11.0) 器高 3.4 高台径 3.8	陶器 精良 橙灰色	赤灰色	見込みに胎土目痕４ヶ所、外面に胎土目痕あり。	高台露胎 畳付胎土目付着	残0.6	肥前系 唐津	16ｃ末
3地点1面 P141 38図12	碗	高台径 4.6	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みは山水文を描く。	高台露胎	残0.2	肥前系 京焼風	17ｃ後
3地点1面 P141 38図13	小碗	高台径 (4.0)	陶器 精良 赤茶色	緑灰色	内面は打刷毛目である。	高台露胎 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 現川	17c中～18c
3地点1面 P153 38図14	染付皿	口径 (14.2)	磁器 精良 白色	透明	内面は花唐草文、外面は唐草文。		残0.2	肥前系 有田	18c前～中
3地点北1面 P302 38図15　図版34	染付碗	口径 12.1 器高 6.6 高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	内面は四方襷、見込みに花卉、外面は連弁と花卉か。	蛇の目釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.9	肥前系 有田	18c中～末
3地点1面P142 2面P171 3面 P211 38図16	青花皿		磁器 精良 灰色　橙灰色	透明	内面は青海波文と見込みに草花文か。外面にも花卉ある。	蛇の目釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
3地点1面 P143 38図17	水滴	長さ 4.8×1.8 器高 2.0	磁器 精良 白色	透明	注ぎ口部分に文様あり。		残0.2	肥前系	17ｃ末～18ｃ
4地点北1面 P393 38図18	皿	口径 (7.9) 器高 2.0 底径 5.4	土師器 精良 橙灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。		残0.4	在地系	
4地点南1面 P256 38図19	碗	高台径 4.4	白磁 精良 黄白色	黄白色	見込みにも砂目３ヶ所。	畳付砂目付着	残0.3	朝鮮	
4地点北1面 P396 38図20	碗	高台径 3.7	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みは山水文を描く。	高台露胎	残0.3	肥前系 京焼風	17ｃ後
4地点北1面 P396 38図21	碗	高台径 3.6	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みは山水文を描く。	高台露胎	残0.2	肥前系 京焼風	17ｃ後
4地点南1面 P256 39図22	鉢	高台径 (15.0)	陶器 精良 橙色	茶灰色	白化粧土と鉄釉をかける。外面は象嵌模様である。	高台露胎	残0.3	肥前系 三島手	17ｃ前か
4地点北1面 P381 39図23	鉢		陶器 精良 茶褐色	透明	内外面は白化粧土を塗り、外面には松を描くか。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ中～後
4地点南1面 P270 39図24　図版34	擂鉢	口径 33.7 器高 14.5 底径 11.3	陶器 精良 橙色	黒茶色	内外面の口縁端部のみ鉄釉を施釉する。内面の櫛目の単位は16条、外底は糸切り。	底部砂目付着か	残0.7	肥前系 唐津	17ｃ後
4地点北1面 P396 39図25	甕	口径 (26. 0)	陶器 細砂粒 橙灰色	透明	外面は白化粧土に松を描く	口縁部釉剥ぎ	残0.1	肥前系 武雄	17ｃ中～18ｃ前
4地点南1面 P268 39図26	染付碗	底径 3.5	磁器 精良 白色	透明	見込みは圏線２条と花文か。外面は底に「大明年製」、高台に圏線２条と胴部に花卉か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	18c
4地点南1面 P259 39図27　図版34	染付碗	口径 (8.7) 器高 5.1 高台径 3.6	磁器 精良 白色	透明	外面に蝶と水仙か。	畳付釉剥ぎ	残0.9	肥前系 有田	17c中～後か
4地点北1面 P398 39図28	染付皿	口径 (15.6) 器高 5.8 高台径 9.6	磁器 精良 白色	透明	見込みは環状の松竹梅文か。内面胴部は花か。外面は圏線と源氏香文を描く。	蛇の目高台	残0.4	肥前系 有田	19ｃ前～中
4地点北1面 P398 39図29	染付碗 筒型碗	口径 7.4 器高 5.3 底径 4.0	磁器 黒色細粒 白色	透明	内面は見込みに五弁花文と口縁下に圏線、外面は雪持笹と圏線３条を描くか。	畳付釉剥ぎ	残0.6	肥前系 有田	18c中～19c初
4地点北1面 P393 39図30　図版34	仏飯器	口径 (7.6) 器高 4.9 高台径 3.9	白磁 精良 白色	透明	内外面は無文。	高台露胎	残0.6	肥前系 有田	17ｃ末～18ｃ
1地点2面 P39 40図1	天目茶碗	口径 (10.9) 器高 6.3 高台径 4.3	陶器 精良 黒灰色	黒緑色	外面胴部下半以下はケズリで露胎。高台内は兜巾がある。		残0.2	肥前系 唐津	17ｃ前

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
1地点2面 P38 40図2	皿	口径 (9.6) 器高 2.3 高台径 3.4	白磁 精良 灰色	青白色	見込みは露胎。	高台露胎	残0.4		
1地点2面 P39 40図3	青花皿		磁器 精良 灰色	透明	内面に圏線と文様あり。外面に砂付着		残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
1地点2面 P38 40図4	青花碗	高台径 (5.2)	磁器 黒色細粒 白色	透明	見込みに団龍か。高台内銘款は「乾」の篆書体か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系 景徳鎮	16c
1地点2面 P38 40図5	染付碗	高台径 (5.1)	磁器 黒色細粒 白色	透明	見込みに花弁と圏線２条である。外面は草花文か。高台内銘款は変形文字か。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	17c中～後か
2地点北2面 P227 40図6	青花碗	高台径 (5.4)	磁器 精良 白色	透明	見込みに団龍か。高台内銘款に「雍」篆書体か。	畳付釉剥ぎ	残0.4	中国系 景徳鎮	16c
3地点2面 P187 40図7　図版34	染付碗	口径 (11.3) 器高 4.3 高台径 5.1	陶器 精良 橙色	灰色	外面胴部以下は露胎。高台内に兜巾がある。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
3地点2面 P188 40図8	碗	口径 (11.2) 器高 4.1 高台径 4.1	陶器 精良 橙灰色	茶灰色	内面に胎土目痕１ヶ所あり。外面口縁下は露胎。	内面胎土目痕	残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
3地点2面 P163 40図9	皿	口径 (13.9) 器高 43.9 高台径 4.4	陶器 精良 灰色	深緑色	見込みに砂目4ヶ所付着。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.6	肥前系 唐津	17c前
3地点2面 P191 40図10	瓶	底径 4.6	陶器 精良 灰色	深緑色	外底に全体に砂付着。	外底砂付着	残0.7	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
3地点2面 P163 40図11	鉢		陶器 精良 橙色		象嵌の上に白化粧土を塗る。		残0.1	肥前系 三島手？	17ｃ前
3地点2面 P163 40図12	土瓶 汽車土瓶	口径 (8.6) 器高 (12.0) 底径 4.6	陶器 精良 黄灰色	黄緑色	外面に鉄絵あり。内外底露胎	口縁釉剥ぎ 外底露胎	残0.5	肥前系	19ｃ後～
3地点2面 P159 40図13	甕	底径 31.3	陶器 精良 黄灰色	赤茶色	白化粧土の上から刷毛目を施す。		残0.3	肥前系	
3地点2面 P170 40図14	青花皿		磁器 精良 灰色、橙灰色	透明	内面は青波海文で区画され、間に花文か。外面は圏線。口縁部は輪花である。		残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点北2面 P424 40図15	碗	高台径 4.6	陶器 精良 黄灰色	茶褐色	外面胴部下半以下は露胎。	高台露胎	残0.3	瀬戸？	
4地点北2面 P404 40図16	碗	口径 (8.0) 器高 4.9 高台径 (3.0)	陶器 精良 赤茶色	緑灰色	内外面は白化粧土を刷毛目をする。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 現川	17ｃ後～
4地点北2面 P420 40図17	碗	高台径 4.0	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みに山水文。	高台内露胎 畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 京焼風	17ｃ後
4地点北2面 土坑33･P404 40図18	碗	口径 (10.0) 器高 4.6 高台径 4.0	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みに山水文。高台内に印銘がある。	高台露胎	残0.7	肥前系 京焼風	17ｃ後
4地点北2面 P417 40図19	碗	口径 (9.4) 器高 4.4 高台径 3.1	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みは緑釉で花文、外面は緑や赤釉で笹を描く。	高台露胎	残0.7	肥前系 京焼風	18ｃ前
4地点北2面 P400 40図20	皿	口径 (12.5) 器高 4.5 高台径 2.5	白磁 精良 灰色	透明	見込みと高台に砂目が３ヶ所付着。	高台露胎	残0.6	肥前系	17c前か
4地点北2面 P417 41図21	染付碗	口径 9.3～10.6	磁器 精良 白色	透明	見込みと外面は松・梅を描く。器形は歪んでいる		残0.4	肥前系 有田	18cか
4地点南2面 P290 41図22	染付碗	口径 8.0 器高 4.2 高台径 3.8	磁器 精良 灰褐色	透明	コンニャク印判で桐を押印する	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.5	肥前系 有田	18c前～18c中
4地点北2面 P404 41図23	染付碗	口径 (8.4) 器高 4.7 高台径 (4.8)	磁器 黒色細粒 白色	透明	コンニャク印判で桐を押印する	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	18c前～18c中
4地点北2面 P419 41図24	染付碗	口径 (10.4) 器高 4.95 高台径 (4.4)	磁器 精良 白色	透明	外面には花弁を描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 有田	18cか
4地点北2面 P404 41図25	染付碗	口径 7.8 器高 5.2 高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	外面は型紙摺りの唐草文か。高台内銘款に「太明年製」あり。	畳付釉剥ぎ	残0.8	肥前系 有田	18ｃ前～
1地点3面 P69 42図1	火鉢		瓦質土器 精良 灰白色		内面に板ナデ。外面はミガキ。		残0.1	在地系	
1地点3面 P69 42図2	染付碗	口径 10.0 器高 4.7 高台径 4.0	磁器 精良 白色	透明	外面は松や楼閣などの建物を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.7	肥前系 有田	18c前～中か
1地点3面 P69 42図3	染付碗	口径 (13.8) 器高 3.1 高台径 7.4	磁器 精良 白色	透明	見込みに文様あり。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	18c

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
2地点北3面 P253 42図4	甕	口径 16.0	陶器 白色細粒 赤茶色	緑灰色	口縁上部は釉を剥ぎ取る		残0.1	高取	17ｃ前
3地点3面 P226 42図5　図版34	小皿	口径 6.0 器高 1.4 底径 4.8	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底の糸切りをナデ消す。		完形	在地系	
3地点3面 P221 42図6　図版34	灯明皿	口径 5.8 器高 1.8 底径 3.6	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底の糸切りをナデ消す。口縁端部に油煙付着、灯明皿として使用か		完形	在地系	
3地点3面 P219 42図7	皿	口径 (10.0)	白磁 黒色細粒 灰色	透明	口縁端部は釉剥ぎ	高台露胎	残0.2		
3地点3面 P213 42図8	皿	口径 (10.0) 器高 2.3 高台径 5.8	白磁 黒色細粒 灰色	透明	見込みは蛇の目釉剥ぎ	高台露胎	残0.2	中国系？	
3地点北3面 P335 42図9	皿	口径 (10.6) 器高 3.1 高台径 5.2	陶器 精良 灰白色	透明	見込みは菊花文と蛇の目釉剥ぎ、内外面は圏線が巡る。	畳付釉剥ぎ 高台一部露胎	残0.4	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点南3面 P342 42図10	皿	口径 (5.4) 器高 1.9 底径 3.2	土師器 精良 黄灰色		内外面はナデ、外底の糸切りはナデ消す。		残0.4	在地系	
4地点南3面 P337 42図11	皿	口径 (6.0) 器高 1.6 底径 3.2	土師器 精良 黄灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。		残0.4	在地系	
4地点南3面 P343 42図12　図版34	皿	口径 9.7 器高 3.5 底径 4.0	土師器 精良 黄灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。		残0.5	在地系	
4地点南3面 P342 42図13	灯明皿	口径 (8.2) 器高 2.1 底径 6.2	土師器 精良 灰褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。内外面には煤が付着。		残0.3	在地系	
4地点南3面 P343 42図14	鍋		瓦質土器 精良 茶褐色、黒灰色		内面は刷毛目、外面の刷毛目はナデ消す。外面には煤が付着。		残0.1	在地系	
4地点南3面 P343 42図15	湯釜		瓦質土器 精良 灰褐色、黒灰色		内外面は刷毛目。外面には煤が付着。		残0.1	在地系	
4地点南3面 P347 42図16	皿	高台径 (5.9)	陶器 精良 灰褐色	銅緑釉 黄緑色	見込みに蛇の目釉剥ぎ。	高台露胎 三日月高台	残0.2	肥前系 唐津	
4地点北3面 P427 42図17	碗	高台径 (4.2)	青磁 黒色細粒 灰褐色	黄緑色	高台内に砂目付着。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	17ｃ
4地点南3面 P343 42図18　図版34	甕	底径 12.6	陶器 精良 赤茶色	黒茶色	内面は露胎、格子目状の叩きか。外底は一部露胎。		残0.4		
4地点南3面 P343 42図19	甕	口径 (41.0)	陶器 精良 茶褐色	赤茶色	口縁上部に砂目付着。		残0.1		17ｃ前
4地点南3面 P296 42図20	火鉢		瓦質土器 精良 灰白色、黒灰色		内面は煤が付着。外面口縁部下に六弁の花文状のスタンプあり。		残0.1		
4地点南3面 P341 43図21　図版34	皿	口径 10.0 器高 2.7 高台径 5.3	白磁 精良 灰色	青白色	高台は釉剥ぎ。	口縁端部釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ	残0.6	中国系	16c
4地点北3面 P437 43図22	碗	口径 (12.8) 器高 6.2 高台径 5.5	磁器 精良 白色	透明	内外面の口縁端部は圏線２条、見込みは僅かに文様が残る。外面は唐草文。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	17c中～後か
4地点北3面 P427 43図23	染付碗	口径 (15.6) 器高 7.8 高台径 (6.0)	磁器 精良 白色	透明	外面は葉、圏線は内底に２条、外底に１条あり。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	17c中～後か
4地点南3面 P347 43図24	染付碗	高台径 (4.7)	磁器 黒色細粒 白色	透明	見込みに圏線２条と花卉、外面高台に圏線２条を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	17c中～後か
4地点北3面 P429 43図25	染付碗		磁器 精良 白色	透明	外面は花唐草文。		残0.3	肥前系 有田	18c前～中
4地点南3面 P343 43図26	碗	高台径 (6.0)	陶器 黒色細粒 灰白色	緑灰色	畳付砂目２ヶ所付着する。胎土は灰白色で粉っぽい。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	瀬戸？	
4地点北3面 P429 43図27	染付皿		磁器 精良 灰色	透明	見込みに文様あり。外面や高台内に圏線が巡る。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点北3面 P435 43図28	染付皿		磁器 精良 灰色	透明	内面は草花文、口縁部は唐草文か。外面圏線２条巡る。		残0.2	肥前系 有田	17c～18c
1地点4面 P100 44図1　図版34	碗	口径 (11.0) 器高 6.2 高台径 (4.6)	陶器 精良 黄灰色	緑灰色	釉調は青磁に近い。貫入が多く入る。	削りだし高台	残0.5		
3地点北4面 P356 44図2　図版34	灯明皿	口径 (9.2) 器高 2.3 底径 (5.8)	土師器 精良 灰褐色		内外面はナデ、外底は糸切りである。内面と外面の一部に煤が付着する。		残0.4	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点4面 P241 44図3　図版34	皿	口径 8.8 器高 2.6 底径 5.2	土師器 精良 橙褐色		内外面は雑なナデ、外底は糸切りである。		残0.9	在地系	
3地点4面 P250 44図4	皿	底径 7.0	土師器 精良 灰白色		内外面は雑なナデ、外底は糸切りである。		残0.2	在地系	
3地点4面 P235 44図5　図版34	鉢	口径 12.0 器高 4.4 底径 9.1	土師質土器 白色細粒 褐色		内外面に刷毛目が明瞭に残る。底部は刷毛目をナデ消す。		残0.5	在地系	
3地点北4面 P352 44図6	鉢		瓦質土器 白色細粒 灰褐色、黒灰色		内面は刷毛目で、外面はナデ。外面に３条の沈線状の凹みがある。		残0.1	在地系	
3地点北4面 P243 44図7	鍋		瓦質土器 白色細粒 灰褐色		内面は刷毛目で、外面はナデ。外面には煤が付着する。		残0.1	在地系	
3地点4面 P238 44図8	擂鉢	口径 (32.4)	瓦質土器 白色細粒 灰色、黒灰色		内面は刷毛目で、櫛目の単位は３条。外面はナデ。		残0.3	在地系	
3地点4面 P241 44図9	鍋		瓦質土器 精良 灰褐色、黒灰色		内面は刷毛目で、外面は刷毛目をナデ消す。外面には煤が付着する。		残0.2	在地系	
3地点北4面 P355 44図10	湯釜		瓦質土器 精良 灰褐色、黒灰色		内外面は刷毛目が明瞭に残る、。		残0.1	在地系	
3地点4面 P246 44図11	火鉢		瓦質土器 白色細粒 灰褐色		内外面はナデで、外面底部近くを強いナデで凹ませ突帯を作る。		残0.1	在地系	
3地点北4面 P351 44図12	碗	口径 (12.8)	白磁 黒色細粒 白色	透明	内外面は無文。外面に横ナデが強く残り、段になる。		残0.3		
4地点北4面 P444 44図13	鍋		瓦質土器 精良 灰褐色、黒灰色		内面は刷毛目で、外面は刷毛目をナデ消す。外面には煤が付着する。		残0.2	在地系	
4地点南4面 P372 44図14	鍋		瓦質土器 白色細粒 黒灰色		内面は刷毛目で、外面は刷毛目をナデ消す。外面には煤が付着する。		残0.1	在地系	
4地点4面 P445 44図15	皿	高台径 (4.8)	陶器 精良 灰褐色	灰茶色	見込みに鉄絵あり。外面胴部以下はケズリである。	高台露胎	残0.3	肥前系 有田	16ｃ末～17ｃ初
4地点北4面 P445 44図16	甕		陶器 白色細粒 赤茶色	透明	白化粧土の上に透明釉で施釉する。外面には鉄釉で松を描くか。		残0.1	肥前系 武雄	17c中～後
4地点南4面 P363 44図17	青花碗	口径 (12.4)	磁器 精良 橙灰色	透明	内面は圏線のみで、外面は圏線下に花を描く		残0.3	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点北4面 P445 44図18	染付小碗	高台径 (3.4)	磁器 精良 白色	透明	見込みに砂が付着。外面は丸文を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 波佐見か	18c前～中
4地点北4面 P445 44図19	染付碗	高台径 (6.6)	磁器 精良 白色	透明	外面は赤絵で、格子目と圏線を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	
4地点北4面 P445 44図20	染付皿	口径　(18.8) 器高 4.0 高台径 (10.6)	磁器 精良 白色	透明	内面は果実と葉と唐草文か。見込みも同様の果実だが、葉の形状が異なる。外面は唐草文。高台内銘款に「玩」の文字あり。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	19ｃ
3地点4面 Ｐ237 44図21	染付碗		磁器 精良 白色	透明	内面は圏線のみで、外面は圏線下に鎧？を描く		残0.1	肥前系 有田	
4地点北4面 Ｐ445 44図22	染付碗		磁器 精良 灰色	透明	内面は雷文と山か。外面口縁部の圏線下に雲を描く		残0.1	肥前系 有田	
5地点4面 Ｐ379 44図23	鉢		瓦質土器 白色細粒 黒灰色、灰色		内外面は刷毛目。		残0.1	在地系	
5地点4面 Ｐ379 44図24	火鉢	底径 (9.6)	瓦質土器 白色細粒 黒灰色、灰白色		内外面に煤が付着する。外面は指押さえや強いナデの痕跡が明瞭に残る。外底は糸切れ		残0.1	在地系	
1地点1面 遺構検出 45図1　図版35	甕	口径 10.4	陶器 精良 橙色	緑灰色	内面は同心円文、外面胴部は格子目の叩きである。外面肩部に３ヶ所耳がつく。		残0.4	肥前系	16ｃ末～17ｃ前
1地点1面 遺構検出 45図2　図版35	甕	口径 (20.6) 器高 38.5 底径 27.3	陶器 精良 灰褐色	緑灰色	外面肩部に胎土目が付着する。外底には胎土目が付着する	畳付胎土目付着 外底露胎	残0.7	肥前系？	17ｃ前か
3地点北1面 甕1 46図1　図版35	甕	口径 50.6 器高 56.8 底径 29.5	瓦質土器 精良 橙褐色		内面にはカルキが付着する。外面は横ナデ、粗い刷毛目で所々に工具痕がある。外底は刷毛目状の痕跡である。		残0.9	在地系	
3地点北1面 甕2 46図2　図版35	甕	口径 50.4 器高 63.0 底径 33.1	瓦質土器 精良 橙褐色		内面にはカルキが付着する。外面は横ナデ、粗い刷毛目で所々に工具痕がある。外底は刷毛目状の痕跡である。		残0.9	在地系	
3地点北1面 甕1内出土 46図3　図版35	皿	口径 (5.4) 器高 2.15 高台径 6.4	土師器 精良 褐色		内外面は黒班する。薄手て丁寧なナデ作る。		完形	肥前系 京焼風	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点北1面 甕1内出土 46図4	碗	口径 9.0 器高 5.4 高台径 3.0	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	内外面は無文。	畳付釉剥ぎ	完形	肥前系 京焼風	17ｃ末～18ｃ
3地点北1面 甕1内出土 46図5	瓶	口径 3.6	陶器 精良 灰褐色	黒茶色、黒灰色	口縁～頸部は黒茶釉、肩部から黒灰釉になる。２次焼成を受けて、所々溶解する。		残0.2	肥前系 唐津	18c末～19c中
3地点北1面 甕1内出土 46図6	染付碗 広東碗	口径 11.4 器高 6.0 高台径 6.0	磁器 精良 白色	透明	内面は文字か。外面は舟・山・樹木を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.9	肥前系 有田	18c末～19c初
3地点北1面 甕1内出土 46図7	染付碗		磁器 精良 白色	透明	内面は圏線、外面に草花文か。		残0.1	肥前系 有田	
3地点北1面 甕2内出土 46図8	火鉢	口径 (18.0) 底径 (16.4)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ。図面上で、接合。		残0.3	在地系	
3地点北1面 甕2内出土 46図9	染付猪口		磁器 精良 白色	透明	内面は圏線、外面に梵字文。		残0.1	肥前系 有田	18ｃ後～19ｃ前
3地点北1面 甕2内出土 46図10	染付碗		磁器 黒色細粒 白色	透明	内面は圏線、外面に唐草文などか。		残0.1	肥前系 有田	
4地点南1面 遺構検出 47図1　図版35	灯明皿	口径 6.0 器高 2.0 底径 4.5	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。口縁端部は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		完形	在地系	
2地点1面 遺構検出 47図2　図版35	灯明皿	口径 6.05 器高 1.75 底径 4.0	土師器 精良 黄橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。口縁端部は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		完形	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図3　図版35	灯明皿	口径 6.3 器高 2.1 底径 3.9	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。内面は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		完形	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図4　図版36	小皿	口径 6.4 器高 1.8 底径 3.9	土師器 精良 橙褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。		完形	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図5	小皿	口径 6.4 器高 1.8 底径 4.2	土師器 精良 橙褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。		残0.8	在地系	
2地点1面 遺構検出 47図6　図版36	灯明皿	口径 6.8 器高 1.8 底径 4.2	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。内面は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		完形	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図7　図版36	灯明皿	口径 6.4 器高 2.1 底径 4.2	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。内面は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		完形	在地系	
2地点1面 遺構検出 47図8　図版36	小皿	口径 7.0 器高 1.95 底径 4.5	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。内面のナデは渦巻状になる。		完形	在地系	
2地点1面 遺構検出 47図9　図版36	小皿	口径 7.2 器高 2.2～2.9 底径 3.5	土師器 精良 橙褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。内面のナデは渦巻状になる。		残0.9	在地系	
4地点南1面 遺構検出 47図10	小皿	口径 7.1 器高 2.25 底径 4.0	土師器 精良 褐色		内外面はナデ。		残0.8	在地系	
3地点1面 遺構検出 47図11	小皿	口径 7.4 器高 1.6 底径 5.4	土師器 精良 橙色		内外面はナデ。		完形	在地系	
4地点南1面 遺構検出 47図12　図版36	灯明皿	口径 8.0 器高 2.4 底径 3.4	土師器 精良 赤褐色、黒褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。口縁端部や内面まで油煙が付着し、被熱して硬化する。かなり使いこまれた灯明皿か。		完形	在地系	
2地点1面 遺構検出 47図13	灯明皿	口径 9.0 器高 2.5 底径 5.4	土師器 精良 橙褐色		内外面はナデ。口縁端部は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		残0.7	在地系	
3地点1面 遺構検出 47図14　図版36	小皿	口径 8.9 器高 3.0 底径 5.2	土師器 精良 褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。口縁端部や内面まで油煙が付着する。かなり使いこまれた灯明皿か。		残0.9	在地系	
3地点1面 1段下げ 47図15　図版36	灯明皿	口径 9.0 器高 1.5 底径 6.4	土師器 精良 橙褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。口縁端部は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		残0.9	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図16　図版36	皿	口径 10.0 器高 2.4 底径 4.7	土師器 精良 褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。		完形	在地系	
2地点北2面 遺構検出 47図17	灯明皿	口径 9.9 器高 2.6 底径 5.2	土師器 精良 灰白色		内外面はナデ、外底はヘラ切り。口縁端部は油煙が付着する。灯明皿として使用か。		残0.6	在地系	
3地点1面 遺構検出 47図18	皿	口径 (11.4) 器高 2.4 底径 (5.6)	土師器 精良 灰白色		内外面はナデ、外底はヘラ切り		残0.4	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図19	火鉢	口径(16.0) 器高 7.2 底径 (12.0)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ、外底は糸切り。口縁端部は煤が付着する。火鉢として使用か。		残0.1	在地系	
2地点北2面 遺構検出 47図20	火鉢	口径 (22.6) 器高 4.5 底径 (15.6)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ		残0.1	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
1地点1面 遺構検出 47図21	火鉢	口径 (25.4)	瓦質土器 精良 灰褐色		内面はナデ、外面は刷毛目。		残0.2	在地系	
3地点1面 遺構検出 47図22	鉢	口径 (12.6) 器高 10.6 底径 (12.8)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ。外面は剥離している。		残0.4	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図23　図版36	鉢	口径 (9.8) 器高 5.9 底径 (7.4)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面は指ナデや工具ナデが明瞭に残る。２次焼成を受けているこｔから、鍛冶などで使用か。		残0.4	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図24	壺	口径 (9.0)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ。		残0.2	在地系	
3地点1面 遺構検出 47図25	壺	底径 1.2	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はミガキやナデ。		残0.2	在地系？	
2地点1面 遺構検出 47図26	壺	底径 4.8	瓦質土器 精良 橙褐色		内外面はナデ、外底は糸切り		残0.6	在地系	
3地点1面 遺構検出 47図27　図版36	壺	底径 4.4	瓦質土器 精良 橙褐色		内外面はナデ、外底は糸切り		残0.5	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図28	壺	口径 (26.4)	弥生土器 精良 橙褐色		内面は刷毛目とナデ、外面はミガキで、丹塗りする。		残0.2	在地系	
1地点1面 遺構検出 47図29	碗	高台径 (6.6)	瓦質土器 精良 黒灰色		内外面はナデ。		残0.2	在地系	12c～13c
1地点1面 遺構検出 47図30	鉢	口径 (46.0)	瓦質土器 精良 橙褐色		内外面は刷毛目、外面に指押さえが所々に残る。		残0.2	在地系	16c～17c
2地点1面 遺構検出 48図1	火鉢	口径 (29.6) 器高 8.5 底径 (21.2)	瓦質土器 黒色細粒 灰褐色		脚は三足か。内外面はナデ。		残0.3	在地系	
3地点北1面 遺構検出 48図2	火鉢	口径 (40.0)	瓦質土器 黒色細粒 橙褐色		内外面はナデ。		残0.1	在地系	
1地点1面 遺構検出 48図3	鉢	器高 13.0	瓦質土器 黒色細粒 橙褐色		内外面はナデ。櫛目は6条。		残0.2	在地系	
2地点1面 遺構検出 48図4	鉢	口径 (34.6)	瓦質土器 黒色細粒 灰褐色		内面は刷毛目、外面はナデ。外面口縁下に木葉文のスタンプと型押しで突帯2条作る。		残0.2	在地系	
2地点1面 遺構検出 48図5	鉢？	口径 (21.4)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ。		残0.2	在地系	
1地点1面 遺構検出 49図1	碗 天目茶碗	口径 (10.0)	陶器 精良 灰色	緑灰色	外面はまばらに施釉する。外面には鉄絵あり。		残0.3	肥前系？	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 49図2	碗 天目茶碗	口径 (10.6)	陶器 精良 黒灰色	深緑色	内外面に施釉するが、外面は胴部下半以下、ケズリで露胎する。		残0.3	肥前系？	16c末～17c初
3地点1面 遺構検出 49図3	碗	高台径 (4.2)	陶器 精良 灰褐色	黒茶色	内外面に施釉するが、外面は胴部下半以下、ケズリで露胎する。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	17c前～中
1地点1面 遺構検出 49図4	碗	高台径 (4.3)	陶器 精良 赤茶色	黒緑色	内外面に施釉するが、外面は胴部下半以下、ケズリで露胎する。	高台露胎 三日月高台	残0.4	肥前系 唐津	17c前～中
1地点1面 遺構検出 49図5	碗	高台径 (5.0)	陶器 精良 黒灰色	茶灰色	内外面刷毛目を施す。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 現川	17ｃ後
3地点1面 遺構検出 49図6	碗 天目茶碗	口径 (11.8) 器高 5.4 高台径 (5.0)	陶器 精良 灰褐色	黒緑色	内外面に施釉するが、外面は胴部下半以下、ケズリで露胎する。	高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	16c末～17c初
3地点1面 遺構検出 49図7　図版36	碗 天目茶碗	口径 12.0 器高 5.7 高台径 4.7	陶器 精良 灰褐色	黒緑色	内外面に施釉するが、外面は胴部下半以下、ケズリで露胎する。釉は所々発色不良である。	高台露胎	残0.8	肥前系 唐津	16c末～17c初
4地点南1面 遺構検出 49図8	碗	口径 (8.4) 器高 4.9 高台径 (4.0)	陶器 精良 茶褐色	茶灰色	口縁端部のみ鉄釉を施釉する。内外面刷毛目模様である。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 現川	17ｃ後
2地点北1面 遺構検出 49図9	碗	口径 (9.4) 器高 4.7 高台径 (3.6)	陶器 精良 赤茶色	赤茶色	内面は打ち刷毛目、外面は円文である。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 現川	18ｃ
4地点南1面 遺構検出 49図10	碗	高台径 (3.6)	陶器 精良 灰色	茶灰色	内外面は刷毛目模様。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 現川	17ｃ後
2地点1面 遺構検出 49図11　図版36	皿	口径 8.6 器高 2.4 底径 4.2	陶器 精良 黒灰色	赤茶色	外底は糸切り。	底部露胎	残0.9	肥前系 唐津	16c末
1地点1面 遺構検出 49図12　図版36	皿	口径 (8.5) 器高 3.7 底径 (3.1)	陶器 精良 橙灰色	灰白色	白化粧土を内面と外面口縁部のみ塗る。外底は糸切り。	底部露胎 底部砂付着	残0.4	肥前系 唐津	16c末か

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
2地点1面 遺構検出 49図13　図版36	皿	口径 7.7 器高 4.2 底径 3.9	陶器 精良 灰褐色	緑灰色	外面胴部以下は露胎。外底は糸切り。	底部露胎	残0.9	肥前系 唐津	16c末か
1地点1面 遺構検出 49図14	碗	高台径 5.6	陶器 精良 灰色、橙灰色	灰白色	高台内兜巾が残る。	高台露胎	残0.2	高取？	17c前～中
1地点1面 遺構検出 49図15	碗	高台径 (5.0)	陶器 白色細粒 黒灰色	黒灰色	内面に象嵌あり。	畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系 三島手	17c前～中か
1地点1面 遺構検出 49図16　図版36	碗	口径 9.8 器高 4.6 高台径 3.9	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	内面に山水文あり。	高台露胎	残0.8	肥前系 京焼風	17ｃ後
2地点1面 遺構検出 49図17	碗	口径 (9.5) 器高 5.0 高台径 3.8	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	内面に砂付着。畳付に目跡痕あり。	高台露胎 畳付目跡痕	残0.7	肥前系 京焼風	18c前
1地点1面 遺構検出 49図18	碗	口径 (10.4) 器高 5.3 高台径 (4.8)	陶器 黒色細粒 灰褐色	灰白色	高台のみ露胎。	高台露胎	残0.4	肥前系	16c末～17c初
2地点1面 遺構検出 49図19　図版36	皿	口径 11.0 器高 3.6 高台径 4.0	陶器 精良 赤茶色	黒灰色	口縁端部は皮鯨手、内面に胎土目４ヶ所ある。外面胴部以下は露胎し、高台内には兜巾が残る。	内面胎土目痕 高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	16c末
2地点1面 遺構検出 49図20	皿	口径 (11.2) 器高 3.5 高台径 4.4	陶器 精良 灰褐色	深緑色	内面に砂付着。口縁端部は皮鯨手。	高台露胎 三日月高台	残0.5	肥前系 唐津	16c末
1地点1面 遺構検出 49図21　図版36	皿	口径 (11.0) 器高 4.7 高台径 4.4	白磁 精良 灰白色	透明	畳付に砂目3ヶ所付着。	畳付砂目付着	残0.6		17c前～中
1地点1面 遺構検出 49図22　図版36	皿	口径 14.2 器高 43.5 高台径 5.0	陶器 精良 灰色	緑灰色	内面見込みと畳付に砂目が4ヶ所ずつ付着。	内面砂目付着 畳付砂目付着	残0.5	肥前系 唐津	17c前～中
1地点1面 遺構検出 49図23　図版36	皿	口径 14.4 器高 3.3 高台径 5.2	陶器 精良 橙色	赤灰色	見込みに砂目3ヶ所付着。	内面砂目付着 高台露胎	残0.9	肥前系 唐津	16c末
1地点1面 遺構検出 49図24	皿	高台径 4.2	陶器 精良 橙色	灰色	内面に植物文様の鉄絵と胎土目3ヶ所あり。	内面胎土目痕 畳付目跡痕 高台露胎	残0.2	肥前系 唐津	16c末～17c初
2地点1面 遺構検出 49図25　図版36	皿	口径 12.4 器高 4.2 高台径 4.0	陶器 精良 黒灰色、赤茶色	黒灰色	内面に植物文様の鉄絵と胎土目3ヶ所あり。	高台露胎	残0.7	肥前系 唐津	16c末～17c初
3地点1面 遺構検出 49図26　図版36	皿	口径 12.4 器高 3.6 高台径 4.2	陶器 精良 橙色	茶灰色	内面に植物文様の鉄絵と胎土目あり。	高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 49図27　図版36	皿	口径 (12.7) 器高 3.8 高台径 4.0	陶器 精良 灰褐色	黄緑色	内面に植物文様の鉄絵あり。	高台露胎	残0.6	肥前系 唐津？	16c末～17c初
2地点1面 遺構検出 49図28	皿	口径 (12.2) 器高 4.1 高台径 5.0	陶器 精良 灰褐色	灰色	外面胴部以下は露胎する。	高台露胎	残0.5	肥前系 唐津	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 49図29　図版37	皿	口径 (13.8) 器高 4.8 高台径 5.2	陶器 精良 黒灰色、橙色	黒灰色	外面胴部以下は露胎する。	高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 49図30	皿	口径 (15.0) 器高 4.4 高台径 5.2	陶器 精良 黄灰色	黄緑色	内面には砂付着。高台内には兜巾あり。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 49図31　図版37	皿	口径 (13.5) 器高 4.1 高台径 4.2	陶器 精良 橙色	灰白色？	内面には白化粧土のみで、釉はかかっていない。内面に植物文様の鉄絵と胎土目あり。	内面胎土目痕 高台露胎	残0.5	肥前系 唐津	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 49図32　図版37	皿	口径 (14.9) 器高 4.4 高台径 4.6	陶器 精良 灰褐色	緑灰色	内面に砂目付着。	内面砂目付着 畳付砂目付着 高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	17c前～中
1地点1面 遺構検出 49図33	皿	口径 (16.1) 器高 5.2 高台径 5.2	陶器 精良 灰褐色	緑灰色	内面に砂目付着。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	17c前～中
2地点1面 遺構検出 49図34	皿	高台径 4.2	陶器 精良 赤茶色	黒茶色	内面には鉄絵と胎土目4ヶ所付着。外面胴部下半以下はケズリ、高台は兜巾あり。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	17c前～中
2地点1面 遺構検出 49図35	皿	高台径 4.6	陶器 精良 橙色	青緑色	内面には銅緑釉を施釉し、蛇の目釉剥ぎする。	蛇の目釉剥ぎ 高台露胎	残0.3	肥前系	17c中～18c
1地点1面 遺構検出 50図1	皿	口径 (26.4)	陶器 精良 橙色	灰白色	内外面に白化粧土を塗り、その上に鉄絵で描く。		残0.3	肥前系	17c前～中か
1地点1面 遺構検出 50図2	皿	口径 (27.0)	陶器 精良 灰色	緑灰色	内面に松を描くか。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ後
2地点1面 遺構検出 50図3	皿又は鉢	高台径 9.2	陶器 精良 茶褐色	黒茶色	内面に砂目あり。外面はケズリ。	高台露胎	残0.2	肥前系 唐津	17ｃ後か
1地点1面 遺構検出 50図4	皿	高台径 9.2	陶器 精良 灰色	緑灰色	内面はナデ、外面高台付近はケズリ。	高台露胎	残0.2	肥前系 唐津	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点1面 遺構検出 50図5	皿	高台径 9.6	陶器 精良 橙灰色	透明	見込みは鉄絵、外面の高台付近に煤付着。	高台露胎 畳付胎土目跡痕	残0.2	肥前系 唐津	16c末～17c初
5地点1面 遺構検出 50図6	皿	口径 (19.0) 器高 6.8 高台径 6.3	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込みは蛇の目釉剥ぎで、その上に鉄釉をかける。畳付けに胎土目５ヶ所目跡痕残ス	高台露胎 畳付胎土目跡痕	残0.5	肥前系 京焼風	17ｃ後～18ｃ
5地点1面 遺構検出 50図7　図版37	皿	口径 (23.0) 器高 8.1 高台径 10.3	陶器 精良 灰色	緑灰色	見込みに山水文。	高台内露胎	残0.6	肥前系 京焼風	17ｃ後～18ｃ
1地点1面 遺構検出 51図1	鉢	口径 (33.0) 器高 17.0 高台径 (21.0)	陶器 黒色細粒 橙色	黒茶色 黄緑色	口縁に貝目、内面に同心円の叩き痕。内面は鉄釉の発色不良で、黄灰色状になる。外面は鉄釉をかける。	口縁貝目 高台露胎	残0.3	肥前系	16ｃ末～17ｃ前
1地点1面 遺構検出 51図2	鉢？	口径 (19.9) 器高 12.1 高台径 (12.8)	陶器 黒色細粒 灰色	赤茶色 黄緑色	施釉した後、天地を逆に置いたため、口縁端部下にに釉垂れが残る。内面に叩きを消すようにはナデられる。	口縁露胎	残0.4	肥前系	16ｃ末～17ｃ前
5地点1面 遺構検出 51図3　図版37	鉢	口径 27.0 器高 10.1 高台径 10.9	陶器 精良 灰褐色	赤茶色	外面は白化粧の上に貝を付着させ、松を描く。その上から、所々櫛書きする。内面はカキ目になる。	高台露胎 畳付目跡痕	残0.7	肥前系 武雄	17ｃ
3地点北1面 遺構検出 51図4	片口鉢	口径 (22.0)	陶器 精良 橙色	黒茶色	口縁は露胎する。	口縁釉剥ぎ	残0.1	肥前系	17ｃ末～18中
2地点1面 遺構検出 51図5　図版37	片口鉢	口径 24.5 器高 12.3 高台径 9.8	陶器 精良 橙色	赤茶色 黒茶色	白化粧土の上から刷毛目を施す。外面は刷毛目で波状文を描く	口縁釉剥ぎ 高台露胎	残0.8	肥前系 武雄	17ｃ末～18中
1地点1面 遺構検出 51図6	片口鉢	口径 (24.0) 器高 12.5 高台径 (9.2)	陶器 精良 橙色	赤茶色	口縁と外面胴部下半以下は露胎するが、他は鉄釉を施釉する。	口縁釉剥ぎ 高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	17ｃ末～18中
2地点北1面 遺構検出 51図7　図版37	片口鉢	口径 22.5～26.4 器高 9.4 高台径 12.8	陶器 精良 灰色	黄茶色	内面口縁～外面胴部下まで施釉する。内面の櫛目の単位は27条	高台露胎	残0.7	肥前系	17ｃ中～後
2地点1面 遺構検出 52図1	擂鉢	口径 (24.0)	陶器 黒色細粒 灰色	黄緑色	口縁端部周辺を施釉。内面の櫛目の単位は１４条。		残0.2		16ｃ末～17ｃ初
3地点1面 1段下げ 52図2	擂鉢	口径 (24.6)	陶器 精良 黒灰色	黄緑色	口縁端部周辺を施釉。内面の櫛目の単位は5条。		残0.3	肥前系	16ｃ末～17ｃ初
2地点1面 遺構検出 52図3	擂鉢	口径 (36.0)	陶器 精良 橙灰色	黒茶色	口縁端部周辺を施釉。内面の櫛目の単位は10条。		残0.2	肥前系	17ｃ前
2地点1面 遺構検出 52図4	擂鉢	口径 (36.0)	陶器 精良 黒灰色	赤茶色	口縁端部のみ施釉。内面の櫛目の単位は14条。		残0.2	肥前系	17ｃ後
3地点1面 遺構検出 52図5	鉢		陶器 白色細粒 灰褐色	赤茶色	内外面は強いナデが明瞭に残る	口縁露胎	残0.1	肥前系？	17ｃ前～
2地点1面 遺構検出 52図6	鉢		陶器 白色、黒色細粒 橙色	銅緑釉 黄茶色	内面は白化粧土を塗り、刷毛目で波状や櫛掻きする。外面は口縁部下まで施釉する。		残0.1	肥前系 武雄	18ｃ前～中
1地点1面 遺構検出 52図7	鉢		陶器 精良 橙色	透明	内外面は白化粧土を塗る。内面は鉄釉と緑釉で松、外面は刷毛目で波状にする。外面は胴部上半まで施釉する。		残0.2	肥前系 武雄	17ｃ後
5地点1面 遺構検出 52図8	鉢	口径 (35.0)	陶器 精良 橙色	黄茶色	内面は白化粧土の上から刷毛目で波状にする。外面は胴部上半まで施釉する。		残0.2	肥前系 武雄	18ｃ前～中
3地点北1面 遺構検出 52図9	擂鉢	底径 11.4	陶器 精良 橙色		内面の櫛目の単位は13条。外底は糸切り。		残0.2	肥前系	
3地点1面 遺構検出 52図10	鉢	高台径 25.0	陶器 精良 橙色	黒茶色	内面は白化粧土の上に施釉し、波状の刷毛目模様。見込みには砂目が付着する。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 武雄	
4地点南1面 遺構検出 52図11	鉢	高台径 9.1	陶器 精良 灰褐色	銅緑釉 緑灰釉	内面のみ銅緑釉、見込みに目跡痕あり。	高台露胎 畳付目跡痕	残0.1	肥前系 唐津	
2地点1面 遺構検出 52図12	鉢	高台径11.8	陶器 黒色細粒 橙色	透明	内面は白化粧土の上から、見込みに刷毛目で波状にする。その上に砂目８ヶ所付着。	高台露胎	残0.1	肥前系 武雄	
1地点1面 遺構検出 52図13	擂鉢		陶器 精良 灰褐色		内面の櫛目の単位は5条。胴部下半は露胎。	外底貝目	残0.2		
1地点1面 遺構検出 53図1　図版37	壺蓋	受け部径 (10.1) 器高 4.1 底径 4.6	陶器 精良 橙色	灰白色	外面の上部のみ白化粧土を塗る。底は糸切り。	底部露胎	残0.5		17ｃ
4地点南1面 遺構検出 53図2　図版37	壺蓋	受け部径 9.8 器高 4.3 底径 5.4	陶器 精良 橙色	深緑色	深緑釉の上に白化粧土を塗るので、深緑釉がまばらに見える。底部は糸切り。	底部露胎	残0.8	肥前系 唐津	17ｃ
1地点1面 遺構検出 53図3　図版37	壺蓋	口径 2.7 器高 2.1 底径 4.9	陶器 精良 橙色	黒茶色	天井は鉄釉の上に灰かぶりかかる。底部は糸切り。	底部露胎	完形	肥前系 唐津	17ｃ
4地点北1面 遺構検出 53図4　図版37	土瓶蓋 汽車土瓶蓋	受け部径 7.8 口径 6.2	陶器 精良 黄灰色	青緑色	銅緑釉がかかる。	口縁露胎	残0.9	肥前系？	19c後～

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点南1面 遺構検出 53図5　図版37	土瓶		陶器 精良 橙色	黒茶色	外面胴部下半以下はケズリ。	口縁露胎 底部露胎	完形	肥前系	19ｃ
1地点1面 遺構検出 53図6	灯明皿	口径 8.5 底径 4.4	陶器 精良 橙色	黒茶色	外面は部分的に露胎する。	底部露胎	残0.6	肥前系 唐津	18ｃ
2地点北1面 遺構検出 53図7	火入れ		陶器 精良 橙色	黒茶色	外面には刷毛目を模様する。	高台露胎	残0.6	肥前系 武雄	17ｃ後
4地点南1面 遺構検出 53図8	香炉	口径 16.0 器高 6.3 高台径 (8.0)	陶器 精良 灰褐色	灰色	外面には灰釉に施釉し、緑釉が所々にかかる。高台に切り込みあり。	高台露胎	残0.3	肥前系 武雄	18ｃ
1地点1面 遺構検出 53図9	火入れ		陶器 精良 黒灰色	灰色	外面は白化粧土を刷毛目で模様にする。		残0.1	肥前系 唐津	17ｃ中～後
4地点南1面 遺構検出 53図10	火入れ	口径 (12.0)	陶器 精良 橙色、灰色	黄緑色	口縁部に煤付着。外面胴部下半は露胎する。		残0.2		17ｃ後
4地点南1面 遺構検出 53図11　図版37	火入れ	口径 (11.0) 器高 6.2 高台径 (5.8)	陶器 精良 橙色	黒茶色	内面口縁～外面胴部下半まで施釉する。	高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	18ｃ前～中
3地点1面 遺構検出 53図12	瓶	口径 5.4	陶器 精良 赤灰色	透明	白化粧土を塗った上に、透明釉を施釉する。		残0.1		
1地点1面 遺構検出 53図13	瓶	口径 (6.4)	陶器 精良 灰色	灰色	内面口縁部まで施釉するが、その下はケズリが明瞭に残る		残0.1	肥前系	
3地点北1面 遺構検出 53図14	瓶		陶器 精良 灰褐色	黒茶色 灰色	頸部は鉄釉、肩部は白化粧土を刷毛目でナデ、その上から灰釉を施釉か		残0.2	肥前系	17ｃ末～18ｃ
3地点1面 遺構検出 53図15　図版37	水差し？	口径 (15.2)	陶器 精良 灰色	深緑色	内面口縁～外面は施釉する。外面はカキ目が明瞭に残る。		残0.2	肥前系？	
3地点1面 遺構検出 53図16　図版37	土管	口径 14.4	陶器 精良 橙色	赤茶色	内外面はナデ。薄い鉄釉を施釉する。		残0.2	在地系？	
3地点1面 遺構検出 54図1	壺	底径 5.0	陶器 精良 橙灰色	黒灰色	内面と外面胴部下半以下は露胎。全体的に煤が付着する。	底部露胎	残0.3	肥前系 唐津	
1地点1面 遺構検出 54図2	壺	口径(11.6)	陶器 精良 灰褐色	黒茶色	内外面は施釉する。		残0.2	高取？	
2地点1面 遺構検出 54図3	壺	高台径 (8.0)	陶器 精良 灰褐色　橙灰色	黒灰色	外面胴部下半以下は露胎。	高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	
1地点1面 遺構検出 54図4	甕		陶器 精良 赤茶色	黒茶色	内面は格子目叩き		残0.1	肥前系	17ｃ前
1地点1面 遺構検出 54図5	甕	口径 (36.0)	陶器 白色細粒 赤茶色	黒茶色	内面は同心円叩き、外面には貼花文がつく。		残0.1	肥前系	17ｃ前
3地点北1面 遺構検出 54図6	甕	口径 (35.0)	陶器 精良 橙色	黒茶色	内面は格子目叩きとカキ目やナデ、外面は縄状突帯が２条巡る。	口縁露胎	残0.3	肥前系	17ｃ前
2地点1面 遺構検出 54図7	甕	口径 (20.0)	陶器 精良 灰色	透明	内面の口縁部と外面にはは白化粧土塗って刷毛目を施す。その上に松を描くか。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ後
4地点南1面 遺構検出 54図8	甕	口径 (29.0)	陶器 精良 橙色		内外面は白化粧土のみを塗るが、所々剥離している。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ後
4地点南1面 遺構検出 54図9	甕	口径 (32.0)	陶器 精良 灰褐色	銅緑釉	内外面胴部下半以下は露胎か。外面には幾何学文様を印刻する。		残0.2	肥前系	
1地点1面 遺構検出 55図1	碗	高台径 4.0	白磁 精良 灰色	透明	高台内に砂が多く付着する。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	朝鮮	
1地点1面 遺構検出 55図2　図版38	碗	高台径 4.4	白磁 精良 灰色	透明	内面に砂が付着。外面胴部下半以下はケズリ	畳付釉剥ぎ	残0.6	朝鮮？	
1地点1面 遺構検出 55図3	碗	口径 (10.6) 器高 6.3 高台径 4.4	白磁 精良 灰色	透明	内面に砂が付着。外面胴部下半以下はケズリ	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	朝鮮？	
1地点1面 遺構検出 55図4	染付碗	口径 (11.6) 器高 7.1 高台径 5.1	磁器 精良 白色	透明	外面は唐草文と胴部に花文か。天目茶碗型の初期伊万里か。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.5	肥前系 伊万里	17c前～中
3地点1面 遺構検出 55図5	染付碗	高台径 3.4	磁器 精良 白色	透明	外面は網目文か。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	18ｃ前
4地点南1面 遺構検出 55図6	染付碗	高台 径3.6	磁器 精良 白色	透明	外面は圏線と高台内銘款に文字あり	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	肥前系 有田	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点北1面 遺構検出 55図7	染付碗	高台径 3.6	磁器 精良 白色	透明	外面は花唐草文と圏線、高台内銘款に渦「福」	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	
2地点北1面 遺構検出 55図8	染付碗	高台径 4.2	磁器 精良 白色	透明	外面は丸文内に籠目や沙綾形を描く。高台内銘款に渦「福」。外面には煤付着。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	17c末～18c中
1地点1面 遺構検出 55図9	染付碗	高台径 4.2	磁器 精良 白色	透明	見込みに「福」、外面は区画内に「信」の字あり。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	17c
4地点北1面 遺構検出 55図10	染付碗	口径 10.2 高台径 4.2	磁器 精良 灰色	透明	他の碗の口縁部が付着、。外面に薄く二重の網目文と３条の圏線。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	肥前系 波佐見	18c前～中
1地点1面 遺構検出 55図11	染付碗 くらわんか碗	口径 10.6 器高 4.3 高台径 4.2	磁器 精良 白色	透明	器形は耳皿状に変形。口縁部に土が付着。外面に草花文と圏線。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 波佐見	18c中～末
4地点南1面 遺構検出 55図12	染付碗	口径 10.6 器高 4.3 高台径 4.2	磁器 精良 白色	透明	外面に岩などの風景と圏線か。高台内銘款に「宣明年製」か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	17c後か
1地点1面 遺構検出 55図13	染付碗	高台径 4.2	磁器 精良 白色	透明	見込みは菊弁・圏線、中央に柘榴か。外面に文様と圏線。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	17cか
3地点1面 遺構検出 55図14	染付碗	口径 11.2 器高 4.3 高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	見込みに花弁と圏線、外面にも圏線あり。高台内銘款に「太目目」とある。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	17c中～後か
4地点南1面 遺構検出 55図15	染付碗	高台径 5.2	磁器 精良 白色	透明	見込みに花弁と圏線、外面の高台に圏線2条。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 有田	17c中～後か
3地点1面 遺構検出 55図16	染付碗	高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	見込みは花弁と圏線、外面は圏線と草花文か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系	
1地点1面 遺構検出 55図17	染付碗	口径 13.0	磁器 精良 白色	透明	外面に梅花文。		残0.3	肥前系 有田	18c前～中
3地点1面 遺構検出 55図18	染付碗	口径 (11.0) 器高 5.8 高台径 (5.0)	磁器 精良 白色	透明	見込みに環状の松竹梅花文と口縁下に四方襷、外面に花唐草と連弁と高台に圏線2条。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	18c中～末
4地点南1面 遺構検出 55図19	染付碗	高台径 5.0	磁器 精良 白色	透明	見込みに花文と圏線1条。	畳付釉剥ぎ	残0.2	中国系 景徳鎮	16c
1地点1面 遺構検出 55図20	碗	口径 (11.9) 器高 4.3 高台径 5.5	白磁 精良 白色	透明	見込みは釉剥ぎ、外面に細い連弁文様。	内面釉剥ぎ 高台露胎	残0.4	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点南1面 遺構検出 55図21	青花碗	口径 (14.6)	磁器 精良 灰白色	透明	内面は松葉、外面に雲竜か。		残0.2	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点1面 遺構検出 55図22　図版38	碗	口径 12.0 器高 6.7 高台径 5.6	青磁 精良 灰色	緑灰色	内外面は無文。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	
4地点南1面 遺構検出 55図23　図版38	染付碗	口径 11.0 器高 4.7 高台径 3.6	磁器 精良 白色	黒茶色、透明	見込みに菊花文、外面は鉄釉で施釉する。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	
1地点1面 遺構検出 56図1	染付碗 筒型碗	口径 9.0	磁器 精良 白色	透明	外面は圏線間に網目、胴部に樹木か。		残0.1	中国系	
1地点1面 遺構検出 56図2　図版38	猪口	高台径 3.6	磁器 精良 白色	透明	高台内銘款に「大明成化年製」。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	17c中～後
3地点1面 遺構検出 56図3	染付碗	口径 10.0 器高 6.4 高台径 5.8	磁器 精良 白色	透明	見込みに環状松竹梅文、口縁下は四方襷、外面は氷裂花・連弁文・渦などを描く。外面口縁は輪花になる。	畳付釉剥ぎ	残0.8	肥前系 有田	18ｃ後
1地点1面 遺構検出 56図4　図版38	猪口	口径 7.5 器高 6.1 高台径 3.9	磁器 精良 白色	透明	外面は楓など、高台内銘款に「大明年製」がある。	畳付釉剥ぎ	残0.8	肥前系 有田	17c中～後
4地点南1面 遺構検出 56図5	碗	口径 4.8 器高 3.1 高台径 2.0	白磁 精良 白色	透明	内外面は無文。	高台露胎	残0.7	肥前系？ 有田	
3地点1面 遺構検出 56図6	染付蓋	摘み径 4.4	磁器 精良 白色	透明	見込みには2条の圏線と環状の松竹梅文、外面は蛸唐草文・連弁文、高台内銘款に「冨貴長春」を描く。	摘み釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	18c中～末
1地点1面 遺構検出 56図7	染付碗	口径 19.0	磁器 精良 白色	透明	外面は唐草文か。	口縁釉剥ぎ	残0.1	肥前系 有田	
4地点南1面 遺構検出 56図8	染付瓶	高台径 7.2	磁器 精良 白色	透明	外面胴部に網目と圏線を描く。内面は露胎する。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	17c中～後
1地点1面 遺構検出 57図1　図版38	染付皿	口径 13.0 器高 3.9 高台径 5.0	磁器 精良 白色	透明	見込みは蛇の目釉剥ぎと口縁下に草花文。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
4地点南1面 遺構検出 57図2　図版38	染付皿	口径 13.7 器高 4.4 高台径 5.1	磁器 精良 白色	透明	見込みは銀杏か、口縁下に四方襷を描く。	蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ	残0.9	肥前系 伊万里	17ｃ前～中

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点1面 遺構検出 57図3	染付皿	口径 13.6 器高 3.3 高台径 5.1	磁器 精良 白色	透明	見込みは吹墨と梅に鶯を組み合わせる。口縁は口銹。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 遺構検出 57図4	染付皿	高台径 5.2	磁器 精良 白色	透明	見込みに山水文か。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 遺構検出 57図5	染付皿	口径 12.8 器高 3.1 高台径 5.2	磁器 精良 白色	透明	見込みに花文と口縁。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 遺構検出 57図6	染付皿	高台径 5.6	磁器 精良 白色	透明	見込みに圏線と花文。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 遺構検出 57図7	染付皿	口径 14.0 器高 3.3 高台径 5.8	磁器 黒色細粒 灰色、橙色	透明	内面に菊花文などを描く	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 遺構検出 57図8	染付皿	口径 13.6 器高 2.8 高台径 5.8	磁器 精良 白色	透明	見込みは雲と草か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
4地点南1面 遺構検出 57図9　図版38	染付皿	口径 (13.0) 器高 3.0 高台径 5.9	磁器 精良 白色	透明	見込みに草・虫を描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.6	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
1地点1面 遺構検出 57図10	染付皿	口径 13.4 器高 3.9 高台径 5.4	磁器 精良 白色	透明	見込みは草花文か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
4地点1北面 遺構検出 57図11	染付皿	口径 11.5 器高 3.5 高台径 4.3	磁器 精良 白色	透明	見込みは無文で、蛇の目釉剥ぎをする。内面に井桁又は斜格子を描く。	蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 波佐見	18c中～末
3地点北1面 遺構検出 57図12	染付皿	口径 (13.0) 器高 3.7 高台径 5.0	磁器 精良 灰色	透明	見込みは五弁花文のコンニャク印判、蛇の目釉剥ぎをするが、釉が溶着し砂が付着する。内面は花唐草か。	蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 波佐見	18c中～末
4地点南1面 遺構検出 57図13　図版38	染付皿 手塩皿	口径 10.6 器高 2.3 高台径 5.8	磁器 精良 白色	透明	見込みは楼閣・家屋・岩・樹木を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	18c～19c中
3地点北1面 遺構検出 57図14　図版38	皿 手塩皿	口径 9.9 器高 2.7 高台径 5.9	磁器 精良 白色	透明	見込みに網干・樹木・鳥・、山などを描く。口縁は口銹で、輪花である。	畳付釉剥ぎ	残0.8	肥前系 有田	18c～19c中
1地点1面 遺構検出 57図15　図版38	皿 菊花皿	口径 (8.0) 器高 2.3 高台径 2.7	磁器 精良 白色	透明	菊花皿で、無文である。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.6	肥前系？	18c前か
3地点北1面 遺構検出 57図16　図版38	染付皿	口径 7.6 器高 3.4 高台径 2.4	磁器 精良 白色	透明	見込みは魚2匹、外面は口縁下に雨降り。	畳付釉剥ぎ	完形	肥前系 有田	19c～20c
2地点1面 遺構検出 57図17	青花皿	高台径 5.2	磁器 黒色細粒 白色	透明	見込みに官人風の人物を描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	中国系 漳州窯	16c後～17c前
2地点1面 遺構検出 58図1	染付皿	口径 10.2	磁器 精良 灰白色	透明	内外面の圏線間に波、その波のうねり間に点を描く。外面胴部は葡萄か。		残0.3	肥前系 有田	19c
3地点1面 一段下げ 58図2	染付皿	口径 10.2 器高 2.5 底径 4.8	磁器 精良 灰褐色	透明	見込みは蛇の目釉剥ぎ、内外面に圏線2条が巡る。	蛇の目釉剥ぎ	残0.5	中国系？	18c
2地点1面 遺構検出 58図3	染付皿	高台径 7.7	磁器 黒色細粒 白色	透明	見込みには花と鮎を描く。高台内銘款に「朝」の一字あり。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	朝妻焼	18ｃ
2地点北1面 遺構検出 58図4	染付皿	口径 (12.6) 器高 3.7 高台径 (8.0)	磁器 黒色細粒 白色	透明	内面は花文と見込みに五弁花文のコンニャク印判、外面は唐草文、高台内銘款「大明年製」か	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 波佐見	18ｃ中～末
2地点北1面 1段下げ 58図5	染付皿	口径 (14.2) 器高 2.1 高台径 (8.0)	磁器 黒色細粒 白色	透明	見込みに文様あり。高台内銘款は「朱」「米」の篆書滞か	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	17ｃ後～
2地点1面 遺構検出 58図6	染付皿	口径 (13.5) 器高 2.3 高台径 (9.0)	磁器 黒色細粒 白色	透明	内面は鶴と風景、外面は圏線と花唐草か。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 柿右衛門	18ｃ
1地点1面 遺構検出 58図7	染付皿	口径 (14.0) 器高 2.8 高台径 9.4	磁器 黒色細粒 白色	透明	見込みに網干などか、外面は圏線と記号	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	18ｃ
2地点北1面 1段下げ 58図8	染付皿	口径 (13.0) 器高 2.8 高台径 (8.0)	磁器 黒色細粒 白色	透明	内面は松など、外面は唐草文、高台内銘款は「□□□春」か	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	18ｃ
3地点北1面 1段下げ 58図9	染付皿	高台径 (8.8)	磁器 精良 灰色	透明	内面は赤絵などで草花文を描く。外面には僅かに赤絵あり。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	18ｃか
3地点1面 1段下げ 59図1	染付皿	高台径 (10.8)	磁器 精良 白色	透明	見込みに鹿・草花文などを描く	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	17c中～後
4地点南1面 遺構検出 59図2	染付皿	高台径 (12.4)	磁器 精良 白色	透明	内面は菊花、外面は唐草文と高台の圏線間に○×の連続文を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	18c
3地点1面 遺構検出 59図3　図版38	染付皿	口径 (21.6) 器高 3.25 高台径 13.6	磁器 精良 白色	透明	型打ち整形で稜花形に作り、口銹である。見込みは舟とその舟で釣る人、松・家屋を描く。如意頭や連弁で区画されたものを陽刻する。	畳付釉剥ぎ 高台内にハリ跡	残0.7	肥前系 有田	17ｃ後～18ｃ

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点1面 遺構検出 59図4	染付皿	高台径 10.8	磁器 精良 白色	透明	見込みは水仙か、高台内銘款は「大明年製」と圏線。	畳付砂目付着 畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	17c後～18c
5地点1面 遺構検出 59図5	染付皿	高台径 (13.0)	磁器 精良 白色	透明	見込みは桐・唐草文、雲気などを描く。高台内銘款は「大明年製」と圏線。	畳付釉剥ぎ 高台内にハリ跡	残0.3	肥前系 有田	17c後～18c
1地点1面 遺構検出 59図6	染付皿		磁器 精良 白色	透明	内面は建物、外面胴部に七宝結ぶと高台に櫛歯を描く。		残0.1	肥前系 鍋島	17c後～18c
2地点1面 遺構検出 59図7	染付皿	口径 (21.0)	磁器 精良 灰色	透明	内面は菊唐草文、外面は唐草文と圏線。		残0.2	肥前系 有田	18c
2地点1面 遺構検出 59図8	染付大皿	口径 (32.0)	磁器 精良 白色	透明	内面は桐葉か、外面は唐草文。		残0.2	肥前系 鍋島？	18c
3地点1面 遺構検出 60図1	青花皿	高台径 (7.2)	磁器 精良 白色	透明	見込みに圏線と「寿」の一字あり。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	中国系	
3地点1面 1段下げ部分 60図2	染付皿	高台径 (13.9)	磁器 精良 灰褐色	透明	内面に施釉するが、釉は発色不良である。見込みは文様と「ＶＯＣ」の文字あり		残0.2	中国系？	17c
1地点1面 遺構検出 60図3	皿	口径 (13.0) 器高 4.5 高台径 4.4	白磁 精良 灰色	透明	高台の畳付に砂目3ヶ所あり。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.5		
4地点南1面 遺構検出 60図4	皿	口径 (13.6) 器高 4.1 高台径 4.5	白磁 精良 灰色	透明	見込み砂目3ヶ所あり。	畳付釉剥ぎ	残0.3		
5地点1面 遺構検出 60図5　図版38	皿	口径 (15.0) 器高 3.2 高台径 6.0	白磁 精良 灰色	透明	見込みにも砂目と煤が付着。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3		
3地点1面 遺構検出 60図6	染付皿	口径 (14.0) 器高 4.1 高台 7.2	磁器 黒色細粒 白色	灰色	内面は連弧状と圏線、見込みには草花文を素書する。外面に文様ある。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2		19c
2地点北1面 1段下げ 60図7	青花皿	器高 4.9	磁器 精良 灰色	透明	内面は帯線や圏線と八卦と花文を描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.1	中国系 漳州窯	16c後～17c前
2地点北1面 遺構検出 60図8	青花皿	口径 (24.0) 器高 4.3 高台径 (12.0)	磁器 精良 灰色	透明	内面は帯線や圏線と八卦と花文を描く。見込みは菊花などを描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	中国系 漳州窯	16c後～17c前
3地点北1面 遺構検出 60図9	青花皿	口径 (27.8)	磁器 精良 灰色	透明	内面は青海波文で区画され、間に花文を描く。外面は圏線と文様がある。	畳付釉剥ぎ	残0.2	中国系 漳州窯	16c後～17c前
2地点1面 遺構検出 60図10　図版38	皿	口径 11.4 器高 2.5 高台径 6.4	陶器 精良 黄灰色	黄緑色	見込みは釉剥ぎ。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着 見込み釉剥ぎ	残0.8	瀬戸	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 60図11　図版38	皿	口径 11.0 器高 2.3 高台径 5.6	陶器 精良 灰色	黄緑色	見込みは釉剥ぎし、菊花状である。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着 見込み釉剥ぎ	残0.9	瀬戸	16c末～17c初
1地点1面 遺構検出 60図12	皿	高台径 (8.0)	白磁 黒色細粒 灰色	透明	高台内に砂が付着。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	朝鮮	
1、2地点1面 遺構検出 60図13	皿	口径 (13.7)	青磁 精良 黒灰色	青緑色	内面は文様を櫛書きする。		残0.2	中国 龍泉窯	15c後～
2地点1面 遺構検出 60図14	皿	口径 23.0 器高 4.3 高台径 11.8	青磁 精良 灰色	青緑色	見込みに草花文と沈線ある。蛇の目部分に鉄釉を塗る。	蛇の目高台	残0.9		
1地点1面 遺構検出 60図15　図版38	皿	口径 19.5 器高 3.5 底径 18.4	青磁 精良 灰色	青緑色	形状は花菱形で、底面に三足が接合する。見込みに草花文を描く。	底部一部露胎	残0.9	肥前系	17c
2地点1面 遺構検出 61図1	火入れ	口径 (10.8) 器高 6.2 高台径 5.0	陶器 精良 灰白色	青緑色	内面は露胎、一部釉垂れする。	高台露胎 畳付砂目付着	残0.5	肥前系 有田	18c前～中
4地点1面 遺構検出 61図2　図版38	火入れ	口径 (11.2) 器高 6.0 高台径 6.2	青磁 精良 白色	緑白色	畳付部分以外は施釉する。	高台露胎	残0.4	肥前系 有田	18c前～中
3地点北1面 遺構検出 61図3　図版38	釜道具	口径 4.5 器高 1.2 底径 2.4	磁器 精良 白色	透明	逆台形ハマで、一部のみ釉が付着するが、露胎する。	全面露胎	完形	肥前系 有田	17c後
1地点1面 遺構検出 61図4	小坏	口径 8.1 器高 4.9 高台径 4.2	磁器 精良 白色	透明	内面は無文。	高台露胎	残0.8	肥前系 有田	17c末～18c
4地点南1面 遺構検出 61図5　図版38	染付瓶	口径 3.6 器高 14.5 高台径 4.3	磁器 精良 白色	透明	外面胴部に草花文や蝶か。高台に薄い圏線を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.9	肥前系 有田	17c中
3地点北1面 遺構検出 61図6	染付瓶	高台径 4.8	磁器 精良 灰色	透明	外面胴部に蛸唐草文と連弁、胴部下半の圏線間に縦線を描く。	畳付釉剥ぎ	残0.7	肥前系 有田	18c末～19c中
4地点南1面 遺構検出 61図7　図版38	染付瓶	口径 3.6 器高 14.5 高台径 4.3	磁器 精良 白色	透明	外面肩部に唐草文、胴部に草花文と網目文、高台に圏線を描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.9	肥前系 有田	17c中～後

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
1地点2面 遺構検出 62図1　図版38	小皿	口径 5.6 器高 1.7 底径 4.1	土師器 精良 橙灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。		完形	在地系	
4地点南2面 遺構検出 62図2	灯明皿	口径 5.8 器高 2.0 底径 3.9	土師器 精良 橙灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。内面は全面、外面は半分以上煤が付着。		残0.8	在地系	
4地点北2面 遺構検出 62図3	小皿	口径 6.1 器高 1.8 底径 3.8	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。		残0.6	在地系	
4地点南2面 遺構検出 62図4	小皿	口径 6.3 器高 1.9 底径 4.0	土師器 精良 橙灰色		内外面はナデ、外底は糸切り後にナデ。		残0.9	在地系	
4地点北2面 遺構検出 62図5　図版38	小皿	口径 7.0 器高 1.7 底径 4.2	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。		完形	在地系	
4地点南2面 遺構検出 62図6	灯明皿	口径 7.5 器高 2.1 底径 4.8	土師器 精良 褐色		内外面はナデ、外底は糸切り後にナデ。内面は全面、外面にも煤が付着。		残0.9	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図7	皿	口径 (9.3) 器高 2.3 底径 5.4	土師器 精良 橙灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。		残0.6	在地	
4地点南2面 遺構検出 62図8	灯明皿	口径 10.0 器高 2.5 底径 5.9	土師器 精良 褐色		内面に煤付着。内外面はナデ、外底は糸切り。板状圧痕が残る。		残0.7	在地系	
3地点2面 遺構検出 62図9	皿	口径 9.3 器高 2.7 底径 5.6	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。板状圧痕が残る。		残0.5	在地系	
2地点2面 遺構検出 62図10	皿	口径 (12.4) 器高 4.9 底径 (10.2)	土師器 精良 橙色		内外面はナデ。		残0.2	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図11	皿	口径 13.7 器高 3.9 底径 9.7	土師器 精良 橙色		内面はナデ、外面は板ナデ痕が明瞭に残る。外底は糸切り。		残0.6	在地系	
4地点南2面 遺構検出 62図12	鉢	口径 (23.8) 器高 4.4 底径 (15.8)	瓦質土器 精良 橙灰色		内面は刷毛目、外面は刷毛目を一部ナデ消す。		残0.2	在地系	
4地点南2面 遺構検出 62図13	鉢		瓦質土器 精良 橙色		内外面はナデ。		残0.1	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図14	火鉢		瓦質土器 精良 灰色		内面は刷毛目、外面は刷毛目をナデ消す。		残0.1	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図15	擂鉢		瓦質土器 精良 灰色		内外面は刷毛目とナデ。櫛目の単位は4条か。		残0.2	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図16	鉢		瓦質土器 精良 橙色		内外面は刷毛目。		残0.1	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図17	鉢		瓦質土器 白色細粒 灰色		内外面は刷毛目とナデ。		残0.1	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図18	湯釜	口径 (19.8)	瓦質土器 精良 灰色		内外面は刷毛目、外面はミガキで丁寧。		残0.2	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図19	湯釜		瓦質土器 精良 灰色		内面は刷毛目、外面に煤付着。		残0.2	在地系	
5地点2面 遺構検出 62図20	湯釜		瓦質土器 白色細粒 橙褐色		内面は刷毛目、外面に煤付着。		残0.2	在地系	
3地点2面 遺構検出 62図21	火鉢	口径 (30.0)	瓦質土器 精良 灰褐色		内面は刷毛目、外面口縁付近に木葉文スタンプと2条の突帯あり。		残0.1	在地系	
2地点2面 遺構検出 62図22	火鉢		瓦質土器 精良 灰褐色		内外面は丁寧な板ナデ。		残0.1	在地系	
1地点2面 遺構検出 62図23	火鉢		瓦質土器 精良 橙色		内面は刷毛目、外面はナデ。		残0.1	在地系	
2地点2面 遺構検出 63図1	碗	口径 (10.8)	陶器 精良 黄橙色	灰白色	外面に松葉を描いた鉄絵あり。		残0.1	肥前系 唐津	17ｃ後
3地点北2面 遺構検出 63図2	碗	口径 (11.4)	陶器 精良 白色	赤茶色 透明	内面は鉄釉、外面は透明釉で半菊唐草を描く。		残0.1	肥前系 有田	17ｃ前
1地点2面 遺構検出 63図3	天目茶碗	口径 (12.0) 器高 6.8 高台径 3.8	陶器 精良 橙色	黒茶色	内面に少し砂が付着。外面胴部下半以下は露胎。	高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	17ｃ前
4地点南2面 遺構検出 63図4	碗	口径 (9.4)	陶器 白色細粒 橙褐色	緑灰色　黒茶色	内面は鉄釉、外面は緑灰釉の上に鉄釉を施釉。外面胴部下半は露胎か。		残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
2地点北2面 遺構検出 63図5　図版38	碗	口径 (10.4) 器高 6.2 高台径 4.8	陶器 精良 橙褐色	黒緑色	外面胴部下半以下はケズリで、露胎。	畳付胎土目痕 高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
1地点南2面 遺構検出 63図6　図版38	碗	口径 (10.2) 器高 5.1 高台径 5.2	陶器 精良 灰色	灰色	高台のみ露胎。	高台露胎	残0.5	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
2地点北2面 遺構検出 63図7　図版38	碗	口径 12.0 器高 3.4 高台径 4.8	陶器 精良 灰色	灰色	外面胴部下半以下はケズリで、露胎。	高台露胎	残0.8	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
4地点南2面 遺構検出 63図8	碗	口径 (13.2)	陶器 精良 橙灰色	緑茶色	内外面を施釉		残0.3	肥前系？	16ｃ末～17ｃ前か
4地点南2面 遺構検出 63図9　図版38	皿	口径 (11.6) 器高 3.5 底径 4.4	陶器 精良 灰色	緑灰色	口縁はなぶり口で皮鯨手。内面に胎土目3ヶ所、畳付に胎土目あり。外面胴部下半以下ケズリ。	内面胎土目付着 畳付胎土目付着 高台露胎	残0.7	肥前系 唐津	16ｃ末
1地点南2面 遺構検出 63図10	皿	口径 10.6 器高 4.2 底径 4.0	陶器 精良 灰色	緑灰色	内面と口縁端部に砂が付着。外面胴部下半以下は露胎。	高台露胎	残0.5	肥前系 唐津	17ｃ前
1地点2面 遺構検出 63図11	皿	口径 (13.0) 器高 3.6 底径 4.8	陶器 精良 橙色	赤灰色	口縁は輪花で皮鯨手。内面に胎土目2ヶ所、外面胴部下半以下ケズリ	内面胎土目付着 高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
2地点2面 遺構検出 63図12	皿	底径 4.4	陶器 精良 橙色	赤灰色	内面に砂目4ヶ所、外面胴部下半以下ケズリ	内面砂目付着 畳付砂目付着 高台露胎	残0.3	肥前系 唐津	17ｃ前
3地点北2面 遺構検出 63図13　図版39	皿	口径 10.9 器高 3.3 底径 4.0	陶器 精良 橙灰色	緑灰色	内面見込みに砂付着	内面砂付着 三日月高台 高台露胎	残0.7	肥前系 唐津	17ｃ前
4地点南2面 遺構検出 63図14　図版39	皿	口径 11.2 器高 3.1 底径 4.7	陶器 精良 灰黄色		見込みに胎土目痕が付着か。	内面胎土目付着	残0.7	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
4地点南2面 遺構検出 63図15　図版39	皿	口径 11.0 器高 3.0 底径 3.6	陶器 精良 橙色	茶灰色	見込みに胎土目2ヶ所と砂付着。	内面胎土目付着 三日月高台 高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	16ｃ末
1地点南2面 遺構検出 63図16　図版39	皿	口径 11.0 器高 2.6 底径 4.4	陶器 精良 橙灰色	緑灰色	見込みに胎土目4ヶ所。	内面胎土目付着 高台露胎	残0.8	肥前系 唐津	16ｃ末
4地北2面 遺構検出 63図17　図版39	皿	口径 11.6 器高 3.7 底径 4.2	陶器 精良 橙色	茶灰色	見込みに胎土目4ヶ所。釉の上に白化粧土を塗る。	内面胎土目付着 高台露胎	残0.8	肥前系 唐津	16ｃ末
2地点2面 遺構検出 63図18　図版39	皿	口径 (17.2) 器高 4.3 底径 5.4	陶器 精良 灰色	緑灰色	見込みと畳付に砂目4ヶ所	内面胎土目付着 高台露胎	残0.4	肥前系 唐津	17ｃ前
4地点南2面 遺構検出 63図19	皿	口径 (16.0)	陶器 精良 灰褐色	茶灰色	内面は緑釉と鉄釉で松を描く。		残0.1	肥前系 武雄	17ｃ前
3地点2面 一段下げ 63図20	皿	口径 (16.0) 器高 3.7 高台径 (5.4)	陶器 精良 橙灰色	茶灰色	内外面は白化粧土の上から施釉。		残0.2	肥前系 唐津	17ｃ前か
1地点2面 遺構検出 63図21	皿	高台径 (5.0)	陶器 精良 灰色	灰色	内面に胎土目痕と砂付着。内面は草花文や唐草文の鉄絵か。外面にも鉄釉付着。	内面胎土目付着 高台露胎	残0.2	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ前
4地点2面 遺構検出 63図22	皿		陶器 精良 灰色	緑灰色	波状口縁。		残0.2	肥前系？	17ｃ前
1地点2面 遺構検出 63図23	皿		陶器 精良 灰色	灰色	内面に鉄釉で描かれた唐草文か。		残0.2	肥前系 唐津	17ｃ前
5地点2面 遺構検出 63図24	皿	口径 (24.6) 器高 7.2 高台径 (10.0)	陶器 精良 橙色	茶灰色	内面は白化粧土で、波状になる刷毛目模様。	高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	17ｃ末～18ｃ中
1地点2面 遺構検出 63図25	皿	口径 (26.0)	陶器 精良 灰色	茶灰色	内面は白化粧土で波状になる刷毛目模様と緑釉も僅かに付着する。	高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	17ｃ末～18ｃ中
4地点北2面 遺構検出 63図26　図版39	蓋	口径 3.5 器高 1.0 受け部径 4.7	陶器 精良 黄灰色	黄緑色	天井部に六弁の花文。内面は露胎する。	内面露胎	残0.8	瀬戸	16cか
4地点北2面 遺構検出 64図1	鉢	高台径 7.8	陶器 精良 橙灰色	茶灰色	内面は鉄釉で松を描くか。	内面蛇の目釉剥ぎ 高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	17c後か
4地点北2面 遺構検出 64図2	鉢	高台径 10.2	陶器 精良 灰褐色	灰白色	内面は鉄釉や銅緑釉で松を描くか。砂目6ヶ所付着。	内面砂目付着 高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	17c後か
3地点2面 遺構検出 64図3	鉢	高台径 9.0	陶器 精良 灰色	緑灰色	内面に砂が付着。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	
4地点南2面 遺構検出 64図4	鉢	高台径 5.0	陶器 精良 灰色、橙色		高台に「×」ヘラ記号入れた後、切り込みを入れて十文字状になる。高台は糸切り。	高台露胎	残0.2	肥前系 唐津	17c前
4地点北2面 遺構検出 64図5	鉢	高台径 9.0	陶器 精良 赤灰色	透明	見込みは白化粧土で波状の刷毛目模様にする。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	17c後～18c中か

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点北2面 遺構検出 64図6	鉢	高台径 11.5	陶器 精良 橙灰色	赤灰色	見込みは波状の刷毛目模様にする。砂目付着する。	内面砂目付着 畳付目跡痕 高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	17c後～18c中か
2地点北2面 遺構検出 64図7	擂鉢		陶器 精良 灰色	黄緑色	内外面は口縁部と外面胴部に部分的に施釉する。内面に櫛目の単位は5条ある。		残0.1		17ｃ前
2地点2面 遺構検出 64図8	擂鉢		陶器 白色砂粒 赤灰色		口縁部のみ施釉する。内面に櫛目ある。		残0.1	備前	
3地点2面 遺構検出 64図9	擂鉢		陶器 精良 黄灰色	赤茶色	内外面施釉するが薄い。内面に櫛目あり。		残0.1	肥前系	17ｃ前
4地点南2面 遺構検出 64図10	擂鉢		陶器 精良 橙色	赤茶色	口縁部のみ施釉する。内面に櫛目あり。		残0.1	肥前系	17ｃ前
4地点北2面 遺構検出 64図11	擂鉢		陶器 精良 灰色	黒茶色	口縁部のみ施釉する。内面に櫛目あり。		残0.1	肥前系	17ｃ後
4地点南2面 遺構検出 64図12	鉢		陶器 精良 灰色	緑灰色	口縁部のみ露胎し、胎土目跡痕付着。	口縁目跡痕	残0.1	肥前系	
3地点北2面 遺構検出 65図1　図版39	鉢	底径 10.0	陶器 精良 橙色		見込みは櫛目の単位は15条、外底は糸切り。	高台露胎	残0.3	肥前系	
4地点北2面 遺構検出 65図2	鉢	底径 10.0	陶器 精良 橙色		見込みは櫛目の単位は12条、外底は糸切り。	高台露胎	残0.3	備前	
4地点北2面 遺構検出 65図3　図版39	小皿	口径 8.6 器高 2.1 底径 3.8	陶器 精良 赤茶色	黒茶色	外面の一部と底部は露胎する。外底は糸切り。	底部露胎	完形	肥前系？	
2地点2面 遺構検出 65図4　図版39	小皿？	口径 9.0 器高 3.5 底径 4.6	陶器 精良 橙褐色	茶褐色	内面は鉄絵で唐草文を描く、外面の一部と底部は露胎する。外底は糸切り。	底部露胎	完形	肥前系 唐津	
4地点北2面 遺構検出 65図5　図版39	灯明皿	口径 12.0 底径 5.6	陶器 精良 赤茶色	黒茶色	内外面の一部と底部は露胎する。外底は糸切り。	底部露胎	残0.8	肥前系？	
4地点北2面 遺構検出 65図6	土瓶蓋	口径 (8.6)	陶器 精良 橙褐色	黒褐色	内面は露胎する。外面は薄く施釉する。		残0.4	肥前系？	17ｃ後
2地点2面 遺構検出 65図7	水差し		陶器 精良 橙灰色	緑色	銅緑釉を施釉する水差しの一部か。		残0.1	中国系？ 華南三彩？	
4地点南2面 遺構検出 65図8	甕		陶器 精良 赤茶色	黒茶色	内面は格子目叩き、外面は沈線と円形の浮文がつく。	口縁釉ふき取り	残0.1	肥前系	17ｃ後
3地点2面 遺構検出 65図9	甕		陶器 精良 橙褐色		内面は刷毛目、外面に白化粧土が付着する。口縁下の突帯を挟んで、斜線文や格子目状のスタンプあり。		残0.1		
2地点2面 遺構検出 65図10	甕	口径 (17.2)	陶器 精良 黒灰色	黒緑色	口縁上部に貝目あり	口縁貝目付着	残0.1	肥前系	17ｃ
2地点北2面 遺構検出 65図11	甕	口径 (19.4)	陶器 精良 赤灰色	緑茶色	口縁上部に貝目、内面肩部に同心円の叩きある。	口縁貝目付着	残0.1	肥前系	17ｃ
1地点2面 遺構検出 65図12	甕	口径 (28.0)	陶器 精良 灰色	緑茶色	内面肩部に同心円の叩きあり。		残0.1	肥前系	17ｃ
4地点北2面 遺構検出 65図13	壺	高台径 (7.2)	陶器 精良 黄灰色	赤灰色	内面は露胎、外面は刷毛目。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 唐津	
3地点2面 1段下げ 65図14	壺	口径 (11.0)	陶器 精良 茶灰色	黒緑色	内面と外面胴部下半は露胎、外面はケズリ。		残0.3	肥前系 唐津	
2地点2面 遺構検出 65図15	壺	口径 (12.2)	陶器 精良 茶灰色	黒緑色	内面は露胎、外面のみ銅緑釉を施釉する。。		残0.2	肥前系	
4地点南2面 遺構検出 65図16	壺	高台径 (6.8)	陶器 精良 茶灰色	黒茶色	内外面は露胎するが、釉垂れあり。外面はケズリ。	高台露胎	残0.2	肥前系 武雄	
2地点2面 遺構検出 66図1	青花碗	高台径 5.3	磁器 精良 白色	透明	見込みに草花文か。	畳付釉剥ぎ	残0.2	中国系 漳州窯	16c後～17c前
3地点2面 1段下げ 66図2	青花碗	高台径 5.4	磁器 精良 白色	透明	見込みに団龍と圏線2条。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	中国系 景徳鎮	16ｃ
2地点北2面 遺構検出 66図3	青花碗	高台径 5.3	磁器 精良 白色	透明	見込みに文字か。	畳付釉剥ぎ	残0.2	中国系 漳州窯	16c中～後
1地点2面 遺構検出 66図4　図版39	染付小碗	口径 6.8 器高 3.4 高台径 5.3	磁器 精良 白色	透明	見込みに花卉と圏線2条、外面も圏線3条と花卉である。	畳付釉剥ぎ	完形	肥前系 有田	17c

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点2面 遺構検出 66図5	染付小碗	高台径 3.5	磁器 精良 白色	透明	高台内銘款に「宣明年製」と高台際に圏線2条。	畳付釉剥ぎ	残0.2	肥前系 有田	18c
4地点2面 遺構検出 66図6	染付小碗	口径 7.0	磁器 精良 白色	透明	外面は松を描く。		残0.3	肥前系 有田	
4地点南2面 遺構検出 66図7	染付碗	口径 (11.0) 器高 38 高台径 4.2	磁器 精良 白色	透明	見込みに松・梅と圏線2条、口縁部にも圏線2条、外面は圏線間に花唐草である。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 有田	17c
1地点2面 遺構検出 66図8	染付碗	高台径 4.4	磁器 精良 白色	透明	見込みに花卉と圏線2条、外面胴部や高台に圏線3条と草花文か。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	17c
2地点2面 遺構検出 66図9	染付碗	高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	見込みは柘榴か、外面胴部や高台に圏線3条と唐草文である。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 有田	17c
2地点北2面 遺構検出 66図10	染付碗	口径 (8.0) 器高 4.7 高台径 3.1	磁器 精良 白色	透明	外面胴部はコンニャク印判の桐葉文である。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	18c前～18c中
1地点2面 遺構検出 66図11	染付碗	口径 (10.6)	磁器 精良 白色	透明	外面胴部は草か。		残0.4	肥前系 有田	18c中～後
4地点南2面 遺構検出 66図12	染付碗	口径 12.0 器高 5.7 高台径 4.9	磁器 精良 白色	透明	外面口縁下1条と高台2条の圏線、高台内銘款にも円が巡る。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	18c～19c
4地点北2面 遺構検出 66図13	染付碗	口径 (10.4)	磁器 精良 白色	透明	見込みに圏線と連弧、外面にも圏線3条と黒・赤の2色で描かれた草花文か。		残0.4	肥前系 有田	18c～19c
4地点2面 遺構検出 66図14	染付碗	口径 (10.4) 高台径 6.0	磁器 精良 白色	透明	見込みに花と圏線、外面は花唐草文かと圏線を描く。高台に鉄釉で圏線を描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	17c
2地点2面 遺構検出 66図15	染付碗	口径 (10.4) 高台径 6.0	磁器 精良 白色	透明	見込みに「天」の字にも見えるが、花卉か。文様と圏線、外面は唐草文と圏線を描く	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	17c後～18c中
1地点2面 遺構検出 66図16	青花皿	口径 (12.0) 器高 2.3 高台径 7.2	磁器 黒色細粒 灰色	透明	見込みは圏線内に獅子と網目文、口縁下にも圏線が巡る。別個体あり。釉は全体的に薄い	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	中国系 景徳鎮	16c中～後
4地点南2面 遺構検出 66図17	青花皿	高台径 6.0	磁器 精良 灰白色	透明	見込みは菊か。高台際は圏線内に砂が多く付着する。	畳付釉剥ぎ	残0.2	中国系 景徳鎮	17c
2地点北2面 遺構検出 66図18	青花皿	口径 10.6 器高 2.8 高台径 5.2	磁器 精良 灰白色	透明	見込み中央に人物と風景、内面口縁下に四方襷、外面は圏線2条を描く。	高台露胎	残0.7	中国系 漳州窯	16c後～17c前
3地点北2面 遺構検出 66図19	青花皿	高台径 8.0	磁器 精良 灰白色	透明	見込みに草花文と砂が多く付着する。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	中国系 景徳鎮	17c
2地点2面 遺構検出 66図20	青花皿	高台径 11.4	磁器 精良 灰白色	透明	見込みに花鳥図、外面は圏線と僅かに高台内銘款も残る。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系 景徳鎮	16c
2地点2面 遺構検出 66図21	青花皿	高台径 12.0	磁器 精良 灰白色	透明	見込みに団龍と圏線、口縁下にも圏線が巡る。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系 景徳鎮	16c中～後
3地点2面 1段下げ 66図22	青花皿	口径 (13.4) 器高 3.9 高台径 5.6	白磁 精良 灰白色	白色	口縁端部は輪花である。	高台露胎	残0.3	中国系	16c～17c
3地点北2面 遺構検出 67図1　図版39	染付皿	口径 13.4 器高 3.6 高台径 5.2	磁器 精良 白色	透明	内面に吹墨のみ。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	肥前系 伊万里	17ｃ前～中
3地点北2面 遺構検出 67図2	染付皿	口径 14.0 器高 3.4 高台径 5.1	磁器 精良 白色	透明	内面に吹墨のみ。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.6	肥前系 伊万里	17c前～中
4地点北2面 遺構検出 67図3　図版39	染付皿	口径 12.8 器高 3.0 高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	見込みは山・網干などの風景を描く。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	肥前系 伊万里	17c前～中
4地点南2面 遺構検出 67図4	染付皿	口径 14.0 器高 3.0 高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	見込みに文様あり。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.6	肥前系 伊万里	17c前～中
4地点北2面 遺構検出 67図5	染付皿	高台径 8.4	磁器 精良 白色	透明	見込みに五弁花文と胴部に唐草文か、高台内銘款に「□明□製」と圏線。	畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系 有田	
4地点北2面 遺構検出 67図6	染付皿	口径 9.6 器高 2.4 高台径 9.2	磁器 精良 白色	透明	見込みに五弁花文と胴部に文様、高台内銘款に「□明□製」と圏線。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	
4地点2面 遺構検出 67図7　図版39	染付角皿	口径 12.1 器高 2.2～2.8 高台径 7.2	磁器 精良 白色	透明	内面胴部に四方襷、隅に菊花文、見込みには風景を描く。外面胴部には花唐草文、高台内銘款は「太明成化年造」である。	畳付釉剥ぎ	残0.5	肥前系 有田	17ｃ中
4地点北2面 遺構検出 67図8	染杖皿	高台径 9.4	磁器 精良 白色	透明	見込みには崩れた連弧文、中央に「寿」。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	肥前系 有田	17c
4地点北2面 遺構検出 67図9	染付皿	口径 (13.4) 器高 3.5 高台径 (7.6)	磁器 精良 白色	透明	内面胴部に絵柄を彫り込む。外面は唐草文と圏線である。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	肥前系 有田	17c後～18c中

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点南2面 遺構検出 67図10	染付皿	口径 10.2 器高 2.5 高台径 4.4	磁器 精良 白色	透明	内面に圏線2条、外面に波濤文と圏線を描く。	内面釉剥ぎ 高台露胎 碁笥底	残0.3	中国系 漳州窯	16ｃ中～後
2地点北2面 遺構検出 67図11　図版39	染付皿	口径 9.6 器高 2.4 高台径 4.8	磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線2条ずつ巡る。	内面蛇の目釉剥ぎ 高台露胎	残0.5	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点南2面 遺構検出 67図12	染付皿	口径 11.0 器高 2.9 高台径 5.4	磁器 精良 白色	透明	内外面に圏線2条ずつ巡る。	内面蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ	残0.4	中国系 漳州窯	16c後～17c前
2地点北2面 遺構検出 67図13　図版39	青花皿	口径 10.2 器高 2.9 高台径 3.6	磁器 精良 白色	透明	見込みに花鳥文、圏線、外面は波濤文と芭蕉葉文と圏線を描く。	畳付釉剥ぎ 蛇の目凹形	残0.8	中国系 漳州窯	16c中～後
4地点南2面 遺構検出 68図1　図版39	皿	口径 (11.8) 器高 2.2 高台径 (5.8)	白磁 精良 灰白色	灰白色	内外面は無文。高台内に砂付着する。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	朝鮮	
2地点2面 遺構検出 68図2　図版39	碗	高台径 6.6	白磁 精良 灰褐色	緑灰色	内外面は釉は薄く、無文。見込みには胎土目痕あり。	見込み胎土目痕 畳付砂目付着	残0.4	朝鮮	
4地点2面 遺構検出 68図3	碗	口径 (15.0) 器高 6.2 底径 (5.6)	白磁 精良 灰白色	緑灰色	見込みと畳付に、5ヶ所ずつ砂目付着。	見込み砂目付着 畳付砂目付着	残0.7	朝鮮	
3地点2面 1段下げ 68図4	皿	高台径 6.1	白磁 精良 灰色	青白色	見込みと畳付に、5ヶ所ずつ砂目付着。	見込み砂目付着 畳付砂目付着	残0.4	朝鮮	
3地点2面 1段下げ 68図5	皿	高台径 8.0	白磁 精良 灰色	白色	見込みと畳付に、砂目付着。	見込み砂目付着 畳付砂目付着	残0.4	朝鮮	
4地点南2面 遺構検出 68図6	皿	高台径 (5.5)	白磁 精良 灰色	緑色	畳付に砂目３ヶ所付着。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3		
4地点南2面 遺構検出 68図7	皿	高台径 3.6	白磁 精良 灰色	灰白色	畳付に砂目3ヶ所付着。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3		
1地点2面 遺構検出 68図8	碗	口径 11.8 器高 7.6 高台径 4.8	白磁 精良 灰色	緑灰色	内外面は無文。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.6	朝鮮	
1地点2面 遺構検出 68図9	碗	高台径 (6.0)	青磁 精良 灰色	緑灰色	見込みは片彫で花か。	畳付釉剥ぎ 高台内露胎	残0.2	中国系 龍泉窯	14cか
3地点北2面 遺構検出 68図10　図版39	皿	口径 (14.8) 器高 3.8 高台径 7.4	青磁 精良 白色	青緑色	見込みは大きな葉文。口縁は輪花になる。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	肥前系 有田	
3地点北2面 遺構検出 68図11	方形皿		青磁 精良 灰色	青緑色	口縁は口銹である。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 有田	
4地点南2面 遺構検出 68図12	皿	口径 (23.6) 器高 5.2 高台径 (13.2)	青磁 精良 灰色	深緑色	見込みに花文。蛇の目部分に鉄釉を塗る。	蛇の目高台	残0.5	肥前系 波佐見	17ｃ前～中
2地点2面 遺構検出 68図13　図版39	菊花皿	口径 5.4 器高 1.4 高台径 3.1	白磁 精良 灰色	緑灰色	内面は無文。	畳付釉剥ぎ 高台内露胎	完形	肥前系	
4地点北2面 遺構検出 68図14	仏飯器	高台径 4.0	白磁 精良 灰色	青白色	内外面は無文。	脚部露胎	残0.6	肥前系 有田	18ｃ～19ｃ中
4地点南2面 遺構検出 68図15	仏飯器	高台径 4.6	磁器 精良 灰色	透明	外面に連弁が巡る。	脚部露胎	残0.4	肥前系 有田	17ｃ中～後
1地点2面 遺構検出 68図16　図版39	蓋	口径 2.8	磁器 精良 白色	透明	天井に牡丹、圏線2条。内面は露胎。	口縁露胎	完形	肥前系 有田	18c～19c
4地点南2面 遺構検出 68図17　図版39	釜道具	口径 4.4 器高 0.6 底径 3.4	磁器 精良 白色	透明	天井は剥離し、露胎する。	天井露胎	完形	肥前系 有田	
4地点北2面 遺構検出 68図18　図版39	花生	口径 (10.6) 器高 15.6 高台径 5.8	磁器 精良 白色	透明	内面口縁下にも文様がある。外面は2ヶ所に梅・竹を描く。口縁は盤口形である。	畳付釉剥ぎ	残0.8	肥前系 伊万里	18ｃ
4地点北2面 遺構検出 68図19	染付瓶	口径 (5.4)	磁器 精良 白色	透明	内面は露胎するが、釉垂れあり。外面にも僅かに文様あるが不明。		残0.3	肥前系 伊万里	17ｃ末～18ｃ中
2地点3面 遺構検出 69図1　図版39	小皿	口径 6.4 器高 2.0 底径 3.7	土師器 精良 橙色		内外面はナデ、外底は糸切り。穿孔2ヶ所。		残0.8	在地系	
3地点3面 遺構検出 69図2　図版39	小皿	口径 6.5 器高 2.0 底径 4.5	土師器 精良 灰白色		内外面はナデ、外底は糸切りで、板状圧痕がつく。		残0.8	在地系	
3地点3面 遺構検出 69図3　図版39	小皿	口径 7.0 器高 2.3 底径 4.4	土師器 精良 黄灰色		内外面はナデ、外底は糸切りで、板状圧痕がつく。		完形	在地系	
2地点3面 遺構検出 69図4	皿	口　(8.7) 器高 2.7 底径 5.2	土師器 精良 橙灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。左右非対称になる。		残0.7	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
4地点南3面 遺構検出 69図5	皿	口　(9.6) 器高 2.7 底径 6.0	土師器 精良 灰白色		内外面はナデ、外底は糸切り。歪んでいる。		残0.4	在地系	
3地点北3面 遺構検出 69図6	皿	口径 (10.8) 器高 3.1 底径 5.0	土師器 精良 黄灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。歪んでいる。		残0.3	在地系	
2地点3面 遺構検出 69図7　図版39	皿	口径 11.5 器高 4.3 底径 6.0	土師器 精良 黄灰色		内外面はナデ、外底は糸切り。歪んでいる。外面は煤が付着。		残0.9	在地系	
1地点3面 遺構検出 69図8	皿		土師器 精良 橙色		内外面はナデ。		残0.2	在地系	
3地点北3面 遺構検出 69図9	鉢		瓦質土器 白色細粒 黒灰色		外面に煤が付着。内外面は刷毛目。		残0.1	在地系	
4地点南3面 遺構検出 69図10	擂鉢		瓦質土器 白色細粒 灰色		内面は刷毛目、櫛目あり。外面はナデ。		残0.1	在地系	
2地点3面 遺構検出 69図11	擂鉢	口径 (34.0)	瓦質土器 精良 橙灰色		内外面はナデ、櫛目あり。		残0.1	在地系	
4地点南3面 遺構検出 69図12	擂鉢	口径 (34.0)	瓦質土器 精良 黒灰色		内面は刷毛目、外面はミガキ。。		残0.1	在地系	
4地点南3面 遺構検出 69図13	耳鍋	口径 (27.2)	瓦質土器 精良 褐色		内外面は刷毛目、把手に穿孔2ヶ所。外面には煤付着。		残0.3	在地系	16c
4地点南3面 遺構検出 69図14	鍋	底径 (16.0)	瓦質土器 精良 灰褐色		内外面はナデ、櫛目の単位は9条。内外面に煤付着。		残0.2	在地系	
2地点北3面 遺構検出 69図15　図版39	坩堝		土師質土器 精良 灰褐色		内面に被熱痕跡あり。坩堝か		完形	在地系	
4地点南3面 遺構検出 70図1	湯釜	口径 (14.0)	瓦質土器 精良 橙灰色		内面は刷毛目とナデ、外面はミガキと刷毛目。外面口縁下に六弁花のスタンプが巡る。		残0.2	在地系	
4地点3面 遺構検出 70図2	湯釜	口径 (15.3)	瓦質土器 精良 灰褐色		内面は刷毛目とナデ、外面はミガキと刷毛目。外面は煤付着。		残0.1	在地系	
1地点3面 遺構検出 70図3	湯釜	口径 (24.0)	瓦質土器 赤・黒色細粒 灰褐色		内外面は刷毛目やナデである。		残0.1	在地系	
2地点3面 遺構検出 70図4	湯釜	鍔径 (31.0)	陶器 精良 灰褐色		内外面は刷毛目である。外面は煤付着		残0.2	在地系	
2地点3面 遺構検出 70図5	火鉢	口径 64.0	瓦質土器 精良 橙褐色		内外面はナデ。外面口縁下に六弁花のスタンプが巡る。		残0.1	在地系	
4地点北3面 遺構検出 70図6	碗	高台径 4.8	陶器 精良 橙褐色	灰色	内面は砂付着。外面胴部下半はケズリである。	高台露胎 三日月高台	残0.1	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
4地点北3面 遺構検出 70図7	碗	高台径 6.0	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	内外面は無文。	畳付釉剥ぎ	残0.3	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
4地点北3面 遺構検出 70図8　図版39	皿	口径 11.2 器高 3.5 高台径 3.4	陶器 精良 灰褐色	深緑色	外面胴部下半以下はケズリ、高台内に兜巾が残る。	高台露胎	残0.8	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
4地点南3面 遺構検出 70図9	皿	高台径 4.4	陶器 精良 灰色	深緑色	高台に多量の砂が付着。	畳付砂目付着 高台露胎	残0.5	肥前系 唐津	16ｃ末～17ｃ初
2地点3面 遺構検出 70図10	皿	口径 (9.6)	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	器形菊花状で、外面口縁は輪花である。		残0.1	美濃	
4地点北4面遺構検出 4地点北3面P427 70図11	皿	高台径 5.7	陶器 精良 黄灰色	黄灰色	見込み4ヶ所と畳付1ヶ所に砂目付着	内面砂目付着 畳付砂目付着	残0.2	肥前系 京焼風	17ｃ後
3地点北3面 遺構検出 70図12	火入れ		陶器 精良 橙色	緑灰色	内外面の口縁部付近に白化粧土の上に銅緑釉がかかる。外面口縁下には波状の刷毛目模様。		残0.2	肥前系 武雄	17ｃ後
2地点3面 遺構検出 70図13	火入れ？	口径 (14.0)	陶器 精良 黒灰色	明緑色	外面は白化粧土の上に銅緑釉を施釉。		残0.2	源内焼か	
4地点北3面 遺構検出 70図14	鉢	器高 7.0	陶器 精良 灰褐色	赤茶色 深緑色	鉄釉と銅緑釉を2種類を施釉。口縁と内面胴部下半以下以外は施釉する。	口縁釉拭き取り	残0.2	肥前系？	
4地点北3面 遺構検出 70図15	鉢	高台径 7.6	陶器 精良 橙色	黄灰色 黒灰色	内外面にそれぞれ別の釉がかかる。	畳付釉剥ぎ	残0.1	肥前系 武雄	
4地点北3面 遺構検出 70図16	鉢	高台径 (11.0)	陶器 精良 橙灰色	透明	白化粧土の上に透明釉を集施釉。見込みに銅緑釉と鉄釉で松を描くか。	内面砂目付着 高台露胎	残0.1	肥前系 武雄	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点北3面 遺構検出 70図17	擂鉢	口径（36.0）	陶器 精良 赤茶色	赤茶色	薄い釉を内外面に施釉。片口の擂鉢か。		残0.1	備前	
4地点南3面 遺構検出 70図18	擂鉢	底径 11.2	陶器 精良 黒灰色		櫛目の単位は13条。外底糸切り。	底部露胎	残0.2	肥前系	
4地点北3面 遺構検出 70図19	擂鉢	底径 11.0	陶器 精良 黒灰色		櫛目の単位は12～13条。外底糸切り後にナデか。	底部露胎	残0.2	肥前系	
4地点南3面 遺構検出 70図20	壺	底径 8.4	陶器 精良 灰色	透明	外面は白化粧土の上に透明釉を施釉。	底部砂付着 底部露胎	残0.2	肥前系？	
4地点南3面 遺構検出 70図21	甕		陶器 精良 灰色	黒茶色	口縁は釉を拭き取り。	口縁釉拭き取り 口縁貝目付着	残0.1	肥前系	17ｃ前
3地点北3面 遺構検出 71図1	染付碗	高台径（3.4）	磁器 精良 灰色	透明	見込みに蝶か。高台内は露胎。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	肥前系 有田	17c前～中
4地点北3面 遺構検出 71図2	染付碗 くらわんか碗	口径（10.2） 器高 4.9 高台径（4.2）	磁器 精良 白色	透明	外面は草花文と圏線2条。高台内銘款は記号か。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	肥前系 波佐見	18ｃ中～末
1地点3面 遺構検出 71図3	染付碗	口径（12.2）	磁器 精良 白色	透明	内面は圏線、外面は草花文と圏線。		残0.2	肥前系 有田	
3地点3面 遺構検出 71図4	染付碗	口径（13.0） 器高 6.0 高台径（5.0）	磁器 精良 白色	透明	見込みに花卉、圏線2条、外面は菊花文と圏線など。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	17c中～後か
3地点3面 遺構検出 71図5	染付碗	口径（14.0）	磁器 精良 白色	透明	内面は圏線2条、外面は雷文と圏線、草花文。		残0.1	肥前系 有田	
3地点3面 遺構検出 71図6	青花碗	高台径（4.6）	磁器 精良 灰色　橙色	透明	内面は圏線、外面は圏線と草花文。	蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.4	中国系 漳州窯	16c後～17c前
3地点3面 遺構検出 71図7	青花碗	高台径（4.9）	磁器 精良 灰色	透明	見込み中央に菊花文で、蛇の目釉剥ぎする。外面胴部下半は圏線。高台内は露胎。	蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.3	中国系 漳州窯	16c後～17c前
3地点3面 遺構検出 71図8	青花碗	口径（13.0） 器高 5.1 高台径 5.0	磁器 精良 橙灰色	透明	内面は圏線2条、外面は圏線と笹か。	畳付釉剥ぎ	残0.6	中国系 漳州窯	16c後～17c前
4地点北3面 遺構検出 71図9	染付猪口	口径（8.6）	磁器 精良 白色	透明	内面は四方襷、外面は蛸唐草と梅花文か。		残0.2	肥前系 有田	18ｃ後～
3地点3面 遺構検出 71図10	青花皿	口径 10.6 器高 2.8 高台径 3.6	磁器 精良 白色	透明	見込みに花鳥文、圏線、外面は波濤文と芭蕉葉文と圏線。	畳付釉剥ぎ 碁笥底	残0.7	中国系 漳州	16ｃ中～後
3地点北3面 遺構検出 71図11	染付皿	口径（10.2） 器高 2.6 高台径（4.2）	磁器 精良 灰褐色	透明	内面は菊花状で、口縁端部は輪花になる。高台内露胎。	畳付釉剥ぎ	残0.4	肥前系 有田	
1地点3面 遺構検出 71図12	染付皿	口径（13.2） 器高 3.0 高台径 8.0	磁器 精良 白色	透明	見込みに鳥・竹・花など、その周囲をは二重に菊弁を描くか。高台際付近には唐草文状や圏線。口縁は輪花である。	畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.7	肥前系 有田	17c中～後か
4地点北3面 遺構検出 71図13	染付皿	高台径（11.0）	磁器 精良 白色	透明	見込みに花唐草文か、高台内銘款に圏線と「析」の変形文字か。	畳付釉剥ぎ	残0.7	肥前系 有田	17c中～後か
2地点3面 遺構検出 71図14	青花皿	口径（12.0） 器高 3.0 高台径 5.0	磁器 精良 灰褐色	透明	内外面は圏線が巡る。見込みは釉剥ぎ。	見込み釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系	
4地点南3面 遺構検出 71図15	青花皿	高台径 7.2	磁器 精良 白色	透明	見込みは玉取り獅子と圏線2条。	畳付釉剥ぎ	残0.2	中国系 景徳鎮	16c
2地点3面 遺構検出 71図16	青花皿	口径（18.0） 器高 5.0 高台径（10.2）	磁器 精良 白色	透明	見込みに文様あり。、外面は花唐草文と圏線。	畳付釉剥ぎ	残0.3	中国系 景徳鎮	16c
3地点北3面 遺構検出 71図17	皿	高台径（7.6）	白磁 精良 白色	透明	見込みと畳付に砂目付着。	内面砂目付着 畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.1	朝鮮	
1地点4面 遺構検出 72図1	皿	底径（5.6）	土師器 精良 橙灰色		内外面はナデ。		残0.1	在地系	
1地点4面 遺構検出 72図2	皿	口径（14.4） 器高（4.5） 底径（9.0）	土師器 精良 灰褐色		内外面はナデ、外底は糸切り後にナデ。		残0.1	在地系	
1地点4面 遺構検出 72図3	鉢		瓦質土器 白色細粒 灰色		内面は刷毛目、外面は刷毛目をナデ消すか。外面口縁下に沈線がある。		残0.1	在地系	
3地点4面 遺構検出 72図4	火鉢		瓦質土器 精良 灰褐色		内面はナデ、外面はミガキ。外面口縁下に2条の突帯がある。		残0.1	在地系	
4地点4面 遺構検出 72図5	湯釜	口径（31.0）	瓦質土器 精良 橙灰色		内外面は刷毛目。		残0.2	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
3地点北4面 遺構検出 72図6　図版39	碗	口径 (12.8) 器高 3.2 高台径 4.4	陶器 精良 橙灰色	緑灰色	高台内は渦巻状の痕跡と兜巾が残る。	畳付胎土目付着 高台露胎	残0.6	肥前系 唐津	16c末
3地点北4面 遺構検出 72図7	碗	口径 (9.8) 器高 3.4 高台径 3.8	陶器 精良 黄灰色	透明	見込みに山水文。	高台露胎	残0.5	肥前系 京焼風	17c後
3地点北4面 遺構検出 72図8	鉢		陶器 精良 橙色	茶灰色	内面は刷毛目模様。		残0.1	肥前系 武雄	18c中
1地点4面 遺構検出 72図9	甕		陶器 精良 灰褐色	赤茶色	内外面に施釉する。		残0.1	肥前系？	17c前か
1地点4面 遺構検出 72図10	青花碗	高台径 (5.6)	磁器 精良 灰褐色	透明	見込み中央に菊花文か。高台は露胎。	内面蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.2	中国系 漳州窯	16c後～17c前
1地点南4面 遺構検出 72図11	青花皿	高台径 (7.6)	磁器 精良 灰褐色	透明	見込み中央に菊花文。高台は露胎。	内面蛇の目釉剥ぎ 畳付釉剥ぎ 高台露胎	残0.3	中国系 漳州窯	16c後～17c前
1地点4面 遺構検出 72図12	染付碗	口径 (12.8)	磁器 精良 白色	透明	内面は圏線2条のみ、外面に唐草文と圏線。		残0.2	肥前系 有田	
3地点北4面 遺構検出 72図13	皿	高台径 (7.0)	白磁 精良 白色	透明	見込みと畳付に砂目付着。	内面砂目付着 畳付釉剥ぎ 畳付砂目付着	残0.1	朝鮮	
3地点1面 攪乱 73図1	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.1	瓦質 灰褐色		菊花文。ナデ。		残0.1	在地系	
3地点1面 攪乱 73図2	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.0	瓦質 橙褐色		巴文。ナデ。		残0.3	在地系	
3地点2面 遺構検出 73図3	軒丸瓦 瓦当部	径 14.2 厚 1.8	瓦質 灰褐色		巴文。ナデ。		残0.5	在地系	
1地点2面 遺構検出 73図4	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.0	瓦質 灰白色		巴文。ナデ。		残0.2	在地系	
4地点南3面 溝7 73図5	軒丸瓦 瓦	径 14.9 厚 2.0	瓦質 灰色		巴文。凹面は布目とナデ、凸面は刷毛目とナデ。側端面はケズリ。		残0.6	在地系	
4地点北2面 P414 73図6	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.1	瓦質 灰色		巴文。ナデ。		残0.1	在地系	
4地点南3面 溝7 73図7	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.5	瓦質 灰色		巴文。ナデ。		残0.3	在地系	
4地点北4面 遺構検出 73図8	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.2	瓦質 灰白色		巴文。ナデ。		残0.3	在地系	
1地点1面 土坑19 74図9	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.1	瓦質 灰色		巴文。ナデ。		残0.3	在地系	
4地点南1面 遺構検出 74図10	軒丸瓦 瓦当部	径 14.5 厚 2.0	瓦質 灰色		巴文。凹面は布目と板ナデ、凸面はナデ。側端面はケズリ。		残0.7	在地系	
1地点1面 土坑19 74図11	桟瓦 瓦当部	径 8.8 厚 2.1	瓦質 灰色		巴文。ナデ。		残0.3	在地系	
1地点1面 溝　2 74図12	軒丸瓦 瓦当部	厚 2.2	瓦質 灰色		巴文。ナデ。		残0.3	在地系	
1地点1面 遺構検出 74図13	軒丸瓦 瓦当部	厚 1.6	瓦質 灰色		上り藤。ナデ。家紋瓦		残0.1	在地系	
1地点南1面 遺構検出 74図14	軒丸瓦	長 28.7 厚 2.0	瓦質 灰色		巴文か、凹面は布目、凸面はナデ。側端面はケズリ。穿孔１ヶ所あり。		残0.7	在地系	
4地点南1面 遺構検出 74図15	軒丸瓦 瓦当部	径 14.7 厚 1.8	瓦質 橙灰色		巴文。ナデ。		残0.3	在地系	
1地点1面 溝2 75図16	丸瓦	長 24.9 幅 21.5 厚 1.8 4.3	瓦質 灰色		凹面は布目と吊紐、凸面はナデ、側端部はケズリ。		完形	在地系	
1地点1面 遺構検出 75図17	丸瓦	長 24.10 幅 21.6 厚 1.8 4.4	瓦質 灰色		凹面は布目と吊紐、凸面はナデ、側端部はケズリ。凹面には鉄線の痕跡がある。 。		完形	在地系	
2地点2面 遺構検出 75図18	丸瓦	長 24.11 幅 21.7 厚 1.8 4.5	瓦質 灰色		凹面は刷毛目、凸面はナデ、側端部はケズリ。		完形	在地系	
4地点南3面 溝7 75図19	丸瓦	長 24.12 幅 21.8 厚	瓦質 灰色		凹面は布目、凸面はナデ、側端部はケズリ。凹面には鉄線の痕跡が明瞭である。		完形	在地系	

地点名 遺構名 図番号	器種 形状 通称名	法量(cm) (　)復元値	胎の種類 胎の特徴	釉　薬	調整・成形・装飾技法	窯詰技法	所　見		
							特記事項	推定産地	推定年代
1地点1面 土坑9 76図1	軒平瓦	厚 4.5	瓦質 灰色		唐草文のみ。ナデ。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑19 76図2	軒平瓦	厚 2.0 4.5	瓦質 灰色		菊花文。凸面に「□下河」のスタンプあり。		残0.3	在地系	
3地点1面 P140 76図3	軒平瓦	厚 2.0 5.0	瓦質 黒灰色		菊花文。ナデ。		残0.2	在地系	
1地点1面 遺構検出 76図4	軒平瓦	長 24.9 幅 21.5 厚 1.8 4.3	瓦質 搭褐色		三葉文。板ナデ。		残0.9	在地系	
2地点1面 遺構検出 76図5	軒平瓦	厚 1.8 3.5	瓦質 黒灰色		三葉文。板ナデ。		残0.2	在地系	
4地点1面 遺構検出 76図6	軒平瓦	厚 2.0 4.5	瓦質 灰色		宝珠文、板ナデ。		残0.2	在地系	
4地点南3面 溝7 76図7	軒平瓦	長 28.0 幅 26.5 厚 1.6 4.1	瓦質 黒灰色		三葉文。板ナデ。		残0.8	在地系	
4地点南3面 溝7 76図8	軒平瓦	長 25.0 幅 24.0 厚 1.6 4.5	瓦質 灰褐色		三葉文。板ナデ。		完形	在地系	
3地点4面 遺構検出 76図9	軒平瓦	厚 4.5	瓦質 灰褐色		唐草文のみ。ナデ。		残0.1	在地系	
1地点1面 土坑19 77図10	平瓦	厚 1.8	瓦質 黒灰色		凸面に「金屋製造」のスタンプあり。凹凸面はナデ、側面はケズリである		残0.3	在地系	19ｃ後～
1地点1面 遺構検出 77図11	平瓦	厚	瓦質 灰褐色		判読しづらい「□下河□□」と側面に「竹」のスタンプがある。凹凸面はナデ、側面はケズリである。２次焼成を受けているためか、煤付着		残0.3	在地系	19ｃ後～
4地点南3面 溝7 77図12	平瓦	長 26.8 幅 24.0 厚 1.6	瓦質 灰褐色		凹凸面はナデ、側面はケズリである。		残0.2	在地系	
2地点1面 遺構検出 77図13	平瓦 樋瓦	厚 1.4	瓦質 灰褐色		凹凸面は刷毛目、側面はケズリ。1ヶ所穿孔あり。		完形	在地系	
1地点1面 遺構検出 77図14	桟瓦	厚 2.1	瓦質 灰色		側面に「本」のスタンプ		残0.1	在地系	
3地点2面 遺構検出 77図15	平瓦	厚 1.6	瓦質 灰色		凹凸面はナデ、側面はケズリである。		残0.5	在地系	

表2　特殊遺物観察表

挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
78図1	図版43	3地点1面	遺構検出	土製品	玉	1.8	1.8	2.0	4.4	完形
78図2	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鏡	2.9	2.8	0.7	4.1	完形
78図3	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	鏡？	3.0	3.0	0.6	3.5	完形
78図4	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	円盤	1.9	1.9	0.6	2.2	完形
78図5	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	土錘	3.8	1.4	1.3	6.1	完形
78図6	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	土錘	4.6	1.2	1.1	4.3	
78図7	図版43	1地点1面	遺構検出(北西隅)	土製品	土錘	4.4	2.0	1.8	12.3	
78図8	図版43	1地点1面	遺構検出	磁器	人形	4.6	2.4	1.8	15.9	
78図9	図版43	1地点１面	遺構検出	磁器	人形	2.4	1.7	1.8	8.6	
78図10	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	仏像	3.6	2.5	1.4	8.4	
78図11	図版43	4地点南１面	遺構検出	土製品	侍	4.1	3.3	2.6	30.5	
78図12	図版43	１地点１面	溝　2	土製品	人	5.3	3.7	2.3	13.9	
78図13	図版43	2地点北１面	遺構検出	土製品	人	2.3	1.8	0.8	3.1	顔のみ
78図14	図版43	１地点１面	遺構検出	土製品	人	7.9	4.0	3.4	26.1	
78図15	図版43	2地点１面	遺構検出	土製品	人	6.4	4.9	2.7	32.1	
78図16	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	人	4.0	2.4	1.0	4.0	
78図17	図版43	3地点2面	P168	土製品	人	5.6	2.9	1.2	9.6	
78図18	図版43	1地点2面	遺構検出	土製品	人	5.4	3.8	1.4	16.1	
78図19	図版43	4地点南1面	遺構検出	土製品	人	5.0	4.0	2.8	21.7	
78図20	図版43	3地点1面	遺構検出	土製品	人	5.7	4.1	1.3	20.4	
78図21	図版43	4地点南4面	遺構検出	陶器	獅子	6.3	6.3	4.8	117.0	文鎮
79図22	図版43	1地点1面	土坑　4	土製品	犬	2.1	4.4	1.7	11.8	
79図23	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	犬	3.1	5.0	2.1	14.0	
79図24	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	犬	5.7	3.9	2.7	22.1	
79図25	図版43	1地点1面	遺構検出(北東隅)	土製品	犬	6.0	10.9	6.3	166.0	
79図26	図版43	4地点1面	遺構検出	土製品	犬	5.3	6.9	2.9	24.9	
79図27	図版43	1地点2面	遺構検出	土製品	犬	4.2	5.5	1.9	14.1	
79図28	図版43	2地点北2面	遺構検出	土製品	犬	3.8	5.1	2.5	17.8	
79図29	図版43	2地点北2面	遺構検出	土製品	犬	2.9	6.6	2.4	26.2	
79図30	図版43	1地点1面	土坑　9	土製品	馬	4.2	6.1	3.2	28.2	
79図31	図版43	1地点1面	土坑　12	土製品	馬	3.3	3.3	1.3	6.7	
79図32	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	馬	2.7	4.0	1.5	6.7	
79図33	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	馬	4.4	5.3	1.2	13.8	
79図34	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	馬	5.7	8.0	3.3	91.7	
79図35	図版43	1地点2面	遺構検出	土製品	馬	8.0	9.4	4.1	44.1	
80図36	図版43	4地点1面	遺構検出	土製品	馬	7.9	8.4	5.5	109.1	
80図37	図版43	4地点北2面	遺構検出	土製品	馬	4.2	4.4	1.4	39.6	鞍
80図38	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鼠	5.5	6.5	2.9	28.9	
80図39	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鳥	3.3	4.7	2.4	22.9	
80図40	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鳥	3.4	5.6	4.3	19.7	
80図41	図版43	3地点2面	遺構検出	土製品	鳥	4.9	5.0	2.7	20.2	
80図42	図版43	2地点北2面	遺構検出	土製品	鳥	5.0	4.6	3.9	24.7	
80図43	図版43	4地点南1面	遺構検出	土製品	鳥	6.7	3.2	3.5	34.4	
81図1	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.1	2.3	2.3	7.0	完形
81図2	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.2	2.7	2.1	4.8	玉無し
81図3	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.2	2.5	1.4	4.2	玉無し
81図4	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.2	2.8	2.5	5.4	玉無し
81図5	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.3	2.8	1.2	5.1	玉無し
81図6	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.4	2.4	2.5	6.1	玉無し
81図7	図版43	1地点1面	P162	土製品	鈴	3.4	2.5	2.3	9.0	
81図8	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	1.1	1.2		1.3	玉のみ
81図9	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	1.3	1.4		2.0	玉のみ
81図10	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.6	2.7	2.8	5.1	
81図11	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.5	2.8	2.7	6.9	玉無し
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	器種	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
81図12	図版43	1地点1面	土坑　18	土製品	鈴	3.7	3.2	3.0	18.3	完形
81図13	図版43	1地点1面	土坑　19	土製品	鈴	3.7	2.9	2.9	15.6	完形

81図14	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.7	2.4	1.8	6.6	玉無し
81図15	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.7	2.5	2.8	7.4	玉無し
81図16	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.8	2.9	1.7	8.0	玉無し
81図17	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.7	2.7	2.4	7.0	玉無し
81図18	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	1.0	0.8		0.5	完形　玉のみ
81図19	図版43	1地点1面	遺構検出(北西隅)	土製品	鈴	3.9	3.2	1.4	9.6	玉無し
81図20	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	4.1	3.1	2.0	8.4	
81図21	図版43	1地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.2	2.7	2.5	9.4	
81図22	図版43	1地点2面	遺構検出	土製品	鈴	3.9	3.0	2.8	14.4	完形
81図23	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.0	2.8	2.3	9.3	
81図24	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.5	2.9	2.8	15.9	完形
81図25	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	鈴	1.9	2.0		5.3	完形　玉のみ
81図26	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	鈴	1.3	1.4		2.1	完形　玉のみ
81図27	図版43	2地点1面	遺構検出	土製品	鈴	1.3	1.4		1.9	完形　玉のみ
81図28	図版43	2地点2面	遺構検出	土製品	鈴	3.7	2.7	1.3	6.4	玉無し
81図29	図版43	2地点2面	攪乱	土製品	鈴	3.5	2.7	2.9	10.2	玉無し
81図30	図版43	2地点2面	遺構検出	土製品	鈴	3.7	3.1	3.2	12.2	玉無し
81図31	図版43	2地点2面	遺構検出	土製品	鈴	1.3	1.4		1.4	完形　玉のみ
81図32	図版43	2地点北2面	遺構検出	土製品	鈴	3.6	3.0	2.9	11.3	玉無し
81図33	図版43	2地点2面	遺構検出	土製品	鈴	1.3	1.3		2.0	玉のみ
81図34	図版43	3地点1面	1段下げ	土製品	鈴	3.7	3.0	1.6	8.5	玉無し
81図35	図版43	3地点1面	1段下げ	土製品	鈴	3.8	3.1	2.9	14.0	
81図36	図版43	3地点1面	攪乱	土製品	鈴	4.0	3.0	2.9	12.7	玉無し
81図37	図版43	3地点1面	遺構検出	土製品	鈴	4.1	3.1	1.3	9.3	玉無し
81図38	図版43	3地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.4	2.7	2.6	12.8	完形
81図39	図版43	3地点北1面	P305	土製品	鈴	3.5	2.3	2.0	7.3	鈴？
81図40	図版43	4地点1面	遺構検出	土製品	鈴	3.5	2.6	2.6	9.0	完形
81図41	図版43	4地点南1面	遺構検出	土製品	鈴	3.8	2.8	1.6	8.5	玉無し
81図42	図版43	4地点南1面	P264	土製品	鈴	6.6	5.3	4.3	45.6	玉無し
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
82図1	図版43	4地点北2面	P405	鹿角製	管玉	5.7	1.1	1.1	6.5	
82図2	図版43	2地点4面	P62	ガラス	玉	0.8	1.5	1.2	4.0	青色
82図3	図版43	1地点1面	遺構検出	水晶	玉	0.6	0.6	0.5	0.3	
82図4	図版43	1地点1面	遺構検出	水晶	玉	0.6	0.6	0.5	0.3	
82図5	図版43	1地点1面	土坑　19	ガラス	目薬瓶	5.2	1.5	1.6	9.2	陽刻はない
82図6	図版43	3地点北1面	埋甕　2	陶器	玉	1.5	1.5	0.7	2.2	
82図7	図版43	2地点1面	遺構検出	石製品	碁石	2.2	2.2	0.5	3.5	変成岩
82図8	図版43	4地点南1面	遺構検出	石製品	碁石	2.2	2.1	0.5	3.2	変成岩
82図9	図版43	2地点1面	土坑　21	石製品	碁石	2.2	2.2	0.6	4.5	変成岩
82図10	図版43	4地点南1面	東壁土層断面	石製品	碁石	2.2	2.2	0.6	4.1	変成岩
82図11	図版43	4地点北2面	P420	石製品	碁石	2.0	1.9	0.7	3.7	変成岩
82図12	図版43	1地点1面	遺構検出	石製品	碁石	2.2	2.2	0.6	4.1	花崗岩か
82図13	図版43	4地点南2面	遺構検出	石製品	紡錘車	1.6	2.7	1.0	7.9	滑石製
82図14	図版43	1地点1面	遺構検出	瓦質	紡錘車	15.6	3.0	3.1	155.8	
82図15	図版43	2地点1面	遺構検出	石製品	硯	4.1	4.3	0.7	23.8	輝緑凝灰岩
82図16	図版43	2地点1面	遺構検出	石製品	硯	5.1	5.3	1.5	32.9	輝緑凝灰岩
82図17	図版43	4地点北2面	遺構検出	石製品	石錘	5.4	5.2	2.0	75.2	凝灰岩か
82図18	図版43	1地点1面	遺構検出	石製品	紡錘車	6.0	5.9	1.3	60.4	滑石製
82図19	図版43	2地点2面	トレンチ		金床石	10.3	9.0	8.5	1142.0	砂岩
83図1	図版44	1地点1面	土坑　3　5	石製品	砥石	12.2	3.9	4.0	167.4	粘板岩
83図2	図版44	1地点1面	土坑　9	石製品	砥石	9.8	5.3	2.0	146.5	泥岩
83図3	図版44	1地点1面	土坑　19	石製品	砥石	6.6	4.1	0.4	17.1	粘板岩
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
83図4	図版44	4地点北1面	P384	石製品	砥石	9.7	6.0	1.2	104.0	粘板岩
83図5	図版44	4地点北1面	P398	石製品	砥石	8.5	4.3	0.9	50.0	粘板岩
83図6	図版44	1地点1面	遺構検出	石製品	砥石	5.3	3.1	0.5	16.9	粘板岩
83図7	図版44	1地点1面	遺構検出	石製品	砥石	6.0	5.4	1.4	42.9	粘板岩
83図8	図版44	1地点1面	遺構検出	石製品	砥石	12.0	3.9	1.7	120.8	泥岩

83図9	図版44	3地点1面	遺構検出	石製品	砥石	11.2	5.8	3.3	313.4	砂岩
83図10	図版44	1地点1面	遺構検出	石製品	砥石	8.6	5.8	4.7	289.0	砂岩
83図11	図版44	3地点1面	遺構検出	石製品	砥石	10.7	4.4	2.0	167.1	粘板岩
83図12	図版44	1地点1面	遺構検出	石製品	砥石	11.2	4.3	4.5	347.9	砂岩
83図13	図版44	1地点1面	遺構検出	石製品	砥石	14.8	5.0	1.2	138.5	粘板岩
83図14	図版44	4地点南2面	P294	石製品	砥石	11.8	4.4	2.7	189.0	砂岩
83図15	図版44	3地点2面	P176	石製品	砥石	3.7	3.3	0.6	8.9	石灰岩
83図16	図版44	2地点北3面	遺構検出	石製品	砥石	7.5	9.3	4.4	401.4	砂岩
83図17	図版44	3地点3面	P205	石製品	砥石	9.0	5.0	2.6	138.3	砂岩
83図18	図版44	3地点2面	P189	石製品	砥石	8.3	7.0	3.2	267.1	砂岩
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	備考	
84図1	図版45	1地点1面	土坑　9	五輪塔	空風輪	10.7	8.1		花崗岩　　0.3残存	
84図2	図版45	1地点2面	礎石	五輪塔	火輪	10.6	22.8		完形　花崗岩	
84図3	図版45	1地点3面	遺構検出	五輪塔	水輪	11.8	18.2		花崗岩　　0.9残存	
84図4	図版45	1地点2面	礎石	五輪塔	地輪か	17.6	27.6		完形　煤付着	
84図5	図版45	3地点北2面	礎石	宝篋印塔	相輪	13.0	14.3		花崗岩　　0.8残存	
84図6	図版45	3地点2面	礎石	宝篋印塔	笠	19.8	33.4		凝灰岩　　0.6残存	
84図7	図版45	2地点2面	礎石	宝篋印塔	笠	15.6	24.8		完形　花崗岩	
84図8	図版45	4地点南2面	礎石	宝篋印塔	碁礎	13.4	21.2		花崗岩　　0.8残存	
84図9	図版47	1地点2面	礎石	宝篋印塔	碁礎	10.9	43.5	39.5	完形　花崗岩	
84図10	図版45	4地点北1面	遺構検出	近世墓	墓石	21.7	34.5		花崗岩　　0.8残存	
85図11	図版46	1地点2面	礎石	宝篋印塔		28.0	22.7		花崗岩	
86図1	図版47	3地点北1面	石臼	石臼	上臼				完形　花崗岩	
86図2	図版47	2地点北2面	礎石	石臼	上臼	9.6	34.5		完形　花崗岩	
87図3		1地点1面	遺構検出	石臼	上臼				花崗岩	
87図4		3地点北3面	遺構検出	石臼	上臼				花崗岩	
87図5		4地点南1面	遺構検出	石臼	上臼				花崗岩	
87図6		3地点2面	礎石	石臼	上臼				花崗岩	
87図7		2地点2面	遺構検出	石臼	上臼				花崗岩	
87図8		2地点2面	遺構検出	石臼	上臼				花崗岩	
87図9		3地点3面	P213	石臼	上臼				花崗岩	
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
88図1	図版48	1地点1面	遺構検出	銅製品	鏡	9.7	9.7	0.7	106.3	亀・鶴・菊花の文様
88図2	図版48	1地点1面	遺構検出	銅製品	鏡	7.5	7.5	2.0	35.8	文様や製作者名あり
88図3	図版48	1地点1面	遺構検出	銅製品	蓋	9.2	10.0	2.1	20.9	
88図4	図版48	1地点1面	遺構検出	銅製品	蓋	9.9	9.5	2.8	36.8	
88図5	図版48	4地点北2面	遺構検出	銅製品	埦	9.6	9.7	2.2	63.3	
88図6	図版48	4地点南1面	遺構検出	銅製品	埦	4.1	6.2	1.9	4.5	
88図7	図版48	1地点1面	遺構検出	銅製品	蓋片	1.5	2.0	0.8	1.4	蓋の一部か
88図8	図版48	1地点1面	遺構検出	銅製品	蓋片	1.6	1.9	0.4	1.3	蓋の一部か
88図9	図版48	1地点1面	表採	銅製品	蓋片	3.8	2.4	0.5	13.2	蓋の一部か
88図10	図版48	4地点1面	遺構検出	銅製品	蓋片	1.6	1.9	0.5	3.0	蓋の一部か
88図11	図版48	2地点2面	遺構検出	銅製品	蓋片	1.7	1.7	0.4	2.5	蓋の一部か
88図12		4地点南1面	遺構検出	銅製品	蓋片	2.0	2.0	0.2	1.2	蓋の一部か
89図1	図版49	1地点1面	土坑　1	銅製品	鞘	9.8	1.5	0.5	19.9	
89図2	図版49	2地点北2面	遺構検出	銅製品	鞘	10.1	1.5	0.5	30.1	丸に雁金の花紋あり
89図3	図版49	4地点北2面	遺構検出	銅製品	鞘	7.7+3.7	1.5	0.5	20.5	
89図4	図版49	4地点南2面	遺構検出	銅製品	鞘	9.9	1.6	0.5	21.3	
89図5	図版49	1地点2面	遺構検出	銅製品	鞘	8.7	1.3	0.5	10.2	
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
89図6	図版49	4地点南1面	遺構検出	銅製品	はばき	3.0	2.3	0.9	13.5	
89図7	図版49	1.2地点1面	遺構検出	銅製品	鍔	4.2	2.7	0.1	4.5	
89図8	図版49	4地点北2面	遺構検出	銅製品	鍔	4.0	2.3	0.1	4.5	
89図9	図版49	3地点1面	P144	銅製品	簪	7.8	0.5	0.4	5.4	
89図10	図版49	1地点1面	遺構検出	銅製品	権	3.1	1.3	1.2	29.1	文字は判読できない
89図11	図版49	1地点1面	遺構検出	銅製品	権	3.6	1.5	1.5	50.8	文字は判読できない
89図12	図版49	2地点	遺構検出	銅製品	権	3.3	1.4	1.5	49.2	文字は判読できない
89図13	図版50	1地点南	P107	銅製品	煙管雁首	2.3	4.6	0.8	6.4	

89図14	図版50	4地点南1面	P279	銅製品	煙管雁首	2.5	2.6	0.6	5.2	
89図15	図版50	4地点北1面	P389	銅製品	煙管雁首	2.2	2.0	0.5	5.2	
89図16	図版50	1地点1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	3.2	3.3	0.7	7.6	
89図17	図版50	1地点1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	2.4	4.0	0.7	4.6	
89図18	図版50	1地点1面北側端部	遺構検出	銅製品	煙管雁首	3.5	7.6	0.8	12.3	
89図19	図版50	1地点1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	3.5	6.2	0.8	7.7	
89図20	図版50	1地点1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	2.9	7.4	1.0	8.8	
89図21	図版50	1地点1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	3.6	6.6	0.8	6.3	
89図22	図版50	2地点1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	2.5	3.0	0.6	5.5	
89図23	図版50	2地点1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	2.9	6.8	1.0	11.1	
89図24	図版50	4地点南1面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	2.9	8.9	1.0	10.4	
89図25	図版50	4地点北2面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	2.5	6.7	0.9	11.0	
89図26	図版50	4地点北2面	遺構検出	銅製品	煙管雁首	2.8	4.3	0.6	6.1	
89図27	図版50	4地点南1面	土坑　29上層	銅製品	煙管雁首	1.0	6.4	1.0	4.4	
89図28	図版50	4地点南1面	P275	銅製品	煙管雁首	0.9	4.2	0.7	1.7	
89図29	図版50	4地点南1面	P275	銅製品	煙管吸い口	1.1	6.6	1.0	8.0	
89図30	図版50	2地点1面	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	1.3	5.7	1.2	8.0	
89図31	図版50	3地点1面	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	1.0	4.8	0.8	4.8	
89図32	図版50	2地点	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	1.1	5.2	1.0	4.1	
89図33	図版50	4地点南1面	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	1.0	5.6	1.0	11.1	
89図34	図版50	4地点南1面	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	1.0	5.9	1.0	4.9	
89図35	図版50	4地点南1面	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	1.2	4.6	1.1	2.9	
89図36	図版50	4地点南2面	溝　6	銅製品	煙管吸い口	1.2	8.3	0.9	4.0	
89図37	図版50	4地点南2面	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	1.1	4.0	1.0	3.1	
89図38	図版50	2地点2面	遺構検出	銅製品	煙管吸い口	2.0	13.1	0.7	10.9	
90図1	図版49	4地点南1面	遺構検出	銅製品	筒部品	5.9	5.8	0.2	12.8	
90図2	図版49	4地点南1面	遺構検出	銅製品	筒部品	4.1	4.1	0.5	10.2	
90図3	図版49	4地点南1面	遺構検出	銅製品	筒部品	5.8	5.8	2.3	20.6	
90図4	図版49	4地点南1面	遺構検出	銅製品	筒部品	6.1	5.6	5.1	40.1	
90図5	図版49	1地点1面	遺構検出	銅製品	筒部品	1.3	4.2	0.3	4.2	
90図6	図版49	1地点1面	遺構検出	銅製品	筒部品	3.3	3.4	0.1	3.7	五弁花形
90図7	図版49	4地点南2面	遺構検出	銅製品	蓋又は皿？	3.1	3.8	0.1	2.0	
90図8	図版49	1地点1面	遺構検出	銅製品	筒部品	3.0	3.5	0.1	2.4	
90図9	図版51	1地点1面	遺構検出	銅製品	板状部材	4.9	3.5	0.1	7.3	
90図10	図版50	2地点2面	遺構検出	銅製品	鉤金具	5.5	4.5	0.8	9.5	
90図11	図版50	1地点	遺構検出	銅製品	飾り金具	5.6	0.9	0.3	6.5	仏具か
90図12	図版50	1地点1面	遺構検出	銅製品	飾り金具	4.4	6.0	0.1	1.3	仏具か
90図13	図版50	2地点1面	土坑　21	銅製品	留金具	1.1	8.5	0.4	4.6	
90図14	図版50	4地点南1面	遺構検出	銅製品	留金具	0.8	2.0	1.1	3.2	
90図15	図版51	2地点1面	遺構検出	銅製品	鋲	2.1	1.6	0.2	1.5	
90図16	図版51	2地点1面	遺構検出	銅製品	鋲	1.8	0.9	0.1	0.4	
90図17	図版51	4地点北2面	遺構検出	銅製品	飾り金具	2.7	1.5	1.0	2.9	
90図18	図版51	4地点南1面	遺構検出	銅製品	飾り金具	1.4	1.8	1.8	7.6	
90図19	図版51	3地点1面	遺構検出	銅製品	不明	2.7	1.6	1.6	7.5	
90図20	図版51	1地点1面	表採	銅製品	不明	3.8	2.4	0.5	13.2	仏具か
90図21	図版51	3地点1面	遺構検出	銅製品	不明	2.5	2.7	0.1	－	
90図22	図版51	1地点1面	遺構検出	銅製品	把手？	5.0	4.7	0.4	11.5	鍋の一部か
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
90図23	図版51	1地点1面	遺構検出	銅製品	把手？	3.2	2.1	0.4	4.3	
90図24	図版51	2地点1面	遺構検出	銅製品	不明	2.3	1.8	0.2	0.6	
90図25	図版51	2地点1面	遺構検出	銅製品	不明	3.8	1.1	0.2	2.4	
90図26	図版51	2地点1面	遺構検出	銅製品	不明	2.1	2.3	0.3	2.1	
90図27	図版51	4地点南1面	遺構検出	銅製品	不明	4.0	1.5	0.2	1.3	
90図28	図版51	1地点1面	遺構検出	銅製品	ランプ部材？	5.0	5.2	1.1	6.2	
90図29	図版51	1地点南1面	遺構検出	銅製品	仏飯具？	5.7	5.6	3.8	95.6	
91図1	図版51	1地点1面	土坑　2	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.2	
91図2	図版51	1地点1面	土坑　2	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.9	
91図3	図版51	1地点1面	土坑　2	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.5	

91図4	図版51	1地点1面	土坑　3	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.5	
91図5	図版51	1地点1面	土坑　3	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.4	古寛永
91図6	図版51	1地点1面	土坑　4	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.2	
91図7	図版51	1地点1面	土坑　6	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	
91図8	図版51	1地点1面	土坑　6	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
91図9	図版51	1地点1面	土坑　6	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.5	
91図10	図版51	1地点1面	土坑　6	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.2	
91図11	図版51	1地点1面	土坑　6	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.7	
91図12	図版51	1地点1面	土坑　6内	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.9	
91図13	図版51	1地点1面	土坑　7	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.2	
91図14	図版51	1地点1面	土坑　9内	銅銭	寛永通寶	2.0	1.9	0.2	3.1	
91図15	図版51	1地点1面	土坑　10	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.2	3.6	古寛永
91図16	図版51	1地点1面	土坑　12	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	2.9	古寛永
91図17	図版51	1地点1面	土坑　12	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.1	古寛永
91図18	図版51	1地点1面	土坑　17	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.6	
91図19	図版51	1地点1面	土坑　19	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	2.8	古寛永
91図20	図版51	4地点南1面	土坑　29下層	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	2.7	
91図21	図版51	4地点南1面	土坑　29	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.6	古寛永
91図22	図版51	1地点1面	溝　2	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	
91図23	図版51	1地点1面	溝　2	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.3	古寛永
91図24	図版51	4地点南2面	溝　6	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	2.9	
91図25	図版51	4地点南2面	溝　6	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.8	
91図26	図版51	1地点1面	P　4	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	3.3	
91図27	図版51	2地点1面	P　21	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	2.3	
91図28	図版53	2地点1面	P　22	銅銭	文久永寶	2.1	2.1	0.1	3.2	真書で、背11波
91図29	図版51	2地点1面	P　29	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	古寛永
91図30	図版51	1地点南	P　110	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.4	古寛永
91図31	図版51	1地点南	P　110	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	2.4	
91図32	図版53	3地点2面	P　173	銅銭	寛永通寶	2.1	2.1	0.1	2.9	文銭
91図33	図版51	3地点2面	P　189	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	4.0	
91図34	図版51	2地点北1面	P　196	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.2	3.5	
91図35	図版53	2地点北1面	P　200	銅銭	寛永通寶	2.1	2.1	0.1	3.7	文銭
91図36	図版51	2地点北2面	P　229	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
91図37	図版51	3地点北1面	P　304	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.2	3.8	古寛永
91図38	図版51	4地点南1面	P　262	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.5	古寛永
91図39	図版53	4地点北1面	P　381	銅銭	一銭	2.3	2.3	0.1	3.5	大正９年発行
91図40	図版51	1地点1面	遺構検出	銅銭	祥符元寶	1.8	1.9	0.1	2.0	北宋1008年初鋳
91図41	図版51	1地点1面	遺構検出	銅銭	祥符元寶	1.8	1.8	0.1	2.4	北宋1008年初鋳
91図42	図版51	1地点1面	遺構検出	銅銭	祥符通寶	1.8	1.8	0.1	2.2	北宋1008年初鋳
91図43	図版51	1地点1面	遺構検出	銅銭	皇宋通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	篆書体、北宋1038年初鋳
91図44	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	元豊通寶	2.0	2.0	0.1	2.8	
91図45	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	元祐通寶	2.1	2.1	0.1	2.5	篆書体
91図46	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	元祐通寶	2.0	2.0	0.1	2.2	篆書体
91図47	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	元祐通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	篆書体、叶手
91図48	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	元祐通寶	1.9	1.9	0.1	2.7	篆書体
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
91図49	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	聖宋元寶	1.8	1.9	0.1	3.9	北宋1101年初鋳
91図50	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	3.4	背「福」
91図51	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.1	2.1	0.1	3.0	背「浙」
91図52	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.1	2.1	0.1	3.0	背「浙」
91図53	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.9	
91図54	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	3.9	背「一銭」
91図55	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.7	1.8	0.1	3.1	背「一銭」
91図56	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.7	1.7	0.1	3.8	背「一銭」
91図57	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.7	
91図58	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.7	
91図59	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
91図60	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.2	3.2	

91図61	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	永楽通寶	2.1	2.1	0.1	2.9	
91図62	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	永楽通寶	2.1	2.1	0.1	3.6	
91図63	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	永暦通寶	2.1	2.1	0.1	4.5	折二で篆書体
91図64	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.3	古寛永
91図65	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.1	古寛永
91図66	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.3	古寛永
91図67	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.5	古寛永
91図68	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.1	0.2	3.9	文銭
91図69	図版52	1地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.8	1.8	0.1	3.0	
91図70	図版53	1地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.1	2.1	0.1	3.4	文銭
91図71	図版52	1地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
91図72	図版52	1地点2面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.1	
91図73	図版52	1地点2面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.0	
91図74	図版52	1地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	1.9	0.1	3.5	
91図75	図版52	1地点2面	北壁トレンチ最下層	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	3.0	
91図76	図版52	1地点南3面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.8	
91図77	図版52	1地点3面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.3	
91図78	図版52	1地点3面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.8	0.05～0.1	2.2	
91図79	図版52	1地点3面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.8	
91図80	図版52	1地点4面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	(欠損) 1.7	1.9	0.1	2.0	
91図81	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	祥符元寶	2.0	2.0	0.1	2.7	北宋1008年初鋳
91図82	図版53	2地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.1	2.0	0.2	3.3	背「福」
91図83	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.2	3.7	
91図84	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.1	
91図85	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.8	1.8	0.1	3.3	
91図86	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	
91図87	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.8	0.1	2.2	
91図88	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.8	
91図89	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	古寛永
91図90	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.6	古寛永
91図91	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	1.9	0.1	4.3	古寛永
91図92	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.2	古寛永
91図93	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.1	古寛永
91図94	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.1	2.1	0.1	3.0	古寛永
91図95	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.2	古寛永
91図96	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.4	古寛永
91図97	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.4	
91図98	図版53	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.8	文銭
91図99	図版53	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.7	文銭
91図100	図版53	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.3	文銭
91図101	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.0	古寛永
91図102	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.8	1.8	0.1	2.2	
91図103	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
91図104	図版52	2地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.8	1.8	0.1	3.3	
92図105	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	祥符通寶	1.8	1.8	0.1	3.2	北宋1008年初鋳
92図106	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	元豊通寶	2.0	1.9	0.1	2.4	
92図107	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	慶長通寶	2.0	2.0	0.1	2.9	
92図108	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	慶長通寶	2.0	2.0	0.1	2.6	
92図109	図版53	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.8	1.8	0.1	2.9	背「一銭」
92図110	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.7	
92図111	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.5	
92図112	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.8	
92図113	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.8	
92図114	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	3.0	
92図115	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	3.2	
92図116	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.9	
92図117	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.2	

92図118	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.8	1.8	0.1	3.0	
92図119	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	1.9	0.2	2.7	
92図120	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.4	
92図121	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.4	
92図122	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	2.0	0.1	2.6	
92図123	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.2	3.1	
92図124	図版52	2地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	4.0	
92図125	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.7	
92図126	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.7	
92図127	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.1	
92図128	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.2	
92図129	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.7	
92図130	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.7	
92図131	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.1	古寛永
92図132	図版52	3地点北1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	2.4	古寛永
92図133	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.7	1.7	0.1	2.0	
92図134	図版52	3地点北1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
92図135	図版52	3地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	2.7	
92図136	図版51	3地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	2.1	0.1	2.7	文銭
92図137	図版53	3地点1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.6	文銭
92図138	図版52	3地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	1.5	
92図139	図版53	3地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.8	
92図140	図版53	3地点2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
92図141	図版53	3地点2面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.2	3.0	古寛永
92図142	図版53	3地点3面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.3	
92図143	図版53	3地点4面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	2.4	
92図144	図版53	3地点4面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	(欠損)1.8	2.0	0.1	2.6	
92図145	図版53	4地点南	採集	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.3	
92図146	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	元豊通寶	1.9	1.9	0.1	2.8	
92図147	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	2.9	
92図148	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	3.3	
92図149	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.2	3.4	
92図150	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.4	
92図151	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	1.9	1.9	0.1	3.4	古寛永
92図152	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.6	古寛永
92図153	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.5	古寛永
92図154	図版53	4地点南1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	古寛永
92図155	図版53	4地点北1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	2.8	古寛永
92図156	図版53	4地点北2面	P411	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.3	古寛永
92図157	図版53	4地点北1面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.2	3.6	
92図158	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	祥符元寶	1.9	1.9	0.1	4.0	北宋1008年初鋳
挿図番号	図版番号	遺構名	遺構名	種類	遺物名	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	備考
92図159	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.8	1.9	0.2	3.3	
92図160	図版53	4地点北2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	4.0	
92図161	図版53	4地点北2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	2.0	2.0	0.1	2.7	
92図162	図版53	4地点北2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.4	
92図163	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.8	
92図164	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
92図165	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	3.1	
92図166	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	永楽通寶	2.0	2.0	0.1	2.5	
92図167	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	慶長通寶	1.9	1.9	0.2	2.3	
92図168	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	慶長通寶	2.0	2.0	0.1	3.5	
92図169	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	1.9	0.1	2.5	古寛永
92図170	図版53	4地点北2面	遺構検出	銅銭	寛永通寶	2.0	2.0	0.1	3.0	古寛永
92図171	図版53	5地点2面	遺構検出	銅銭	慶長通寶	1.9	1.9	0.1	1.7	
92図172	図版53	4地点北2面	遺構検出	銅銭	一銭	2.3	2.3	0.1	3.7	大正８年発行
92図173	図版53	4地点南1、2面	東壁土層	銅銭	洪武通寶	1.9	1.9	0.1	2.6	
92図174	図版53	4地点南2面	遺構検出	銅銭	洪武通寶	1.8	1.8	0.1	3.6	